

令和 7 年度
富田林市男女共同参画アンケート
報告書

令和 8 年 3 月
富田林市

目 次

| | |
|-------------------------------------|-----|
| I. 調査の概要 | 1 |
| II. 調査結果 | 3 |
| (1) 回答者の属性 | 3 |
| (2) ジェンダー平等について | 5 |
| (3) 家庭生活について | 20 |
| (4) 職場について(現在仕事をしている方のみ)..... | 33 |
| (5) 子どもに期待する資質について | 45 |
| (6) 老年期の生活について | 48 |
| (7) 法律や言葉について | 51 |
| (8) セクシュアル・ハラスメントについて..... | 71 |
| (9) 配偶者等や交際相手からの暴力について..... | 84 |
| (10) 男女共同参画について | 112 |
| III. 考察 | 128 |
| (1) 回収状況についての考察 | 128 |
| (2) ジェンダー平等に関する市民意識についての考察..... | 129 |
| ① 主要分野におけるジェンダー平等の認識..... | 129 |
| ② 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担への意識..... | 131 |
| (3) 「男の子」と「女の子」にどのように育ててほしいか..... | 132 |
| ① 全体的な傾向の比較 | 132 |
| ② 男女別による比較 | 132 |
| ③ 年齢3区分による比較 | 132 |
| ④ 就業形態別による比較 | 132 |
| ⑤ 子どもへの期待に見るアンコンシャス・バイアスの解消..... | 133 |
| (4) ハラスメント及びDVに関する市民意識についての考察..... | 133 |
| ① セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）に関する意識と実態..... | 133 |
| ② 配偶者等からの暴力（DV）に関する認識と実態..... | 134 |

| | | |
|-----|----------------------------------------|-----|
| (5) | 平成 27 年度調査との比較(経年変化)..... | 136 |
| ① | 回答者の年齢構成 | 136 |
| ② | 固定的な性別役割分担意識の変遷 | 137 |
| ③ | 家庭生活や会社・職場、社会的・政治的分野における不平等認識の深刻化..... | 137 |
| ④ | 暴力・ハラスメントに対する意識の向上..... | 140 |
| ⑤ | 法律・概念の認知度の向上 | 141 |
| ⑥ | 今後必要な方策の変化 | 143 |
| (6) | 内閣府・大阪府調査との比較 | 145 |
| ① | 「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担意識の比較..... | 145 |
| ② | 職場における男性優遇と家庭生活における役割分担意識..... | 145 |
| ③ | 家庭生活における時間配分 | 145 |
| ④ | DV 被害に関する相談窓口と DV をなくすための取組み | 146 |

IV. 富田林市における男女共同参画推進に関する課題 147

| | | |
|-----|---------------------------|-----|
| (1) | 根強い固定的な性別役割分担意識 | 147 |
| (2) | 構造的な不平等の認識と職場環境 | 147 |
| (3) | DV・ハラスメント被害の深刻さと支援体制..... | 148 |
| (4) | 施策の周知不足と世代間ギャップへの対応..... | 149 |

I. 調査の概要

■ 調査目的

本市における今後の男女共同参画施策をより効果的に推進するため、市民の意識や動向を把握し、「第3次富田林市男女共同参画計画 ウィズプラン」の後継計画である「第4次富田林市男女共同参画計画」の策定に向けた基礎資料とすることを目的に、市民アンケート調査を実施しました。

■ 調査期間

令和7年9月1日～9月22日

■ 調査対象者

富田林市内在住の18歳以上の市民1,500人(無作為抽出)

■ 調査対象者の抽出方法

対象者の抽出については、「系統抽出法」を用いました。

標本については、令和7年8月現在、本市に居住している18歳以上の市民を母集団として、住民基本台帳データからそれぞれ標本を抽出しました。

なお、抽出にあたっては年齢別、性別にあらかじめ割当て人数を決めました。

| 年齢別 | 18～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70歳以上 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 母集団数 | 12,354 | 9,451 | 11,662 | 16,257 | 14,223 | 27,101 | 91,048 |
| 構成比 | 13.6% | 10.4% | 12.8% | 17.8% | 15.6% | 29.8% | 100.0% |
| 標本数 | 男性 | 125 | 125 | 125 | 125 | 125 | 750 |
| | 女性 | 125 | 125 | 125 | 125 | 125 | 750 |

■ 回収状況

| 配布数 | 回収数 | | | 回収率 |
|-------|-----|-------|-----|-------|
| | 郵送 | オンライン | 計 | |
| 1,500 | 274 | 110 | 384 | 25.6% |

■ 性別回収状況

| | 女性 | 男性 | どちらでもない | 答えたくない | 無回答 |
|--------|-------|-------|---------|--------|-----|
| 割当て標本数 | 750 | 750 | - | - | - |
| 回収数 | 211 | 161 | 1 | 4 | 7 |
| 回収率 | 28.1% | 21.5% | - | - | - |

■ 年齢別回収状況

| | 18～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70歳以上 | 無回答 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-----|
| 割当て標本数 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 | - |
| 回収数 | 19 | 49 | 62 | 69 | 98 | 84 | 3 |
| 回収率 | 7.6% | 19.6% | 24.8% | 27.6% | 39.2% | 33.6% | - |

■ 性別、年齢別 回答方法による回収状況

| | | 郵送 | オンライン | 計 | 郵送 | オンライン |
|-----|---------|-----|-------|-----|--------|--------|
| 総数 | | 274 | 110 | 384 | 71.4% | 28.6% |
| 性別 | 女性 | 157 | 54 | 211 | 74.4% | 25.6% |
| | 男性 | 108 | 53 | 161 | 67.1% | 32.9% |
| | どちらでもない | 0 | 1 | 1 | 0.0% | 100.0% |
| | 答えたくない | 2 | 2 | 4 | 50.0% | 50.0% |
| | 無回答 | 7 | 0 | 7 | 100.0% | 0.0% |
| 年齢別 | 18～29 歳 | 10 | 9 | 19 | 52.6% | 47.4% |
| | 30～39 歳 | 23 | 26 | 49 | 46.9% | 53.1% |
| | 40～49 歳 | 29 | 33 | 62 | 46.8% | 53.2% |
| | 50～59 歳 | 45 | 24 | 69 | 65.2% | 34.8% |
| | 60～69 歳 | 83 | 15 | 98 | 84.7% | 15.3% |
| | 70 歳以上 | 81 | 3 | 84 | 96.4% | 3.6% |
| | 無回答 | 3 | 0 | 3 | 100.0% | 0.0% |

■ 報告書を作成するにあたって

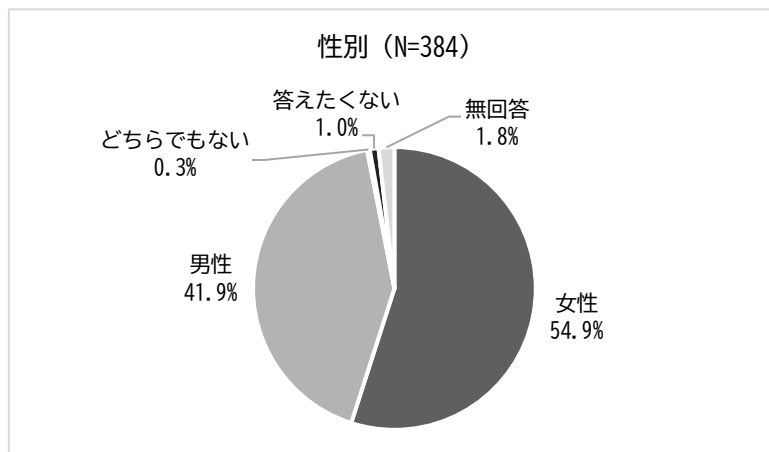
- 回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示しています。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。このため、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- グラフの記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合があります。
- 回答者全体、及び、男女別集計を行い、男女の意識差を分析しました。
- 年齢別集計は18歳から39歳、40歳から59歳、60歳以上の3区分で行いました。
- 就業形態別集計は正規職員、非正規職員の2区分で行いました。
- 前回調査(平成27年度)との比較は調査項目の変更があるため、比較可能なものの経年変化を見ました。
- 本調査については、若年層よりも高齢層の回答が多くなっている点に注意する必要があります。

II. 調査結果

(1) 回答者の属性

a. あなたの性別

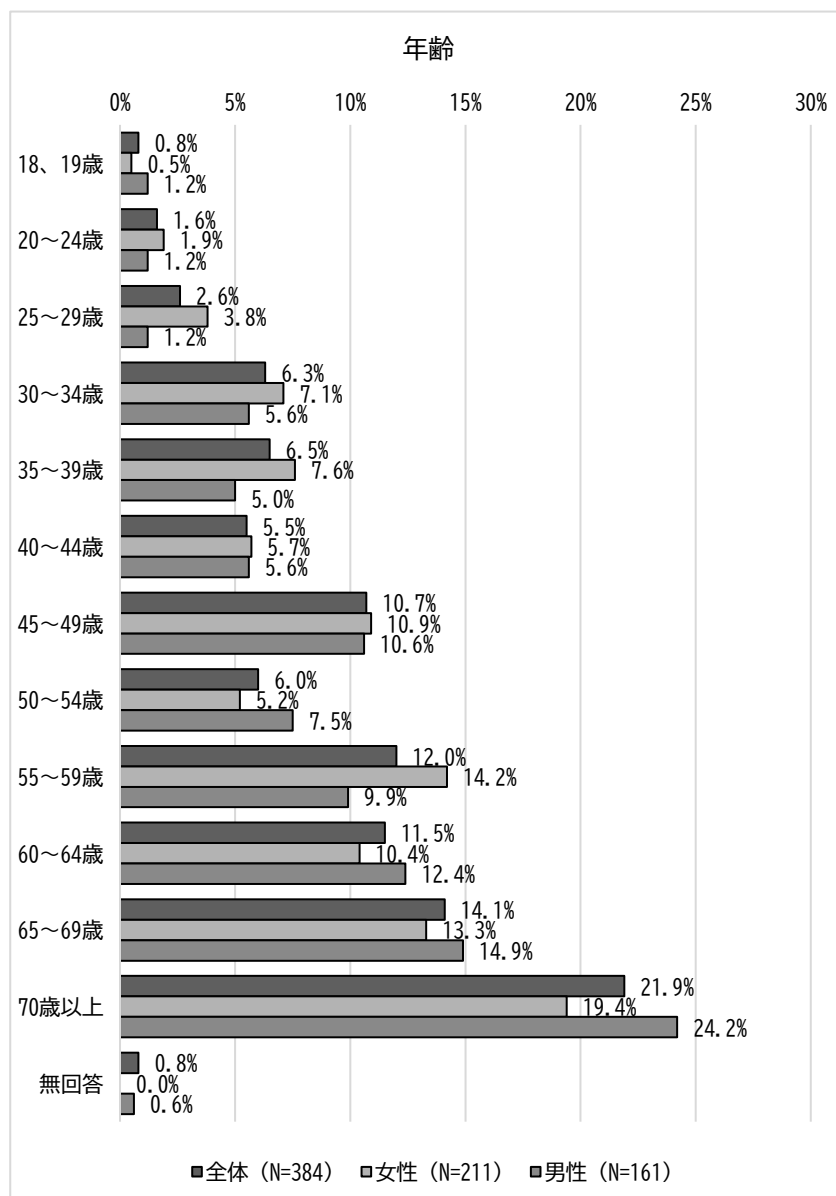
回答者の性別は、女性が54.9%、男性が41.9%でした。



b. あなたの年齢

回答者の年齢は「70歳以上」が21.9%で最も多く、次いで「65～69歳」が14.1%、「55～59歳」が12.0%、「60～64歳」が11.5%の順になっており、高齢層に偏っている傾向がみられます。

60歳以上の高齢層に偏っている傾向は「男性」の方が強く、「70歳以上」が24.2%、「65～69歳」が14.9%、「60～64歳」が12.4%の順になっており、「女性」は「70歳以上」が19.4%、「55～59歳」が14.2%、「65～69歳」が13.3%の順になっています。

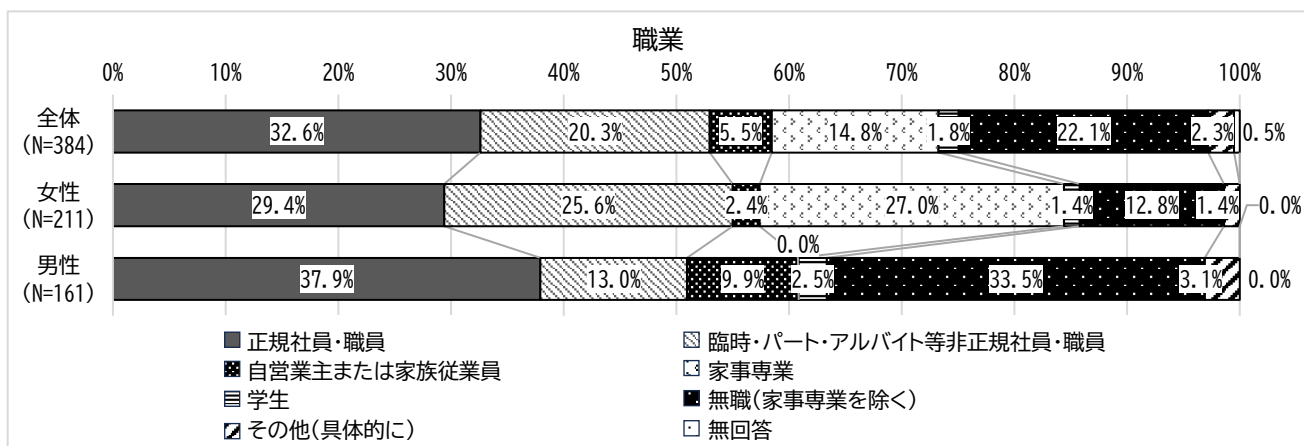


c. あなたの職業

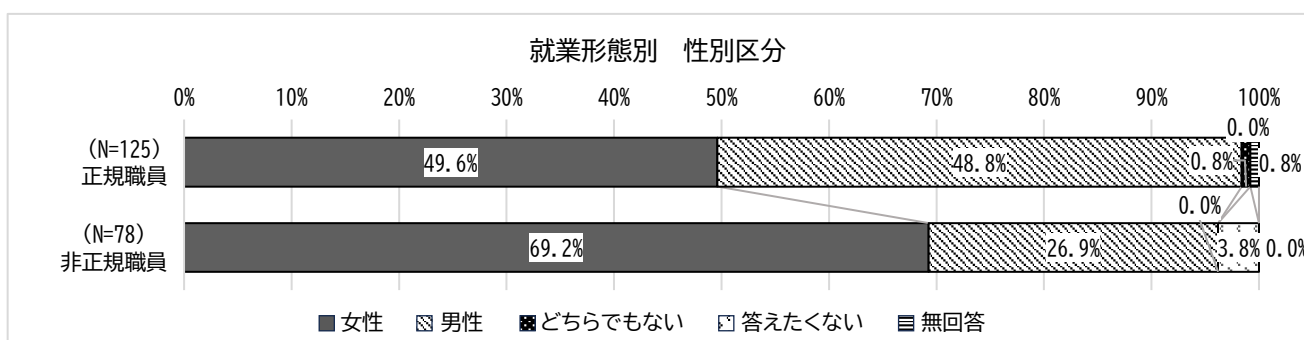
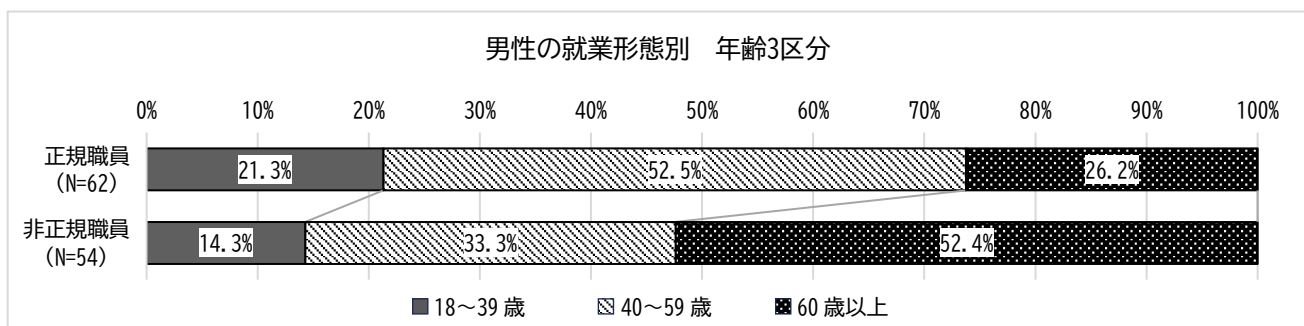
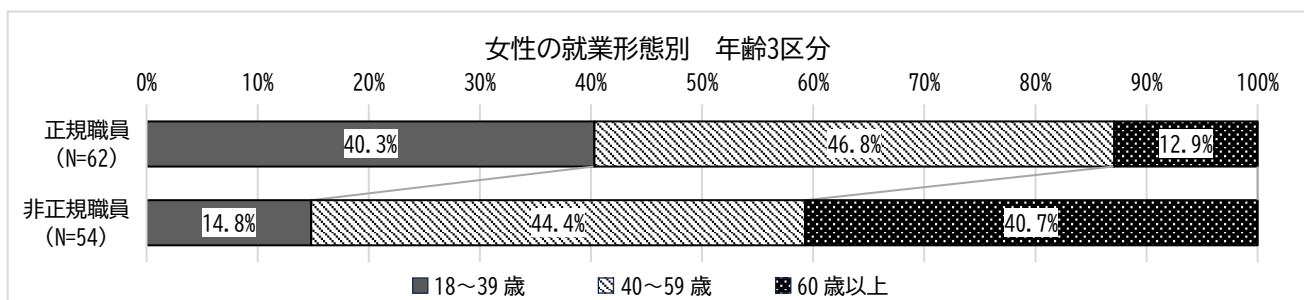
回答者の職業は「全体」では「正規社員・職員」が 32.6%で最も多く、次いで「無職(家事専業を除く)」が 22.1%、「臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員」が 20.3%となっています。

「女性」では、「正規社員・職員」が 29.4%、「家事専業」が 27.0%、「臨時・パート・アルバイト等非正規社員・職員」が 25.6%と、多様な働き方が見られます。

「男性」では、「正規社員・職員」が 37.9%、「無職(家事専業を除く)」が 33.5%となっています。



就業形態別に年齢区分を見ると、女性では「正規職員」は「40～59歳」が 46.8%、「非正規職員」は「40～59歳」が 44.4%、男性では「正規職員」は「40～59歳」が 52.5%、「非正規職員」は「60歳以上」が 52.4%で最も多くなっています。



(2) ジェンダー平等について

ジェンダー平等とは、性別に関わらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めていくことを意味しています。

問 1 次の各分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。(それぞれ〇は1つ)

※ 『男性優遇』は「男性が優遇されている」と「どちらかと言えば男性が優遇されている」の合計

※ 『女性優遇』は「女性が優遇されている」と「どちらかと言えば女性が優遇されている」の合計

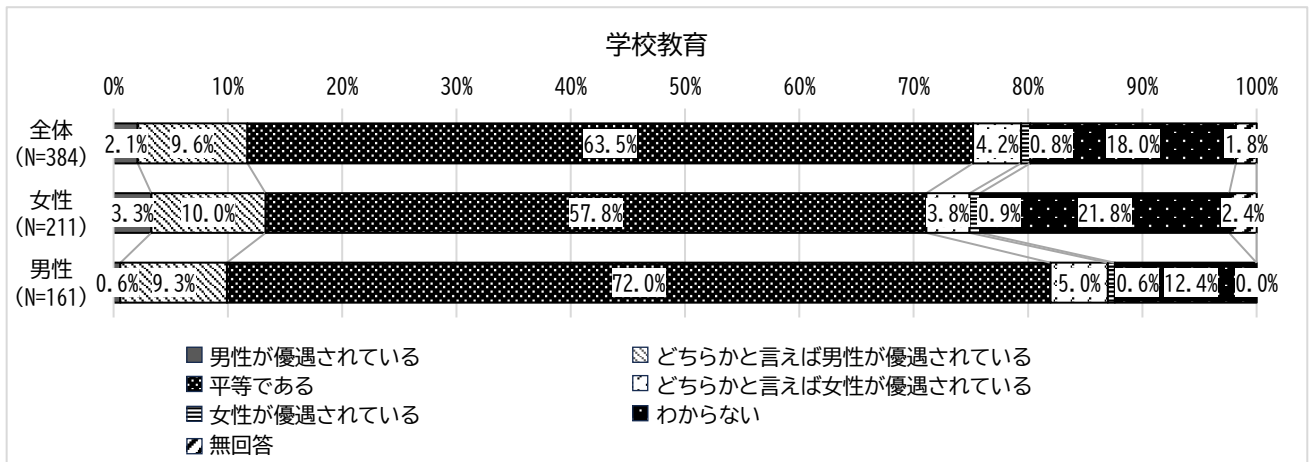
① 学校教育

《全体》

「平等である」が63.5%を占め、『男性優遇』は11.7%、『女性優遇』は5.0%となっています。

《男女別》

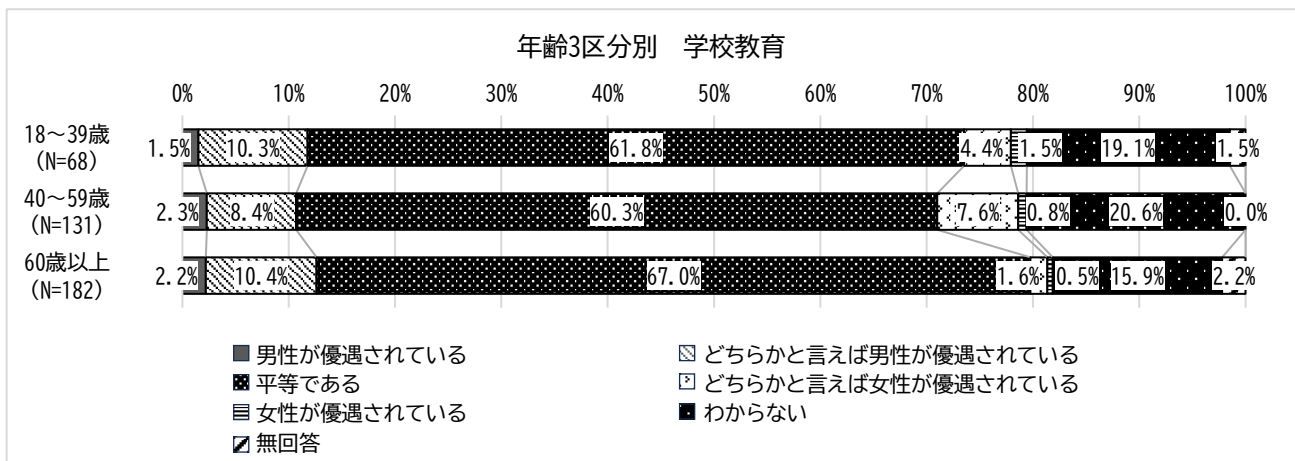
「平等である」は「男性」が72.0%に対し、「女性」は57.8%と、「男性」が「女性」を14.2ポイント上回り、『男性優遇』は「女性」が13.3%に対し、「男性」は9.9%と、「女性」が「男性」を3.4ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

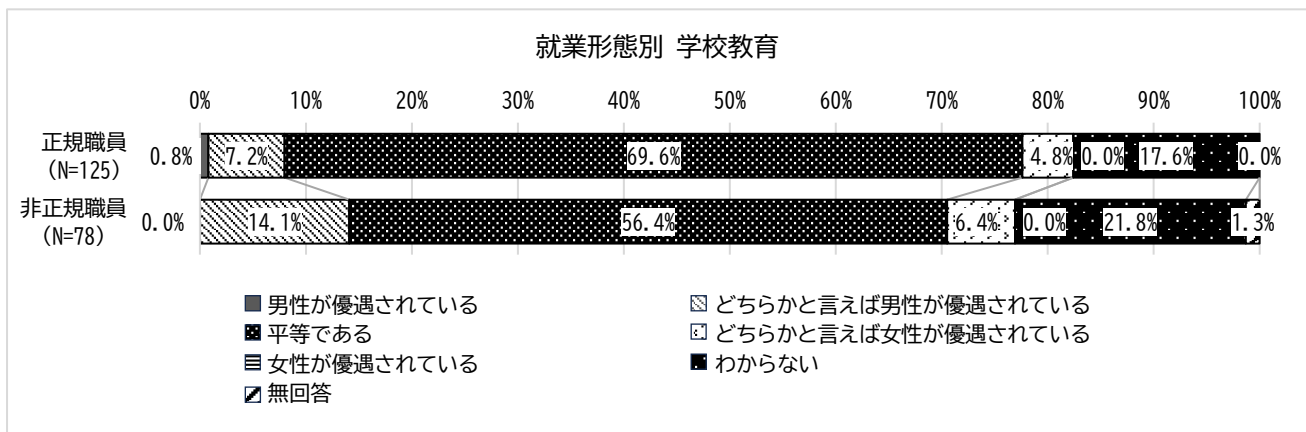
『女性優遇』は「40～59歳」が8.4%で最も多く、「60歳以上」が2.1%で、その差は6.3ポイントとなっています。

「18～39歳」は『男性優遇』が11.8%に対し、『女性優遇』が5.9%と、『男性優遇』が『女性優遇』を5.9ポイント、「40～59歳」は『男性優遇』が10.7%に対し、『女性優遇』が8.4%と、『男性優遇』が『女性優遇』を2.3ポイント、「60歳以上」は『男性優遇』が12.6%に対し、『女性優遇』が2.1%と、『男性優遇』が『女性優遇』を10.5ポイント上回っています。



《就業形態別》

「平等である」は「正規職員」が69.6%に対し、「非正規職員」は56.4%と、「正規職員」が「非正規職員」を13.2ポイント上回り、『男性優遇』は「非正規職員」が14.1%に対し、「正規職員」は8.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を6.1ポイント上回っています。



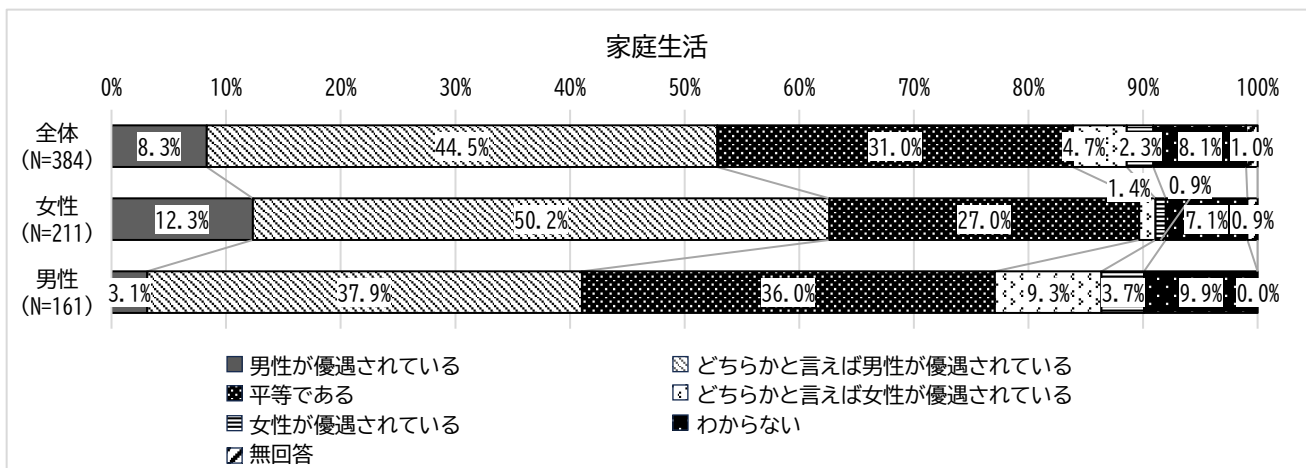
② 家庭生活

《全体》

『男性優遇』が52.8%と半数を超え、「平等である」は31.0%に留まっています。

《男女別》

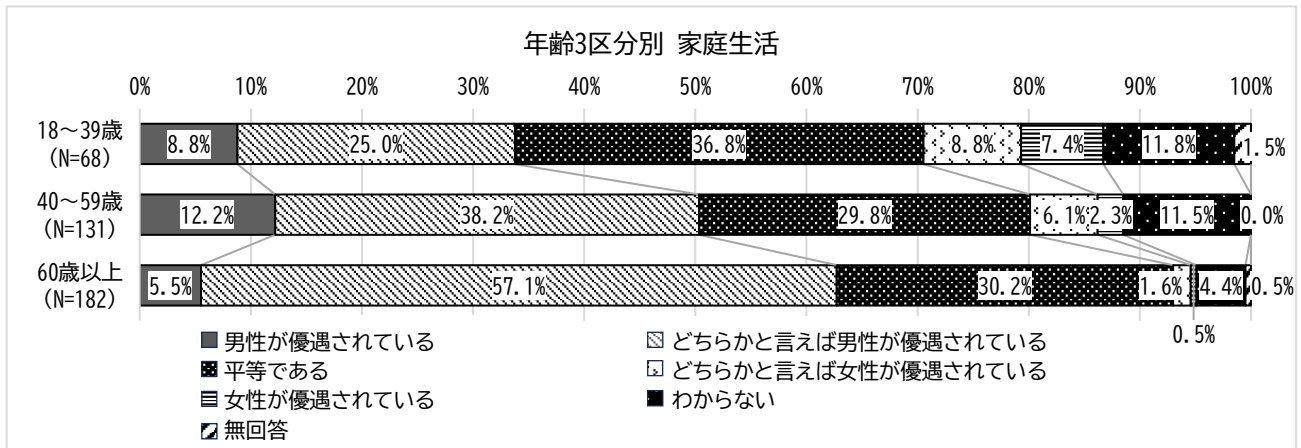
『男性優遇』は「女性」が62.5%に対し、「男性」は41.0%と、「女性」が「男性」を21.5ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

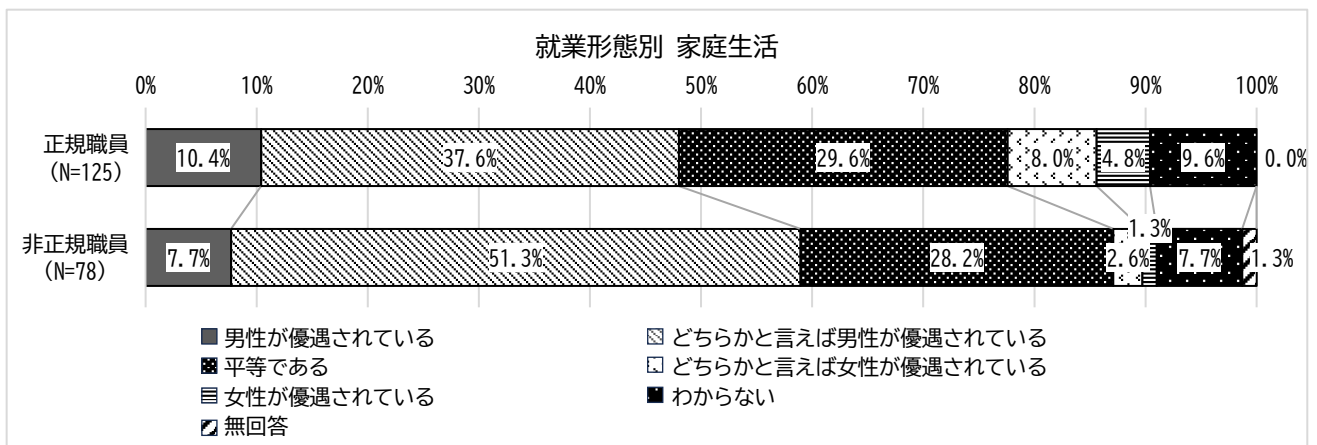
『男性優遇』は「60歳以上」が62.6%で最も多く、「18～39歳」が33.8%で、その差は28.8ポイント、『女性優遇』は「18～39歳」が16.2%で最も多く、「60歳以上」が2.1%で、その差は14.1ポイントになっています。

「18～39歳」は『男性優遇』が33.8%に対し、『女性優遇』が16.2%と、『男性優遇』が『女性優遇』を17.6ポイント上回り、「40～59歳」は『男性優遇』が50.4%に対し、『女性優遇』が8.4%と、『男性優遇』が『女性優遇』を42.0ポイント上回り、「60歳以上」は『男性優遇』が62.6%に対し、『女性優遇』が2.1%と、『男性優遇』が『女性優遇』を60.5ポイント上回っています。



《就業形態別》

『男性優遇』は「非正規職員」が59.0%に対し、「正規職員」は48.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を11.0ポイント上回っています。



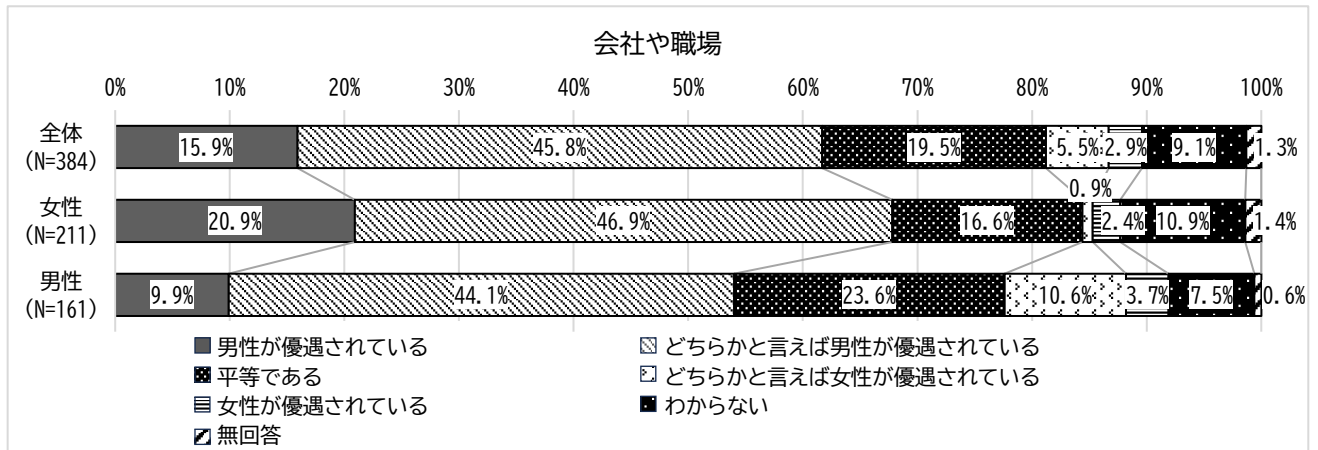
③ 会社や職場

《全体》

『男性優遇』が61.7%と最も多く、「平等である」は19.5%に留まっています。

《男女別》

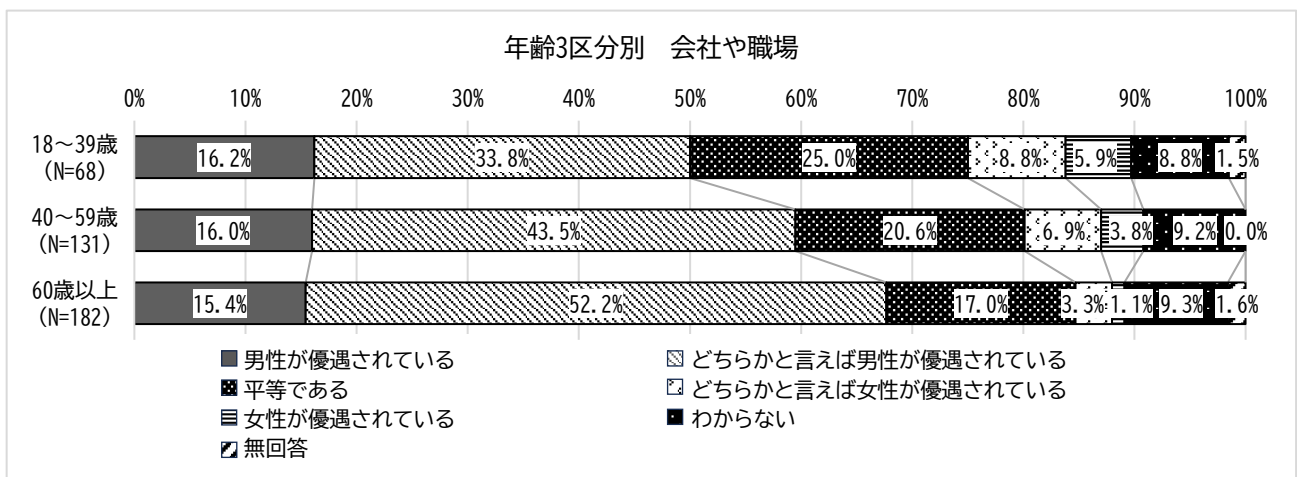
『男性優遇』は「女性」が67.8%に対し、「男性」は54.0%と、「女性」が「男性」を13.8ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

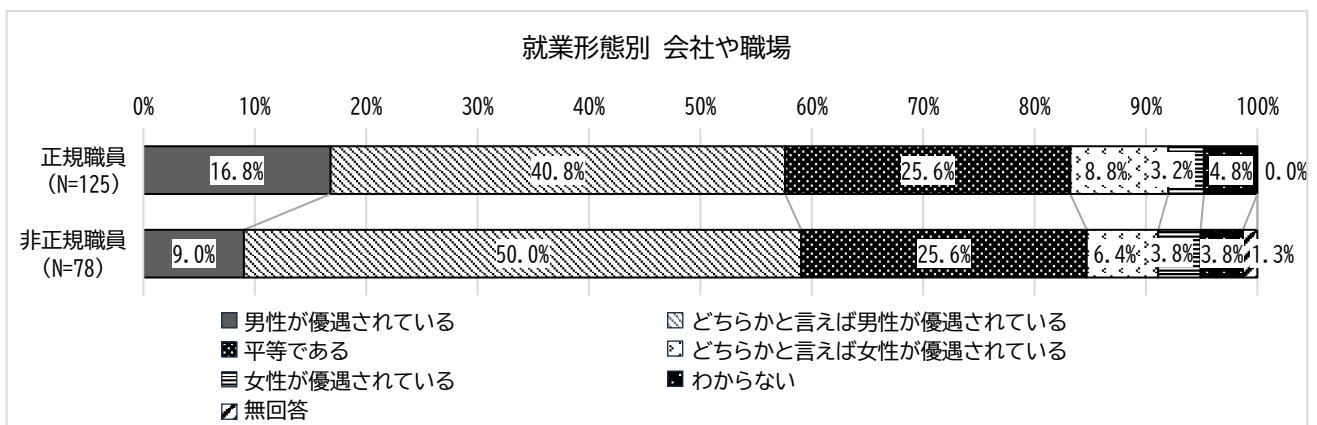
『男性優遇』は「60歳以上」が67.6%で最も多く、「18～39歳」が50.0%で最も少なく、その差は17.6ポイントになっています。

「18～39歳」は『男性優遇』が50.0%に対し、『女性優遇』が14.7%と、『男性優遇』が『女性優遇』を35.3ポイント、「40～59歳」は『男性優遇』が59.5%に対し、『女性優遇』が10.7%と、『男性優遇』が『女性優遇』を48.8ポイント、「60歳以上」は『男性優遇』が67.6%に対し、『女性優遇』が4.4%と、『男性優遇』が『女性優遇』を63.2ポイント上回っています。



《就業形態別》

『男性優遇』と『女性優遇』では有意な差は見られませんが、「男性が優遇されている」は「正規職員」が16.8%で「非正規職員」の9.0%を7.8ポイント、「どちらかと言えば男性が優遇されている」は「非正規職員」が50.0%で「正規職員」の40.8%を9.2ポイント上回っています。



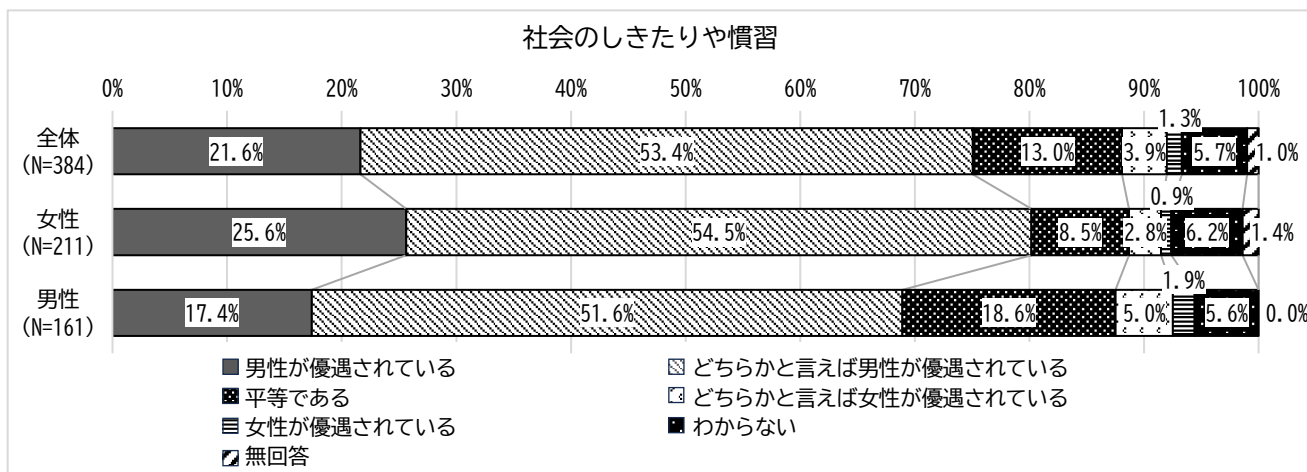
④ 社会のしきたりや慣習

《全体》

『男性優遇』が 75.0%と最も多く、「平等である」は 13.0%に留まっています。

《男女別》

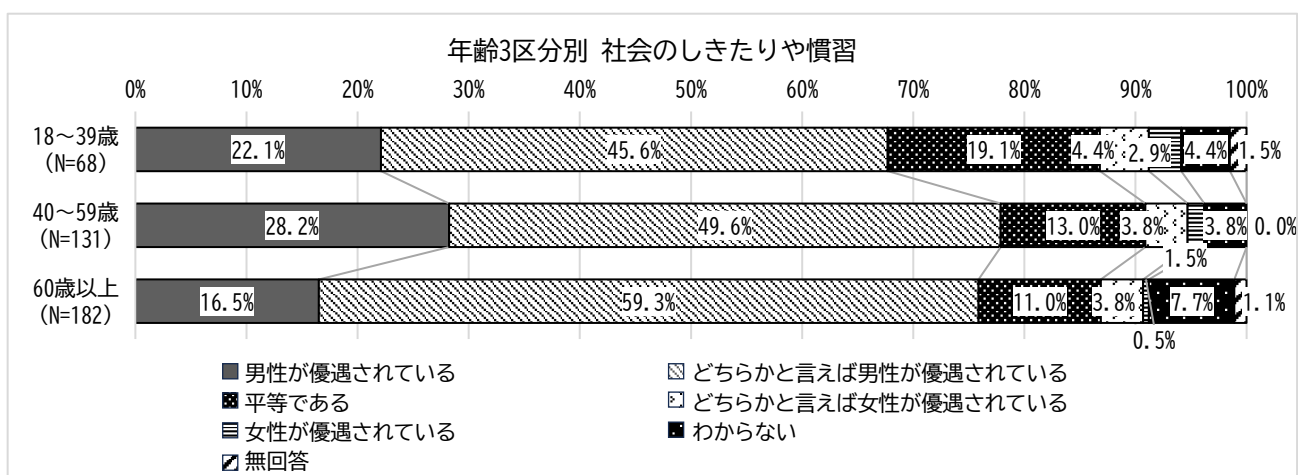
『男性優遇』は「女性」が 80.1%に対し、「男性」は 69.0%と、「女性」が「男性」を 11.1 ポイント上回っています。



《年齢 3 区分別》

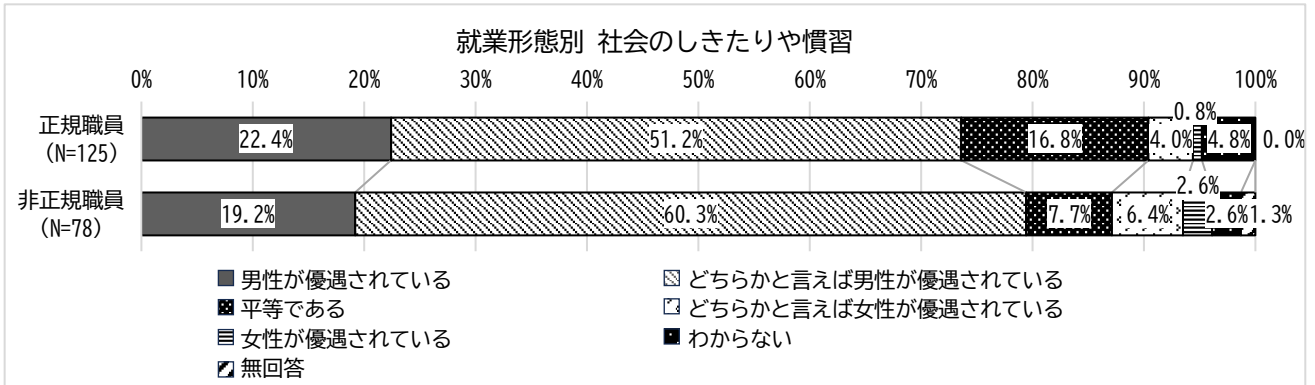
『男性優遇』は「40～59 歳」が 77.8%で最も多く、「18～39 歳」が 67.7%で最も少なく、その差は 10.1 ポイントとなっています。

「18～39 歳」は『男性優遇』が 67.7%に対し、『女性優遇』が 7.3%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 60.4 ポイント上回り、「40～59 歳」は『男性優遇』が 77.8%に対し、『女性優遇』が 5.3%と、『男性優遇』が 72.5 ポイント上回り、「60 歳以上」は『男性優遇』が 75.8%に対し、『女性優遇』が 4.3%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 71.5 ポイント上回っています。



《就業形態別》

『男性優遇』は「非正規職員」が 79.5%に対し、「正規職員」は 73.6%と、「非正規職員」が「正規職員」を 5.9 ポイント上回っています。



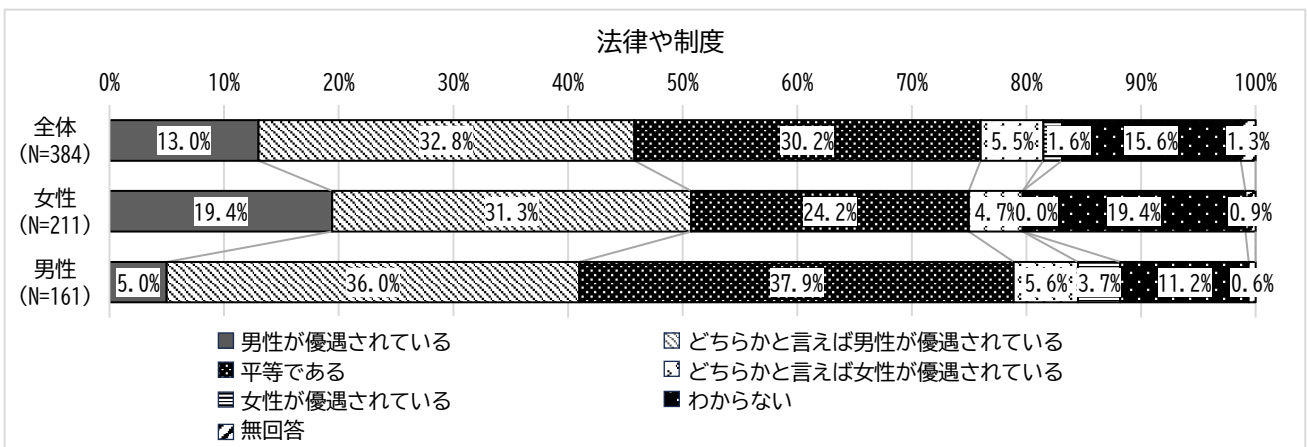
⑤ 法律や制度

《全体》

『男性優遇』が 45.8%を占め、「平等である」は 30.2%に留まっています。

《男女別》

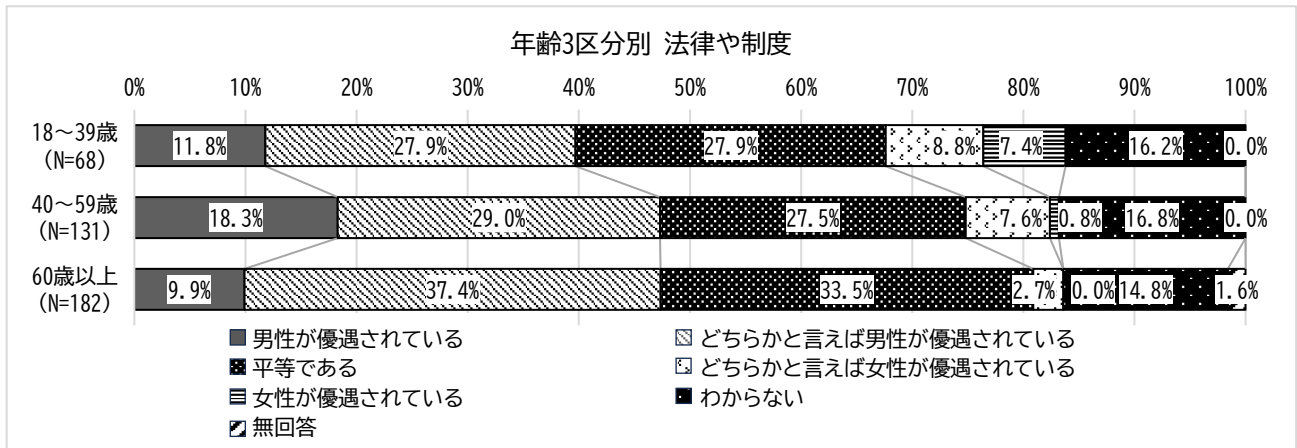
『男性優遇』は「女性」が 50.7%に対し、「男性」は 41.0%と、「女性」が「男性」を 9.7 ポイント上回っています。



《年齢 3 区分別》

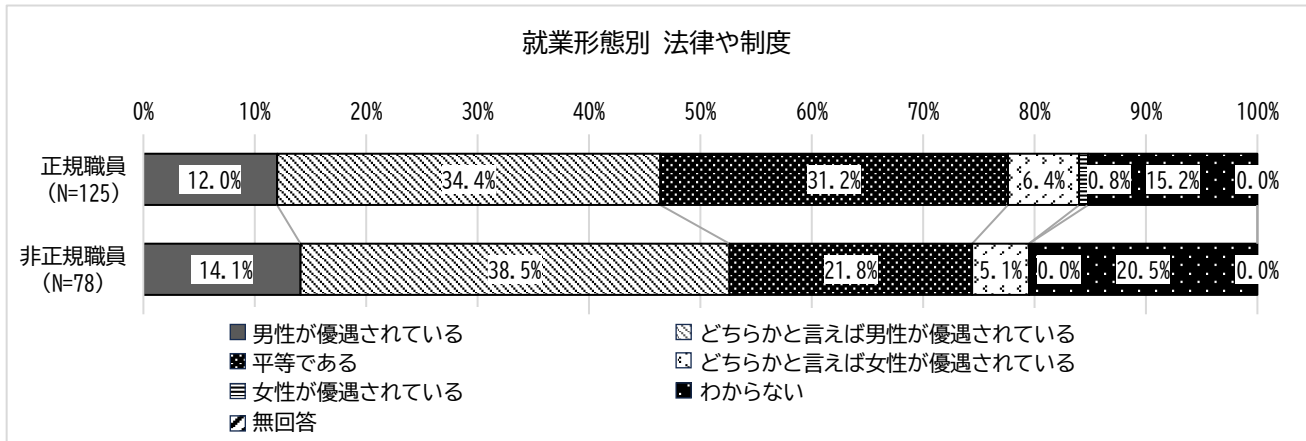
『男性優遇』は「40～59 歳」「60 歳以上」が共に 47.3%に対し、「18～39 歳」が 39.7%と、「40～59 歳」「60 歳以上」が「18～39 歳」を 7.6 ポイント上回っています。

「18～39 歳」は『男性優遇』が 39.7%に対し、『女性優遇』が 16.2%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 23.5 ポイント、「40～59 歳」は『男性優遇』が 47.3%に対し、『女性優遇』が 8.4%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 38.9 ポイント、「60 歳以上」は『男性優遇』が 47.3%に対し、『女性優遇』が 2.7%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 44.6 ポイント上回っています。



《就業形態別》

『男性優遇』は「非正規職員」が 52.6%に対し、「正規職員」が 46.4%と、「非正規職員」が「正規職員」を 6.2 ポイント上回っています。



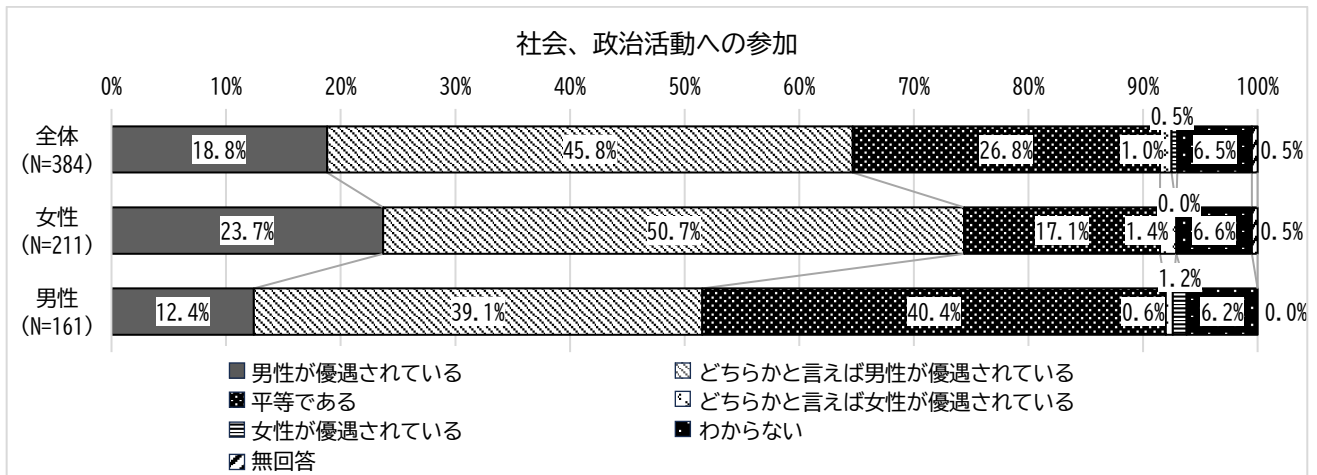
⑥ 社会、政治活動への参加

《全体》

『男性優遇』が 64.6%と多く、「平等である」は 26.8%に留まっています。

《男女別》

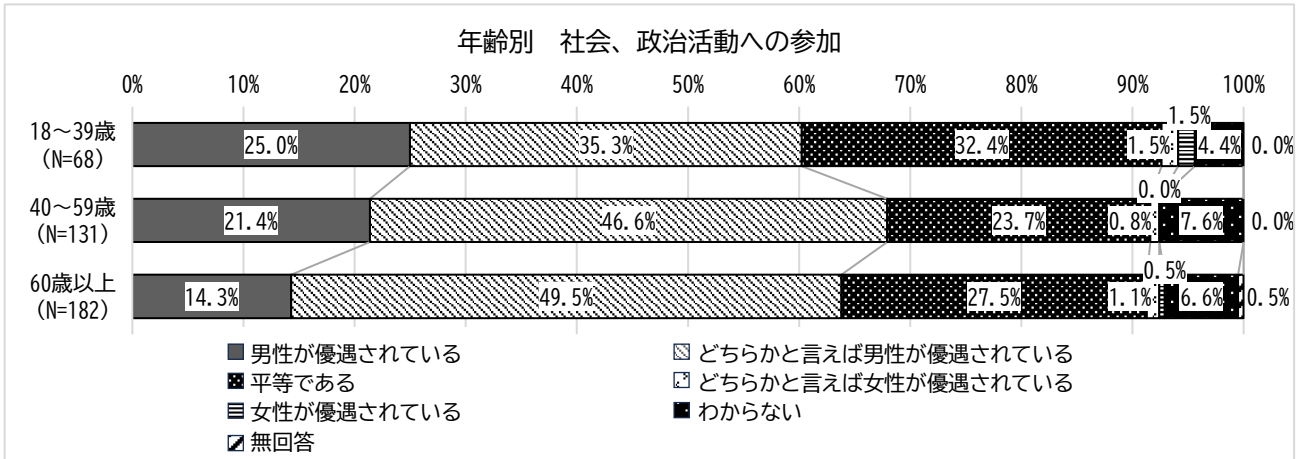
『男性優遇』は「女性」が 74.4%に対し、「男性」は 51.5%と、「女性」が「男性」を 22.9 ポイント上回っています。



《年齢 3 区分別》

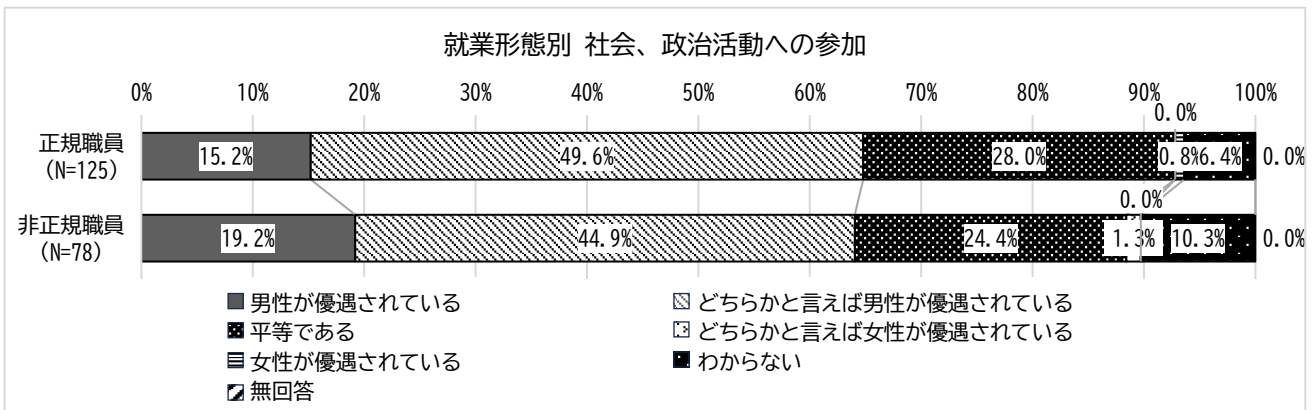
『男性優遇』は「40～59 歳」が 68.0%で最も多く、「18～39 歳」が 60.3%で最も少なく、その差は 7.7 ポイントとなっています。

「18～39 歳」は『男性優遇』が 60.3%に対し、『女性優遇』は 3.0%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 57.3 ポイント上回り、「40～59 歳」は『男性優遇』が 68.0%に対し、『女性優遇』は 0.8%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 67.2 ポイント上回り、「60 歳以上」は『男性優遇』が 63.8%に対し、『女性優遇』は 1.6%と、『男性優遇』が『女性優遇』を 62.2 ポイント上回っています。



《就業形態別》

「正規職員」「非正規職員」については有意な差は見られませんが、「男性が優遇されている」は「非正規職員」が 19.2%に対し、「正規職員」が 15.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を 4.0 ポイント上回り、「どちらかと言えば男性が優遇されている」は「正規職員」が 49.6%に対し、「非正規職員」が 44.9%と、「正規職員」が「非正規職員」を 4.7 ポイント上回っています。



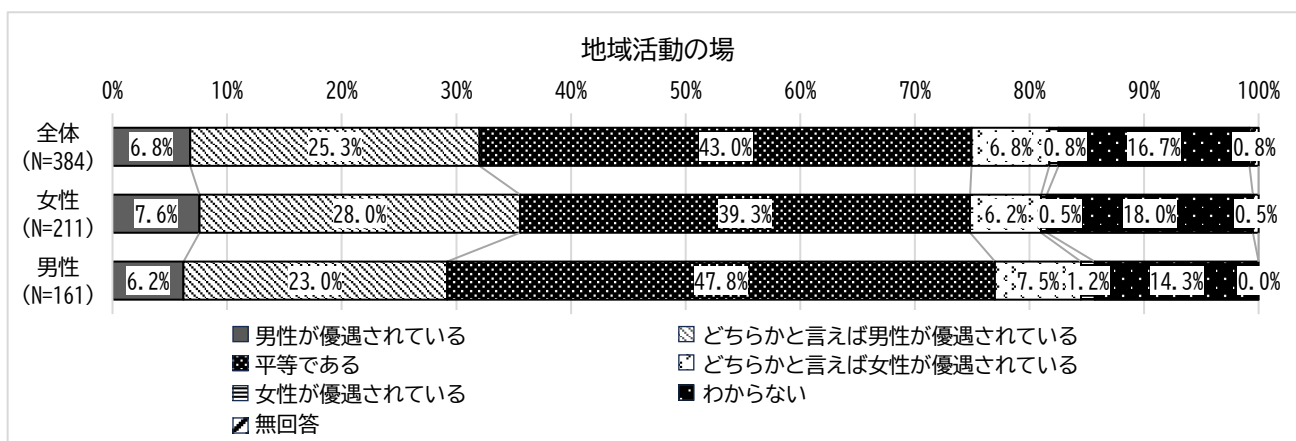
⑦ 地域活動の場

《男女別》

「平等である」が 43.0%と最も多く、『男性優遇』は 32.1%となっています。

《男女別》

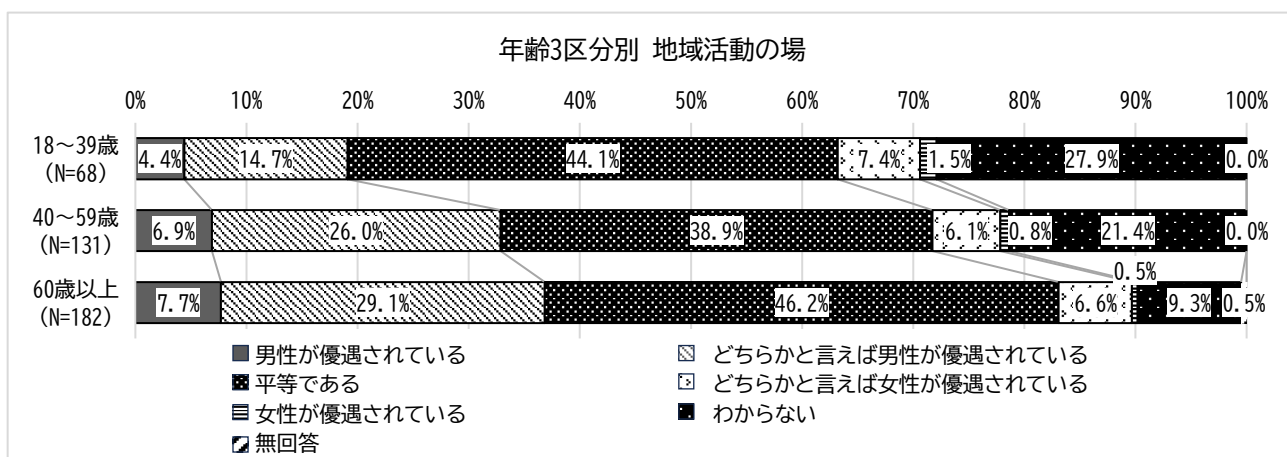
「平等である」は、「男性」が 47.8%に対し、「女性」は 39.3%と、「男性」が「女性」を 8.5 ポイント上回り、『男性優遇』は「女性」が 35.6%に対し、「男性」は 29.2%と、「女性」が「男性」を 6.4 ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

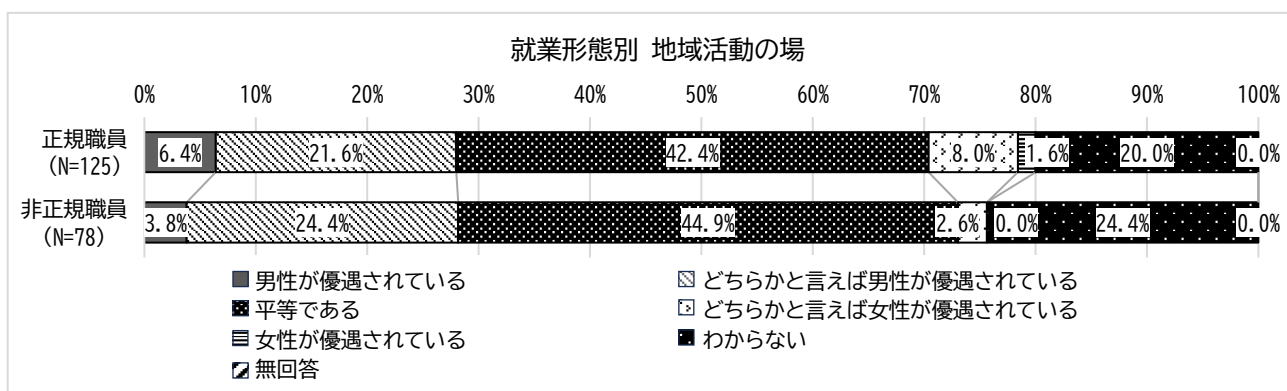
『男性優遇』は「60歳以上」が36.8%で最も多く、「18～39歳」が19.1%で最も少なく、その差は17.7ポイントとなっています。

「18～39歳」は『男性優遇』が19.1%に対し、『女性優遇』は8.9%と、『男性優遇』が『女性優遇』を10.2ポイント上回り、「40～59歳」は『男性優遇』が32.9%に対し、『女性優遇』は6.9%と、『男性優遇』が『女性優遇』を26.0ポイント上回り、「60歳以上」は『男性優遇』が36.8%に対し、『女性優遇』は7.1%と、『男性優遇』が『女性優遇』を29.7ポイント上回っています。



《就業形態別》

『男性優遇』については有意な差は見られませんが、『女性優遇』は「正規職員」が9.6%に対し、「非正規職員」は2.6%と、「正規職員」が「非正規職員」を7.0ポイント上回っています。



問 2 男女の役割分担について、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。
(〇は1つ)

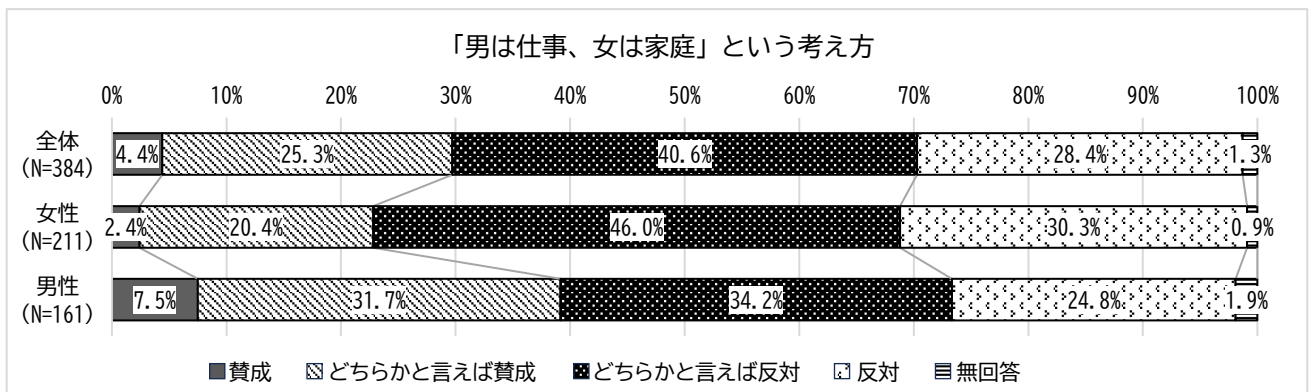
※『賛成計』は「賛成」と「どちらかと言えば賛成」の合計
 ※『反対計』は「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計

《全体》

『反対計』が69.0%に対し、『賛成計』は29.7%と、『反対計』が『賛成計』を39.3ポイント上回っています。

《男女別》

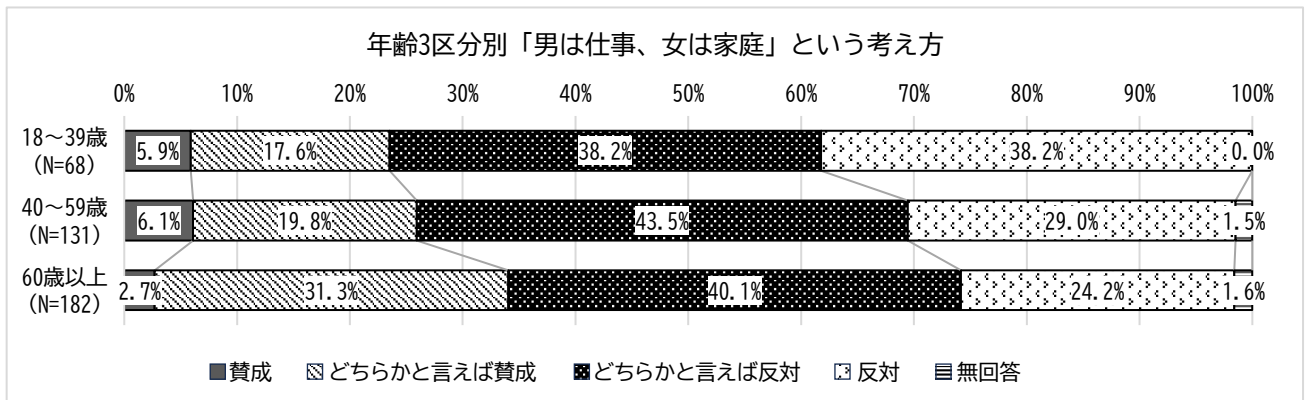
『賛成計』は「男性」が39.2%に対し、「女性」が22.8%と、「男性」が16.4ポイント上回り、『反対計』は「女性」が76.3%に対し、「男性」は59.0%と、「女性」が「男性」を17.3ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

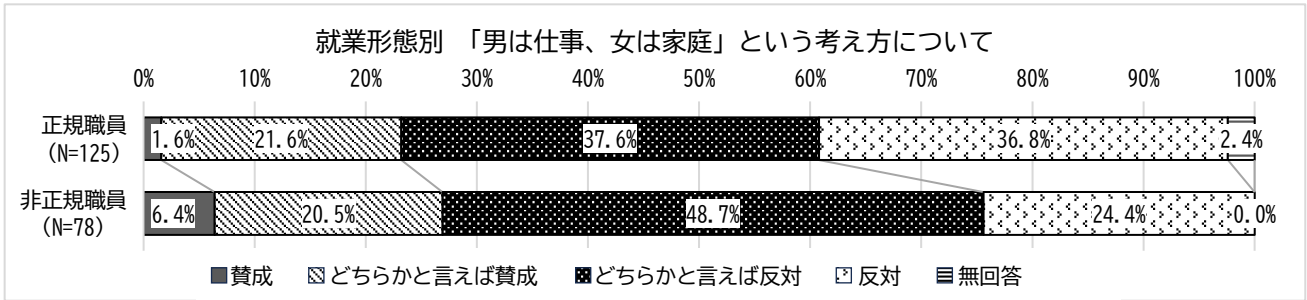
『賛成計』は「60歳以上」が34.0%で最も多く、「18～39歳」が23.5%で最も少なく、その差は10.5ポイント、『反対計』は「18～39歳」が76.4%で最も多く、「60歳以上」が64.3%で最も少なく、その差は12.1ポイントとなっています。

「18～39歳」は『反対計』が76.4%に対し、『賛成計』は23.5%と、『反対計』が『賛成計』を52.9ポイント上回り、「40～59歳」は『反対計』が72.5%に対し、『賛成計』は25.9%と、『反対計』が『賛成計』を46.6ポイント上回り、「60歳以上」は『反対計』が64.3%に対し、『賛成計』は34.0%と、『反対計』が『賛成計』を30.3ポイント上回っています。



《就業形態別》

『賛成計』は「非正規職員」が26.9%に対し、「正規職員」が23.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を3.7ポイント上回っています。



問2で「1. 賛成」または「2. どちらかと言えば賛成」と回答した方にお聞きします。

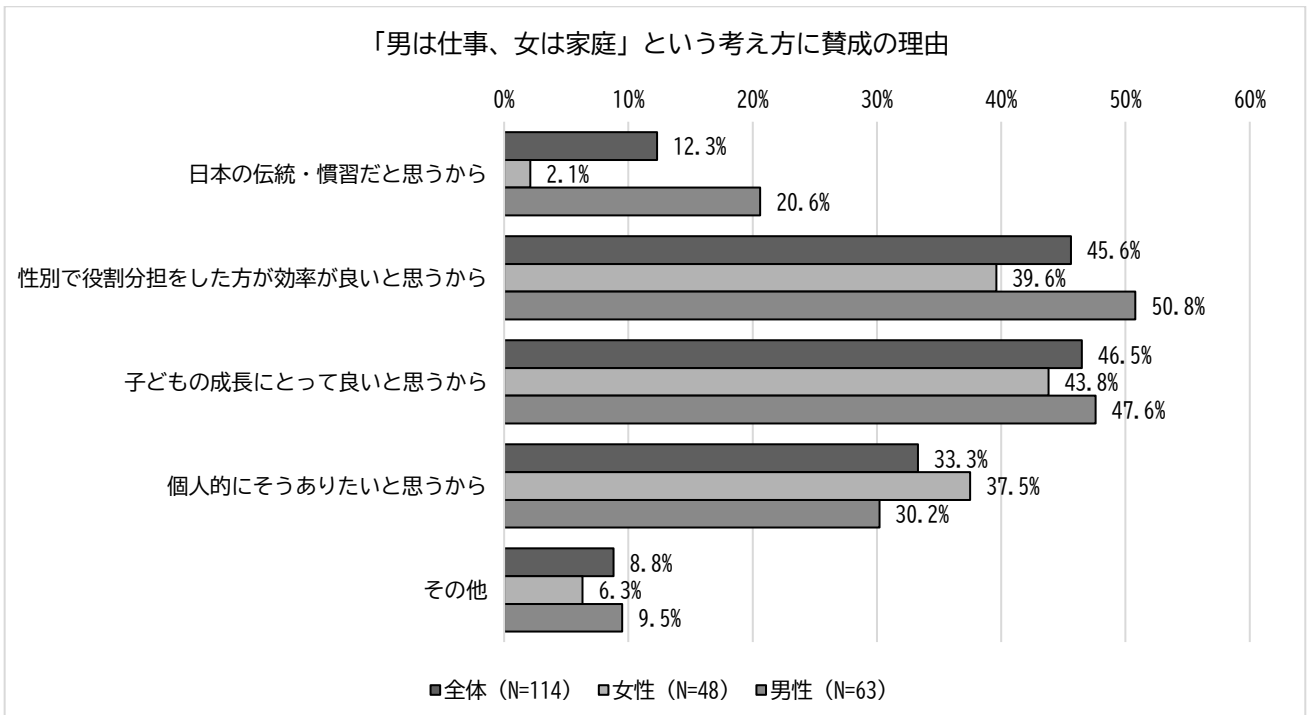
問3 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

《全体》

賛成の理由として多かったのは「子どもの成長にとって良いと思うから」の46.5%と「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」の45.6%でした。

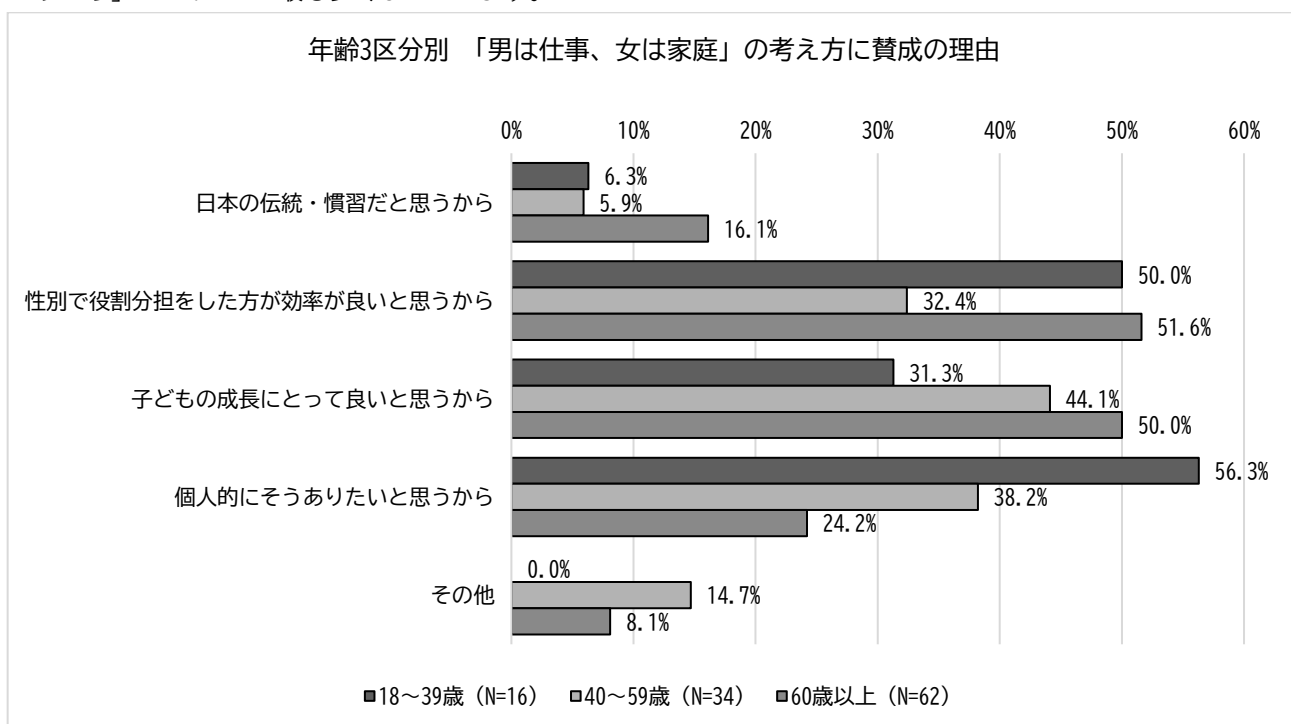
《男女別》

「女性」は「子どもの成長にとって良いと思うから」が43.8%で最も多く、「男性」は「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が50.8%で最も多くなっています。



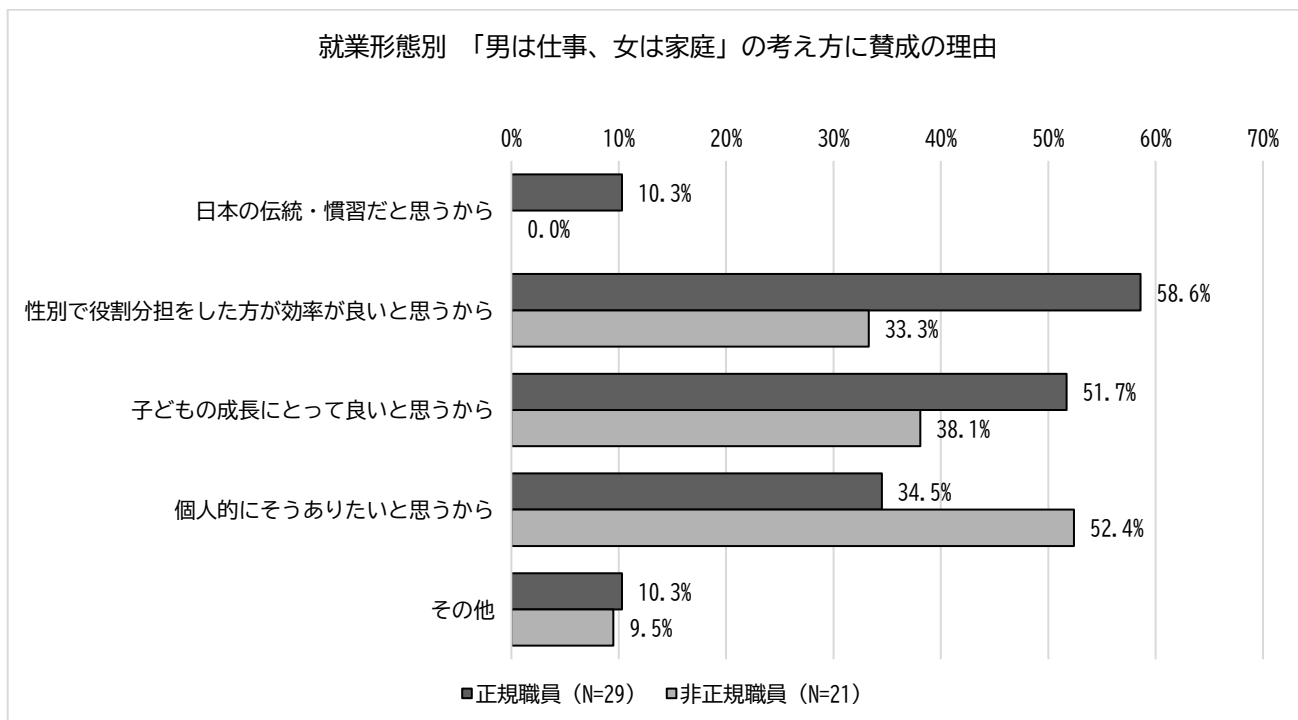
《年齢3区分別》

「18～39歳」は「個人的にそうありたいと思うから」が56.3%で最も多く、「40～59歳」は「子どもの成長にとって良いと思うから」が44.1%で最も多く、「60歳以上」は「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が51.6%で最も多くなっています。



《就業形態別》

「正規職員」は「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が58.6%で最も多く、「非正規職員」は「個人的にそうありたいと思うから」が52.4%で最も多くなっています。



問2で「3. どちらかと言えば反対」または「4. 反対」と回答した方にお聞きします。

問4 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

《全体》

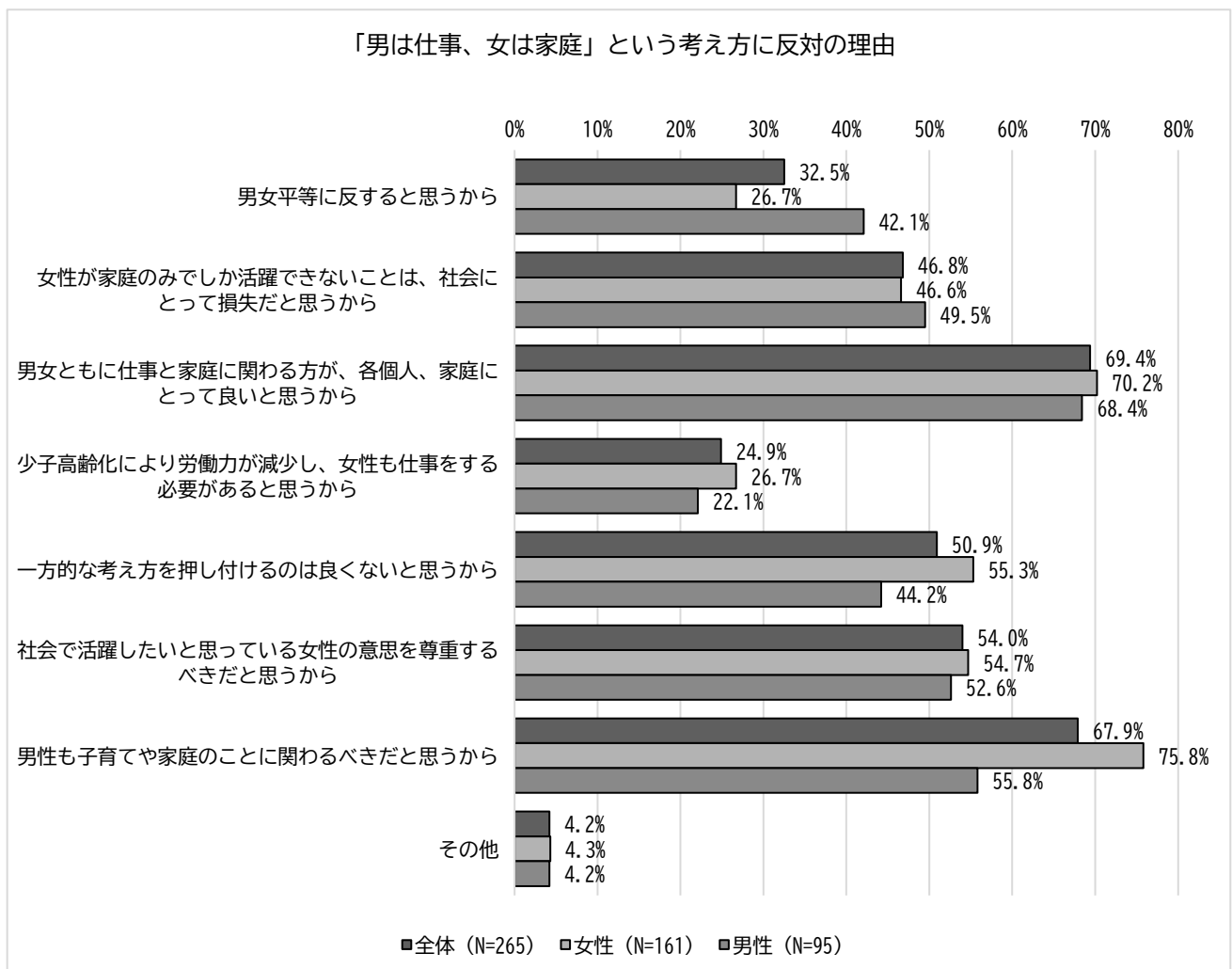
「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が 69.4%で最も多く、次いで「男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから」が67.9%、「社会で活躍したいと思っている女性の意思を尊重するべきだと思うから」が 54.0%となっています。

《男女別》

「女性」は「男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから」が 75.8%で最も多く、次いで「男女ともに仕事と家庭に関わる方が各個人、家庭にとって良いと思うから」が 70.2%、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が 55.3%となっています。

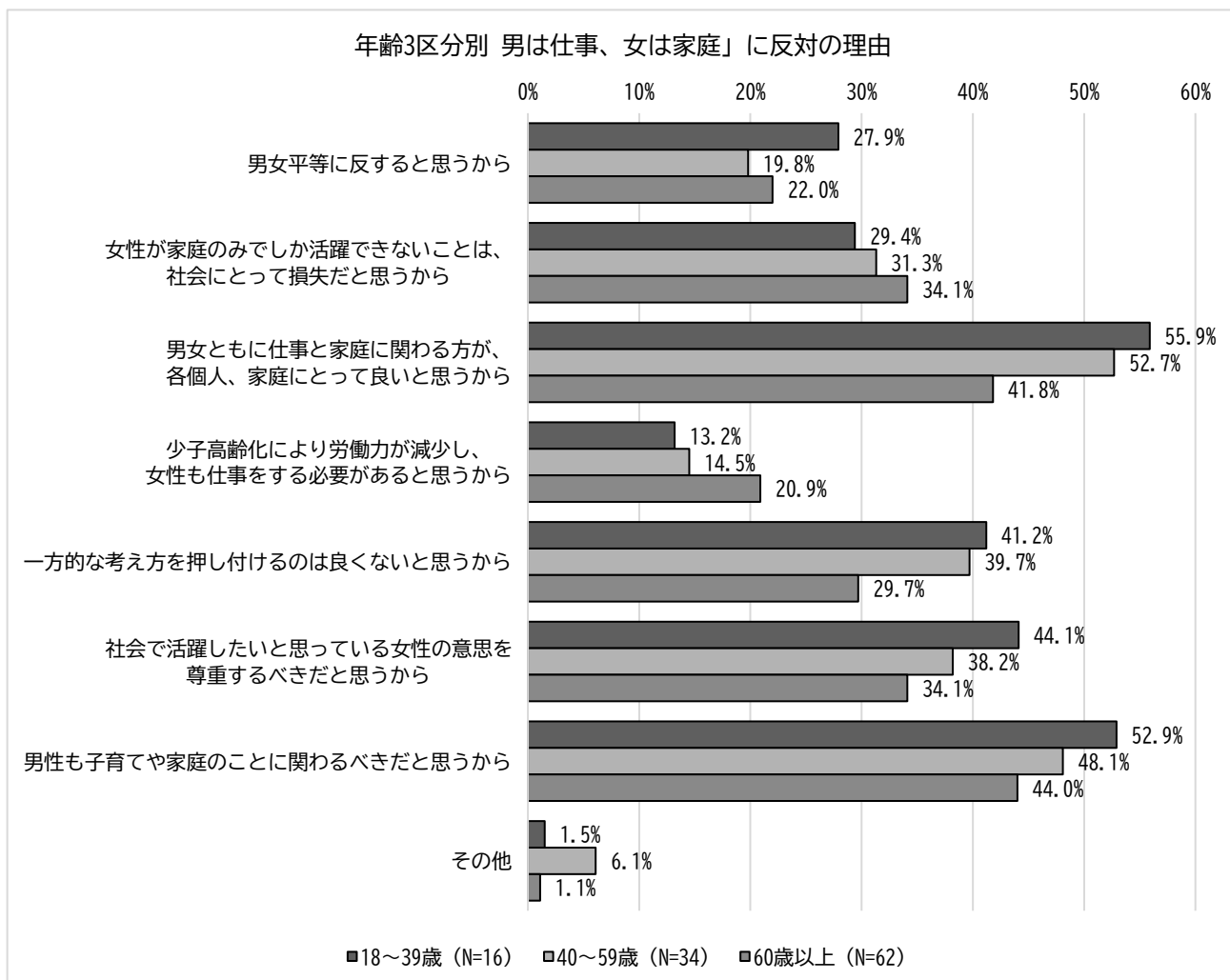
「男性」は「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が68.4%で最も多く、次いで「男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから」が 55.8%、「社会で活躍したいと思っている女性の意思を尊重するべきだと思うから」が 52.6%となっています。

男女比較では「男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから」は「女性」が 75.8%であるのに対し、「男性」は 55.8%と、「女性」が「男性」を 20.0 ポイント上回り、「男女平等に反すると思うから」は「男性」が 42.1%に対し、「女性」が 26.7%と、「男性」が「女性」を 15.4 ポイント上回っています。



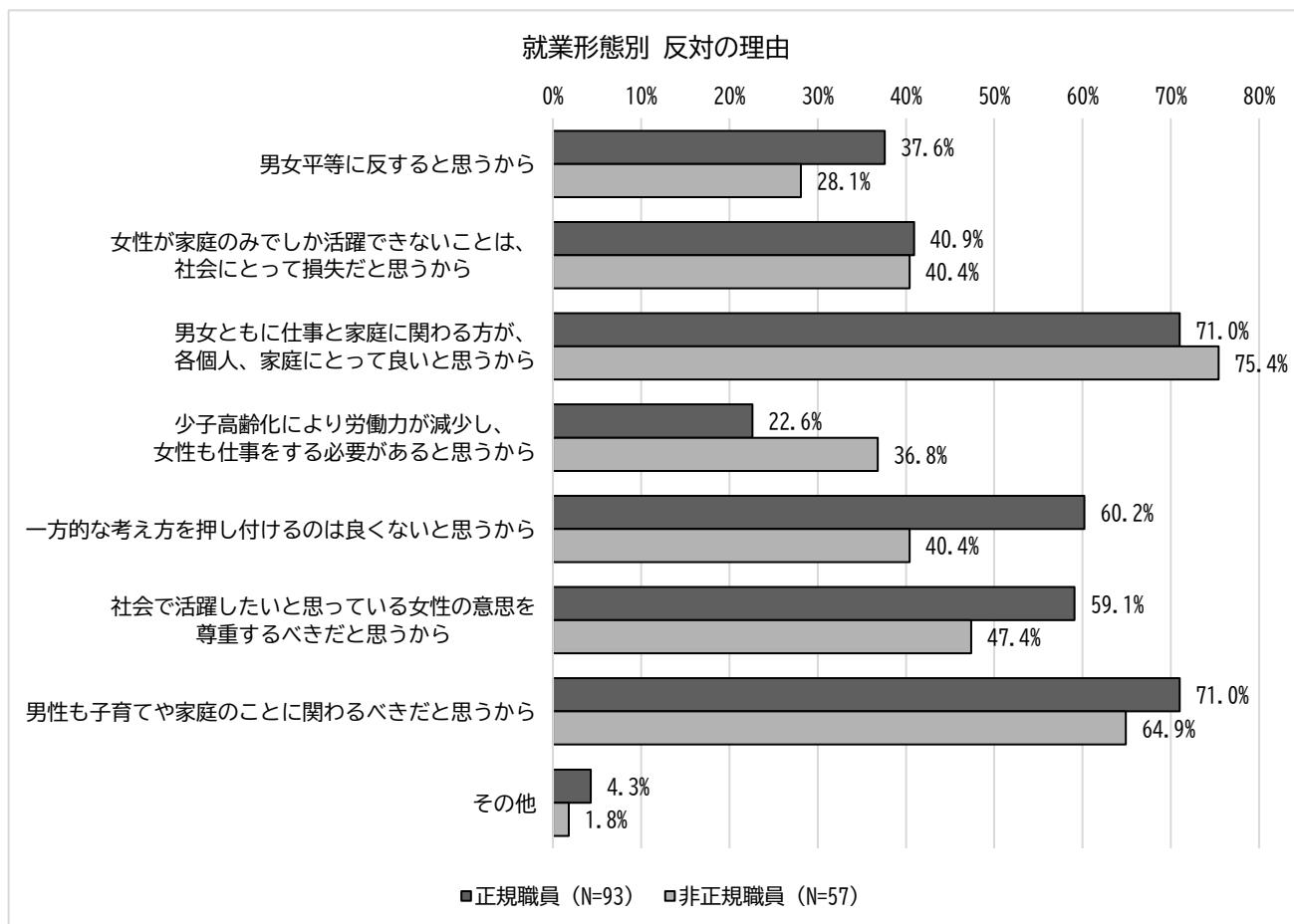
《年齢3区分別》

「18～39歳」は「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が55.9%で最も多く、「40～59歳」も「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が52.7%で最も多く、「60歳以上」は「男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから」が44.0%で最も多くなっています。



《就業形態別》

「正規職員」は「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」「男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから」が共に 71.0%で最も多く、「非正規職員」は「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が 75.4%で最も多くなっています。



(3) 家庭生活について

問5 あなたが仕事をしている日(在宅就労を含む)に費やす時間はそれぞれどのくらいですか。現在仕事をしている方のみお答えください。(それぞれ〇は1つ)

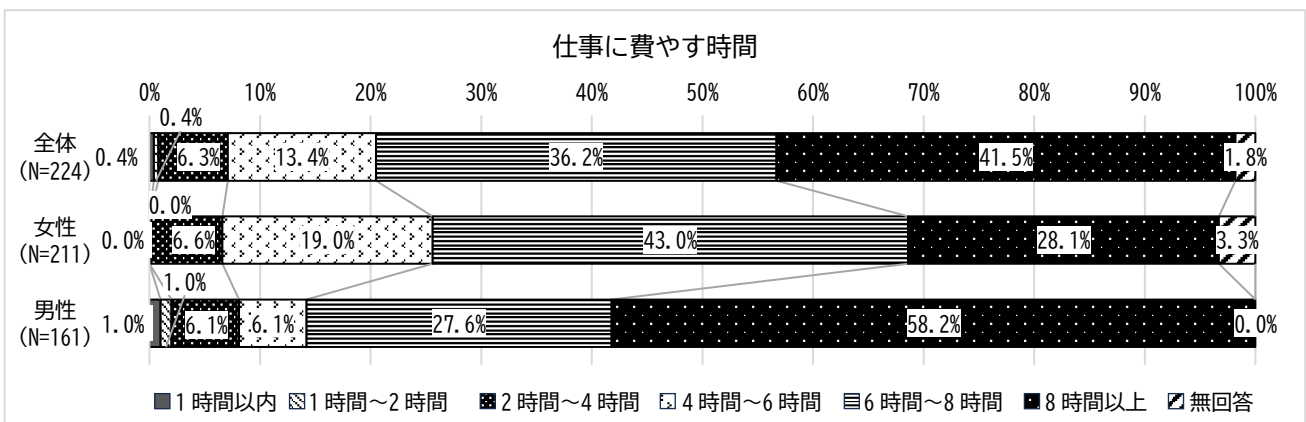
① 仕事(賃金あり)

《全体》

41.5%が「8時間以上」を費やしています。

《男女別》

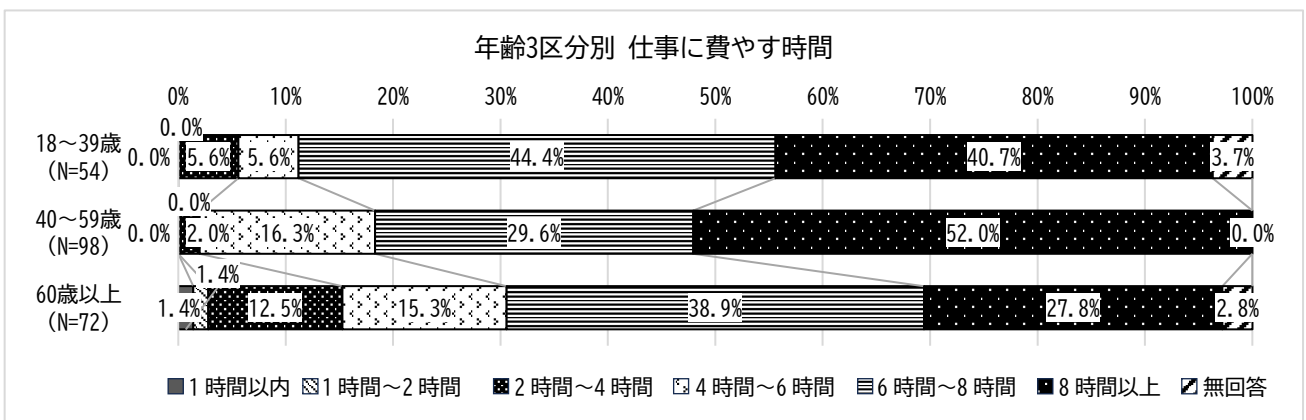
「8時間以上」は、「男性」が58.2%に対し、「女性」は28.1%と、「男性」が「女性」を30.1ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

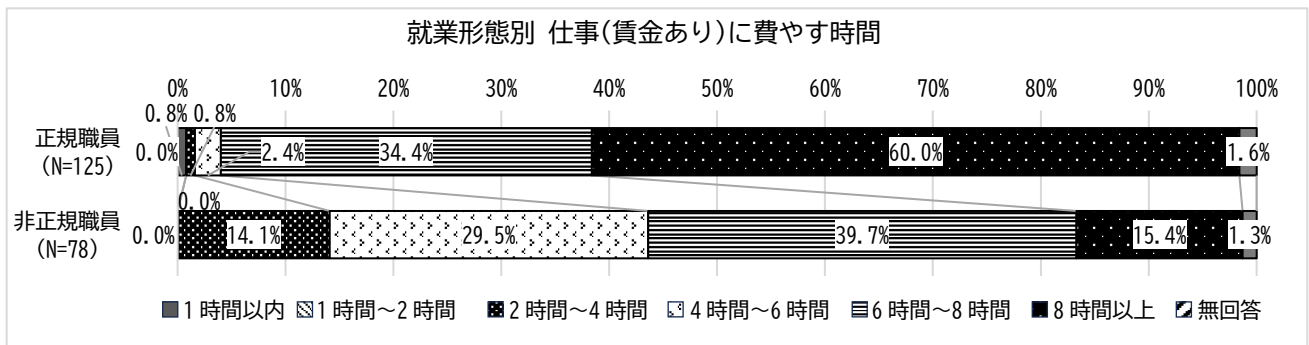
「18~39歳」は「6時間~8時間」が44.4%で最も多く、「40~59歳」は「8時間以上」が52.0%で最も多く、「60歳以上」は「6時間~8時間」が38.9%で最も多くなっています。

「6時間~8時間」は「18~39歳」が44.4%で最も多く、「40~59歳」が29.6%で最も少なく、その差は14.8ポイント、「8時間以上」は「40~59歳」が52.0%で最も多く、「60歳以上」が27.8%で最も少なく、その差は24.2ポイントとなっています。



《就業形態別》

「正規職員」は「8時間以上」が60.0%で最も多く、「非正規職員」は「6時間～8時間」が39.7%で最も多くなっています。



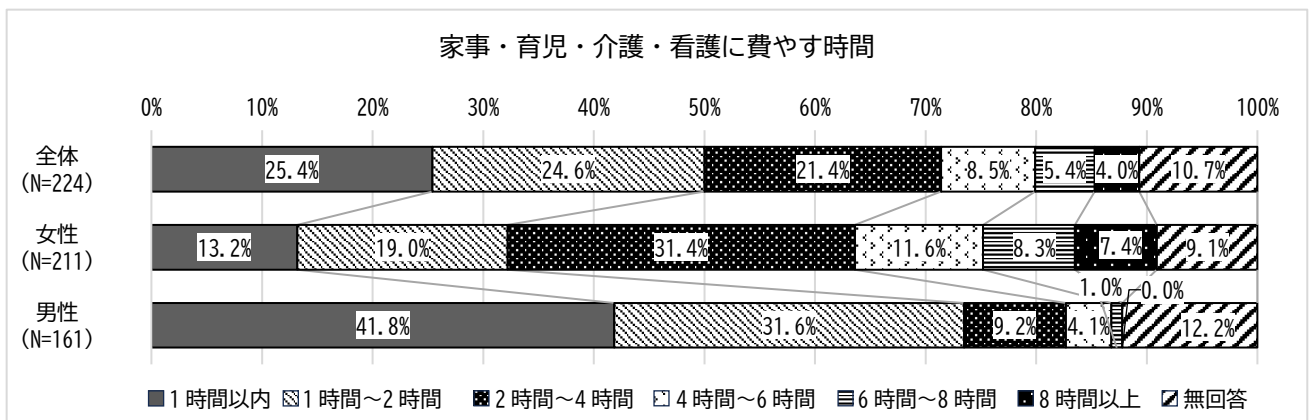
② 家事・育児・介護・看護

《全体》

「1時間以内」が25.4%で最も多く、次いで「1時間～2時間」が24.6%、「2時間～4時間」が21.4%となっています。

《男女別》

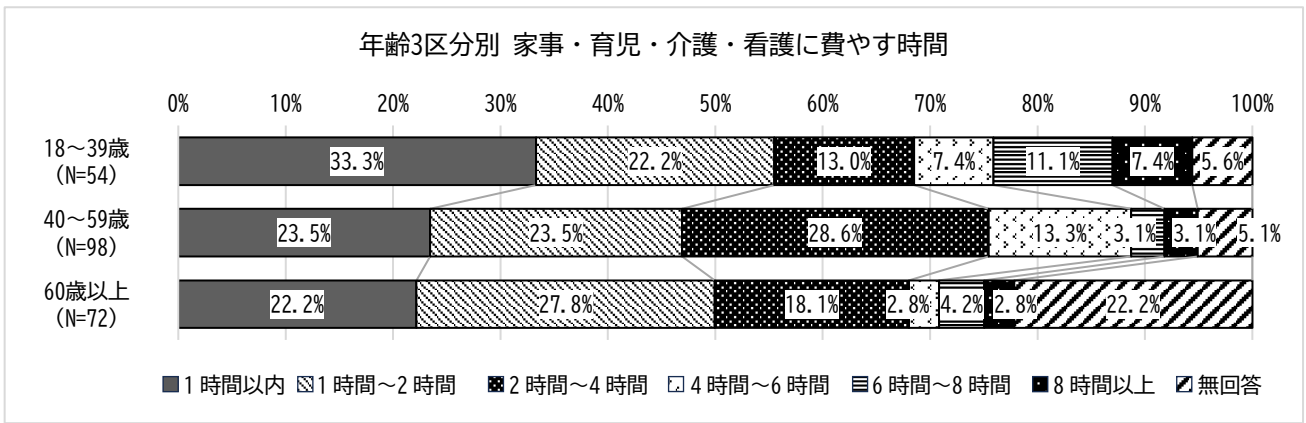
「女性」の31.4%が「2時間～4時間」を費やしており、「男性」の9.2%を大きく上回りました。「1時間以内」と回答したのは、「男性」が41.8%に対し、「女性」は13.2%となっています。



《年齢3区分別》

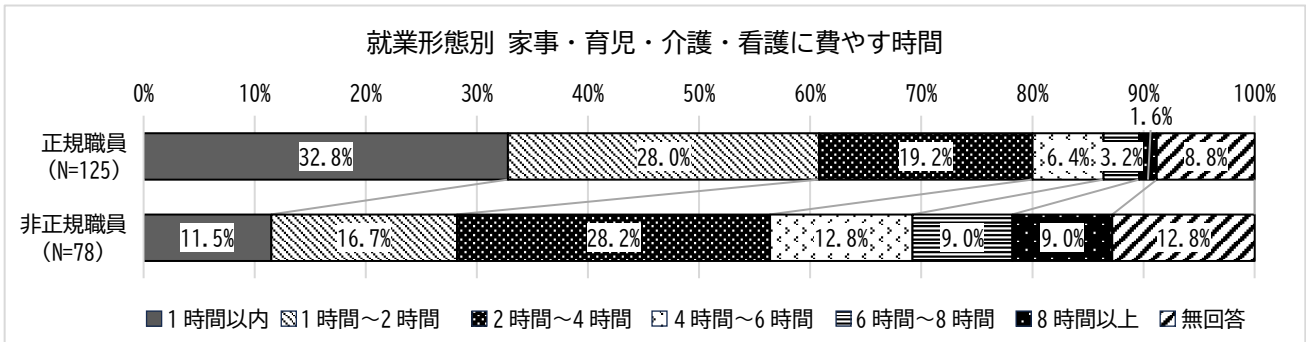
「18～39歳」は「1時間以内」が33.3%で最も多く、「40～59歳」は「2時間～4時間」が28.6%で最も多く、「60歳以上」は「1時間～2時間」が27.8%で最も多くなっています。

「1時間以内」は「18～39歳」が33.3%で最も多く、「60歳以上」が22.2%で最も少なく、その差は11.1ポイント、「2時間～4時間」は「40～59歳」が28.6%で最も多く、「18～39歳」が13.0%で最も少なく、その差は15.6ポイント、「4時間～6時間」は「40～59歳」が13.3%最も多く、「60歳以上」は2.8%で最も少なく、その差は10.5ポイントとなっています。



《就業形態別》

「正規職員」は「1時間以内」が32.8%で最も多く、「非正規職員」は「2時間～4時間」が28.2%で最も多くなっています。



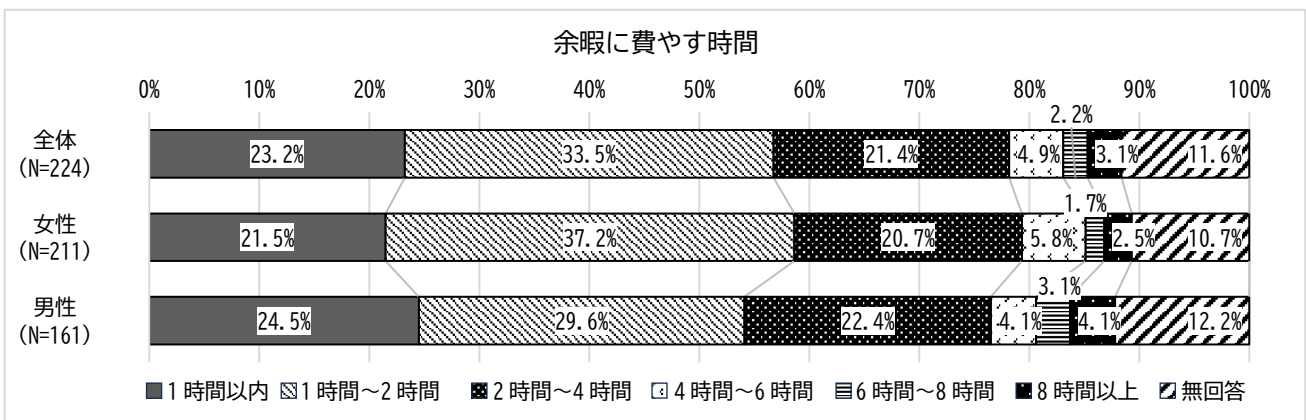
③ 余暇

《全体》

「1時間～2時間」が33.5%で最も多くなっています。

《男女別》

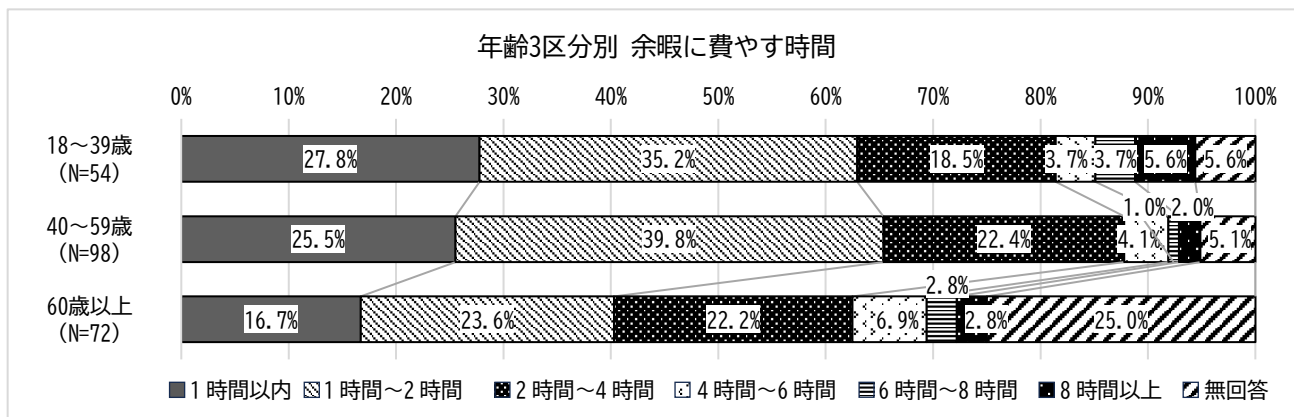
「女性」は「1時間～2時間」が37.2%で最も多く、「男性」も「1時間～2時間」が29.6%で最も多くなっています。



《年齢3区分別》

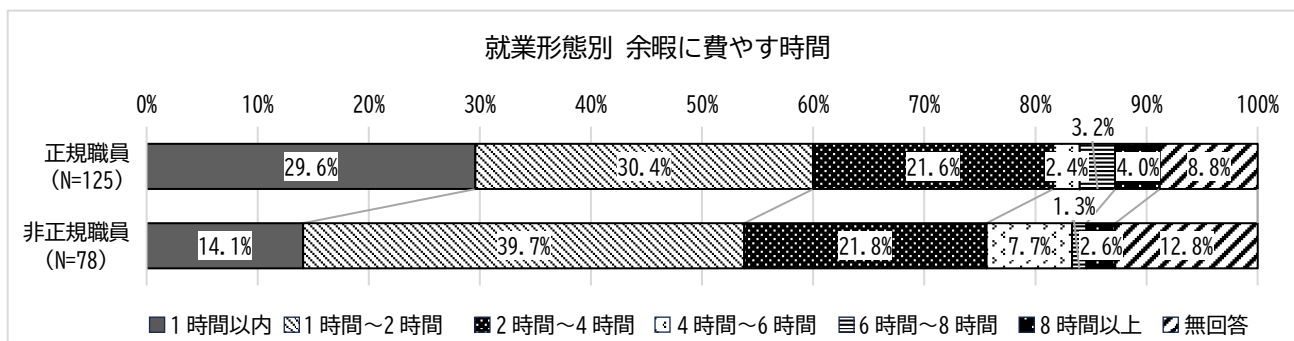
「18～39歳」は「1時間～2時間」が35.2%で最も多く、「40～59歳」は「1時間～2時間」が39.8%で最も多く、「60歳以上」は「1時間～2時間」が23.6%で最も多くなっています。

「1時間～2時間」は「40～59歳」が39.8%で最も多く、「60歳以上」が23.6%で最も少なく、その差は16.2ポイントとなっています。



《就業形態別》

「正規職員」「非正規職員」とも、「1時間～2時間」が最も多くなっていますが、「1時間以内」は「正規職員」が29.6%に対し、「非正規職員」は14.1%と、「正規職員」が「非正規職員」を15.5ポイント上回り、「1時間～2時間」は「非正規職員」が39.7%に対し、「正規職員」は30.4%と、「非正規職員」が「正規職員」を9.3ポイント上回っています。



問6 次のことがらについて、主に男性、女性のどちらが担う方がよいと思いますか。
(それぞれ〇は1つ)

※『男性の役割』は「主に男性の役割」と「どちらかと言えば男性の役割」の合計

※『女性の役割』は「主に女性の役割」と「どちらかと言えば女性の役割」の合計

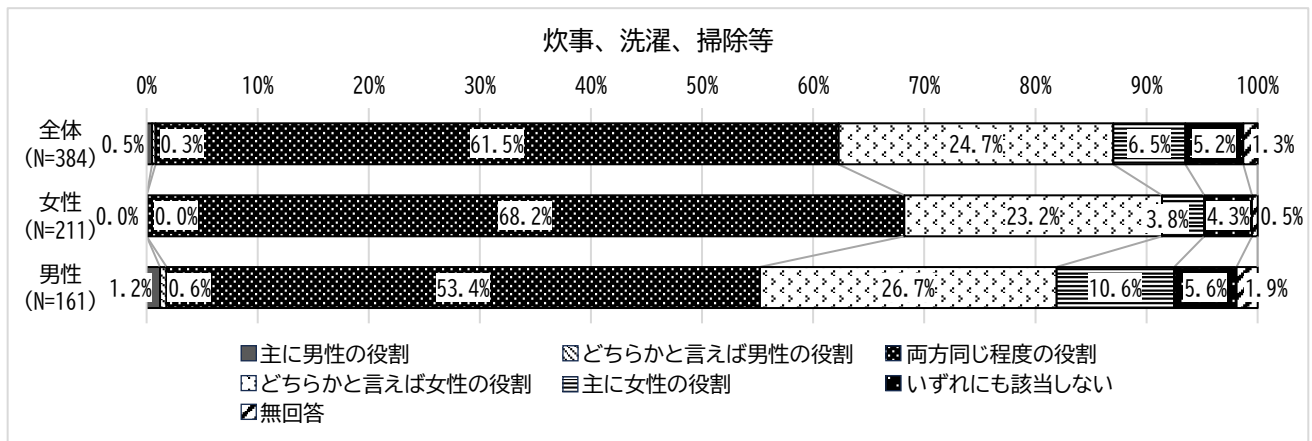
① 炊事、洗濯、掃除等

《全体》

「両方同じ程度の役割」が61.5%で最も多く、『女性の役割』は31.2%となっています。

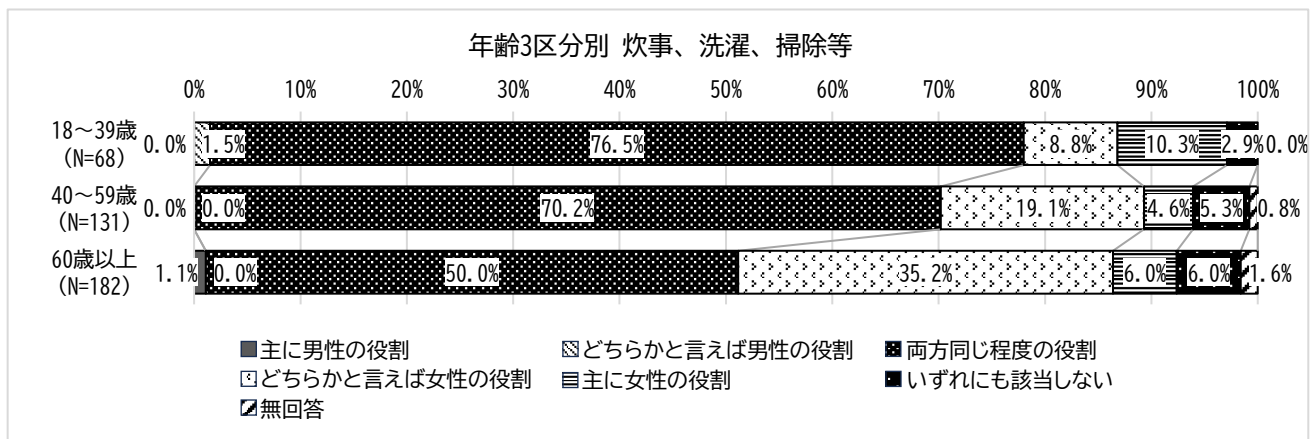
《男女別》

「両方同じ程度の役割」は「女性」が68.2%に対し、「男性」は53.4%と、「女性」が「男性」を14.8ポイント上回り、『女性の役割』は「男性」が37.3%に対し、「女性」は27.0%と、「男性」が「女性」を10.3ポイント上回っています。



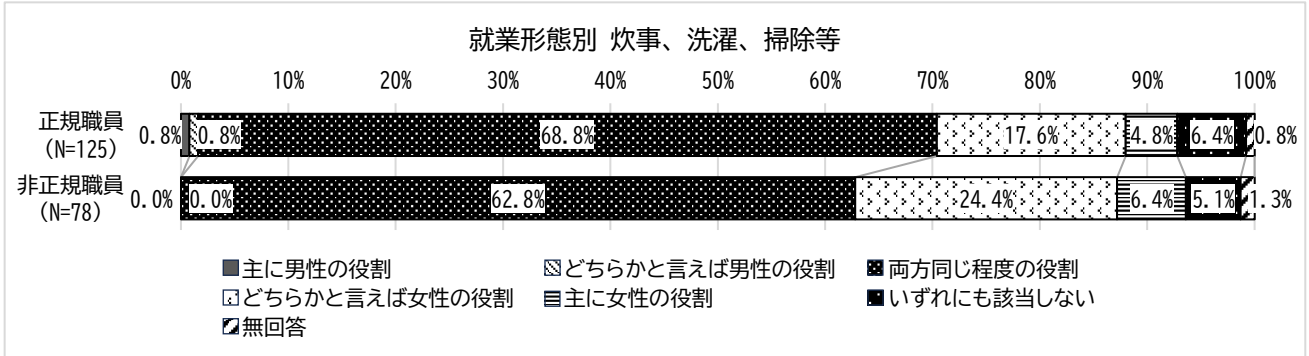
《年齢3区分別》

年齢区分に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は『女性の役割』が19.1%に対し、『男性の役割』は1.5%と、『女性の役割』が『男性の役割』を17.6ポイント上回り、「40～59歳」は『女性の役割』が23.7%に対し、『男性の役割』は0.0%と、『女性の役割』が『男性の役割』を23.7ポイント上回り、「60歳以上」は『女性の役割』が41.2%に対し、『男性の役割』は1.1%と、『女性の役割』が『男性の役割』を40.1ポイント上回っています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず、「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「両方同じ程度の役割」は「正規職員」が68.8%に対し、「非正規職員」は62.8%と、「正規職員」が「非正規職員」を6.0ポイント上回り、『女性の役割』は「非正規職員」が30.8%に対し、「正規職員」は22.4%と、「非正規職員」が「正規職員」を8.4ポイント上回っています。



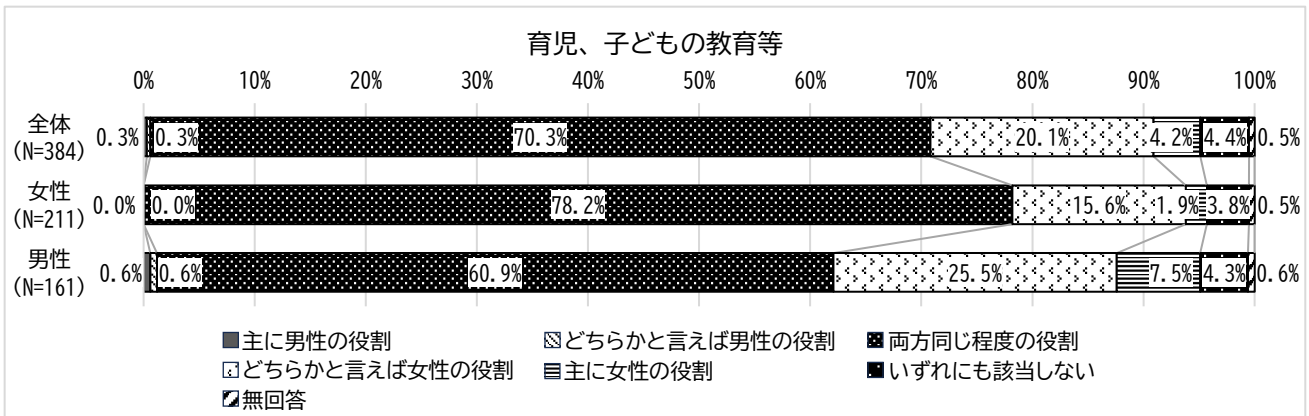
② 育児、子どもの教育等

《全体》

「両方同じ程度の役割」が70.3%で最も多く、『女性の役割』は24.3%となっています。

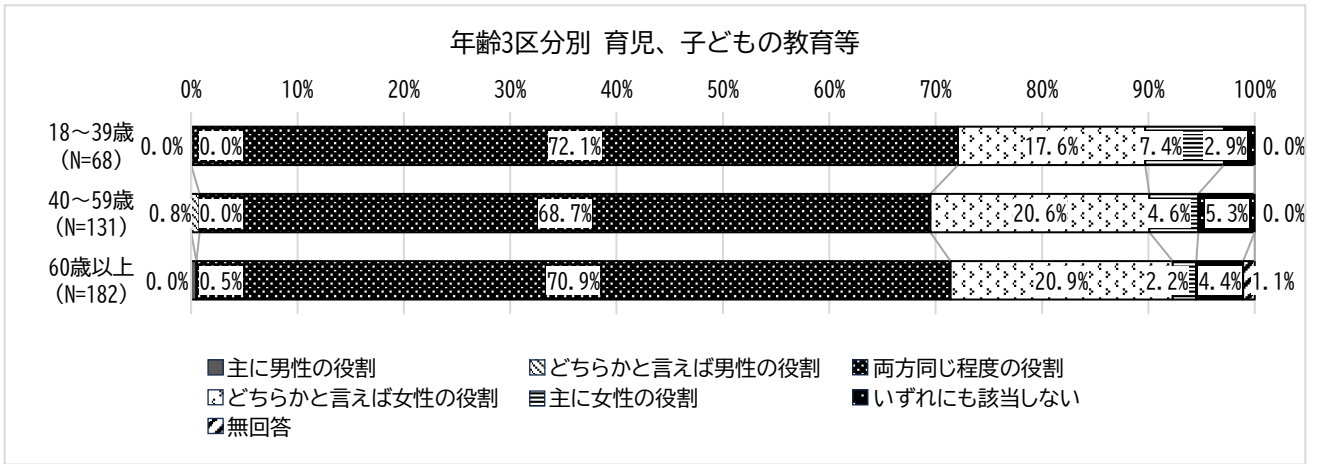
《男女別》

「両方同じ程度の役割」は「女性」が78.2%に対し、「男性」は60.9%と、「女性」が「男性」を17.3ポイント上回り、『女性の役割』は「男性」が33.0%に対し、「女性」は17.5%と、「男性」が「女性」を15.5ポイント上回っています。



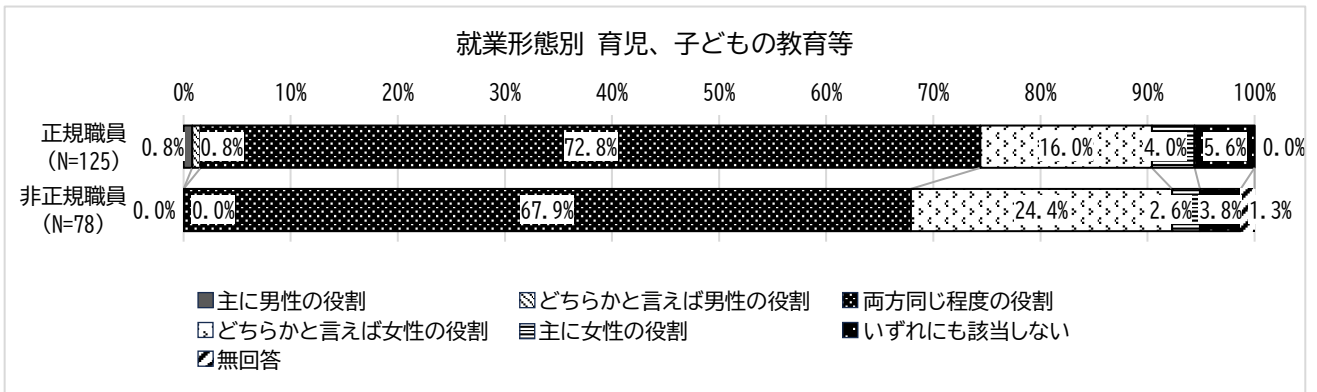
《年齢3 区分別》

年齢区分に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「18～39 歳」は『女性の役割』が25.0%に対し、『男性の役割』は0.0%と、『女性の役割』が『男性の役割』を25.0ポイント上回り、「40～59 歳」は『女性の役割』が25.2%に対し、『男性の役割』は0.8%と、『女性の役割』が『男性の役割』を24.4ポイント上回り、「60 歳以上」は『女性の役割』が23.1%に対し、『男性の役割』は0.5%と、『女性の役割』が『男性の役割』を22.6ポイント上回っています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、『女性の役割』は「非正規職員」が27.0%に対し、「正規職員」は20.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を7.0ポイント上回っています。



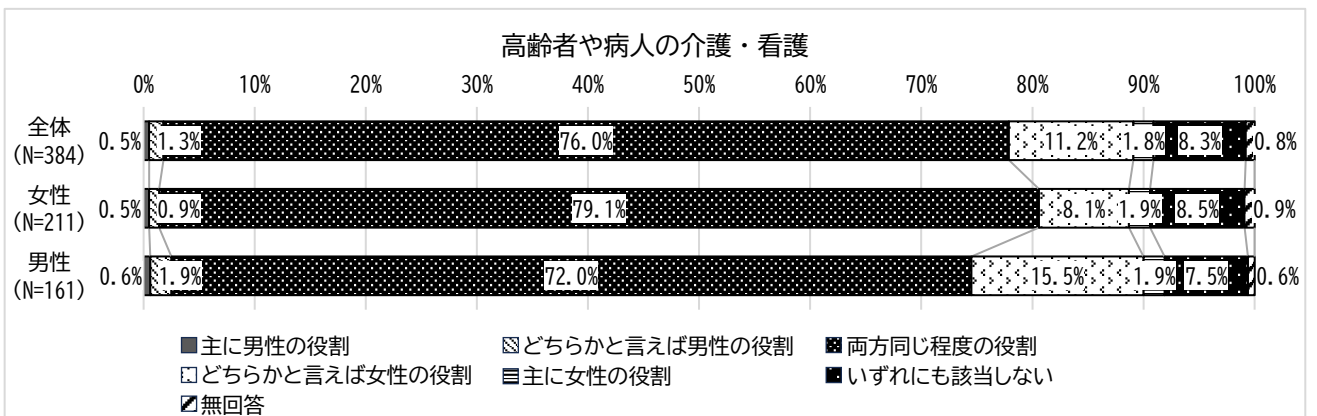
③ 高齢者や病人の介護・看護

《全体》

「両方同じ程度の役割」が76.0%と最も多く、『女性の役割』は13.0%となっています。

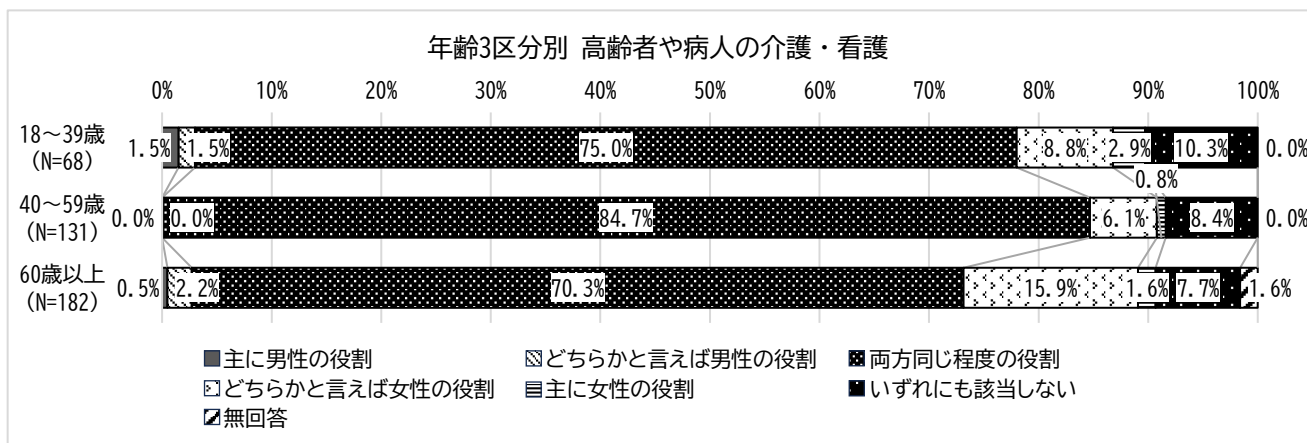
《男女別》

「両方同じ程度の役割」は「女性」が79.1%に対し、「男性」は72.0%と、「女性」が「男性」を7.1ポイント上回り、『女性の役割』は「男性」が17.4%に対し、「女性」は10.0%と、「男性」が「女性」を7.4ポイント上回っています。



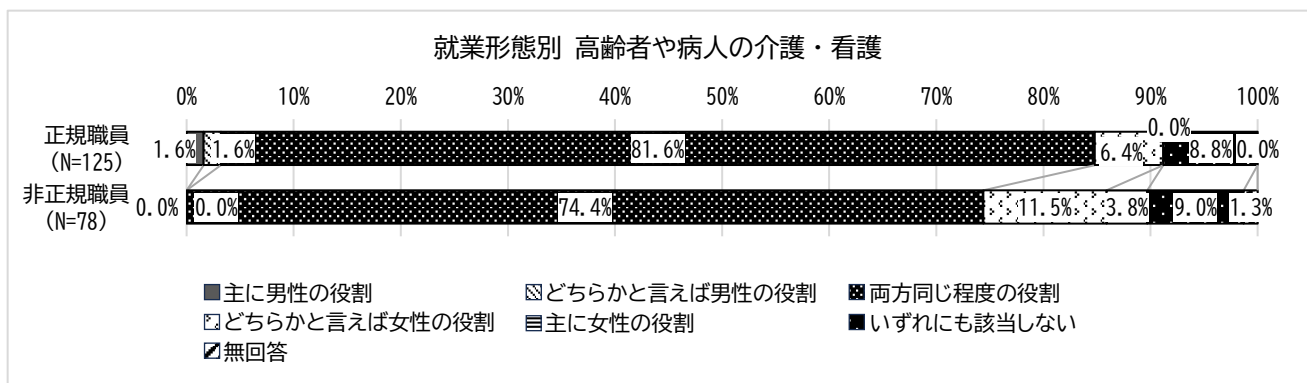
《年齢3区分別》

年齢区分に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は『女性の役割』が11.7%に対し、『男性の役割』は3.0%と、『女性の役割』が『男性の役割』を8.7ポイント上回り、「40～59歳」は『女性の役割』が6.9%に対し、『男性の役割』は0.0%と、『女性の役割』が『男性の役割』を6.9ポイント上回り、「60歳以上」は『女性の役割』が17.5%に対し、『男性の役割』は2.7%と、『女性の役割』が『男性の役割』を14.8ポイント上回っています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、『女性の役割』は「非正規職員」が15.3%に対し、「正規職員」は6.4%と、「非正規職員」が「正規職員」を8.9ポイント上回っています。



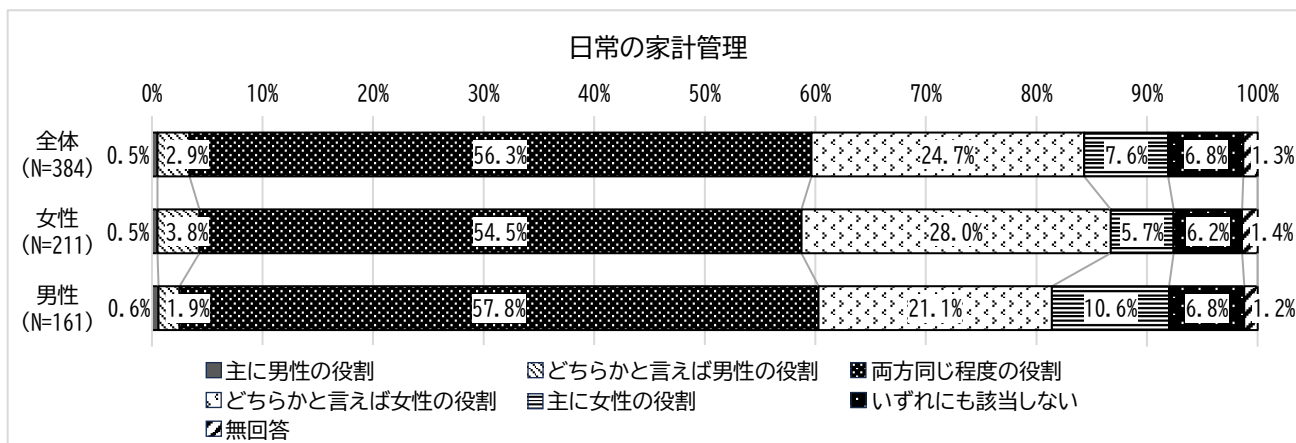
④ 日常の家計管理

《全体》

「両方同じ程度の役割」が56.3%と最も多く、『女性の役割』は32.3%となっています。

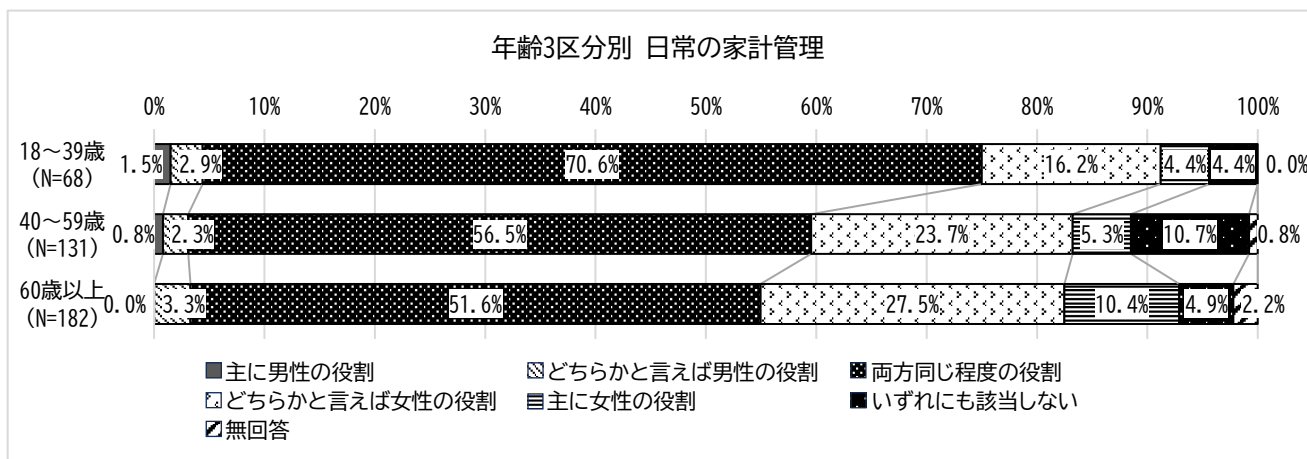
《男女別》

「両方同じ程度の役割」は「男性」が57.8%に対し、「女性」は54.5%と、「男性」が「女性」を3.3ポイント上回っています。



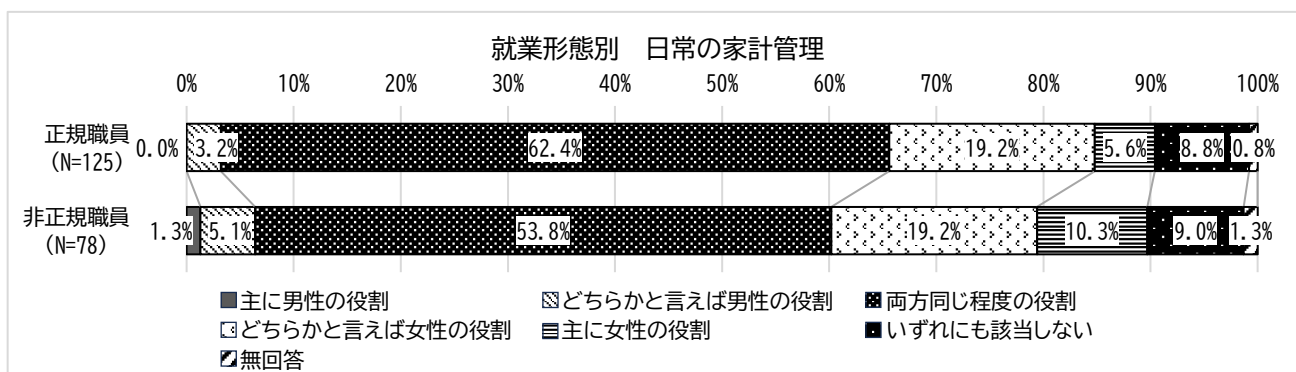
《年齢 3 区分別》

年齢区分に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「18～39 歳」は『女性の役割』が 20.6%に対し、『男性の役割』は 4.4%と、『女性の役割』が『男性の役割』を 16.2 ポイント上回り、「40～59 歳」は『女性の役割』が 29.0%に対し、『男性の役割』は 3.1%と、『女性の役割』が『男性の役割』を 25.9 ポイント上回り、「60 歳以上」は『女性の役割』が 37.9%に対し、『男性の役割』は 3.3%と、『女性の役割』が『男性の役割』を 34.6 ポイント上回っています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、『女性の役割』は「非正規職員」が 29.5%に対し、「正規職員」は 24.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を 4.7 ポイント上回っています。



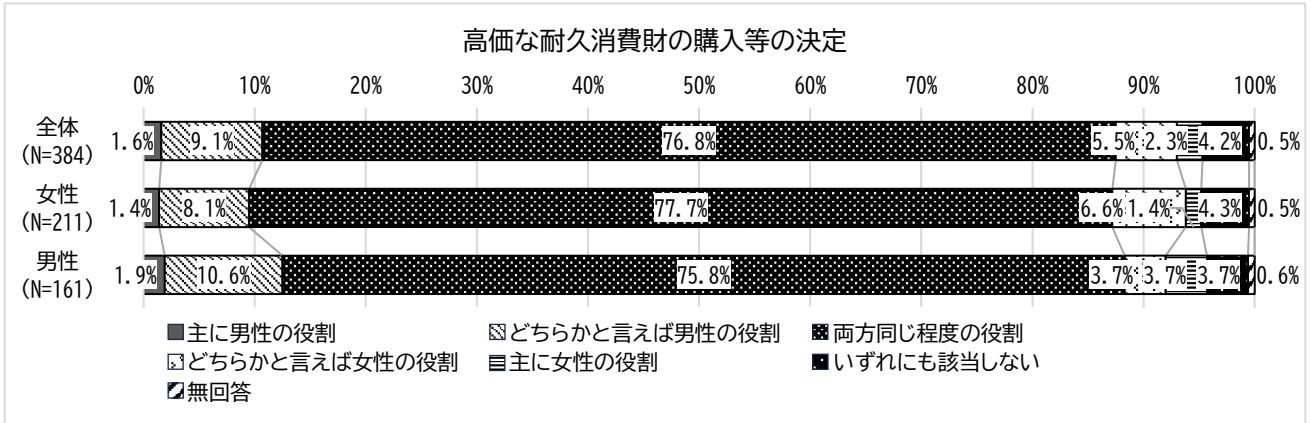
⑤ 高価な耐久消費財(長く使う家具・家電など)の購入等の決定

《全体》

「両方同じ程度の役割」が 76.8%と最も多く、『男性の役割』は 10.7%、『女性の役割』は 7.8%となっています。

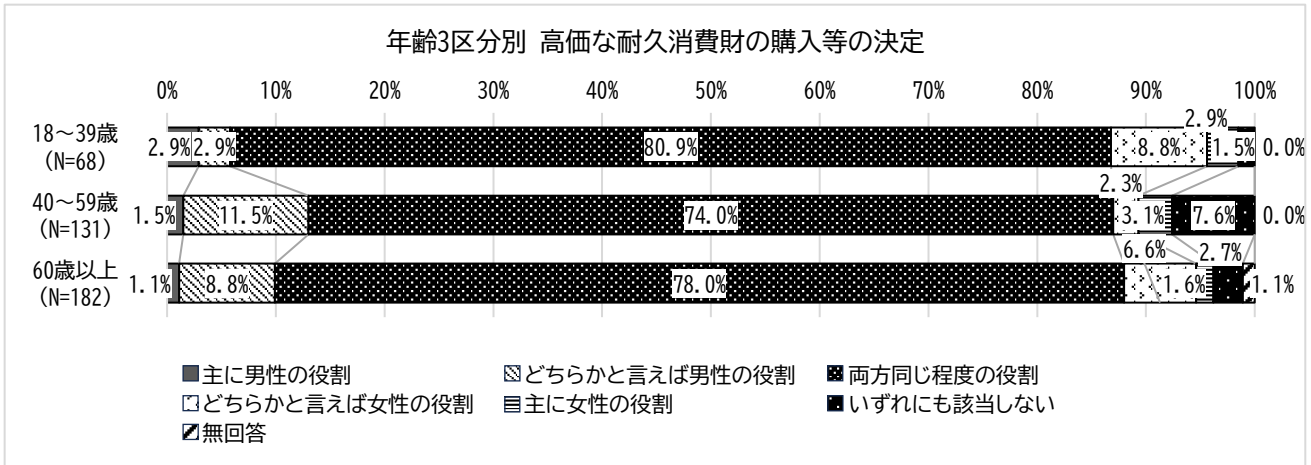
《男女別》

有意な差は見られません。



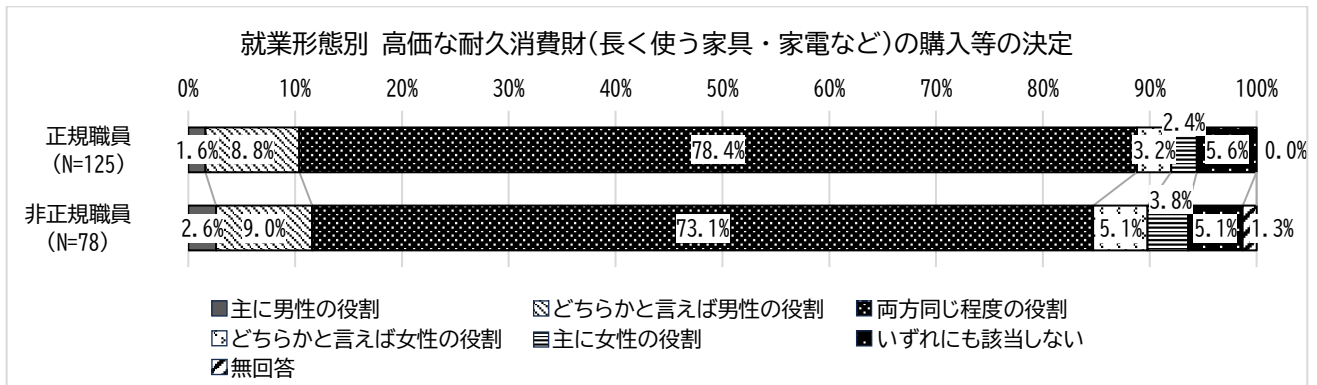
《年齢3区分別》

年齢区分に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は『女性の役割』が 11.7%に対し、『男性の役割』は 5.8%と、『女性の役割』が『男性の役割』を 5.9ポイント上回り、「40～59歳」は『男性の役割』が 13.0%に対し、『女性の役割』は 5.4%と、『男性の役割』が『女性の役割』を 7.6ポイント上回っています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



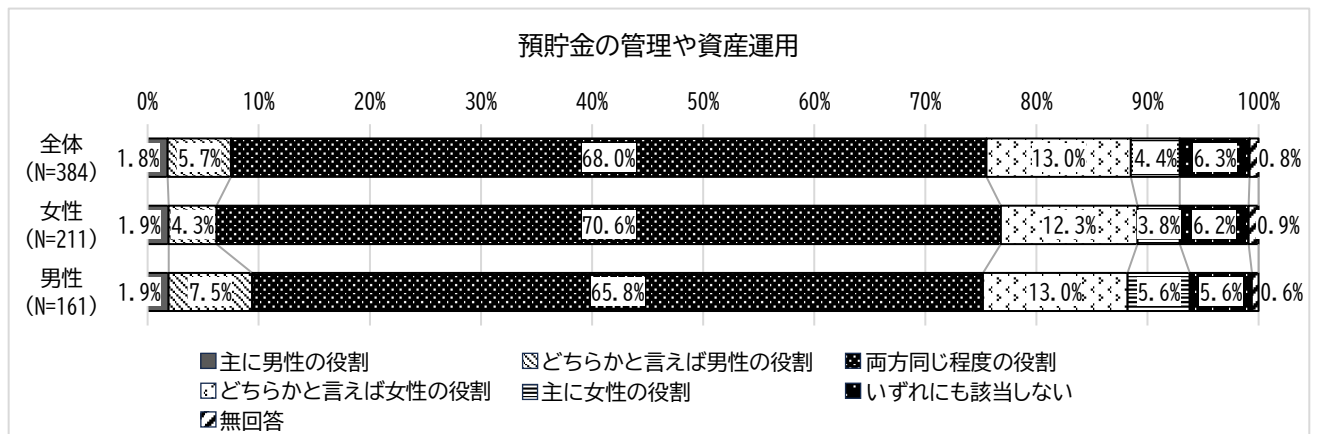
⑥ 預貯金の管理や資産運用

《全体》

「両方同じ程度の役割」が68.0%と最も多く、『女性の役割』は17.4%となっています。

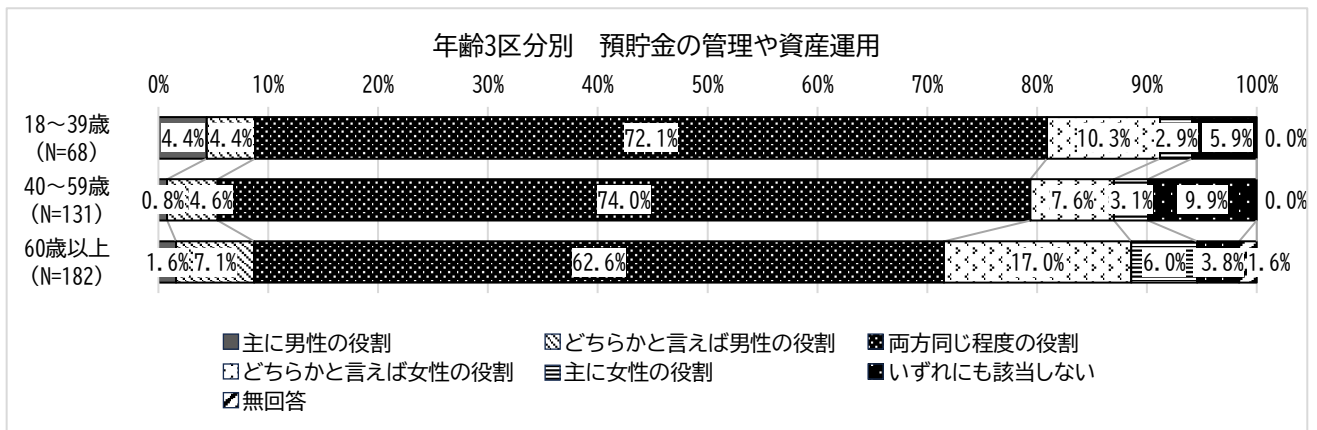
《男女別》

有意な差は見られません。



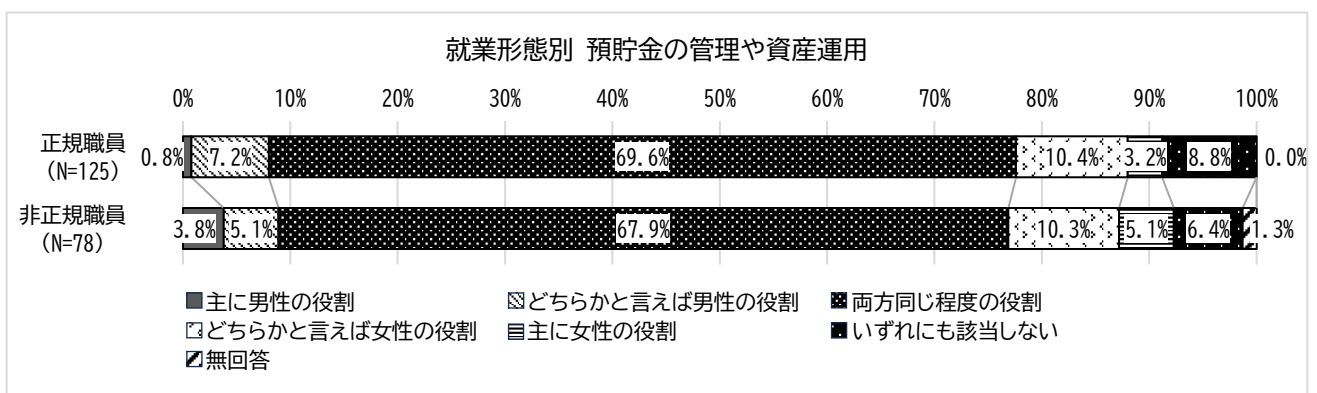
《年齢3区分別》

年齢区分に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は『女性の役割』が13.2%に対し、『男性の役割』は8.8%と、『女性の役割』が『男性の役割』を4.4ポイント上回り、「40～59歳」は『女性の役割』が10.7%に対し、『男性の役割』は5.4%と、『女性の役割』が『男性の役割』を5.3ポイント上回り、「60歳以上」は『女性の役割』が23.0%に対し、『男性の役割』は8.7%と、『女性の役割』が『男性の役割』を14.3ポイント上回っています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



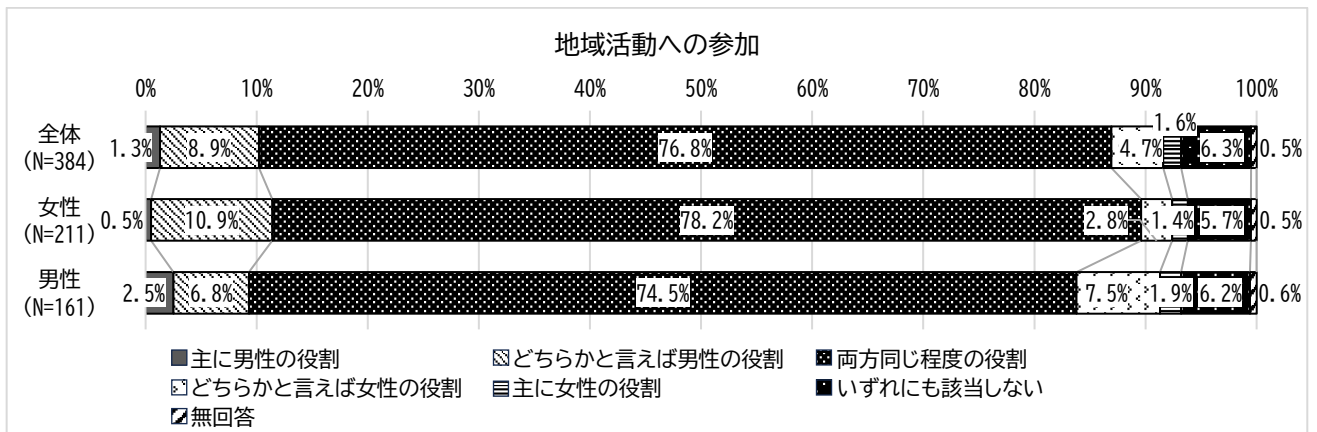
⑦ 地域活動への参加

《全体》

「両方同じ程度の役割」が 76.8%と最も多く、『男性の役割』は 10.2%、『女性の役割』は 6.3%となっています。

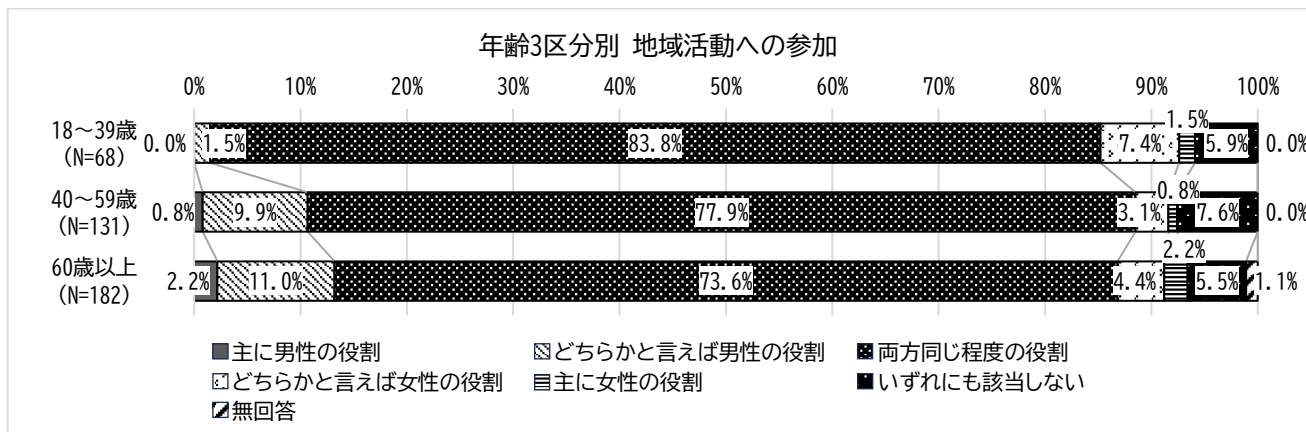
《男女別》

『女性の役割』は「男性」が 9.4%に対し、「女性」は 4.2%と、「男性」が「女性」を 5.2ポイント上回っています。



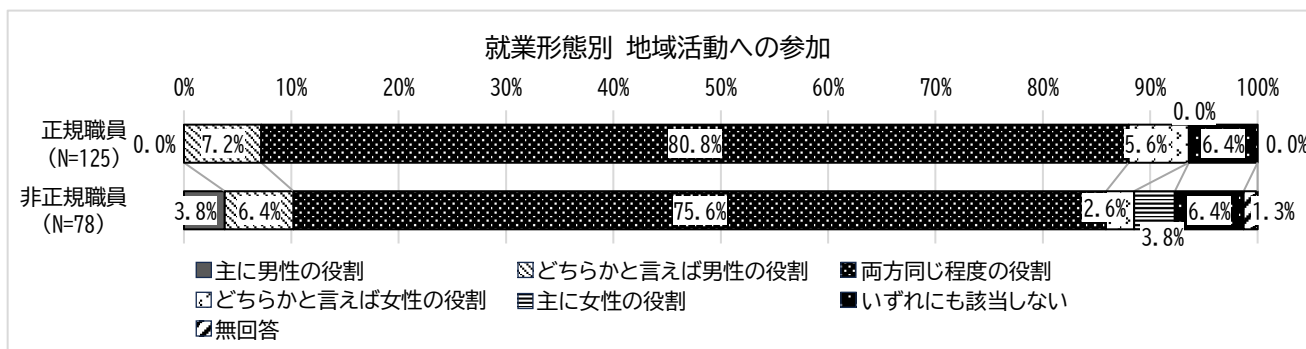
《年齢3区分別》

年齢区分に関わらず「両方同じ程度の役割」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は『女性の役割』が8.9%に対し、『男性の役割』は1.5%と、『女性の役割』が『男性の役割』を7.4ポイント上回り、「40～59歳」は『男性の役割』が10.7%に対し、『女性の役割』は3.9%と、『男性の役割』が『女性の役割』を6.8ポイント上回り、「60歳以上」は『男性の役割』が13.2%に対し、『女性の役割』は6.6%と、『男性の役割』が『女性の役割』を6.6ポイント上回っています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



(4) 職場について(現在仕事をしている方のみ)

問7 あなたの今の職場では、次のことについて性別によって差があると思いますか。
(それぞれ〇は1つ)

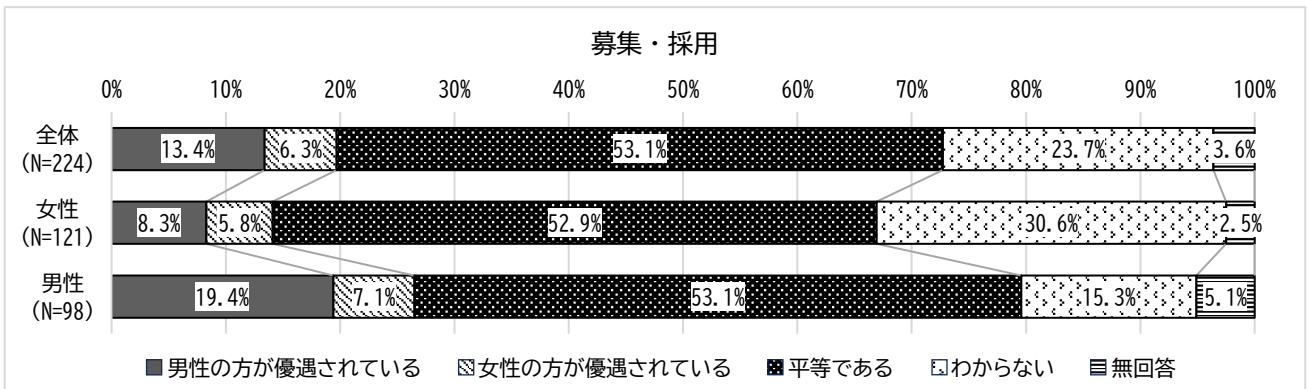
① 募集・採用

《全体》

「平等である」が53.1%と半数を占め、「男性の方が優遇されている」は13.4%となっています。

《男女別》

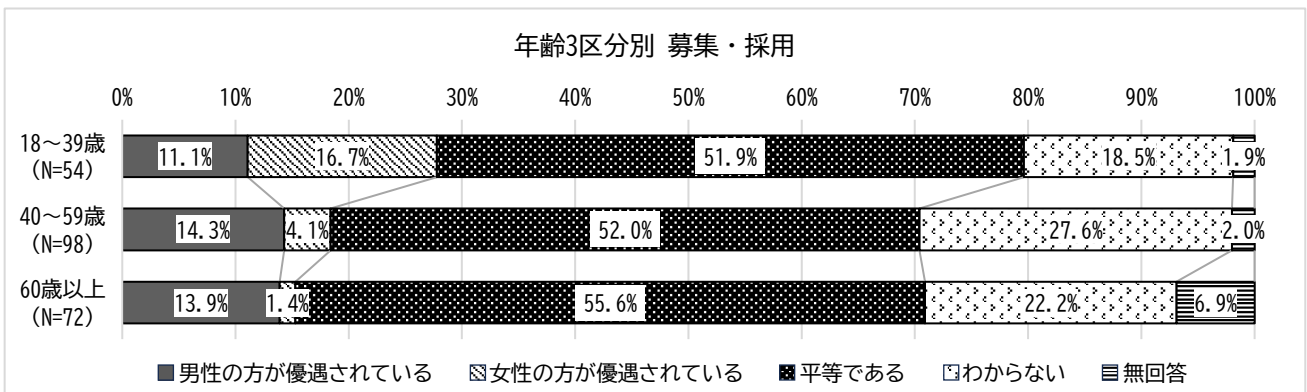
「平等である」は「女性」が52.9%、「男性」が53.1%とほぼ同じ割合を示していますが、「男性の方が優遇されている」は「男性」が19.4%に対し、「女性」は8.3%と、「男性」が「女性」を11.1ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

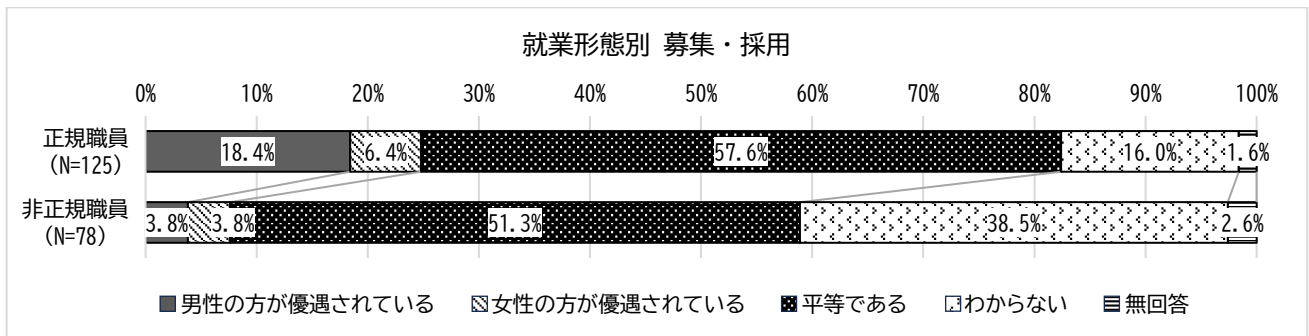
年齢区分に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は「女性の方が優遇されている」が16.7%に対し、「男性の方が優遇されている」は11.1%と、「女性の方が優遇されている」が「男性の方が優遇されている」を5.6ポイント上回り、「40～59歳」は「男性の方が優遇されている」が14.3%に対し、「女性の方が優遇されている」は4.1%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を10.2ポイント上回り、「60歳以上」は「男性の方が優遇されている」が13.9%に対し、「女性の方が優遇されている」は1.4%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を12.5ポイント上回っています。

「女性の方が優遇されている」は「18～39歳」が16.7%で最も多く、「60歳以上」が1.4%で最も少なく、その差は15.3ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は「正規職員」が18.4%に対し、「非正規職員」は3.8%と、「正規職員」が「非正規職員」を14.6ポイント上回り、「わからない」は「非正規職員」が38.5%と多く、「正規職員」の16.0%を22.5ポイント上回っています。



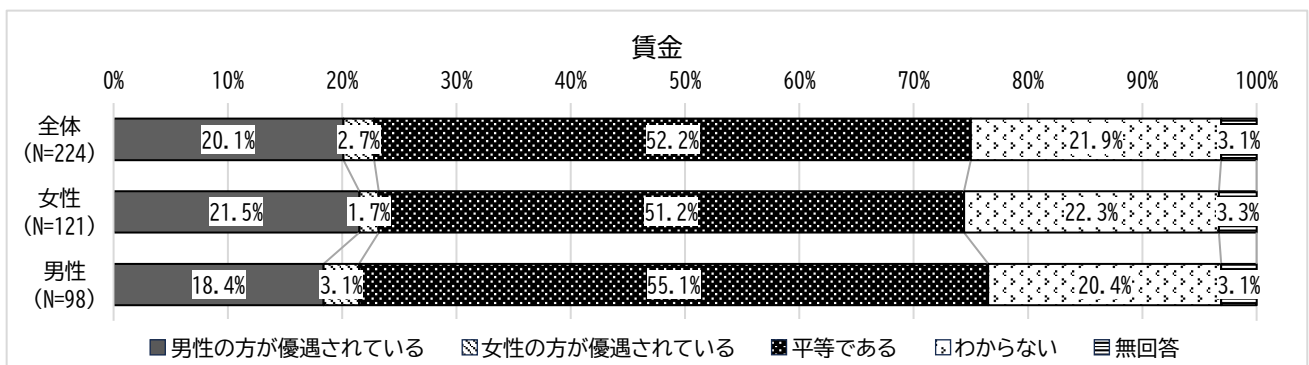
② 賃金

《全体》

「平等である」が52.2%と半数を占め、「男性の方が優遇されている」は20.1%となっています。

《男女別》

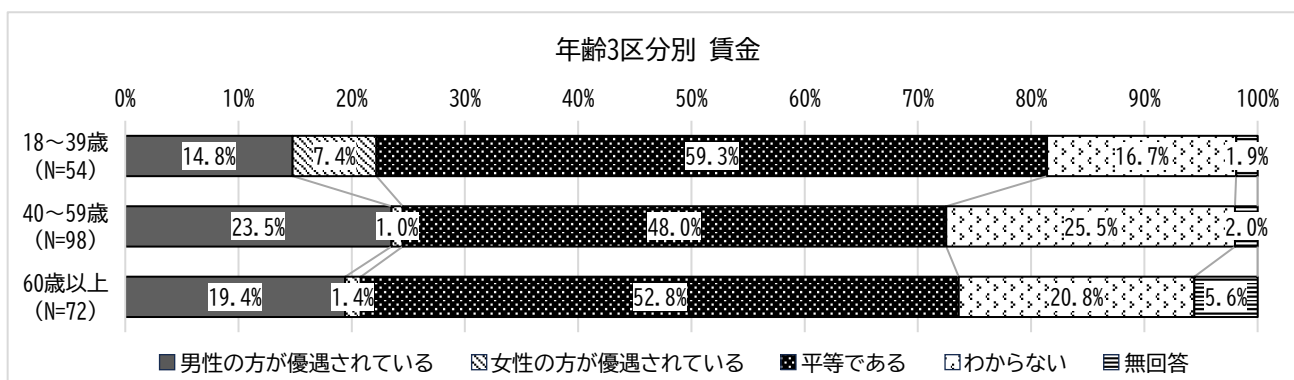
「平等である」は「男性」が55.1%に対し、「女性」は51.2%と、「男性」が「女性」を3.9ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

年齢区分に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は「男性の方が優遇されている」が14.8%に対し、「女性の方が優遇されている」は7.4%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を7.4ポイント上回り、「40～59歳」は「男性の方が優遇されている」が23.5%に対し、「女性の方が優遇されている」は1.0%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を22.5ポイント上回り、「60歳以上」は「男性の方が優遇されている」が19.4%に対し、「女性の方が優遇されている」は1.4%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を18.0ポイント上回っています。

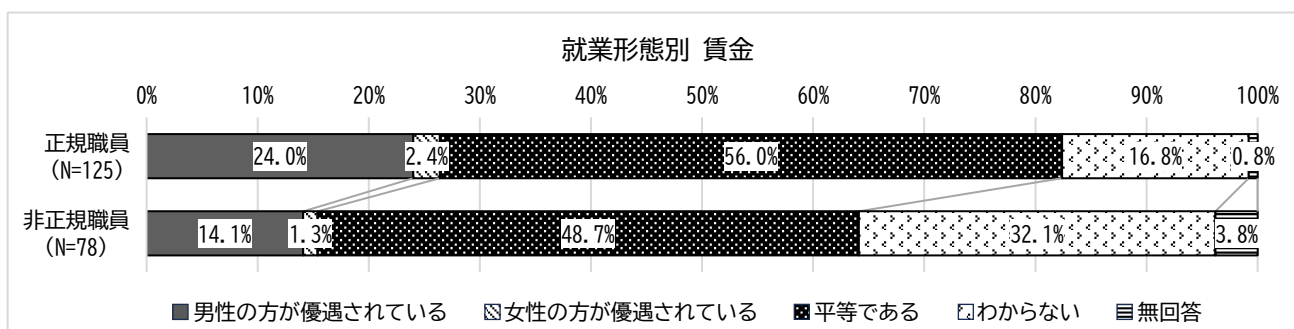
「男性の方が優遇されている」は「40～59歳」が23.5%で最も多く、「18～39歳」が14.8%で最も少なく、その差は8.7ポイント、「女性の方が優遇されている」は「18～39歳」が7.4%で最も多く、「40～59歳」は1.0%で最も少なく、その差は6.4ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は「正規職員」が24.0%に対し、「非正規職員」は14.1%と、「正規職員」が「非正規職員」を9.9ポイント上回っています。

また、「わからない」は「非正規職員」が32.1%と多く、「正規職員」の16.8%を15.3ポイント上回っています。



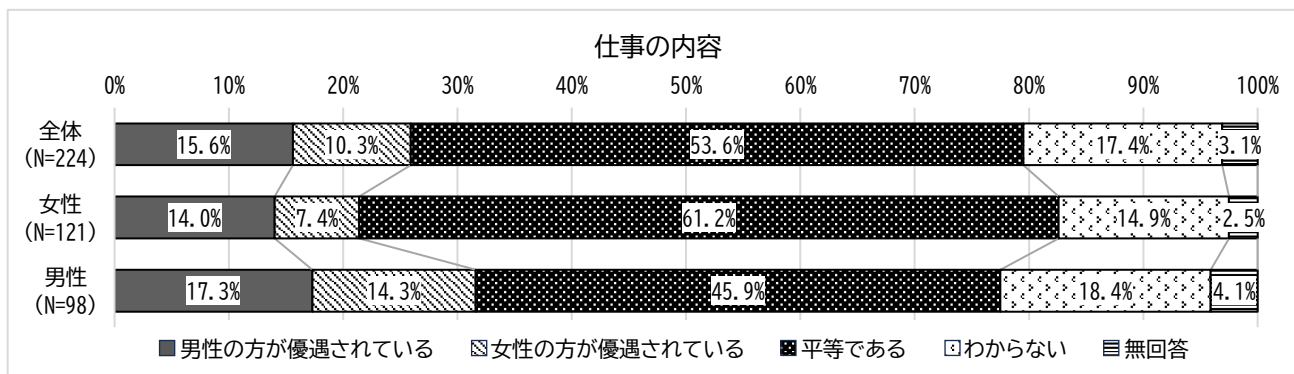
③ 仕事の内容

《全体》

「平等である」が53.6%と半数を占め、「男性の方が優遇されている」は15.6%、「女性の方が優遇されている」は10.3%となっています。

《男女別》

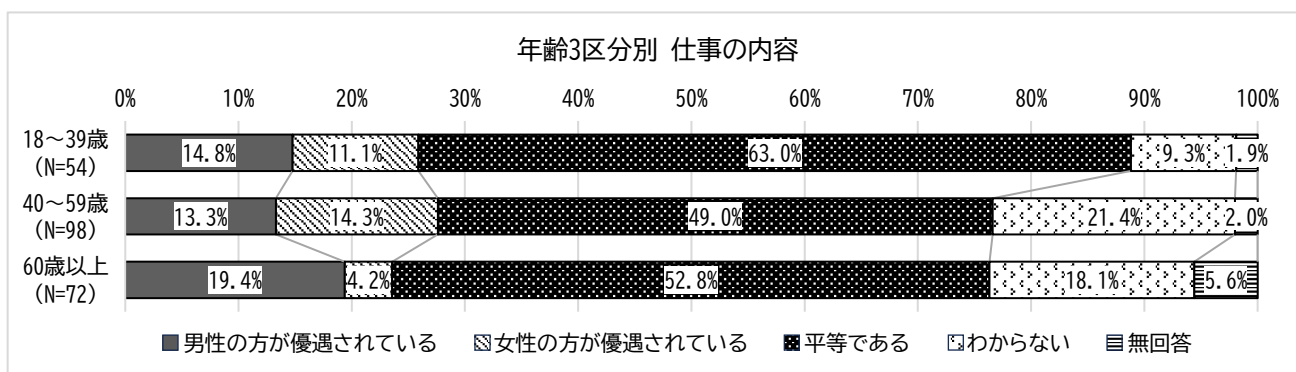
「平等である」は「女性」が61.2%、「男性」が45.9%と、「女性」が「男性」を15.3ポイント上回り、「男性の方が優遇されている」は「男性」が17.3%に対し、「女性」が14.0%と、「男性」が「女性」を3.3ポイント上回り、「女性の方が優遇されている」は「男性」が14.3%に対し、「女性」は7.4%と、「男性」が「女性」を6.9ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

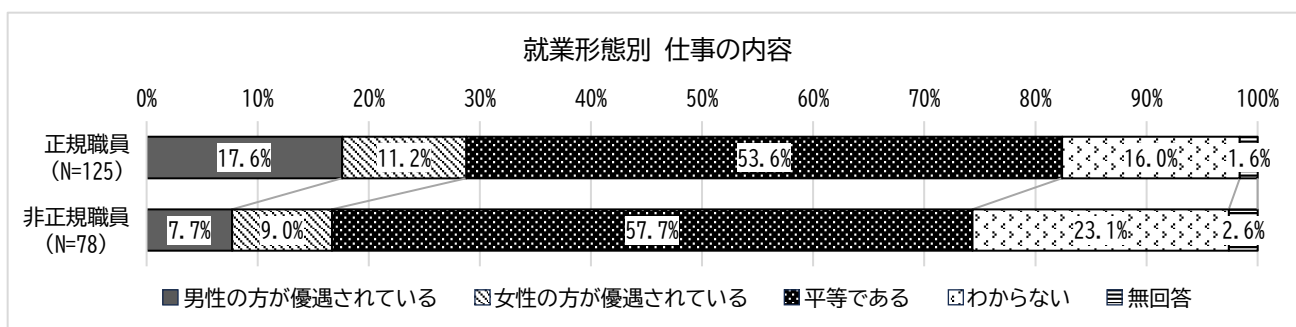
年齢区分に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は「男性の方が優遇されている」が14.8%に対し、「女性の方が優遇されている」は11.1%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を3.7ポイント上回り、「60歳以上」は「男性の方が優遇されている」が19.4%に対し、「女性の方が優遇されている」は4.2%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を15.2ポイント上回っています。

「男性の方が優遇されている」は「60歳以上」が19.4%で最も多く、「40～59歳」が13.3%で最も少なく、その差は6.1ポイント、「女性の方が優遇されている」は「40～59歳」が14.3%で最も多く、「60歳以上」は4.2%で最も少なく、その差は10.1ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は「正規職員」が17.6%に対し、「非正規職員」は7.7%と、「正規職員」が「非正規職員」を9.9ポイント上回っています。



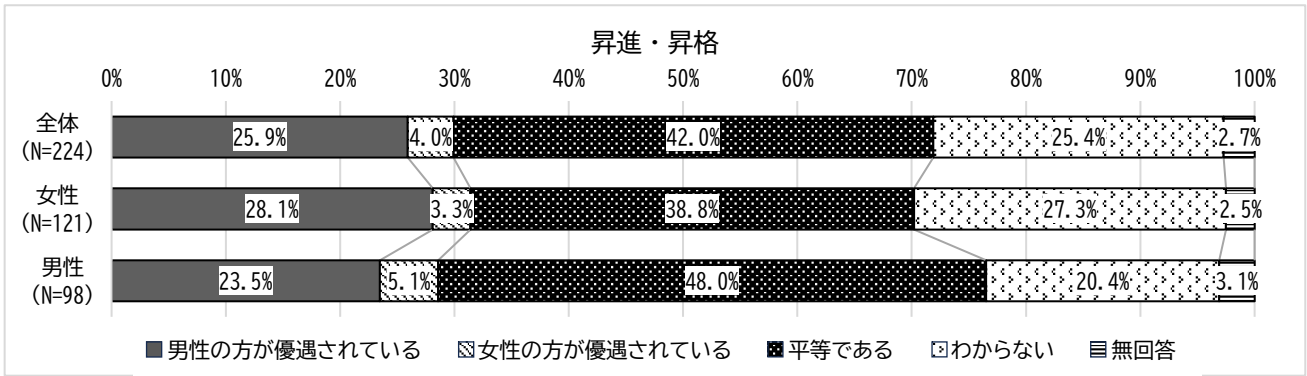
④ 昇進・昇格

《全体》

「平等である」が42.0%と最も多く、「男性の方が優遇されている」は25.9%となっています。

《男女別》

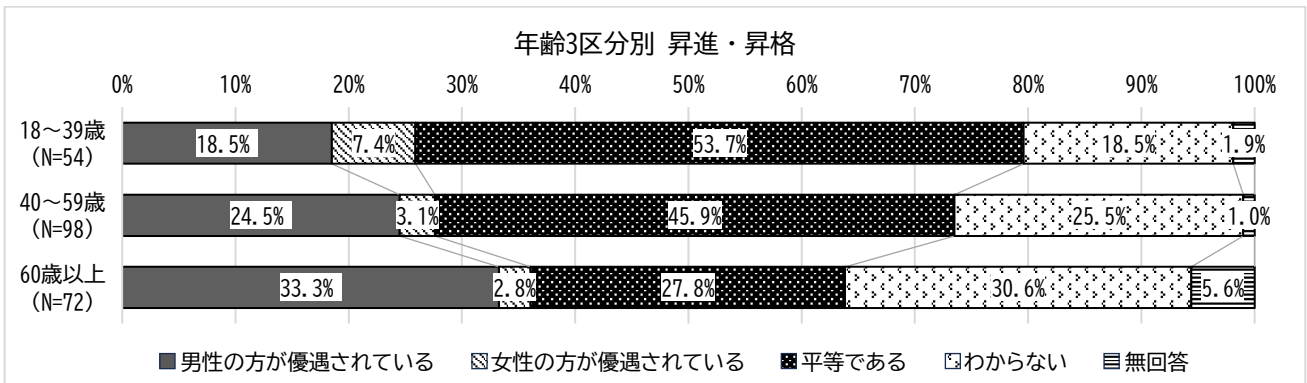
「平等である」は「男性」が48.0%に対し、「女性」は38.8%と、「男性」が「女性」を9.2ポイント上回り、「男性の方が優遇されている」は「女性」が28.1%に対し、「男性」は23.5%と、「女性」が「男性」を4.6ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

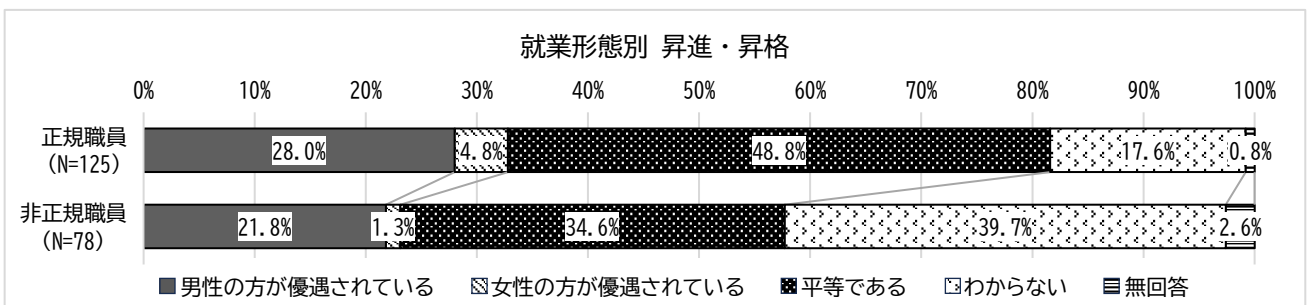
年齢区分に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「18～39 歳」は「男性の方が優遇されている」が 18.5%に対し、「女性の方が優遇されている」は 7.4%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を 11.1 ポイント上回り、「40～59 歳」は「男性の方が優遇されている」が 24.5%に対し、「女性の方が優遇されている」は 3.1%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を 21.4 ポイント上回り、「60 歳以上」は「男性の方が優遇されている」が 33.3%に対し、「女性の方が優遇されている」は 2.8%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を 30.5 ポイント上回っています。

「男性の方が優遇されている」は「60 歳以上」が 33.3%で最も多く、「18～39 歳」が 18.5%で最も少なく、その差は 14.8 ポイント、「女性の方が優遇されている」は「18～39 歳」が 7.4%で最も多く、「60 歳以上」は 2.8%で最も少なく、その差は 4.6 ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は「正規職員」が 28.0%に対し、「非正規職員」は 21.8%と、「正規職員」が「非正規職員」を 6.2 ポイント上回り、「わからない」は「非正規職員」が 39.7%と多く、「正規職員」の 17.6%を 22.1 ポイント上回っています。



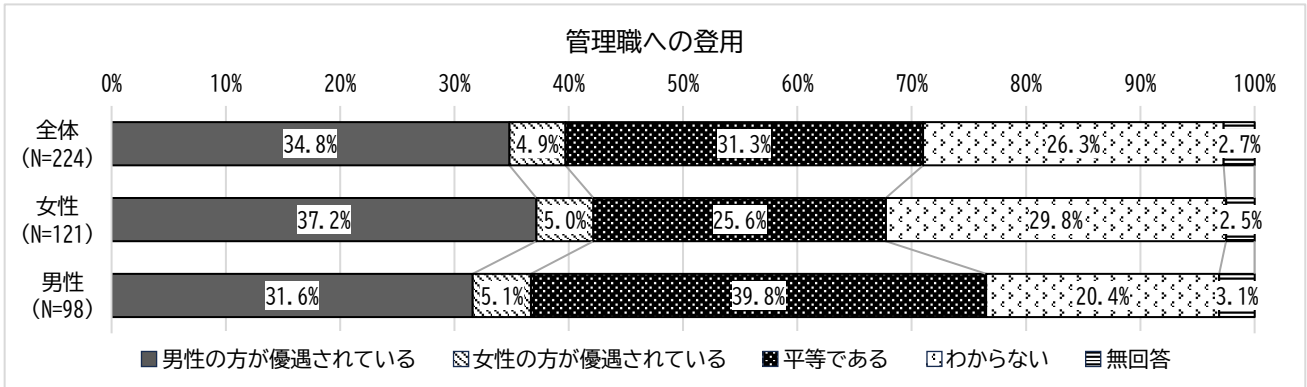
⑤ 管理職への登用

《全体》

「男性の方が優遇されている」が34.8%と最も多く、「平等である」は31.3%となっています。

《男女別》

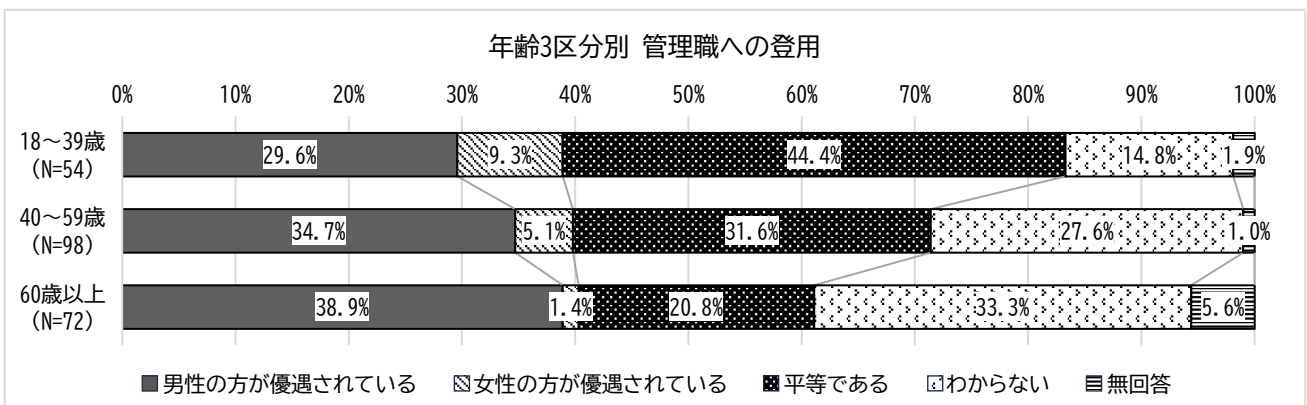
「男性の方が優遇されている」は「女性」が37.2%に対し、「男性」は31.6%と、「女性」が「男性」を5.6ポイント上回り、「平等である」は「男性」が39.8%に対し、「女性」は25.6%と、「男性」が「女性」を14.2ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

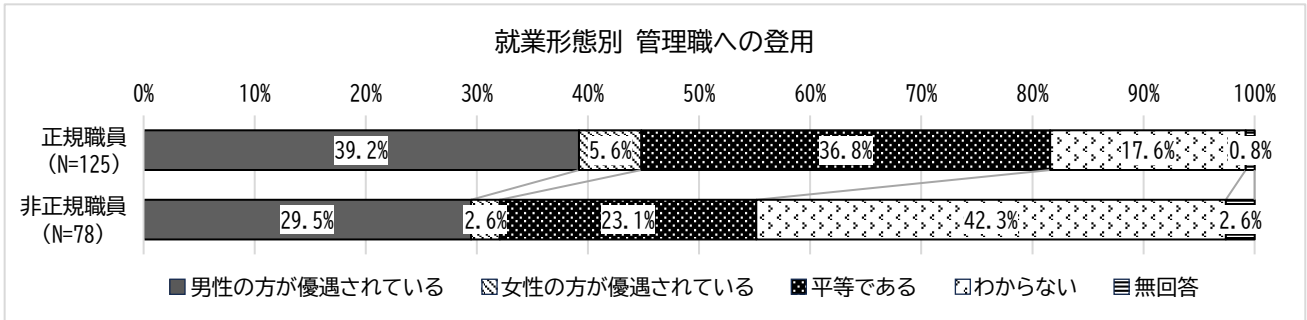
「18～39歳」は「男性の方が優遇されている」が29.6%に対し、「女性の方が優遇されている」は9.3%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を20.3ポイント上回り、「40～59歳」は「男性の方が優遇されている」が34.7%に対し、「女性の方が優遇されている」は5.1%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を29.6ポイント上回り、「60歳以上」は「男性の方が優遇されている」が38.9%に対し、「女性の方が優遇されている」は1.4%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を37.5ポイント上回っています。

「男性の方が優遇されている」は「60歳以上」が38.9%で最も多く、「18～39歳」が29.6%で最も少なく、その差は9.3ポイント、「女性の方が優遇されている」は「18～39歳」が9.3%で最も多く、「60歳以上」が1.4%で最も少なく、その差は7.9ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は「正規職員」が 39.2%に対し、「非正規職員」は 29.5%と、「正規職員」が「非正規職員」を 9.7 ポイント上回り、「わからない」は「非正規職員」が 42.3%と多く、「正規職員」の 17.6%を 24.7 ポイント上回っています。



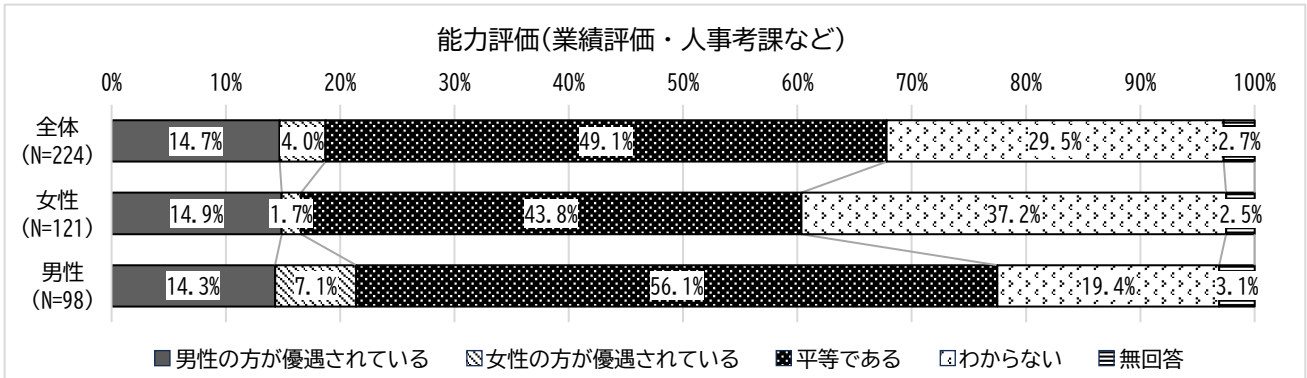
⑥ 能力評価(業績評価・人事考課など)

《全体》

「平等である」が 49.1%と最も多く、「男性の方が優遇されている」は 14.7%となっています。

《男女別》

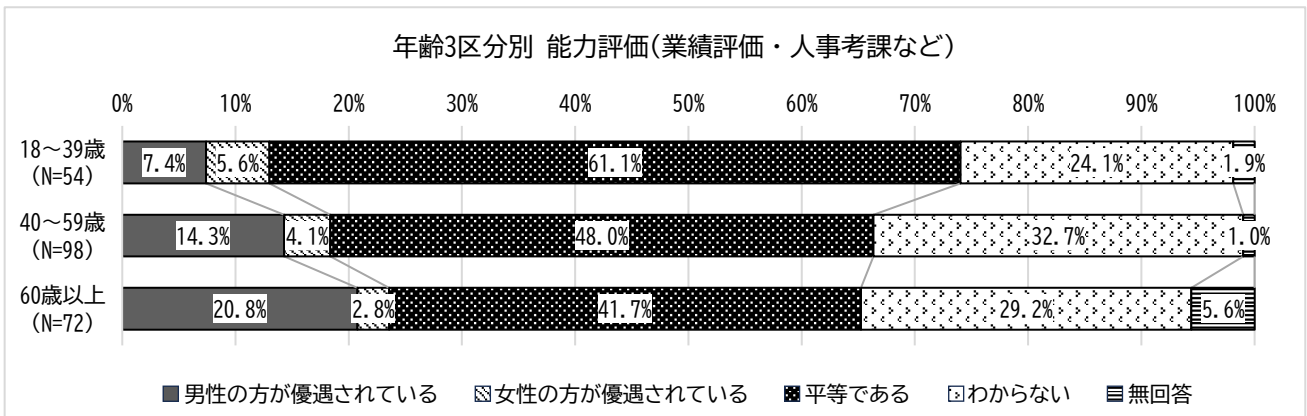
「平等である」は「男性」が 56.1%に対し、「女性」は 43.8%と、「男性」が「女性」を 12.3 ポイント上回り、「女性の方が優遇されている」は「男性」が 7.1%に対し、「女性」は 1.7%と、「男性」が「女性」を 5.4 ポイント上回っています。



《年齢 3 区分別》

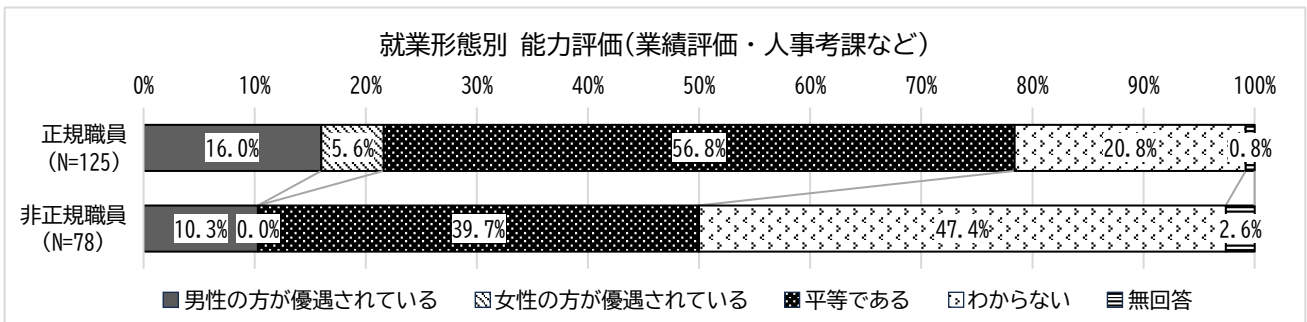
年齢区分に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「40～59 歳」は「男性の方が優遇されている」が 14.3%に対し、「女性の方が優遇されている」は 4.1%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を 10.2 ポイント上回り、「60 歳以上」は「男性の方が優遇されている」が 20.8%に対し、「女性の方が優遇されている」は 2.8%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を 18.0 ポイント上回っています。

「男性の方が優遇されている」は「60 歳以上」が 20.8%で最も多く、「18～39 歳」が 7.4%で最も少なく、その差は 13.4 ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は「正規職員」が16.0%に対し、「非正規職員」は10.3%と、「正規職員」が「非正規職員」を5.7ポイント上回り、「わからない」は「非正規職員」が47.4%と多く、「正規職員」の20.8%を26.6ポイント上回っています。



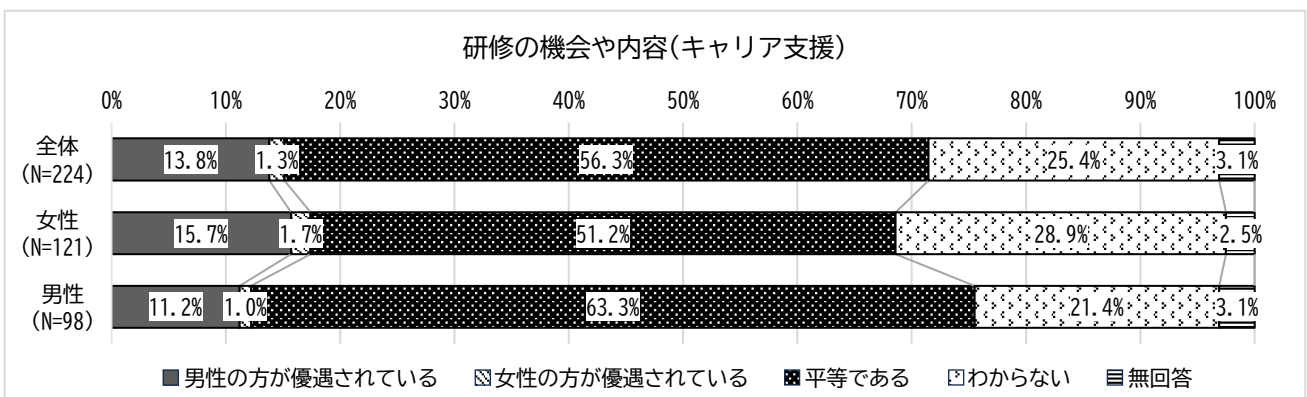
⑦ 研修の機会や内容(キャリア支援)

《全体》

「平等である」が56.3%と半数を上回り、「男性の方が優遇されている」は13.8%となっています。

《男女別》

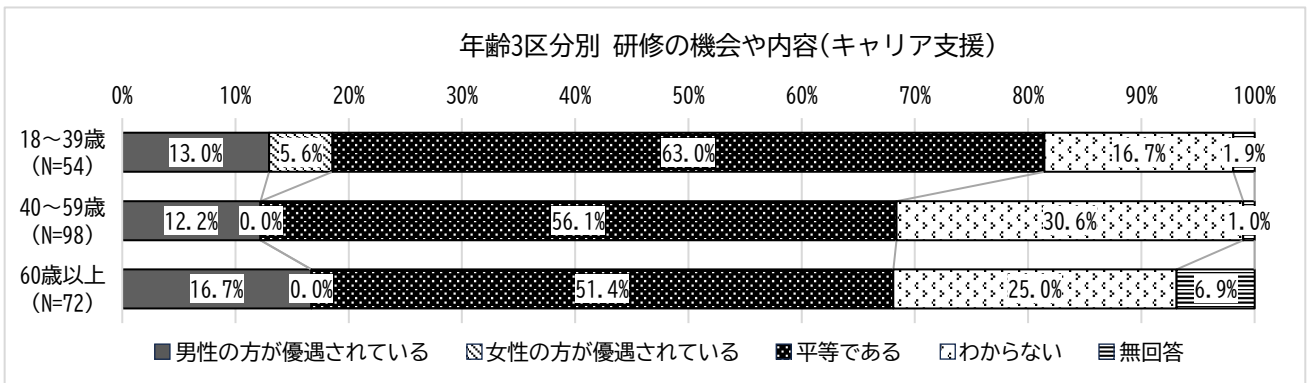
「平等である」は「男性」が63.3%に対し、「女性」は51.2%と、「男性」が「女性」を12.1ポイント上回り、「男性の方が優遇されている」は「女性」が15.7%に対し、「男性」は11.2%と、「女性」が「男性」を4.5ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

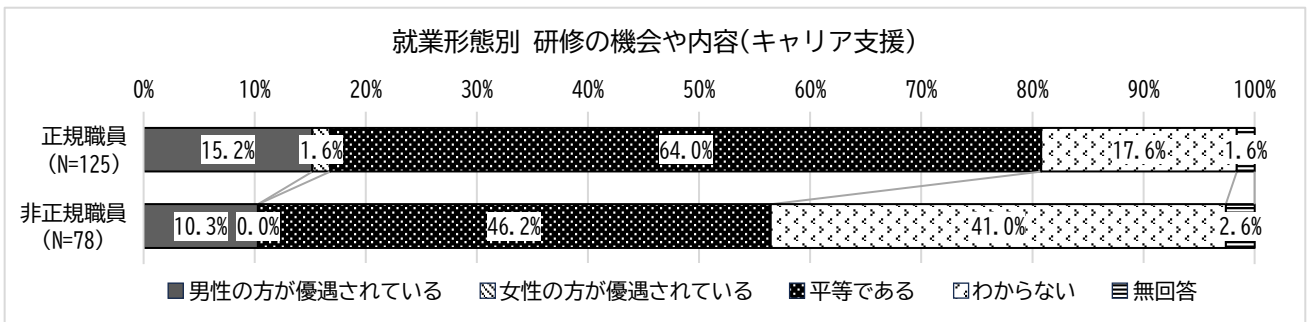
年齢区分に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は「男性の方が優遇されている」が13.0%に対し、「女性の方が優遇されている」は5.6%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を7.4ポイント上回り、「40～59歳」は「男性の方が優遇されている」が12.2%に対し、「女性の方が優遇されている」は0.0%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を12.2ポイント上回り、「60歳以上」は「男性の方が優遇されている」が16.7%に対し、「女性の方が優遇されている」は0.0%と、「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」を16.7ポイント上回っています。

「男性の方が優遇されている」は「60歳以上」が16.7%で最も多く、「40～59歳」が12.2%で最も少なく、その差は4.5ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「男性の方が優遇されている」は「正規職員」が15.2%に対し、「非正規職員」は10.3%と、「正規職員」が「非正規職員」を4.9ポイント上回り、「わからない」は「非正規職員」が41.0%と多く、「正規職員」の17.6%を23.4ポイント上回っています。



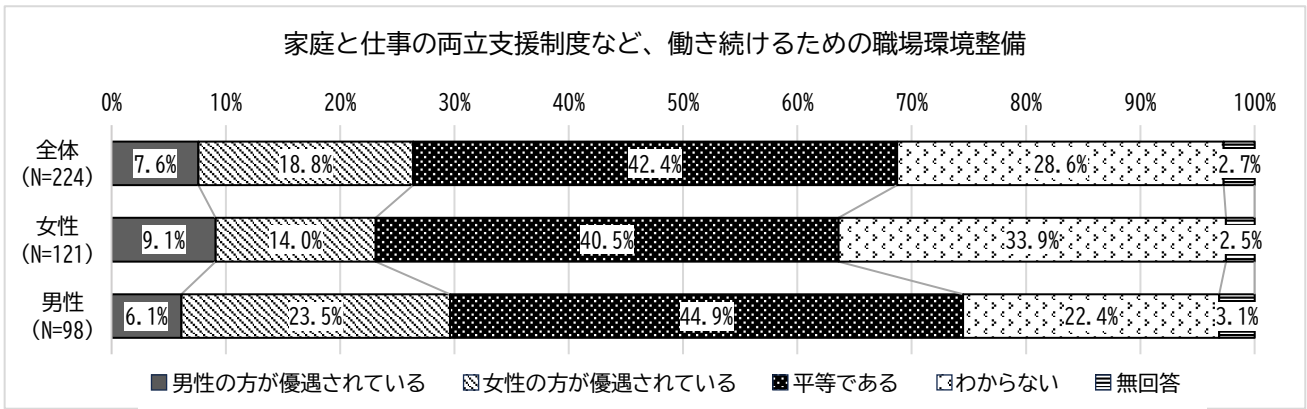
⑧ 家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備

《全体》

「平等である」が42.4%と最も多く、「女性の方が優遇されている」は18.8%となっています。

《男女別》

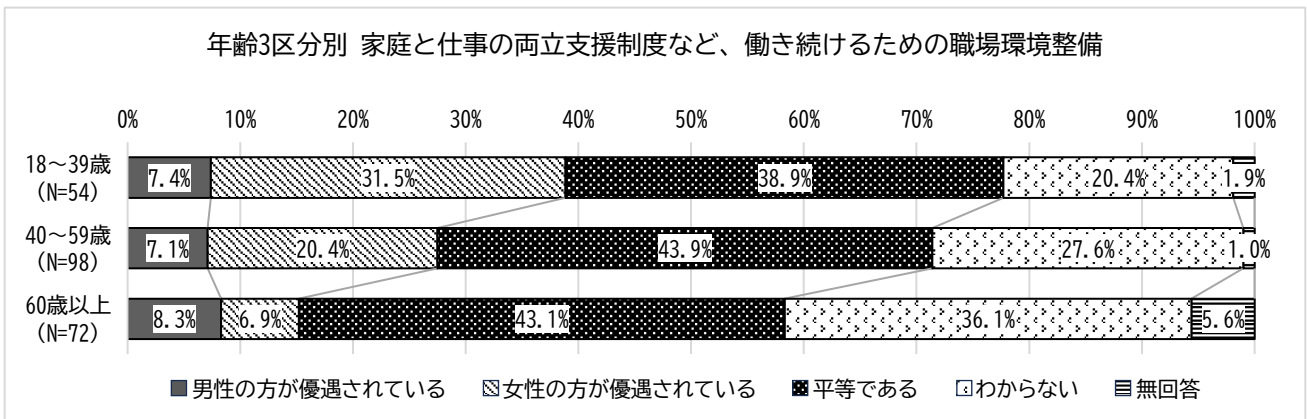
「女性の方が優遇されている」は「男性」が23.5%に対し、「女性」は14.0%と、「男性」が「女性」を9.5ポイント上回り、「平等である」は「男性」が44.9%に対し、「女性」は40.5%と、「男性」が「女性」を4.4ポイント上回っています。「男性の方が優遇されている」は「女性」が9.1%に対し、「男性」は6.1%と、「女性」が「男性」を3.0ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

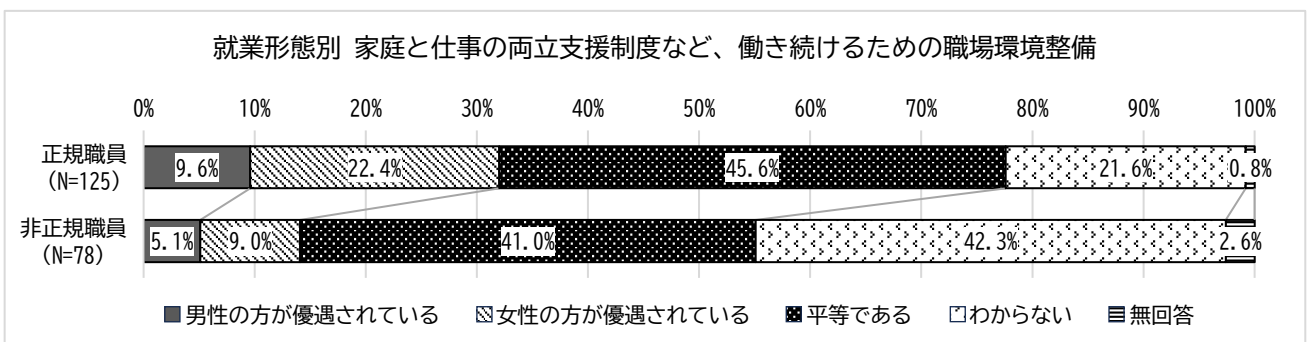
年齢区分に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「18～39歳」は「女性の方が優遇されている」が31.5%に対し、「男性の方が優遇されている」は7.4%と、「女性の方が優遇されている」が「男性の方が優遇されている」を24.1ポイント上回り、「40～59歳」は「女性の方が優遇されている」が20.4%に対し、「男性の方が優遇されている」は7.1%と、「女性の方が優遇されている」が「男性の方が優遇されている」を13.3ポイント上回っています。

「女性の方が優遇されている」は「18～39歳」が31.5%で最も多く、「60歳以上」が6.9%で最も少なく、その差は24.6ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「女性の方が優遇されている」は「正規職員」が22.4%に対し、「非正規職員」は9.0%と、「正規職員」が「非正規職員」を13.4ポイント上回り、「わからない」は「非正規職員」が42.3%と多く、「正規職員」の21.6%を20.7ポイント上回っています。



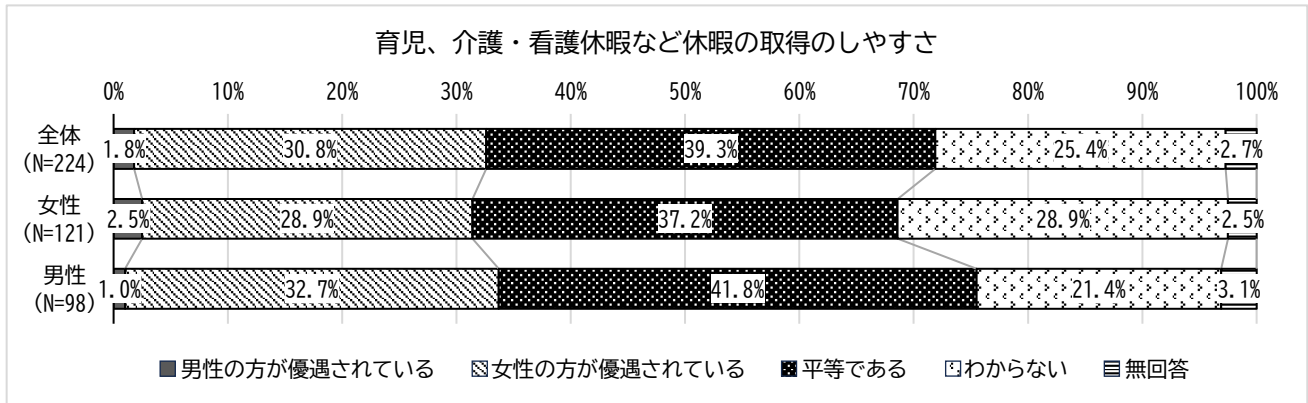
⑨ 育児、介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ

《全体》

「平等である」が39.3%と最も多く、「女性の方が優遇されている」は30.8%となっています。

《男女別》

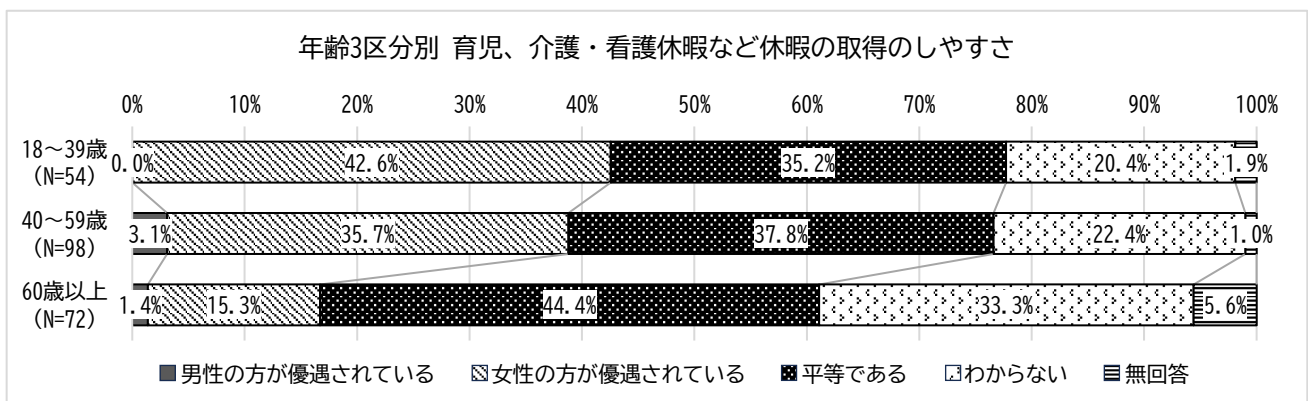
「平等である」は「男性」が41.8%に対し、「女性」は37.2%と、「男性」が「女性」を4.6ポイント上回り、「女性の方が優遇されている」は「男性」が32.7%に対し、「女性」は28.9%と、「男性」が「女性」を3.8ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

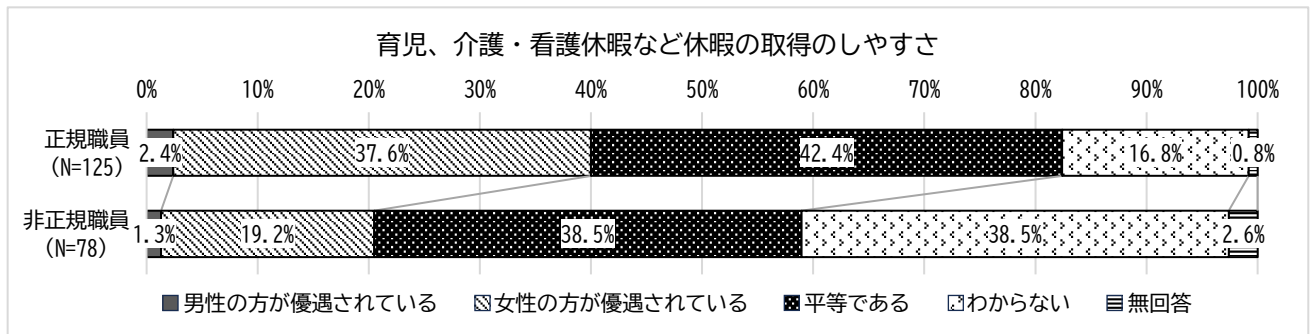
「18～39歳」は「女性の方が優遇されている」が42.6%に対し、「男性の方が優遇されている」は0.0%と、「女性の方が優遇されている」が「男性の方が優遇されている」を42.6ポイント上回り、「40～59歳」は「女性の方が優遇されている」が35.7%に対し、「男性の方が優遇されている」は3.1%と、「女性の方が優遇されている」が「男性の方が優遇されている」を32.6ポイント上回り、「60歳以上」は「女性の方が優遇されている」が15.3%に対し、「男性の方が優遇されている」は1.4%と、「女性の方が優遇されている」が「男性の方が優遇されている」を13.9ポイント上回っています。

「女性の方が優遇されている」は「18～39歳」が42.6%で最も多く、「60歳以上」が15.3%で最も少なく、その差は27.3ポイントとなっています。



《就業形態別》

就業形態に関わらず「平等である」が最も多くなっていますが、「女性の方が優遇されている」は「正規職員」が37.6%に対し、「非正規職員」は19.2%と、「正規職員」が「非正規職員」を18.4ポイント上回り、「わからない」は「非正規職員」が38.5%と多く、「正規職員」の16.8%を21.7ポイント上回っています。



(5) 子どもに期待する資質について

問 8 もしも、あなたに子どもがいた場合、その子どもにはどのように育ててほしいと思いますか。

①男の子、②女の子、それぞれお答えください。(それぞれ〇は2つまで)

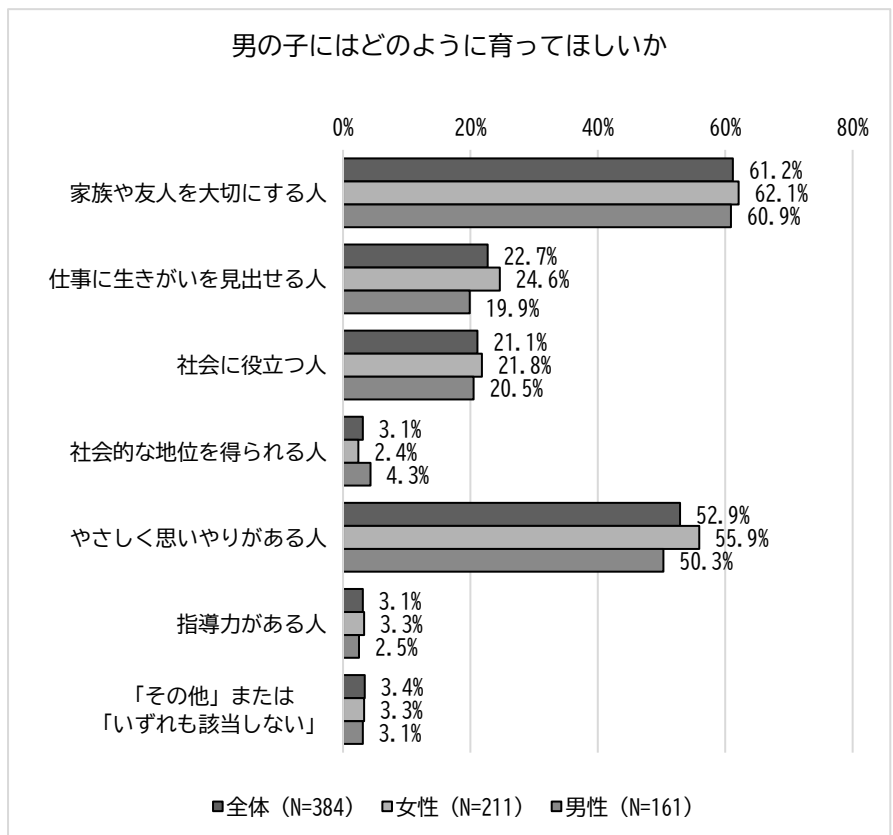
① 男の子

《全体》

「家族や友人を大切にする人」が61.2%で最も多く、次いで「やさしく思いやりがある人」が52.9%、「仕事に生きがいを見出せる人」が22.7%となっています。

《男女別》

「やさしく思いやりがある人」は「女性」が55.9%に対し、「男性」は50.3%と、「女性」が「男性」を5.6ポイント上回り、「仕事に生きがいを見出せる人」は「女性」が24.6%に対し、「男性」は19.9%と、「女性」が「男性」を4.7ポイント上回っています。

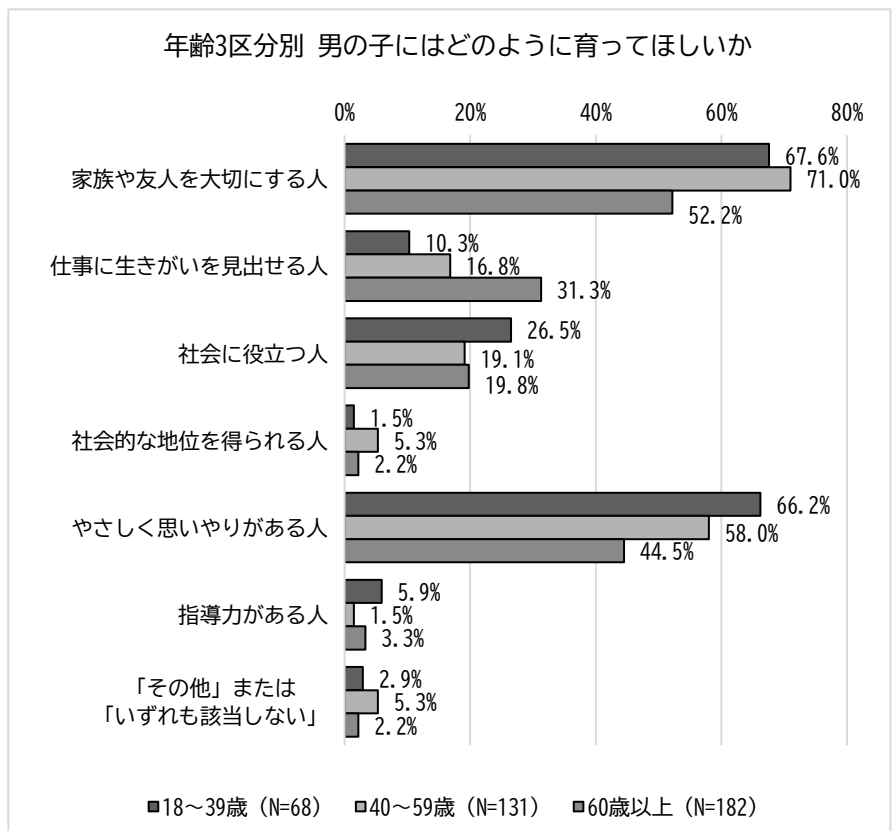


《年齢3区分別》

「18～39歳」は「家族や友人を大切にする人」が67.6%で最も多く、「社会的な地位を得られる人」は1.5%で最も少なくなっています。

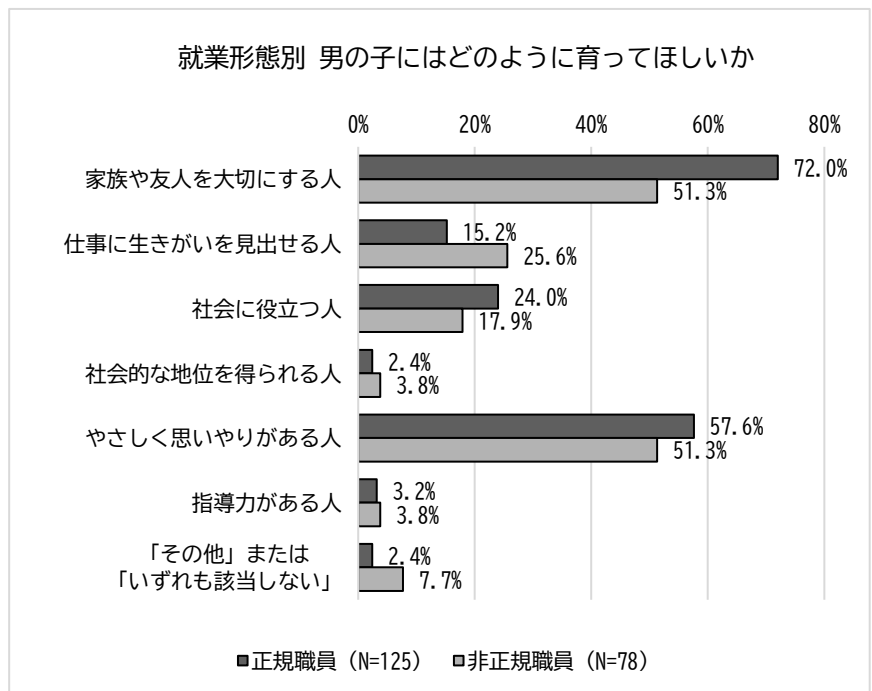
「40～59歳」は「家族や友人を大切にする人」が71.0%で最も多く、「指導力がある人」は1.5%で最も少なくなっています。

「60歳以上」は「家族や友人を大切にする人」が52.2%で最も多く、「社会的な地位を得られる人」は2.2%で最も少なくなっています。



《就業形態別》

「正規職員」は「家族や友人を大切にする人」が 72.0%で最も多く、次いで「やさしく思いやりがある人」が 57.6%、「社会に役立つ」が 24.0%、「非正規職員」は「家族や友人を大切にする人」と「やさしく思いやりがある人」が共に 51.3%で最も多く、次いで「仕事に生きがいを見出せる人」が 25.6%となっています。



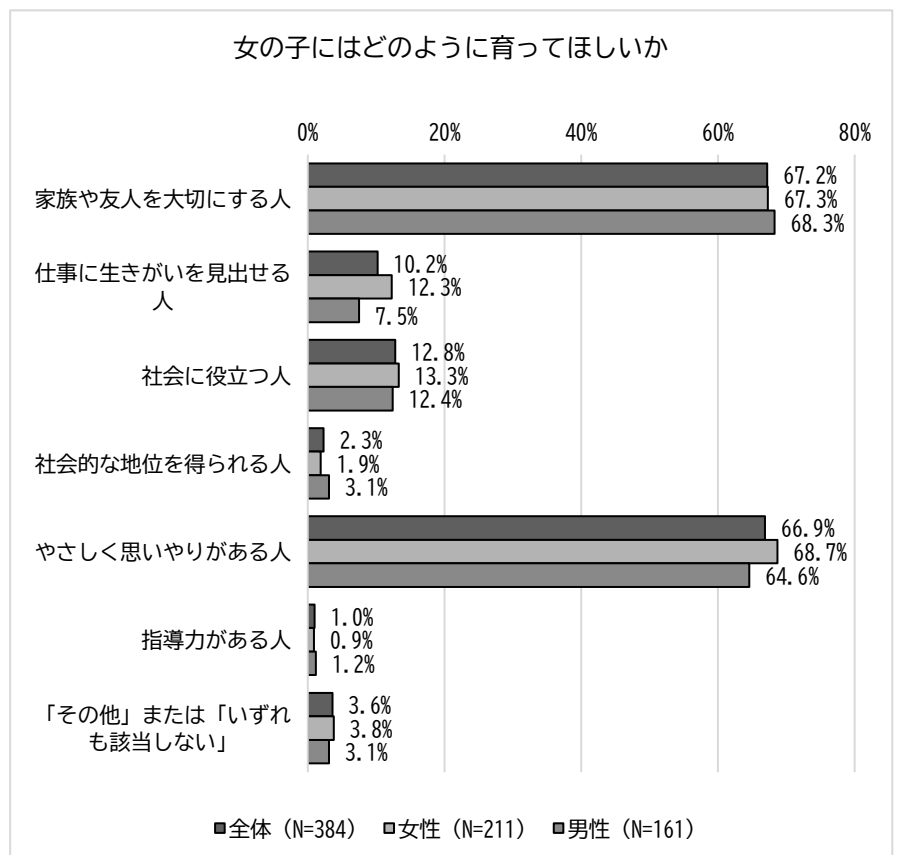
② 女の子

《全体》

「家族や友人を大切にする人」が 67.2%で最も多く、次いで「やさしく思いやりがある人」が 66.9%、「社会に役立つ人」が 12.8%となっています。

《男女別》

「仕事に生きがいを見出せる人」は「女性」が 12.3%に対し、「男性」は 7.5%と、「女性」が「男性」を 4.8ポイント上回り、「やさしく思いやりがある人」は「女性」が 68.7%に対し、「男性」は 64.6%と、「女性」が「男性」を 4.1ポイント上回っています。

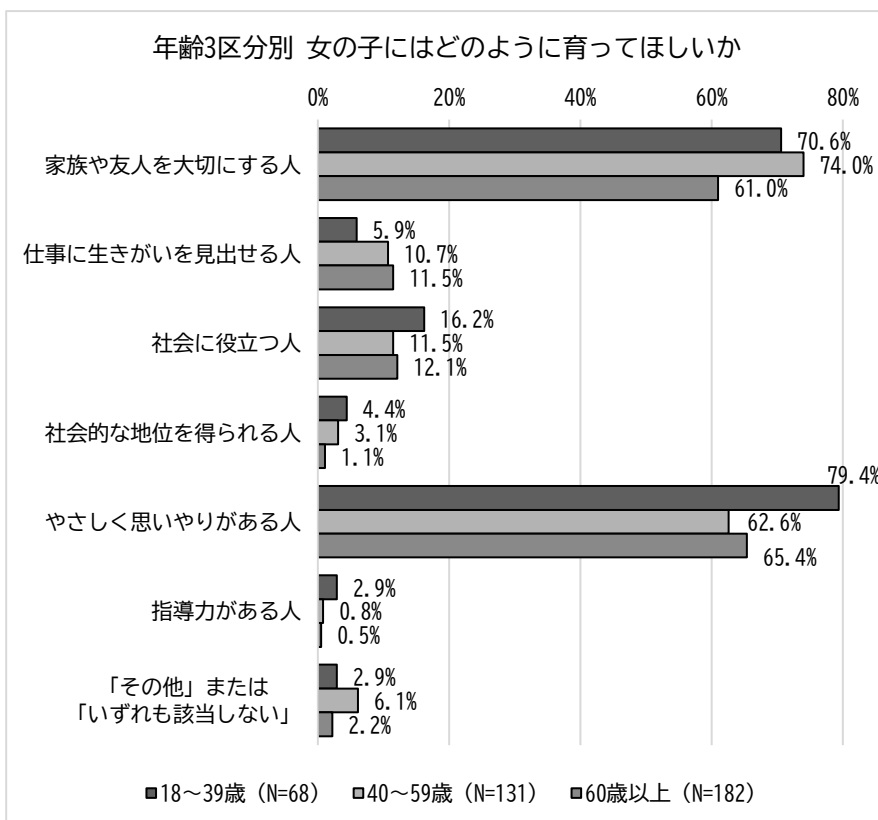


《年齢3区分別》

「18～39歳」は「やさしく思いやりがある人」が79.4%で最も多く、「指導力がある人」は2.9%で最も少なくなっています。

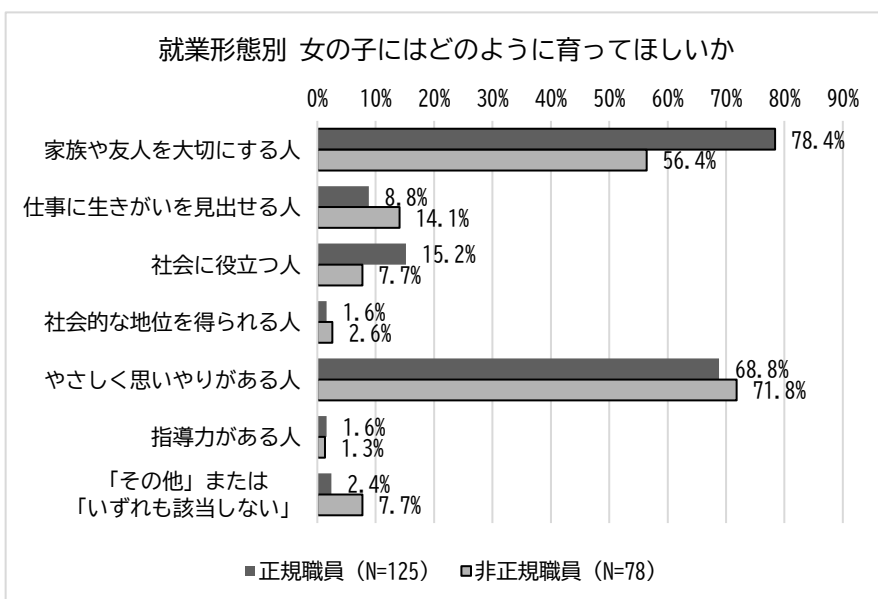
「40～59歳」は「家族や友人を大切にする人」が74.0%で最も多く、「指導力がある人」は0.8%で最も少なくなっています。

「60歳以上」は「やさしく思いやりがある人」が65.4%で最も多く、「指導力がある人」は0.5%で最も少なくなっています。



《就業形態別》

「正規職員」は「家族や友人を大切にする人」が78.4%で最も多く、次いで「やさしく思いやりがある人」が68.8%、「非正規職員」は「やさしく思いやりがある人」が71.8%で最も多く、次いで「家族や友人を大切にする人」が56.4%となっており、1位と2位が逆転しています。



(6) 老年期の生活について

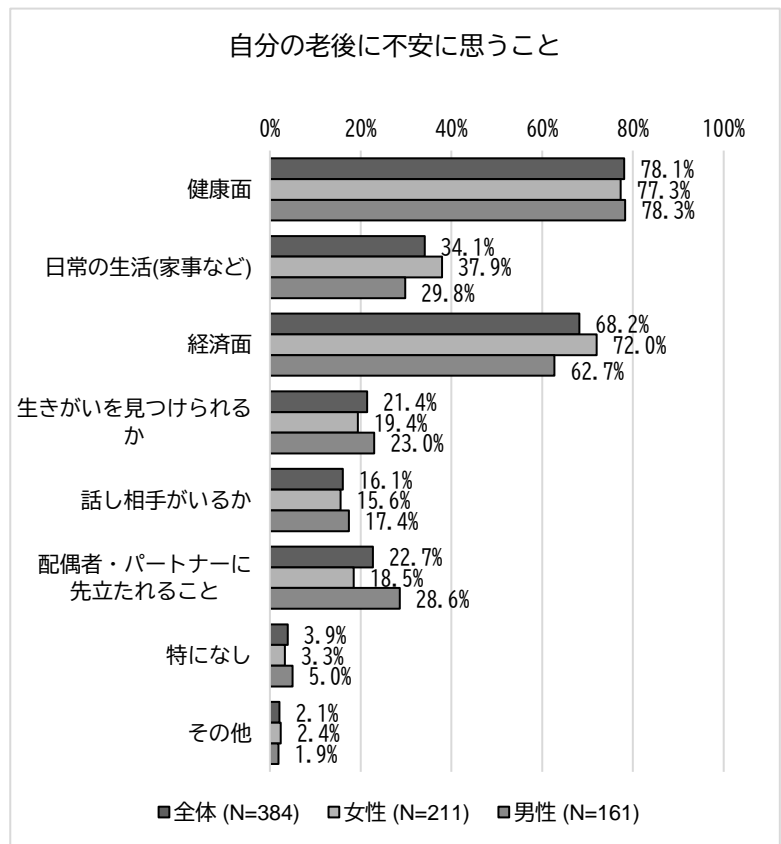
問9 自分の老後について、不安に思うことは次のどれですか。(〇は上位3つまで)

《全体》

「健康面」が78.1%で最も多く、次いで「経済面」が68.2%、「日常生活(家事など)」が34.1%となっています。

《男女別》

「配偶者・パートナーに先立たれること」は「男性」が28.6%に対し、「女性」は18.5%と、「男性」が「女性」を10.1ポイント上回り、「経済面」は「女性」が72.0%に対し、「男性」は62.7%と、「女性」が「男性」を9.3ポイント上回っています。「日常生活(家事など)」は「女性」が37.9%に対し、「男性」は29.8%と「女性」が「男性」を8.1ポイント上回っています。

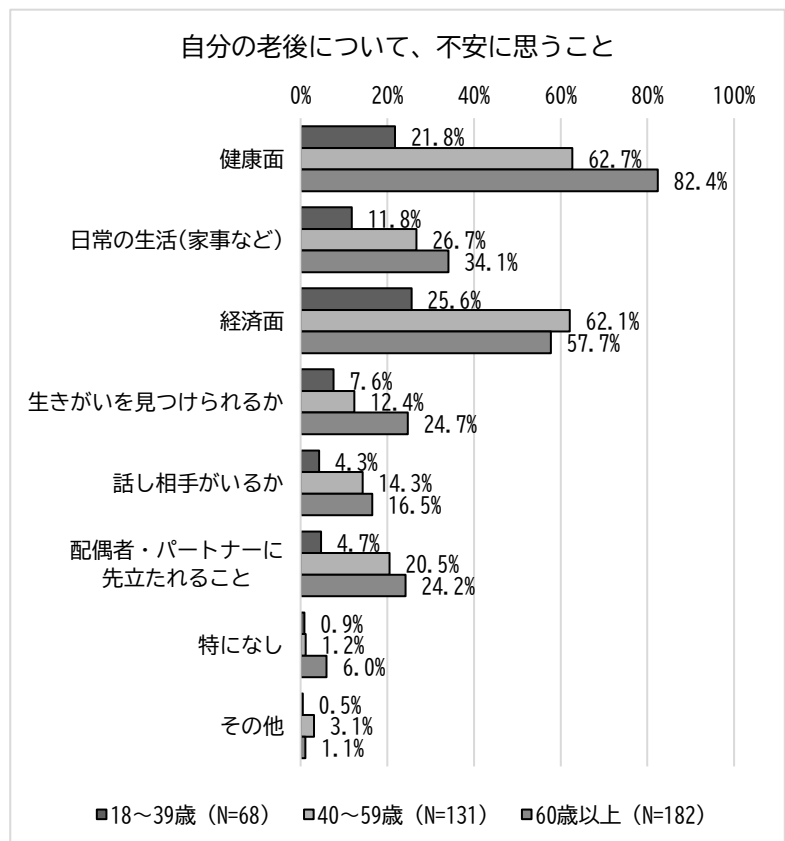


《年齢3区分別》

「18～39歳」は「経済面」が25.6%で最も多く、次いで「健康面」が21.8%、「日常生活(家事など)」が11.8%となっています。

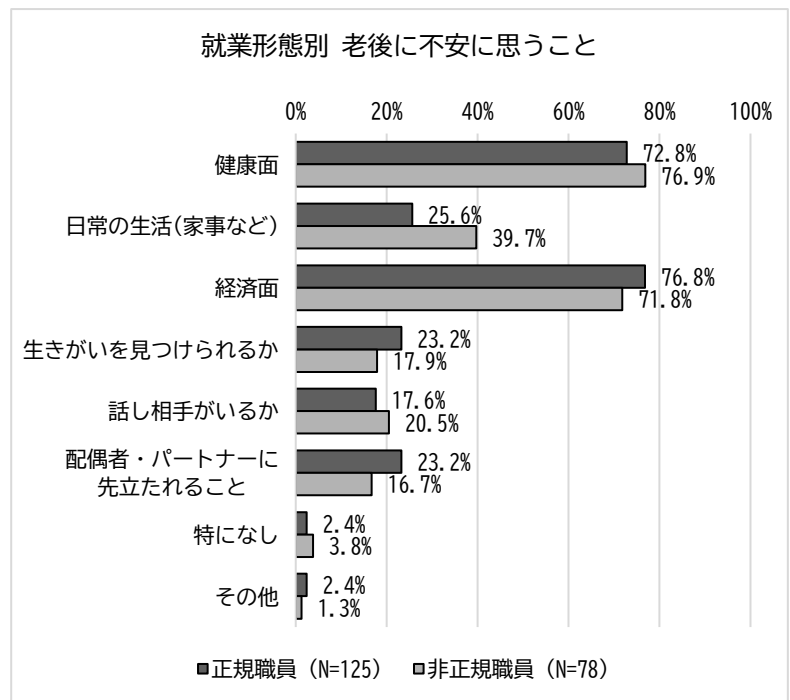
「40～59歳」は「健康面」が62.7%で最も多く、次いで「経済面」が62.1%、「日常生活(家事など)」が26.7%となっています。

「60歳以上」は「健康面」が82.4%で最も多く、次いで「経済面」が57.7%、「日常生活(家事など)」が34.1%となっています。



《就業形態別》

「正規職員」は「経済面」が76.8%で最も多く、次いで「健康面」が72.8%、「非正規職員」は「健康面」が76.9%で最も多く、次いで「経済面」が71.8%となっており、1位と2位が逆転しています。



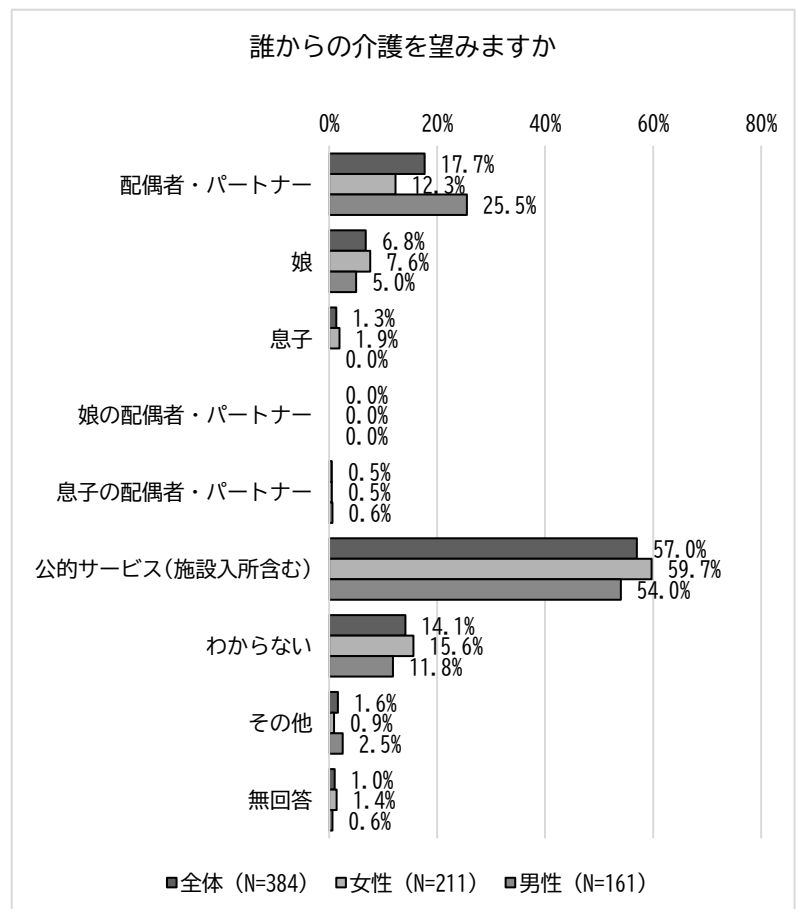
問 10 もしも、あなたが介護を受けることになった場合、誰からの介護を望みますか。(○は1つ)

《全体》

「公的サービス(施設入所含む)」が57.0%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が17.7%、「娘」が6.8%となっています。

《男女別》

「配偶者・パートナー」は「男性」は25.5%に対し、「女性」が12.3%と、「男性」が「女性」を13.2ポイント上回り、「公的サービス(施設入所含む)」は「女性」が59.7%に対し、「男性」は54.0%と、「女性」が「男性」を5.7ポイント上回っています。

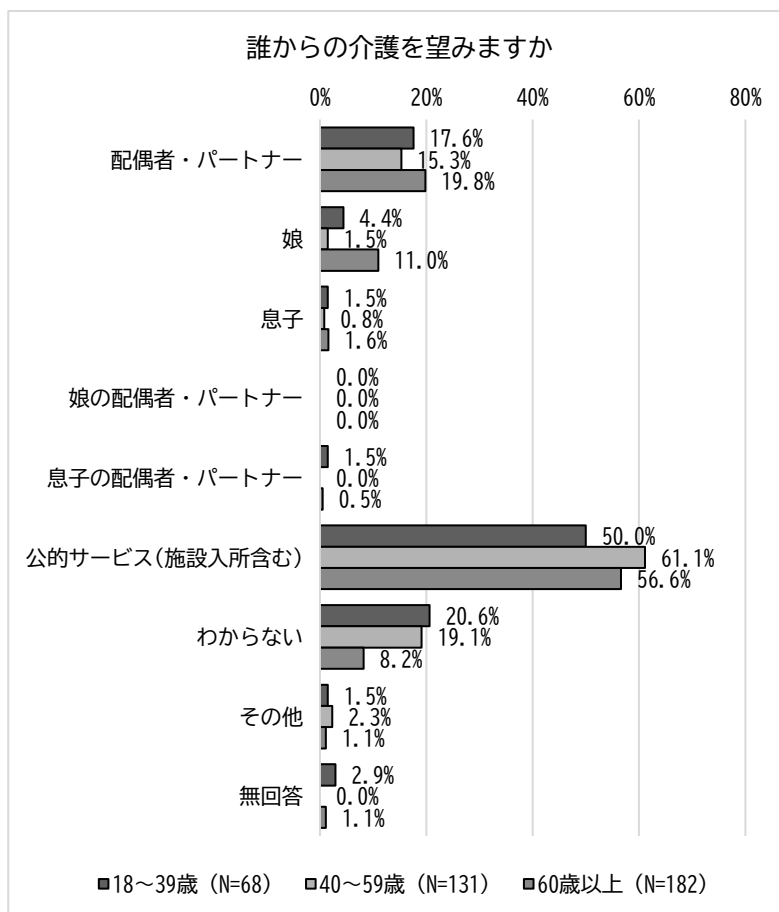


《年齢 3 区分別》

「18～39 歳」は「公的サービス(施設入所含む)」が 50.0%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が 17.6%となっています。

「40～59 歳」は「公的サービス(施設入所含む)」が 61.1%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が 15.3%となっています。

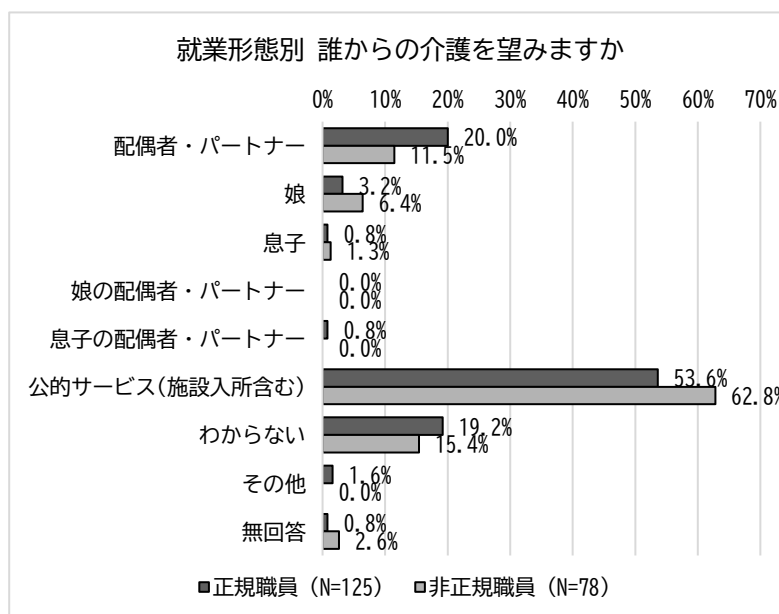
「60 歳以上」は「公的サービス(施設入所含む)」が 56.6%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が 19.8%となっています。



《就業形態別》

就業形態にかかわらず、「公的サービス(施設入所含む)」が最も多くなっており、「非正規職員」が 62.8%に対し、「正規職員」は 53.6%と、「非正規職員」が「正規職員」を 9.2ポイント上回っています。

「非正規職員」は「正規職員」に比べ、公的サービス利用を望む割合が高くなっています。



(7) 法律や言葉について

問 11 あなたは、次の項目の法律や言葉を知っていますか。(それぞれ〇は1つ)

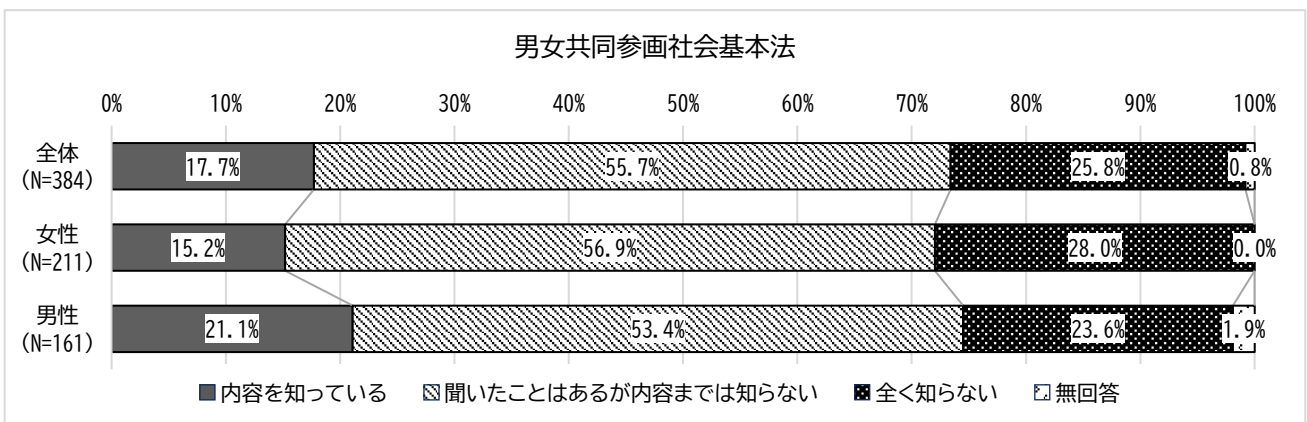
① 男女共同参画社会基本法

《全体》

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 55.7%で最も多く、次いで「全く知らない」が 25.8%、「内容を知っている」が 17.7%となっています。

《男女別》

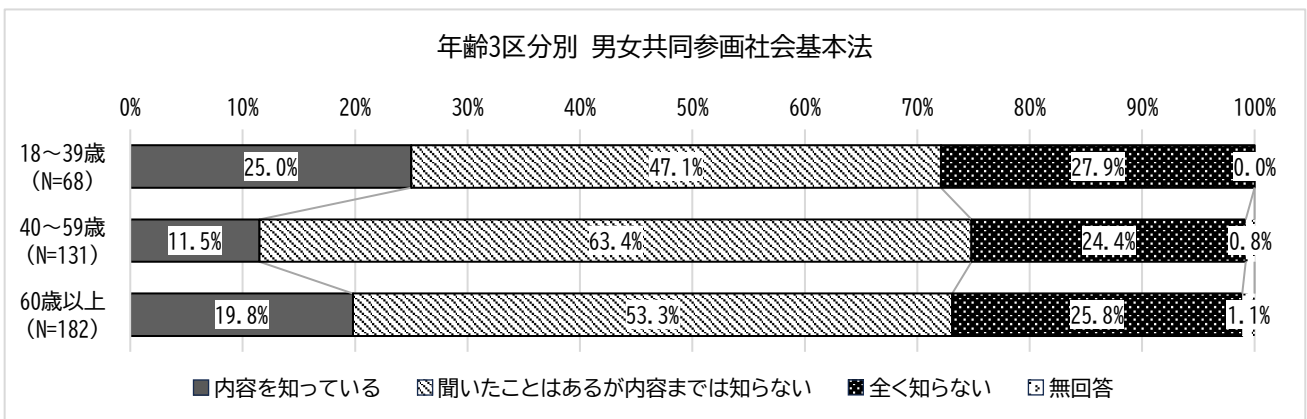
「内容を知っている」は「男性」が 21.1%に対し、「女性」は 15.2%と、「男性」が「女性」を 5.9 ポイント上回り、「全く知らない」は「女性」が 28.0%に対し、「男性」は 23.6%と、「女性」が「男性」を 4.4 ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

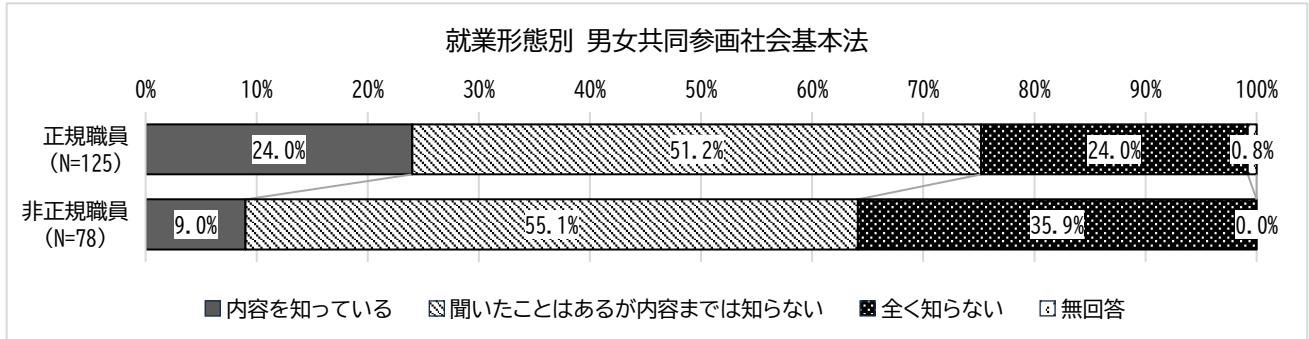
「内容を知っている」は「18～39歳」が 25.0%で最も多く、「40～59歳」が 11.5%で最も少なく、その差は 13.5 ポイントになっています。

「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「40～59歳」が 63.4%で最も多く、「18～39歳」が 47.1%で最も少なく、その差は 16.3 ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が24.0%に対し、「非正規職員」は9.0%と、「正規職員」が「非正規職員」を15.0ポイント上回り、「全く知らない」は「非正規職員」が35.9%に対し、「正規職員」は24.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を11.9ポイント上回っています。



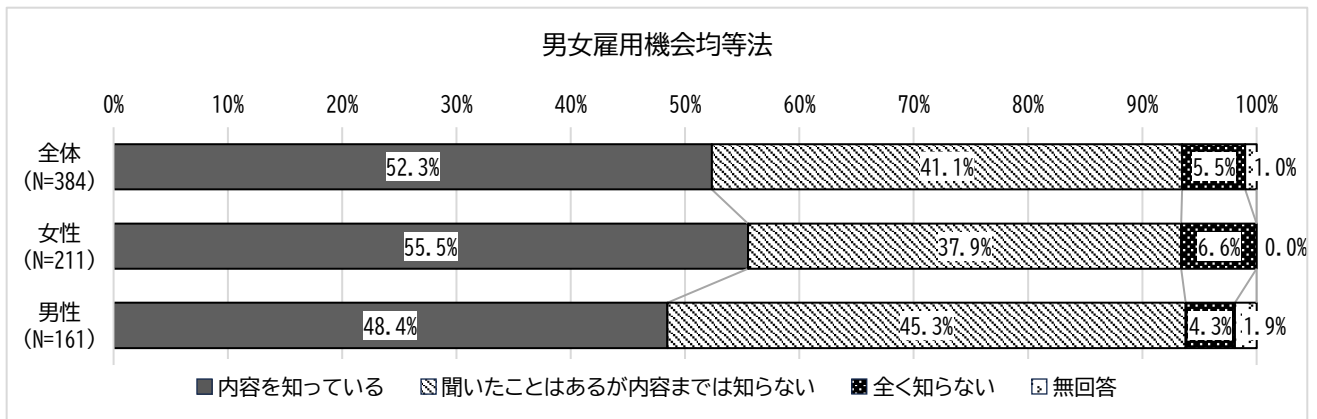
② 男女雇用機会均等法

《全体》

「内容を知っている」が52.3%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が41.1%、「全く知らない」が5.5%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が55.5%に対し、「男性」は48.4%と、「女性」が「男性」を7.1ポイント上回り、「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「男性」が45.3%に対し、「女性」は37.9%と、「男性」が「女性」を7.4ポイント上回っています。

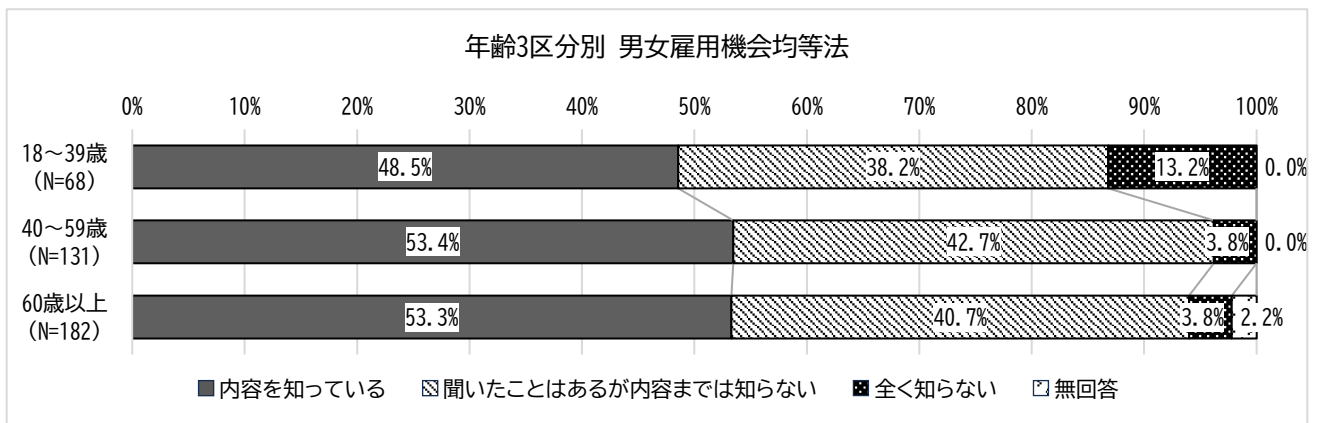


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「40～59歳」が53.4%で最も多く、「18～39歳」が48.5%で最も少なく、その差は4.9ポイントになっています。

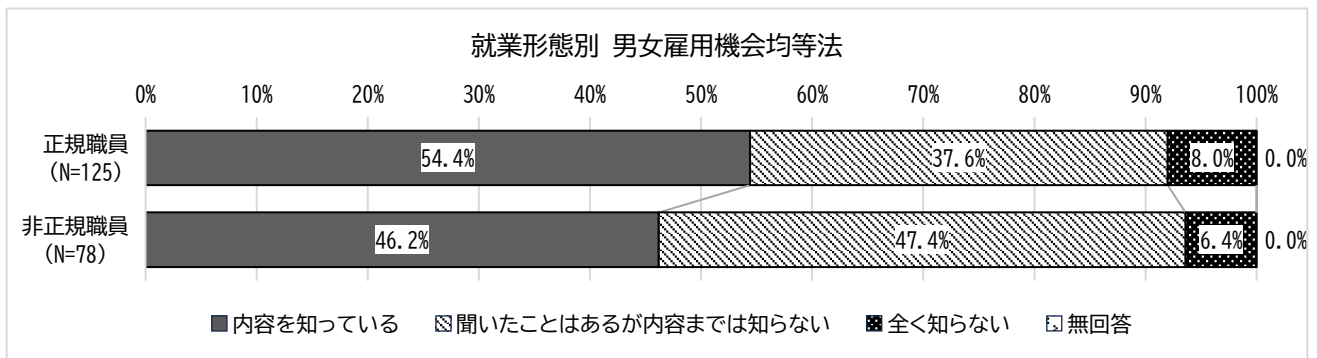
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「40～59歳」が42.7%で最も多く、「18～39歳」が38.2%で最も少なく、その差は4.5ポイントになっています。

「全く知らない」は「18～39歳」が13.2%で最も多く、「40～59歳」「60歳以上」が共に3.8%で最も少なく、その差は9.4ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が 54.4%に対し、「非正規職員」は 46.2%と、「正規職員」が「非正規職員」を 8.2 ポイント上回っています。



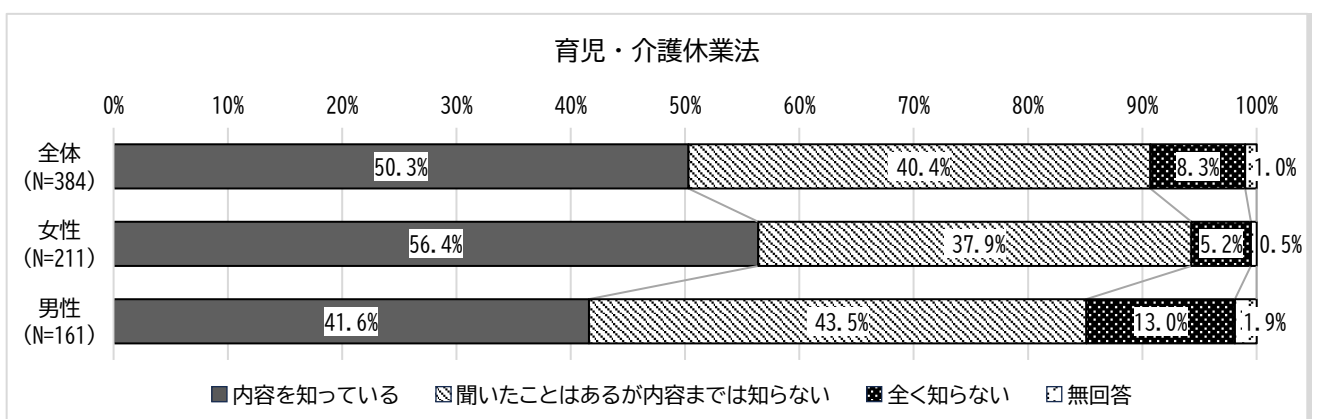
③ 育児・介護休業法

《全体》

「内容を知っている」が 50.3%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 40.4%、「全く知らない」が 8.3%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が 56.4%に対し、「男性」は 41.6%と、「女性」が「男性」を 14.8 ポイント上回り、「全く知らない」は「男性」が 13.0%に対し、「女性」は 5.2%と、「男性」が「女性」を 7.8 ポイント上回っています。

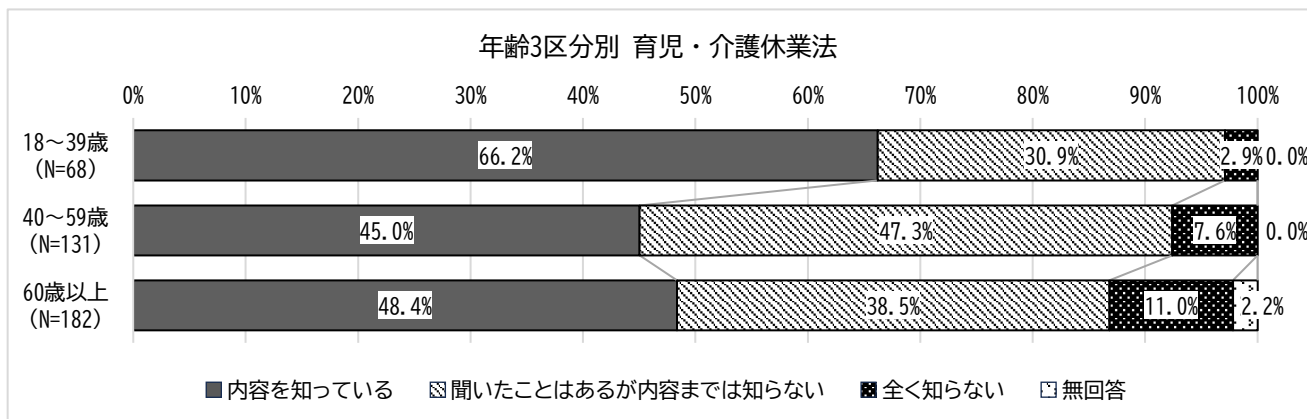


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が66.2%で最も多く、「40～59歳」が45.0%で最も少なく、その差は21.2ポイントになっています。

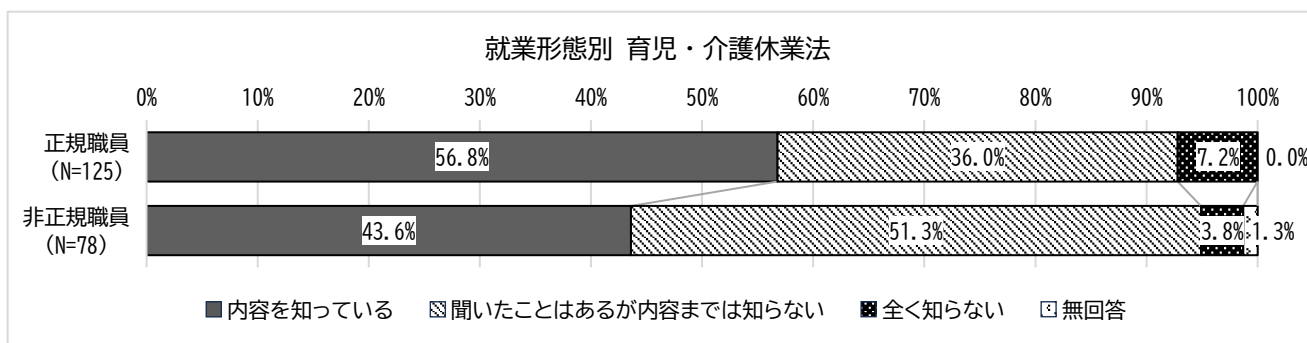
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「40～59歳」が47.3%で最も多く、「18～39歳」が30.9%で最も少なく、その差は16.4ポイントになっています。

「全く知らない」は「60歳以上」が11.0%で最も多く、「18～39歳」が2.9%で最も少なく、その差は8.1ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が56.8%に対し、「非正規職員」は43.6%と、「正規職員」が「非正規職員」を13.2ポイント上回っています。



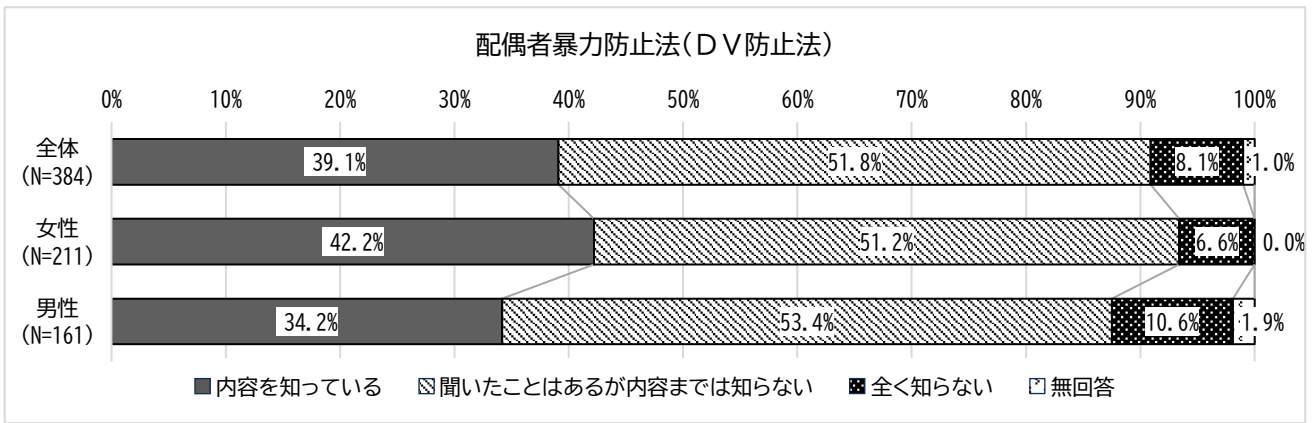
④ 配偶者暴力防止法(DV防止法)

《全体》

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が51.8%で最も多く、次いで「内容を知っている」が39.1%、「全く知らない」は8.1%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が42.2%に対し、「男性」は34.2%と、「女性」が「男性」を8.0ポイント上回り、「全く知らない」は「男性」が10.6%に対し、「女性」は6.6%と、「男性」が「女性」を4.0ポイント上回っています。

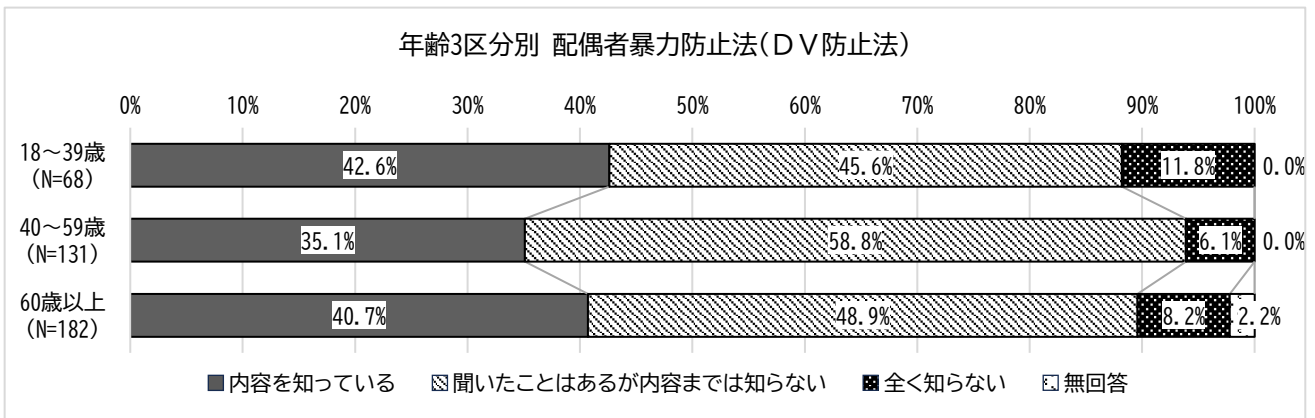


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が42.6%で最も多く、「40～59歳」が35.1%で最も少なく、その差は7.5ポイントになっています。

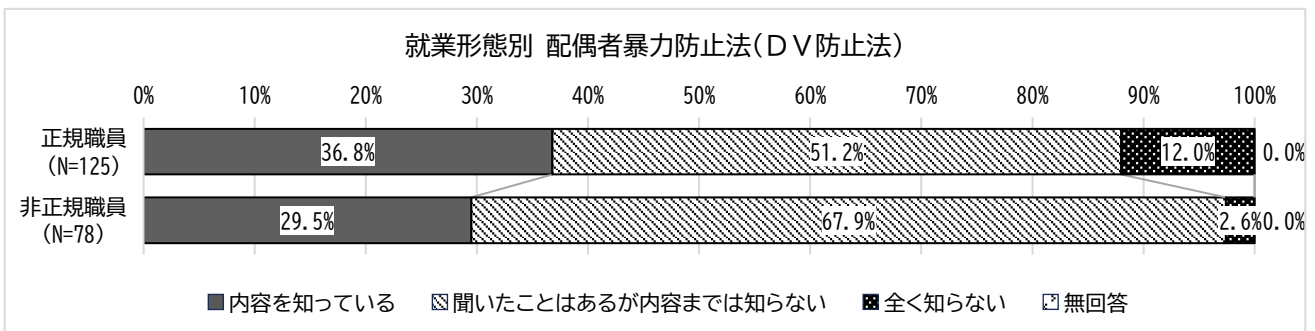
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「40～59歳」が58.8%で最も多く、「18～39歳」が45.6%で最も少なく、その差は13.2ポイントになっています。

「全く知らない」は「18～39歳」が11.8%で最も多く、「40～59歳」が6.1%で最も少なく、その差は5.7ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が36.8%に対し、「非正規職員」は29.5%と、「正規職員」が「非正規職員」を7.3ポイント上回り、「全く知らない」は「正規職員」が12.0%に対し、「非正規職員」は2.6%と、「正規職員」が「非正規職員」を9.4ポイント上回っています。



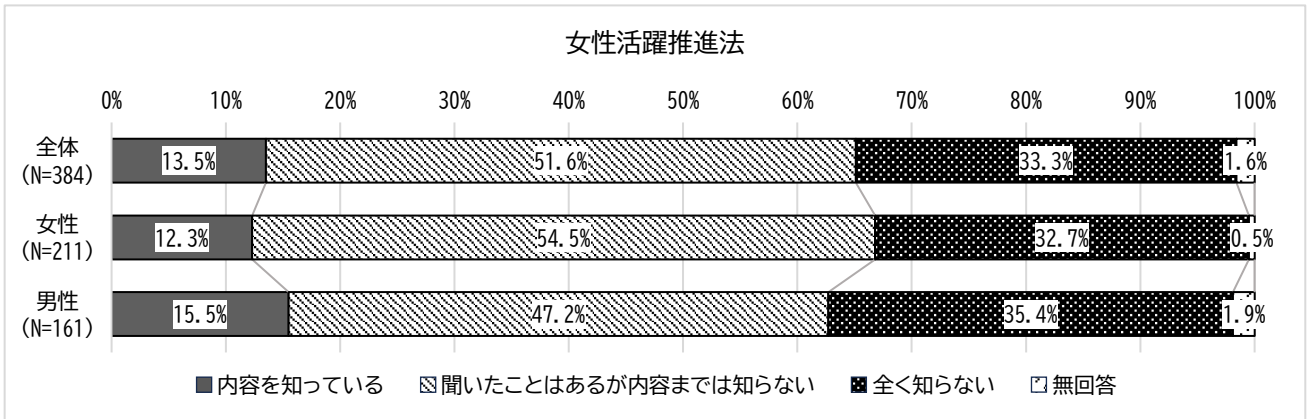
⑤ 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

《全体》

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が51.6%で最も多く、次いで「全く知らない」が33.3%、「内容を知っている」が13.5%となっています。

《男女別》

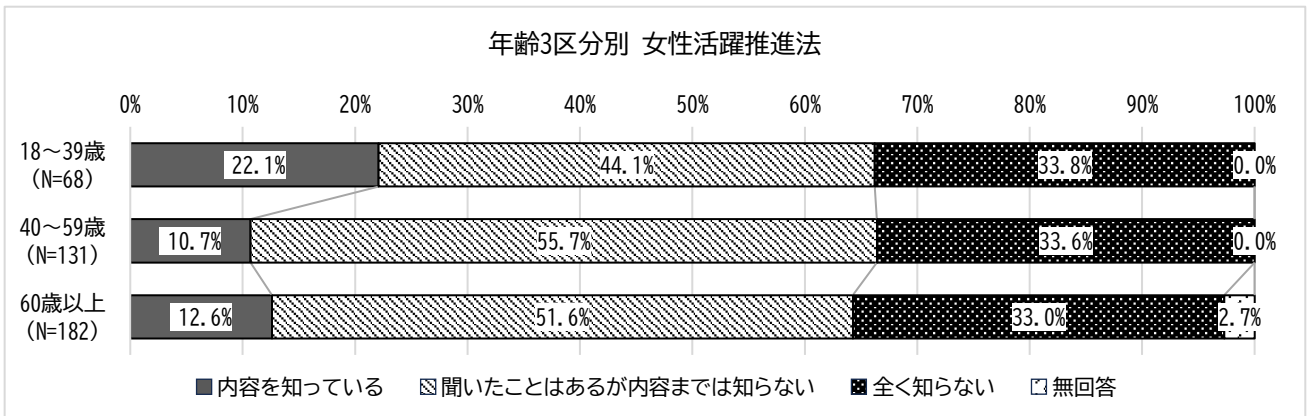
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「女性」が54.5%に対し、「男性」は47.2%と、「女性」が「男性」を7.3ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

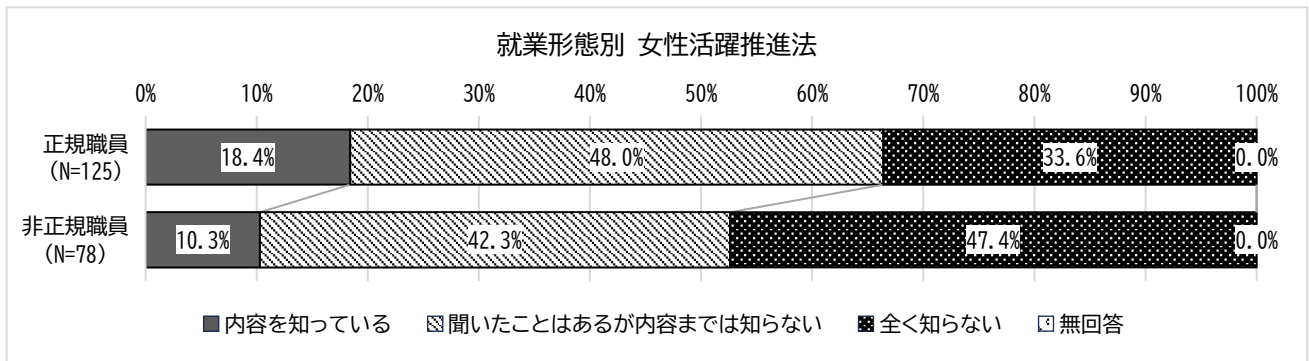
「内容を知っている」は「18～39歳」が22.1%で最も多く、「40～59歳」が10.7%で最も少なく、その差は11.4ポイントになっています。

「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「40～59歳」が55.7%で最も多く、「18～39歳」が44.1%で最も少なく、その差は11.6ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が18.4%に対し、「非正規職員」は10.3%と、「正規職員」が「非正規職員」を8.1ポイント上回り、「全く知らない」は「非正規職員」が47.4%に対し、「正規職員」は33.6%と、「非正規職員」が「正規職員」を13.8ポイント上回っています。



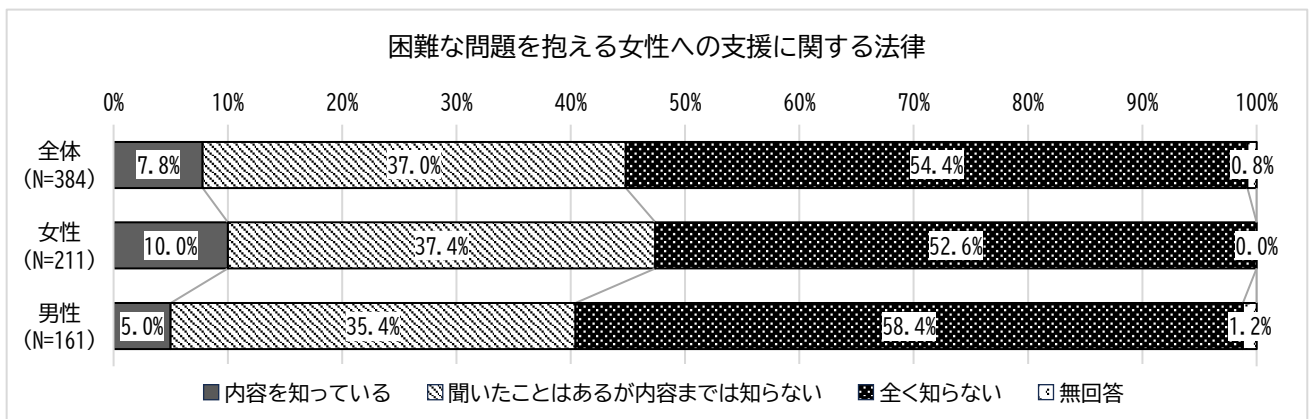
⑥ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

《全体》

「全く知らない」が 54.4%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 37.0%、「内容を知っている」が 7.8%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が 10.0%に対し、「男性」は 5.0%と、「女性」が「男性」を 5.0 ポイント上回り、「全く知らない」は「男性」が 58.4%に対し、「女性」は 52.6%と、「男性」が「女性」を 5.8 ポイント上回っています。

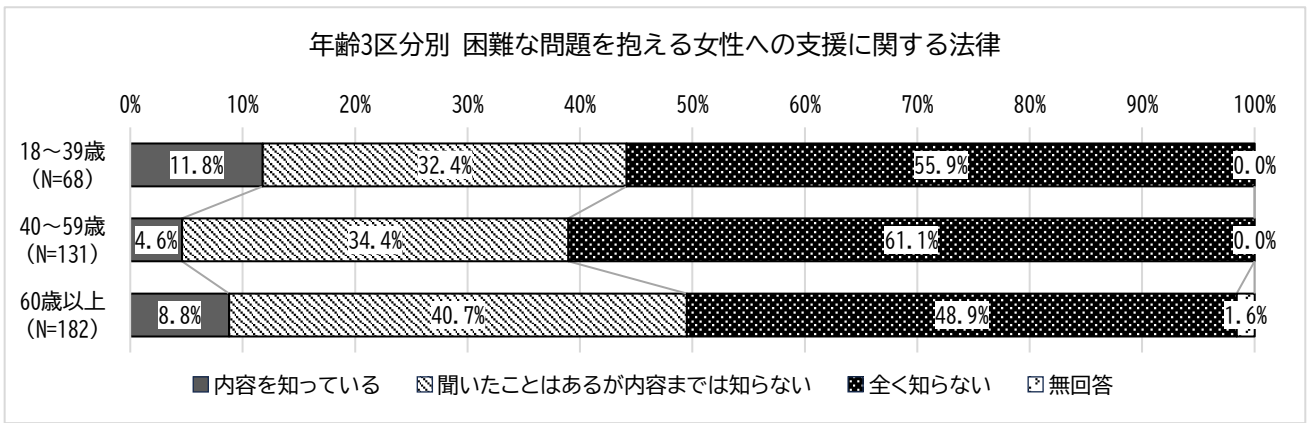


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が 11.8%で最も多く、「40～59歳」が 4.6%で最も少なく、その差は 7.2 ポイントになっています。

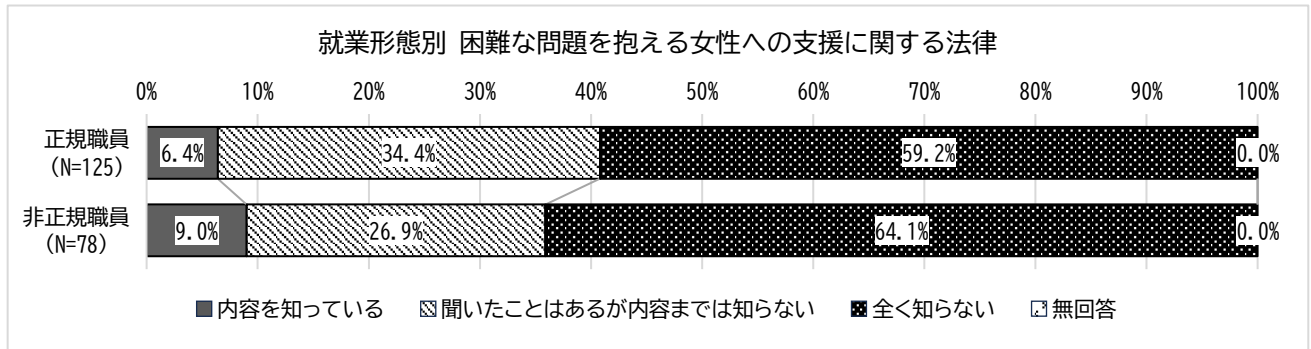
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60歳以上」が 40.7%で最も多く、「18～39歳」が 32.4%最も少なく、その差は 8.3 ポイントになっています。

「全く知らない」は「40～59歳」が 61.1%で最も多く、「60歳以上」が 48.9%で最も少なく、その差は 12.2 ポイントになっています。



《就業形態別》

就業形態にかかわらず、認知度は低く、「全く知らない」は「非正規職員」が64.1%に対し、「正規職員」は59.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を4.9ポイント上回っています。



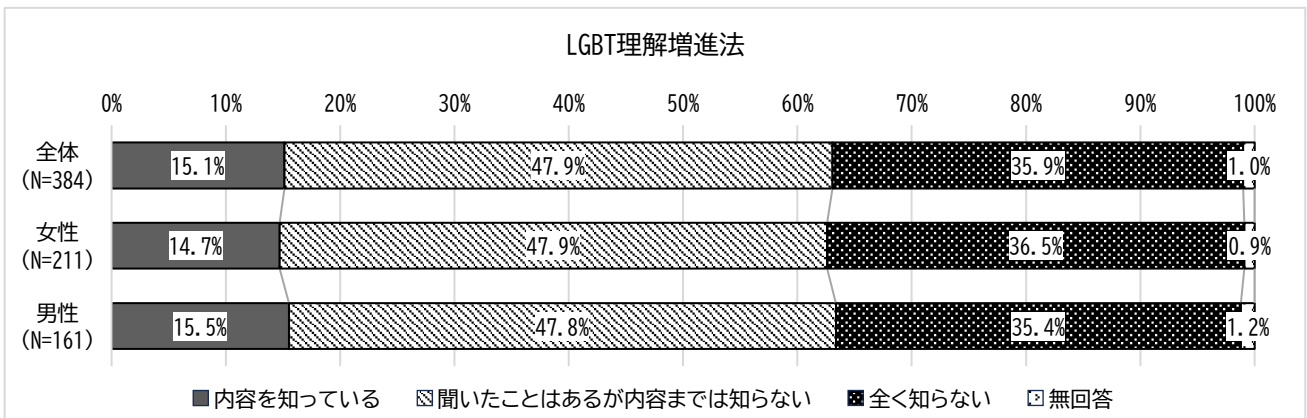
⑦ LGBT 理解増進法(性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)

《全体》

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が47.9%で最も多く、次いで「全く知らない」が35.9%、「内容を知っている」が15.1%となっています。

《男女別》

有意な差は見られません。

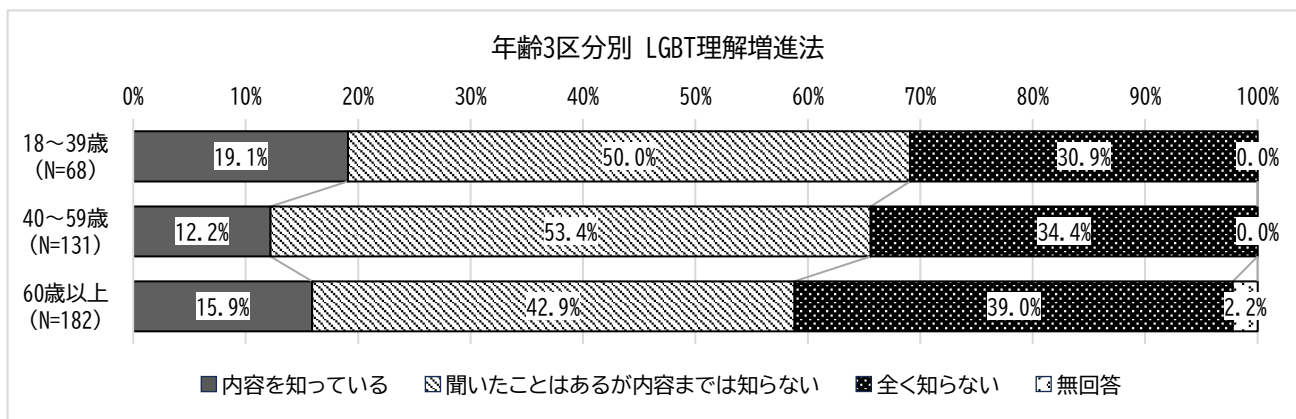


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が19.1%で最も多く、「40～59歳」が12.2%で最も少なく、その差は6.9ポイントになっています。

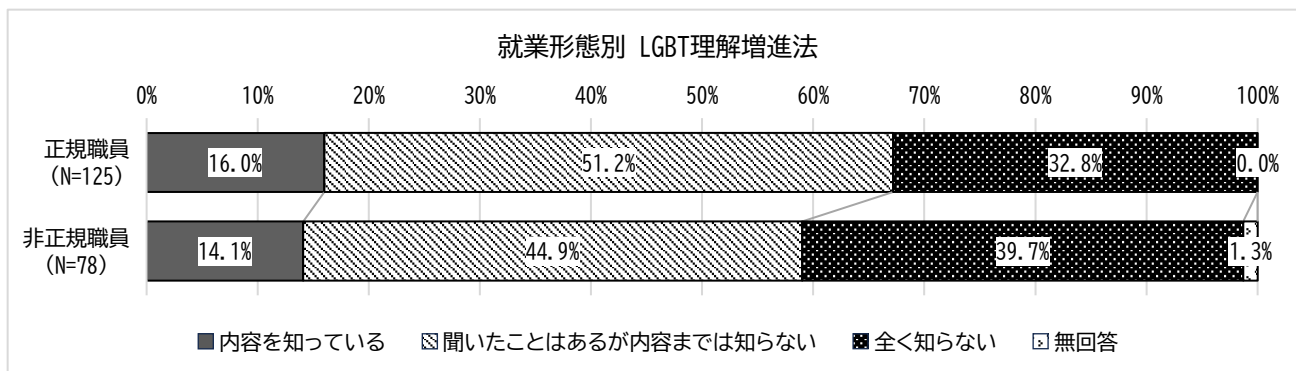
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「40～59歳」が53.4%で最も多く、「60歳以上」が42.9%で最も少なく、その差は10.5ポイントになっています。

「全く知らない」は「60歳以上」が39.0%で最も多く、「18～39歳」が30.9%で最も少なく、その差は8.1ポイントになっています。



《就業形態別》

就業形態にかかわらず、認知度が高いとは言えず、「全く知らない」は「非正規職員」が39.7%に対し、「正規職員」は32.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を6.9ポイント上回っています。



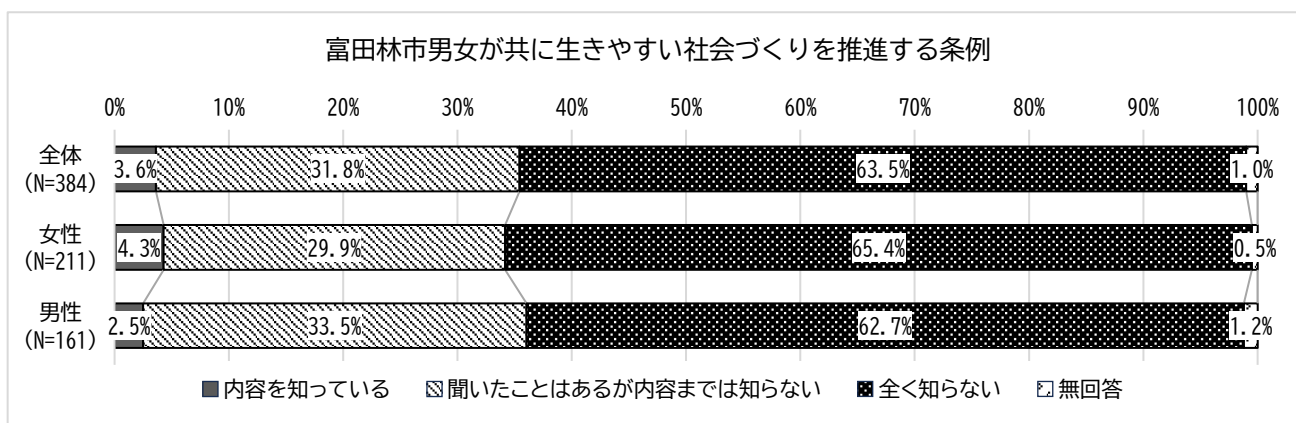
⑧ 富田林市男女が共に生きやすい社会づくりを推進する条例

《全体》

「全く知らない」が63.5%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が31.8%、「内容を知っている」が3.6%となっています。

《男女別》

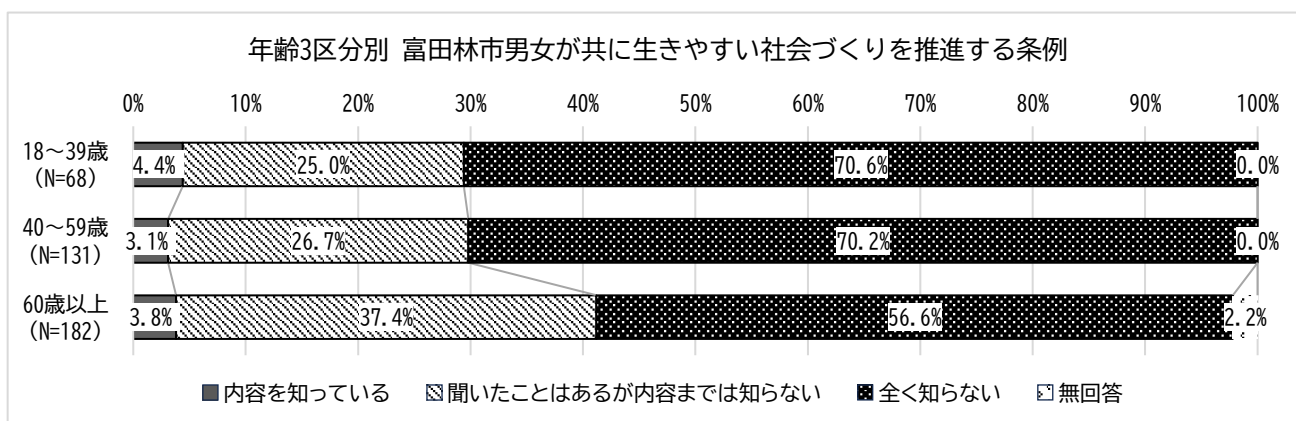
有意な差は見られません。



《年齢3区分別》

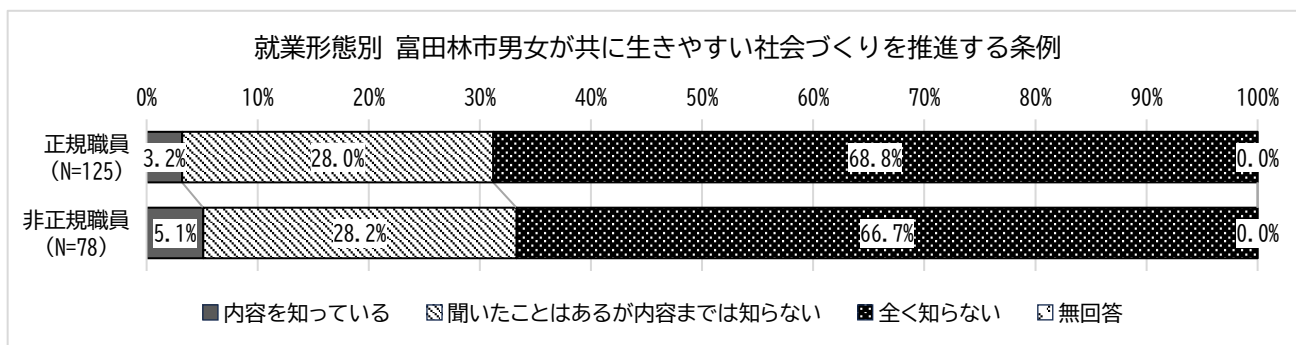
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60歳以上」が37.4%で最も多く、「18～39歳」が25.0%で最も少なく、その差は12.4ポイントになっています。

「全く知らない」は「18～39歳」が70.6%で最も多く、「60歳以上」が56.6%で最も少なく、その差は14.0ポイントになっています。



《就業形態別》

就業形態にかかわらず、認知度は低く、「全く知らない」は「正規職員」が68.8%、「非正規職員」が66.7%となっています。



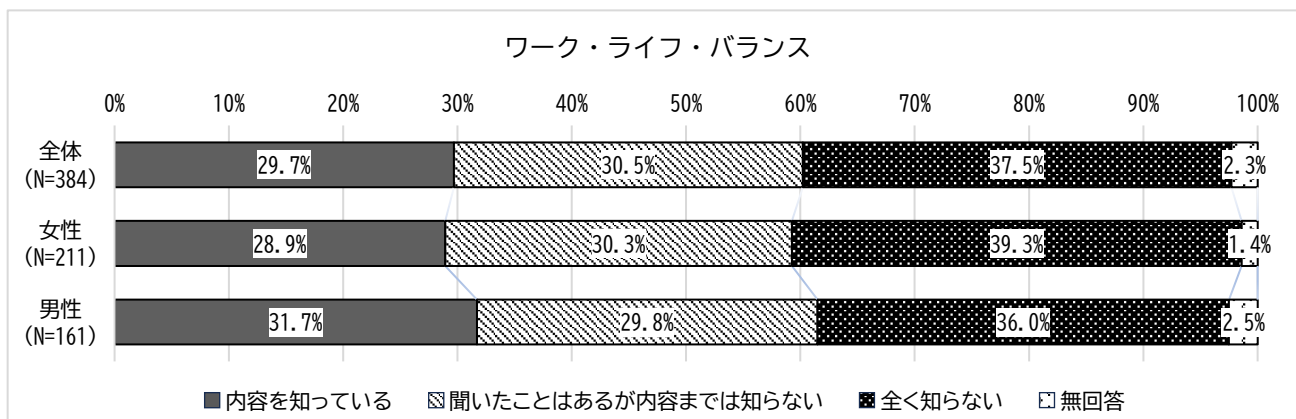
⑨ ワーク・ライフ・バランス

《全体》

「全く知らない」が 37.5%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 30.5%、「内容を知っている」が 29.7%となっています。

《男女別》

有意な差は見られません。

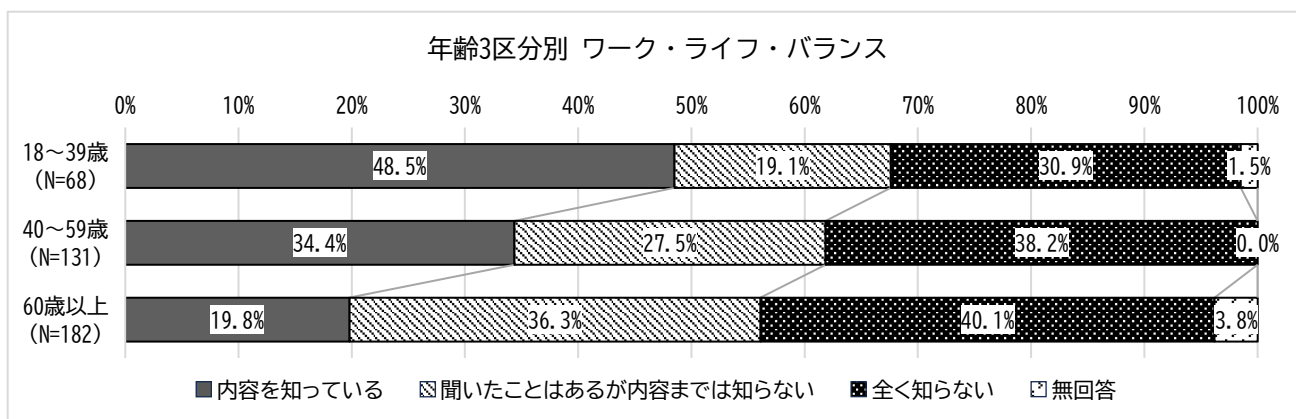


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が 48.5%で最も多く、「60歳以上」が 19.8%で最も少なく、その差は 28.7ポイントになっています。

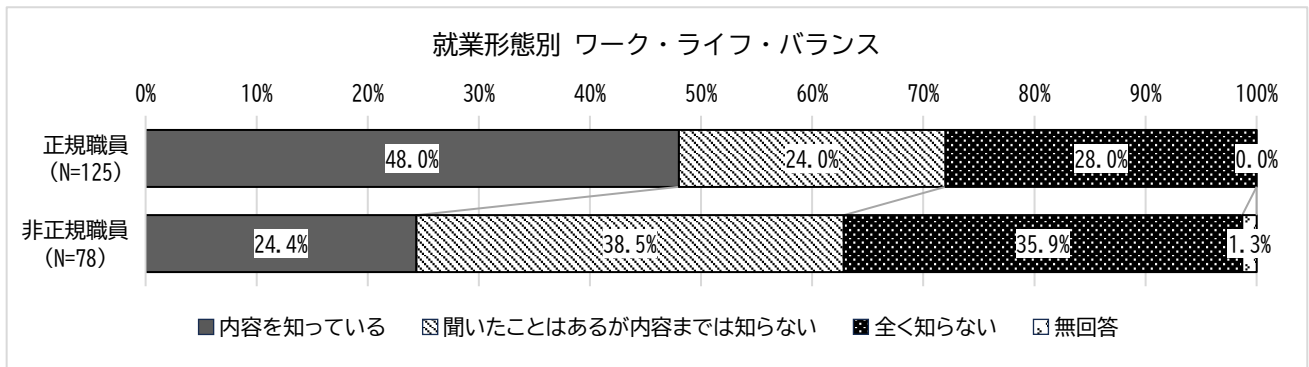
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60歳以上」が 36.3%で最も多く、「18～39歳」が 19.1%で最も少なく、その差は 17.2ポイントになっています。

「全く知らない」は「60歳以上」が 40.1%で最も多く、「18～39歳」が 30.9%で最も少なく、その差は 9.2ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が 48.0%に対し、「非正規職員」は 24.4%と、「正規職員」が「非正規職員」を 23.6ポイント上回り、「全く知らない」は「非正規職員」が 35.9%に対し、「正規職員」は 28.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を 7.9ポイント上回っています。



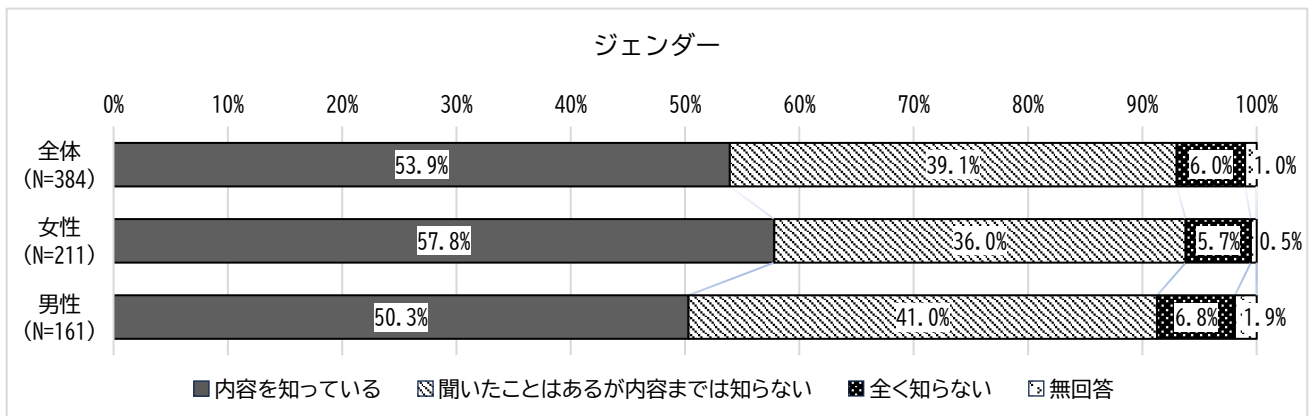
⑩ ジェンダー

《全体》

「内容を知っている」が 53.9%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 39.1%、「全く知らない」が 6.0%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が 57.8%に対し、「男性」は 50.3%と、「女性」が「男性」を 7.5 ポイント上回り、「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「男性」が 41.0%に対し、「女性」は 36.0%と、「男性」が「女性」を 5.0 ポイント上回っています。

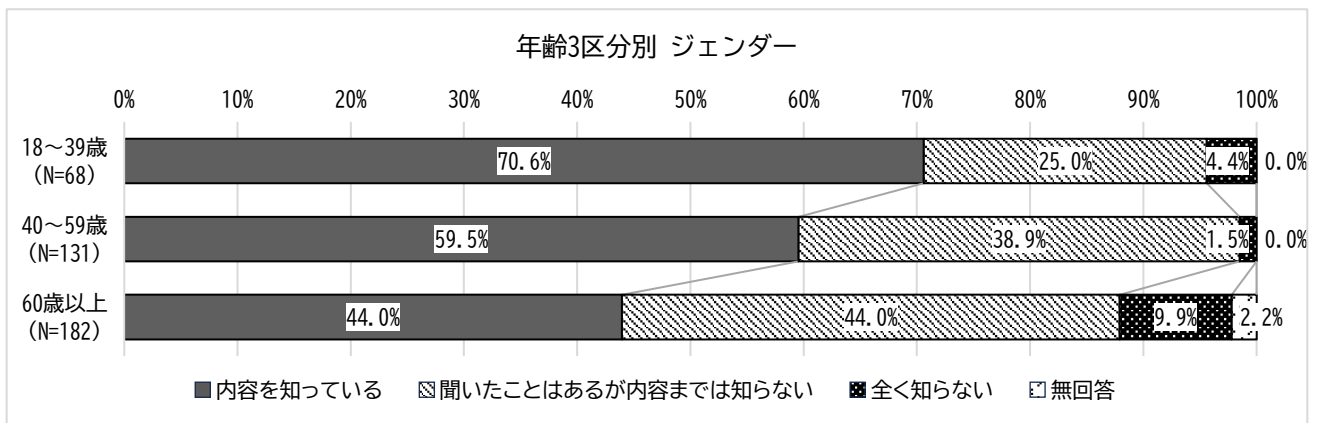


《年齢 3 区分別》

「内容を知っている」は「18～39 歳」が 70.6%で最も多く、「60 歳以上」が 44.0%で最も少なく、その差は 26.6 ポイントになっています。

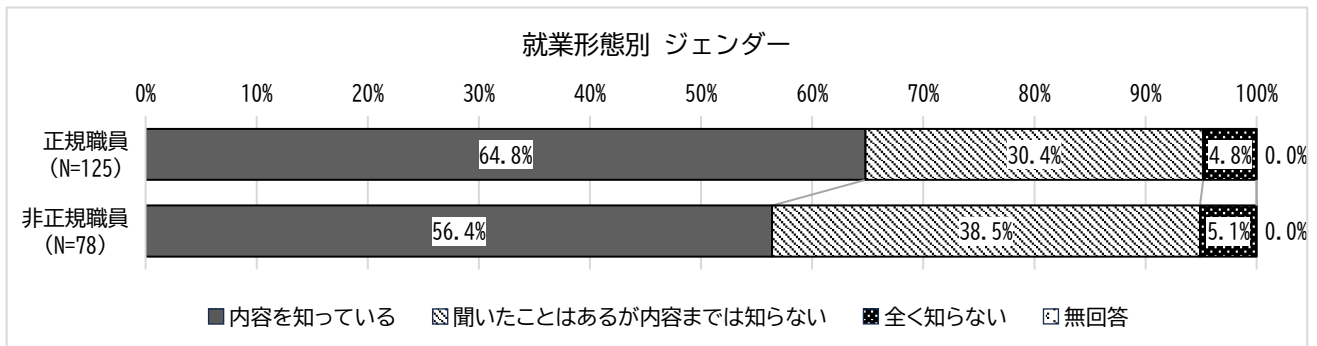
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60 歳以上」が 44.0%で最も多く、「18～39 歳」が 25.0%で最も少なく、その差は 19.0 ポイントになっています。

「全く知らない」は「60 歳以上」が 9.9%で最も多く、「40～59 歳」が 1.5%で最も少なく、その差は 8.4 ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が64.8%に対し、「非正規職員」は56.4%と、「正規職員」が「非正規職員」を8.4ポイント上回っています。



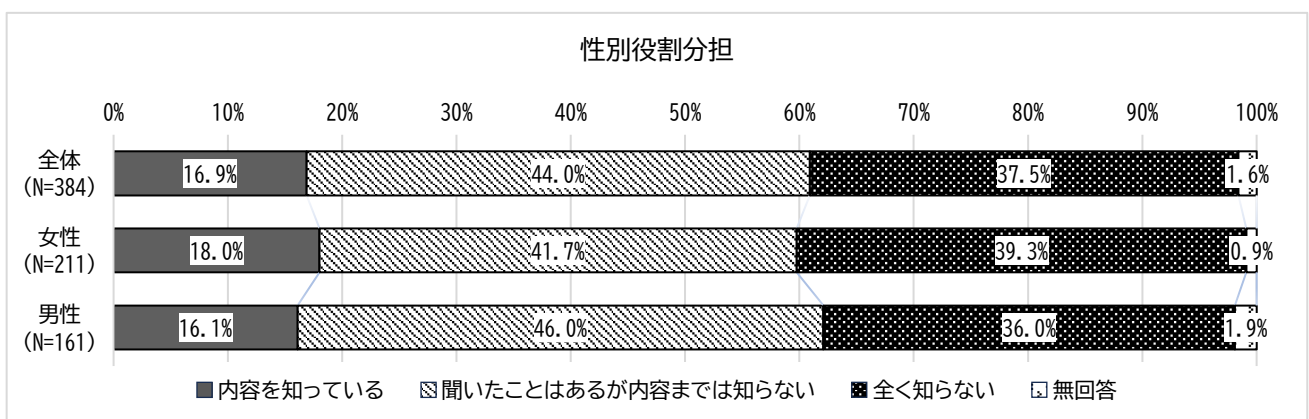
① 性別役割分担

《全体》

「聞いたことはあるが内容までは知らない」が44.0%で最も多く、次いで「全く知らない」が37.5%、「内容を知っている」が16.9%となっています。

《男女別》

「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「男性」が46.0%に対し、「女性」は41.7%と、「男性」が「女性」を4.3ポイント上回り、「全く知らない」は「女性」が39.3%に対し、「男性」は36.0%と、「女性」が「男性」を3.3ポイント上回っています。

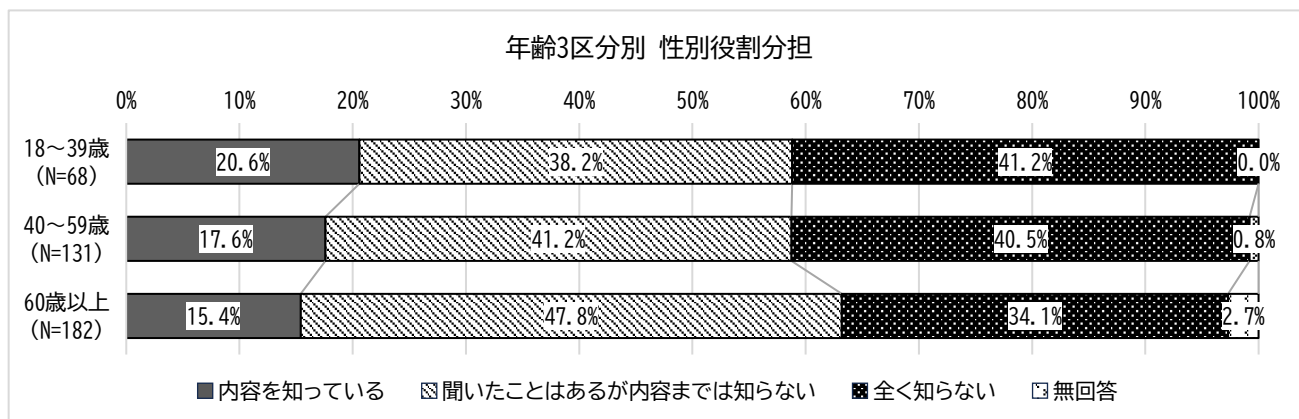


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が20.6%で最も多く、「60歳以上」が15.4%で最も少なく、その差は5.2ポイントになっています。

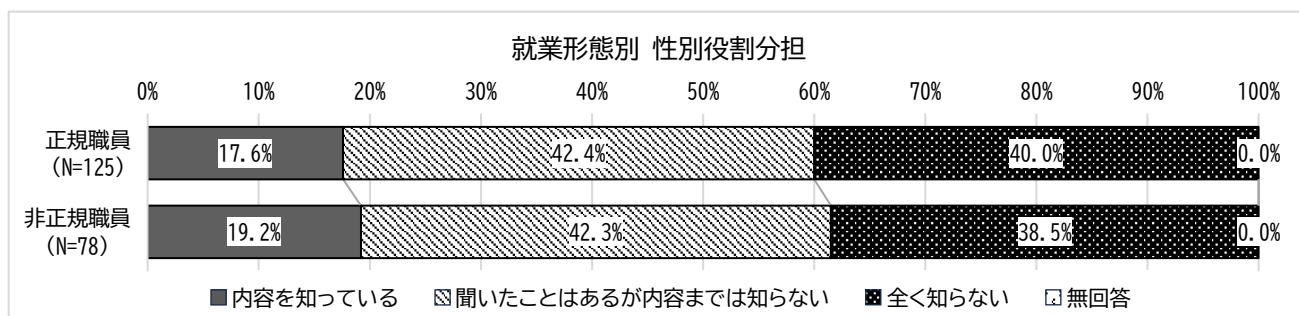
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60歳以上」が47.8%で最も多く、「18～39歳」が38.2%で最も少なく、その差は9.6ポイントになっています。

「全く知らない」は「18～39歳」が41.2%で最も多く、「60歳以上」が34.1%で最も少なく、その差は7.1ポイントになっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



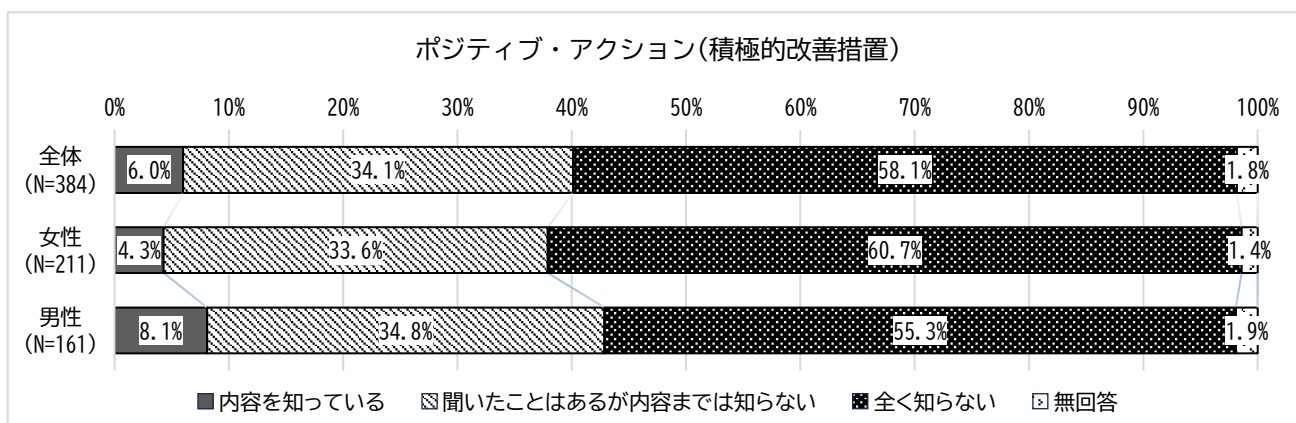
⑫ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

《全体》

「全く知らない」が58.1%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が34.1%、「内容を知っている」が6.0%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「男性」が8.1%に対し、「女性」は4.3%と、「男性」が「女性」を3.8ポイント上回り、「全く知らない」は「女性」が60.7%に対し、「男性」は55.3%と、「女性」が「男性」を5.4ポイント上回っています。

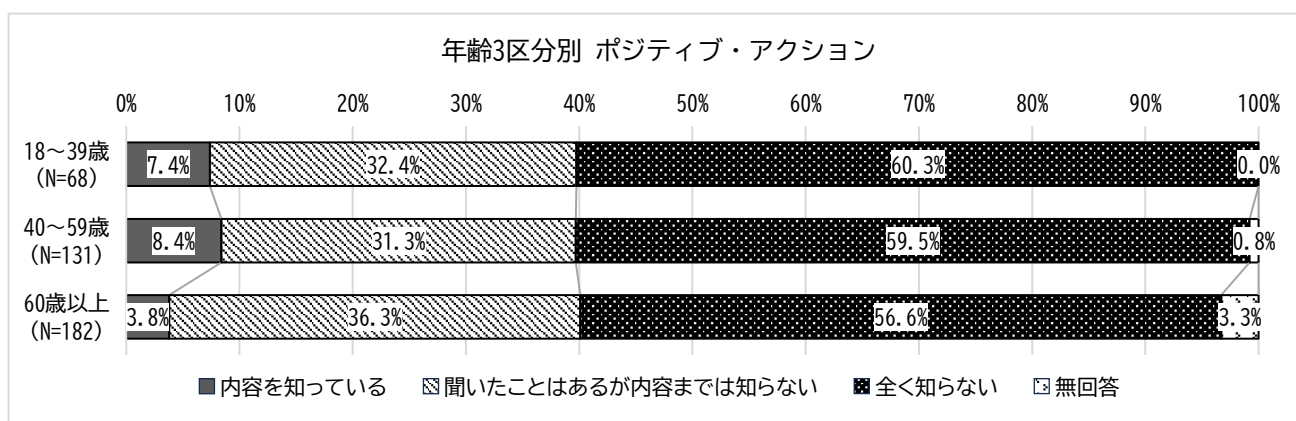


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「40～59歳」が8.4%で最も多く、「60歳以上」が3.8%で最も少なく、その差は4.6ポイントになっています。

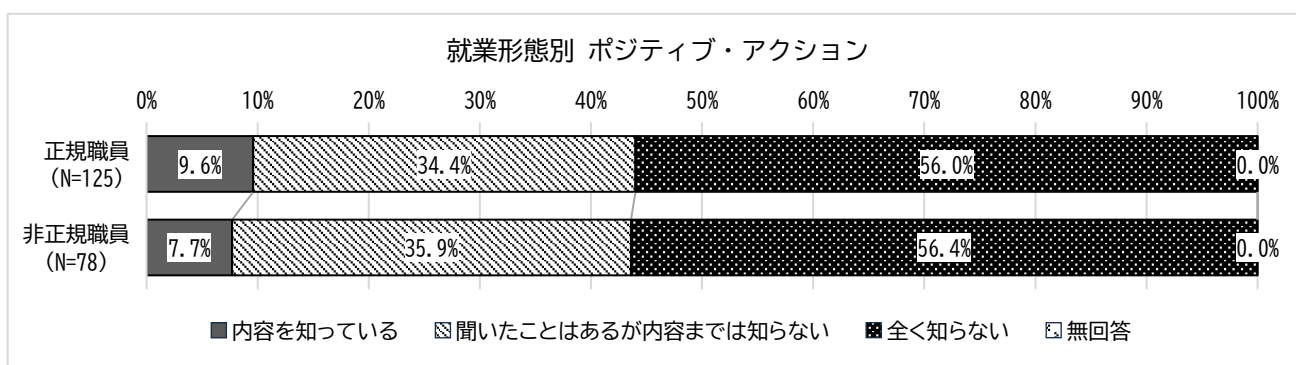
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60歳以上」が36.3%で最も多く、「40～59歳」が31.3%で最も少なく、その差は5.0ポイントになっています。

「全く知らない」は「18～39歳」が60.3%で最も多く、「60歳以上」が56.6%で最も少なく、その差は3.7ポイントになっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



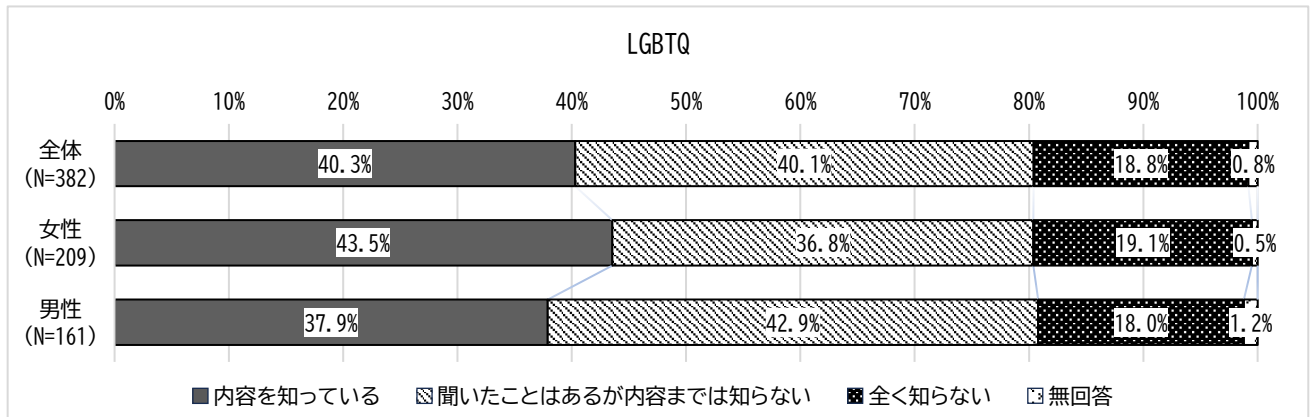
⑬ LGBTQ

《全体》

「内容を知っている」が 40.3%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 40.1%、「全く知らない」が 18.8%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が 43.5%に対し、「男性」は 37.9%と、「女性」が「男性」を 5.6 ポイント上回り、「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「男性」が 42.9%に対し「女性」は 36.8%と、「男性」が「女性」を 6.1 ポイント上回っています。

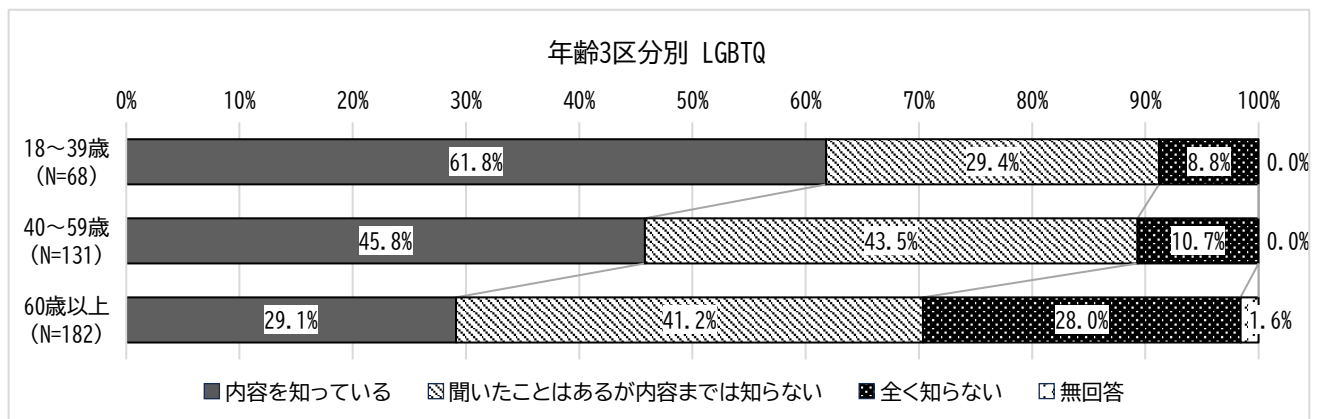


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が 61.8%で最も多く、「60歳以上」が 29.1%で最も少なく、その差は 32.7 ポイントになっています。

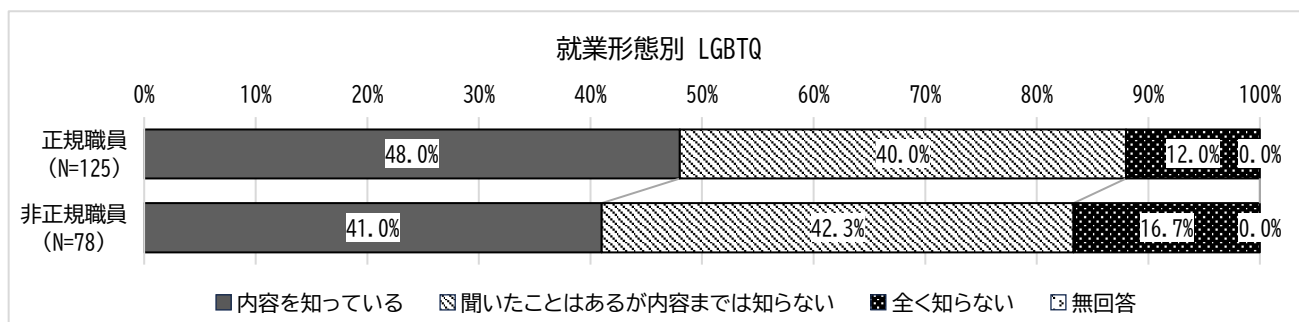
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「40～59歳」が 43.5%で最も多く、「18～39歳」が 29.4%で最も少なく、その差は 14.1 ポイントになっています。

「全く知らない」は「60歳以上」が 28.0%で最も多く、「18～39歳」が 8.8%で最も少なく、その差は 19.2 ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が 48.0%に対し、「非正規職員」は 41.0%と、「正規職員」が「非正規職員」を 7.0 ポイント上回り、「全く知らない」は「非正規職員」が 16.7%に対し、「正規職員」は 12.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を 4.7 ポイント上回っています。



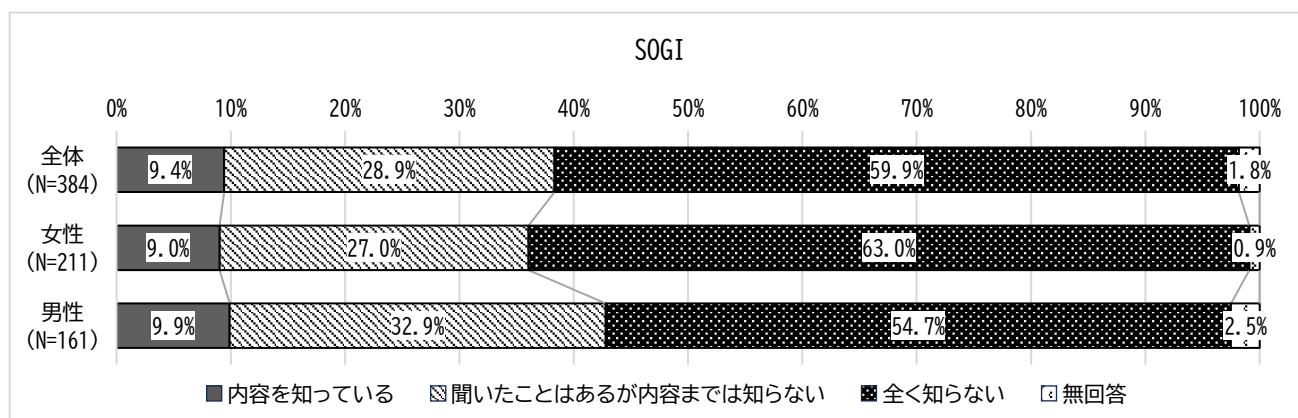
⑭ SOGI(性的指向・性自認)

《全体》

「全く知らない」が 59.9%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が 28.9%、「内容を知っている」が 9.4%となっています。

《男女別》

「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「男性」が 32.9%に対し、「女性」は 27.0%と、「男性」が「女性」を 5.9ポイント上回り、「全く知らない」は「女性」が 63.0%に対し、「男性」は 54.7%と、「女性」が「男性」を 8.3ポイント上回っています。

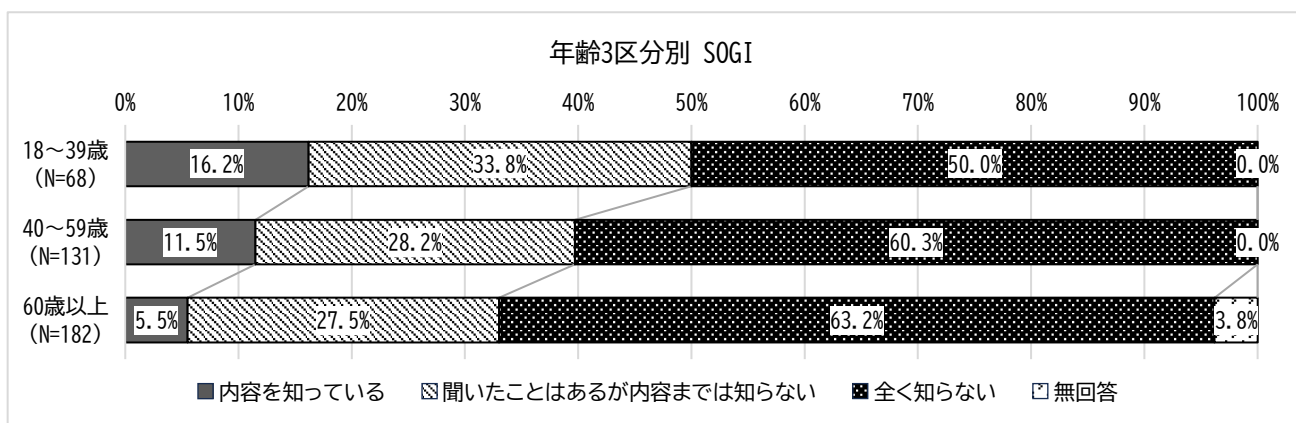


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が 16.2%で最も多く、「60歳以上」が 5.5%で最も少なく、その差は 10.7ポイントになっています。

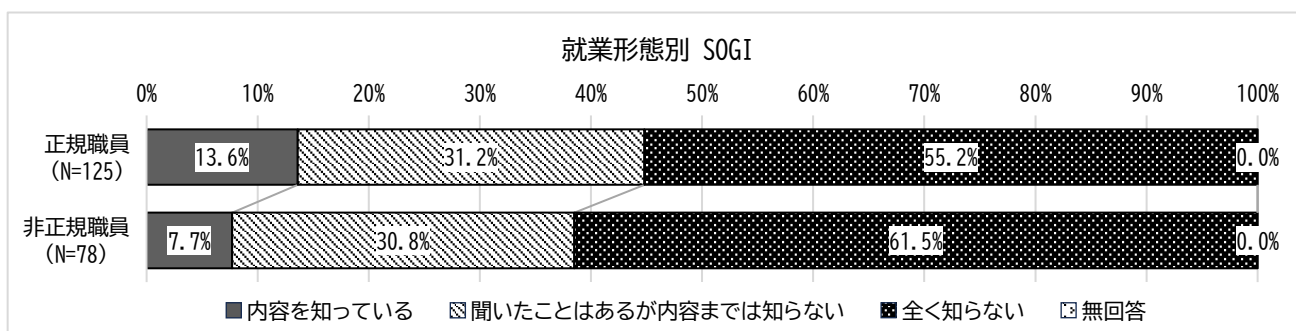
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「18～39歳」が 33.8%で最も多く、「60歳以上」が 27.5%で最も少なく、その差は 6.3ポイントになっています。

「全く知らない」は「60歳以上」が 63.2%で最も多く、「18～39歳」が 50.0%で最も少なく、その差は 13.2ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が13.6%に対し、「非正規職員」は7.7%と、「正規職員」が「非正規職員」を5.9ポイント上回り、「全く知らない」は「非正規職員」が61.5%に対し、「正規職員」は55.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を6.3ポイント上回っています。



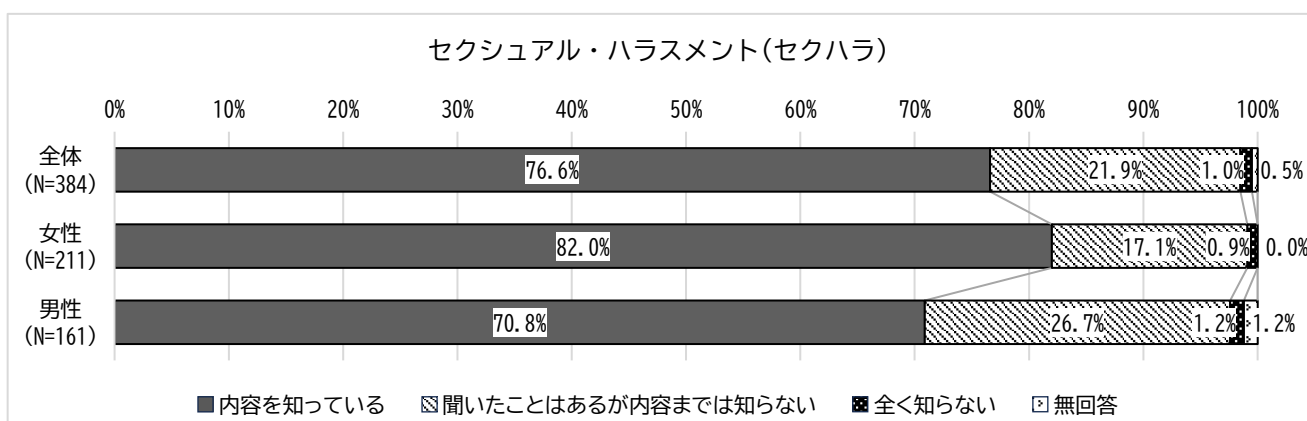
⑮ セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)

《全体》

「内容を知っている」が76.6%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が21.9%、「全く知らない」が1.0%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が82.0%に対し、「男性」は70.8%と、「女性」が「男性」を11.2ポイント上回り、「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「男性」が26.7%に対し、「女性」は17.1%と、「男性」が「女性」を9.6ポイント上回っています。

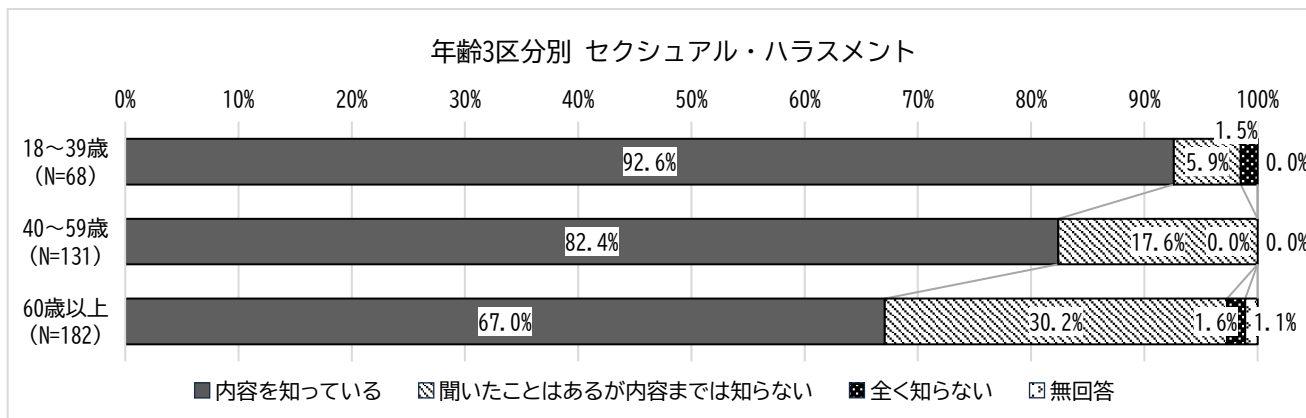


《年齢3区分別》

「内容を知っている」は「18～39歳」が92.6%で最も多く、「60歳以上」が67.0%で最も少なく、その差は25.6ポイントになっています。

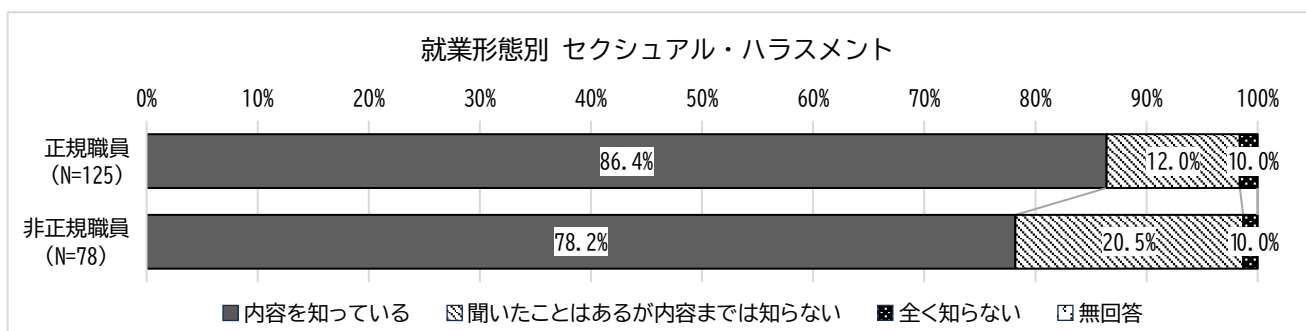
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60歳以上」が30.2%で最も多く、「18～39歳」が5.9%で最も少なく、その差は24.3ポイントになっています。

「全く知らない」は「60歳以上」が1.6%で最も多く、「40～59歳」が0.0%で最も少なく、ほとんど差はありません。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が86.4%に対し、「非正規職員」は78.2%と、「正規職員」が「非正規職員」を8.2ポイント上回っています。



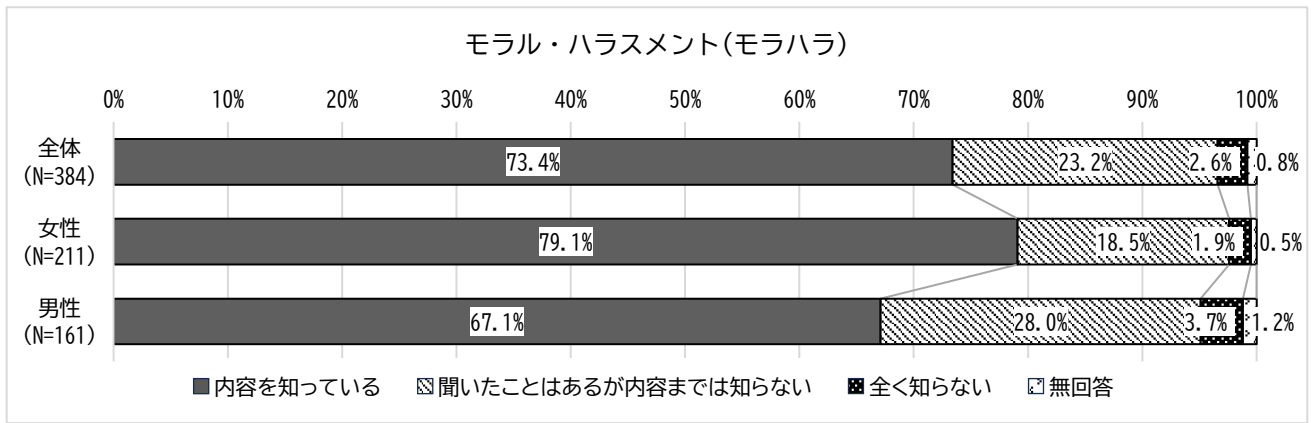
⑩ モラル・ハラスメント(モラハラ)

《全体》

「内容を知っている」が73.4%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容までは知らない」が23.2%、「全く知らない」は2.6%となっています。

《男女別》

「内容を知っている」は「女性」が79.1%に対し、「男性」は67.1%と、「女性」が「男性」を12.0ポイント上回り、「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「男性」が28.0%に対し、「女性」は18.5%と、「男性」が「女性」を9.5ポイント上回っています。

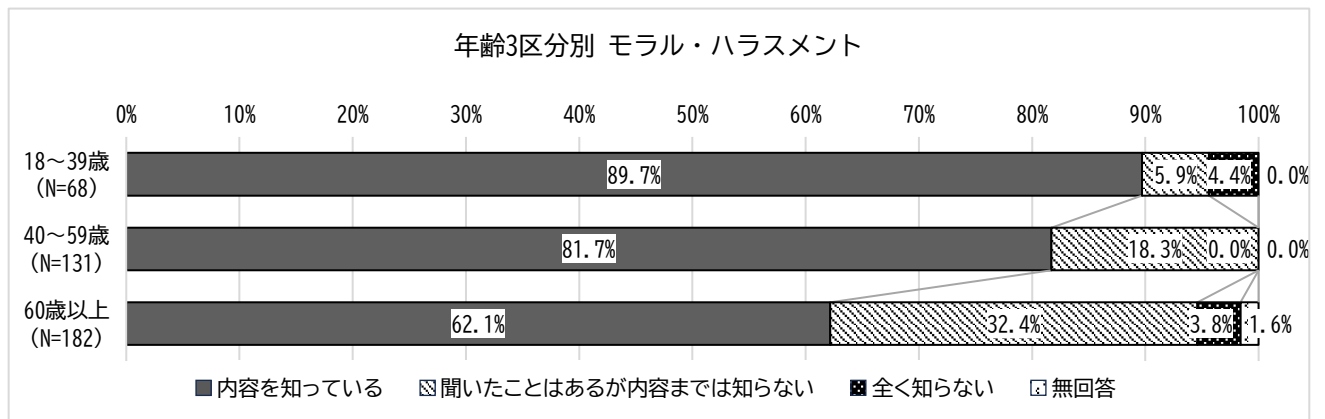


《年齢 3 区分別》

「内容を知っている」は「18～39 歳」が 89.7%で最も多く、「60 歳以上」が 62.1%で最も少なく、その差は 27.6 ポイントになっています。

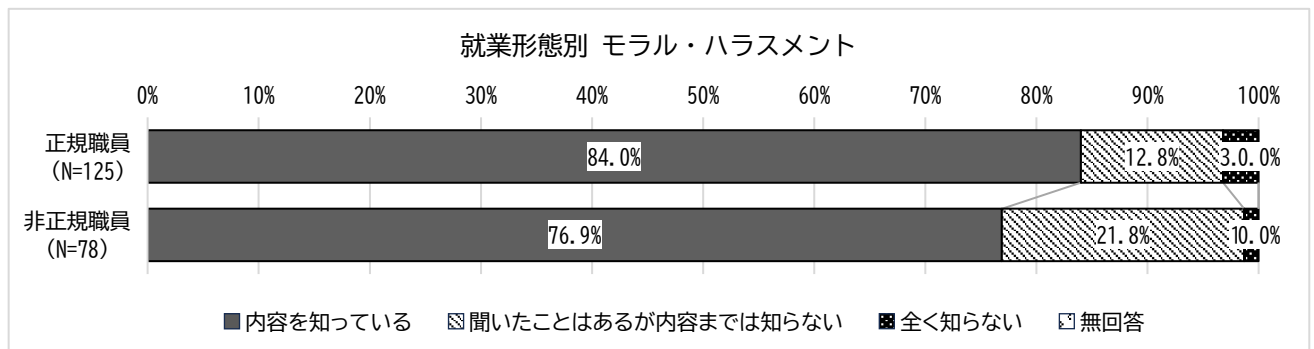
「聞いたことはあるが内容までは知らない」は「60 歳以上」が 32.4%で最も多く、「18～39 歳」が 5.9%で最も少なく、その差は 26.5 ポイントになっています。

「全く知らない」は「18～39 歳」が 4.4%で最も多く、「40～59 歳」が 0.0%で最も少なく、その差は 4.4 ポイントになっています。



《就業形態別》

「内容を知っている」は「正規職員」が 84.0%に対し、「非正規職員」は 76.9%と、「正規職員」が「非正規職員」を 7.1 ポイント上回っています。



(8) セクシュアル・ハラスメントについて

問 12 次のことについて、今までしたことがある、受けたことがある、または、そのような状況を見聞きしたことがありますか(SNS 等も含む)。(あてはまるものすべてに○)

セクシュアル・ハラスメントは本人の望まない・合意のない性的言動をいいます。「男性から女性に」限ったものではありません。「女性から男性に」「同性から同性に」も含まれます。

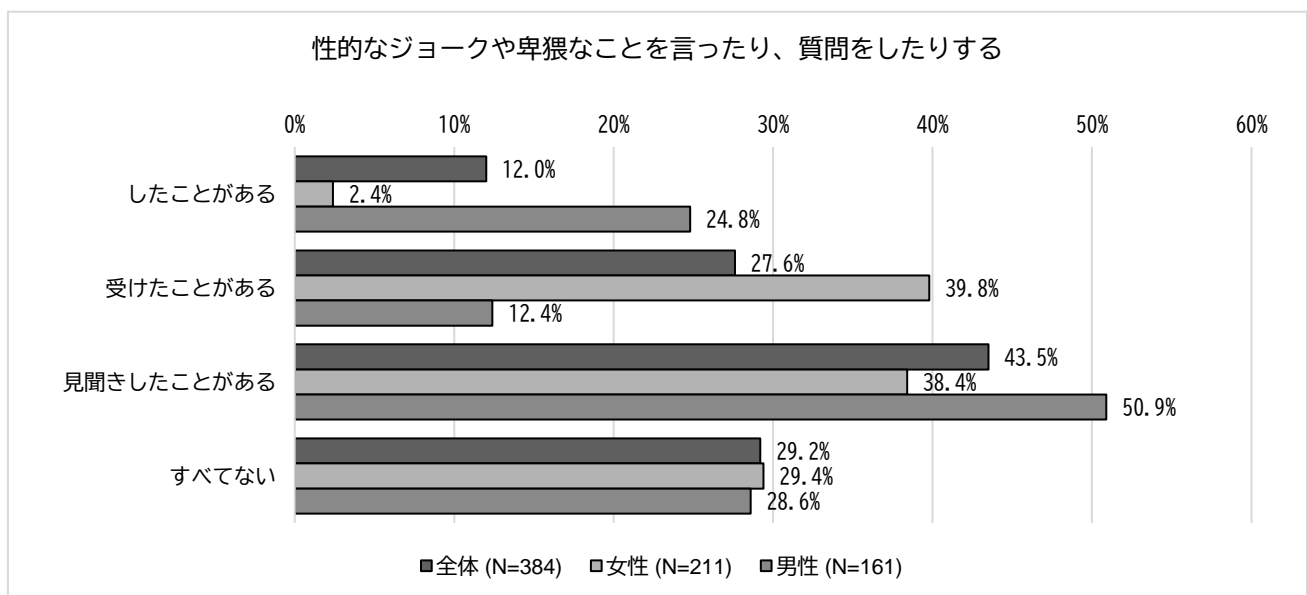
① 性的なジョークや卑猥なことを言ったり、質問をしたりする

《全体》

「見聞きしたことがある」が 43.5%で最も多く、次いで「すべてない」が 29.2%、「受けたことがある」が 27.6%となっています。

《男女別》

「受けたことがある」は「女性」が 39.8%に対し、「男性」は 12.4%と、「女性」が「男性」を 27.4 ポイント上回り、「したことがある」は「男性」が 24.8%に対し、「女性」は 2.4%と、「男性」が「女性」を 22.4 ポイント上回り、「見聞きしたことがある」は「男性」が 50.9%に対し、「女性」は 38.4%と、「男性」が「女性」を 12.5 ポイント上回っています。



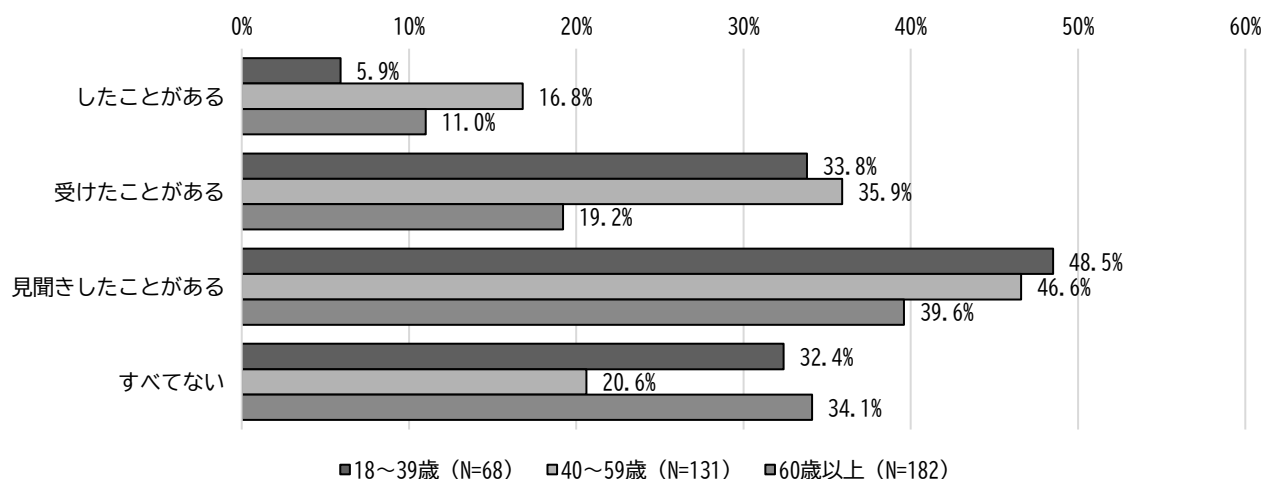
《年齢 3 区分別》

「したことがある」は「40～59 歳」が 16.8%で最も多く、「18～39 歳」が 5.9%で最も少なく、その差は 10.9 ポイントになっています。

「受けたことがある」は「40～59 歳」が 35.9%で最も多く、「60 歳以上」が 19.2%で最も少なく、その差は 16.7 ポイントになっています。

「見聞きしたことがある」は「18～39 歳」が 48.5%で最も多く、「60 歳以上」が 39.6%で最も少なく、その差は 8.9 ポイントになっています。

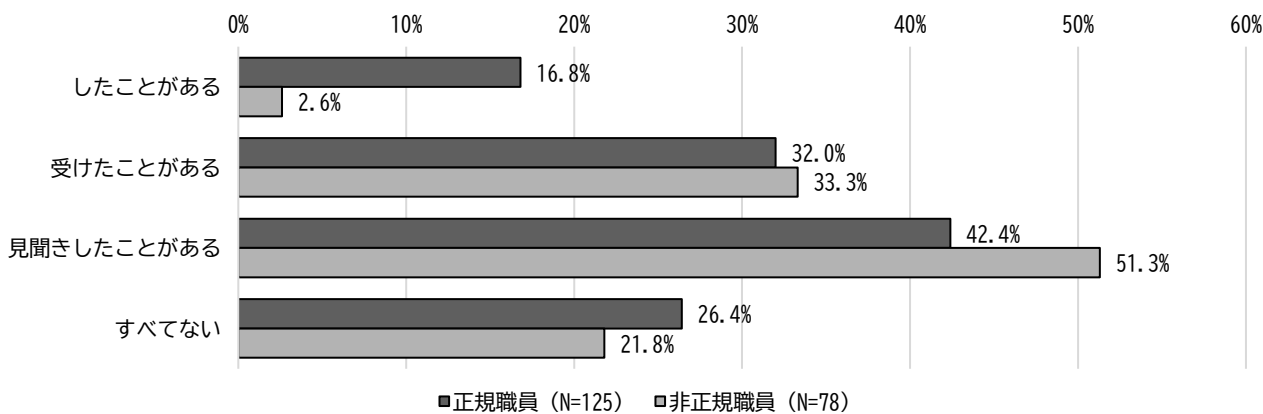
年齢3区分別 性的なジョークや卑猥なことを言ったり、質問をしたりする



《就業形態別》

「したことがある」は「正規職員」が16.8%に対し、「非正規職員」は2.6%と、「正規職員」が「非正規職員」を14.2ポイント上回り、「見聞きしたことがある」は「非正規職員」が51.3%に対し、「正規職員」は42.4%と、「非正規職員」が「正規職員」を8.9ポイント上回っています。

就業形態別 性的なジョークや卑猥なことを言ったり、質問をしたりする



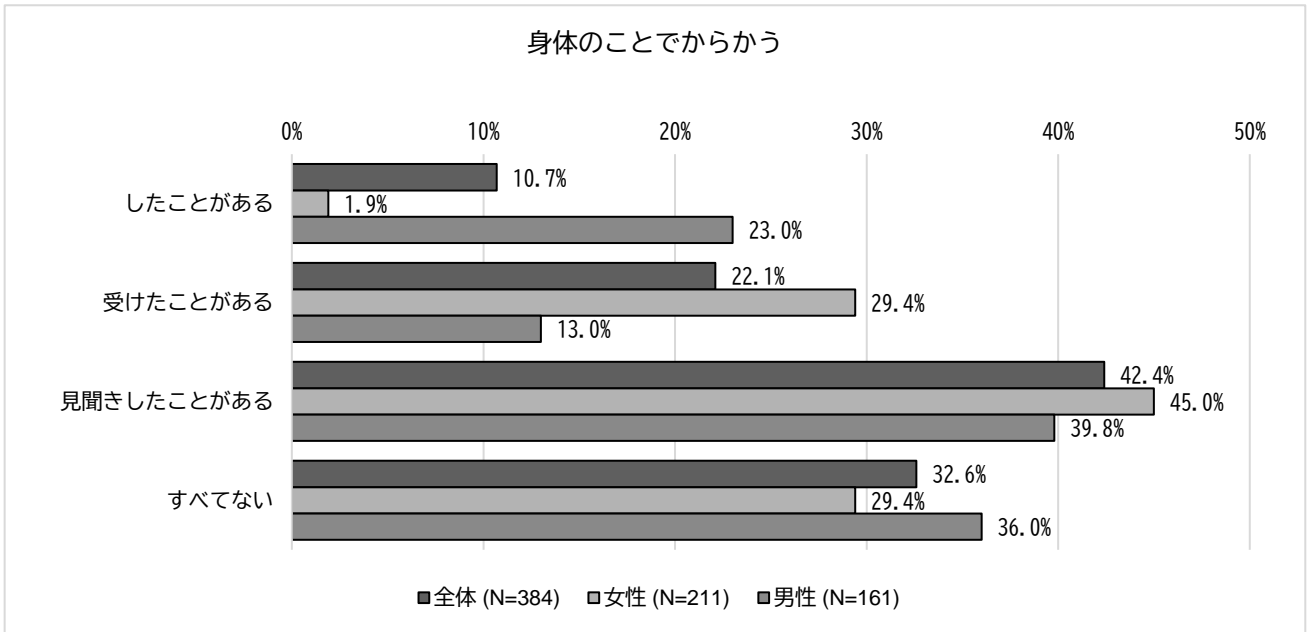
② 身体のことからかう

《全体》

「見聞きしたことがある」が42.4%で最も多く、次いで「すべてない」が32.6%、「受けたことがある」が22.1%となっています。

《男女別》

「したことがある」は「男性」が23.0%に対し、「女性」は1.9%と、「男性」が「女性」を21.1ポイント上回り、「受けたことがある」は「女性」が29.4%に対し、「男性」は13.0%と、「女性」が「男性」を16.4ポイント上回っています。

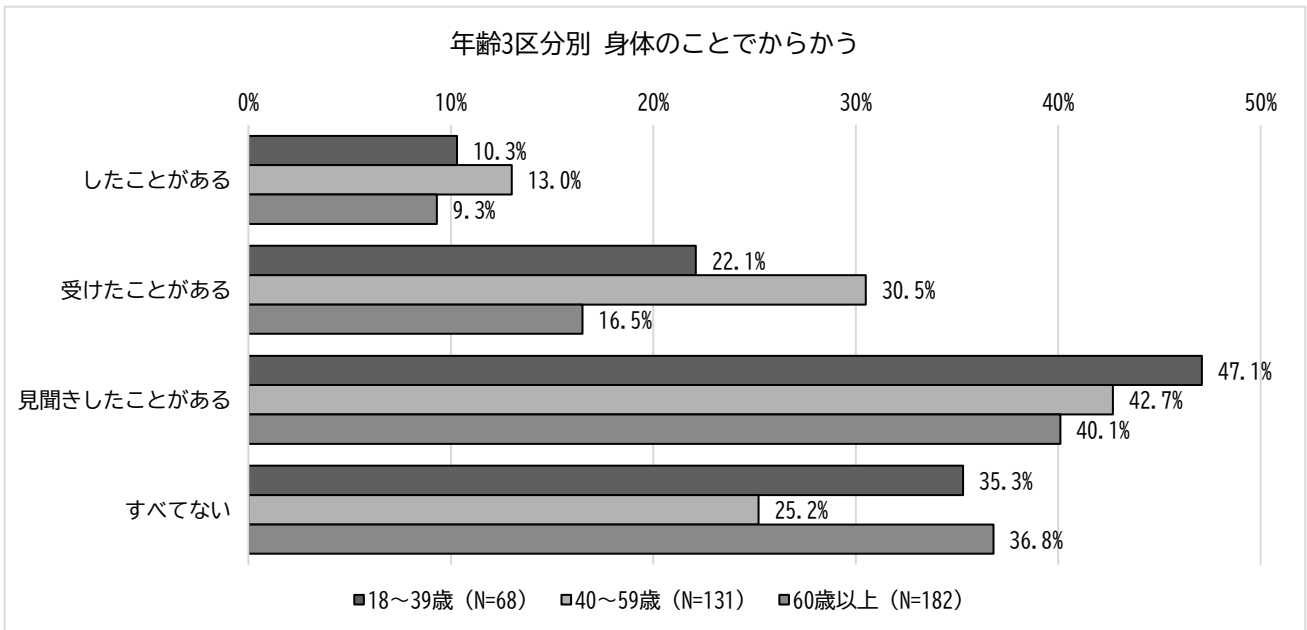


《年齢3区分別》

「したことがある」は「40～59 歳」が 13.0%で最も多く、「60 歳以上」が 9.3%で最も少なく、その差は 3.7 ポイントになっています。

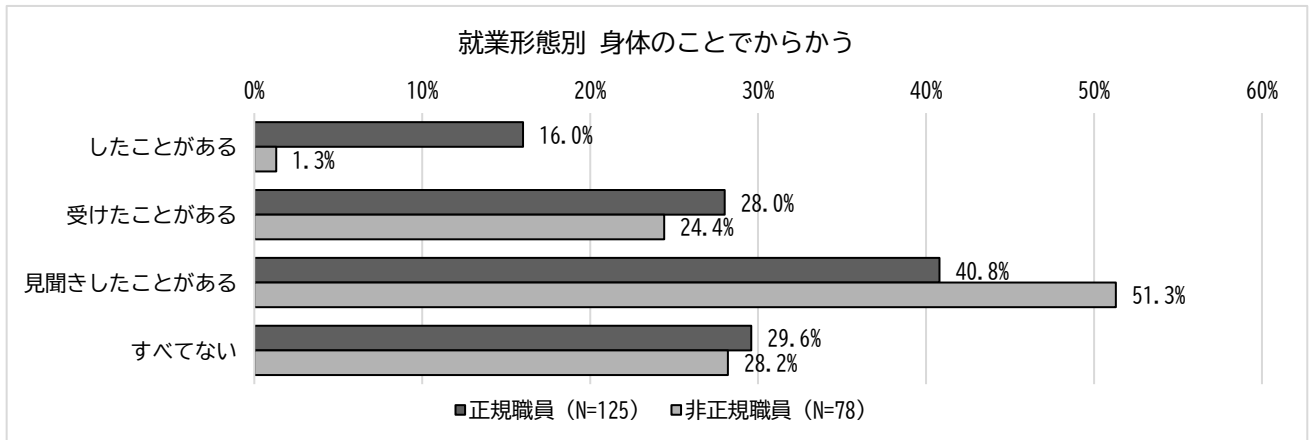
「受けたことがある」は「40～59 歳」が 30.5%で最も多く、「60 歳以上」が 16.5%で最も少なく、その差は 14.0 ポイントになっています。

「見聞きしたことがある」は「18～39 歳」が 47.1%で最も多く、「60 歳以上」が 40.1%で最も少なく、その差は 7.0 ポイントになっています。



《就業形態別》

「したことがある」は「正規職員」が16.0%に対し、「非正規職員」は1.3%と、「正規職員」が「非正規職員」を14.7ポイント上回り、「見聞きしたことがある」は「非正規職員」が51.3%に対し、「正規職員」は40.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を10.5ポイント上回っています。



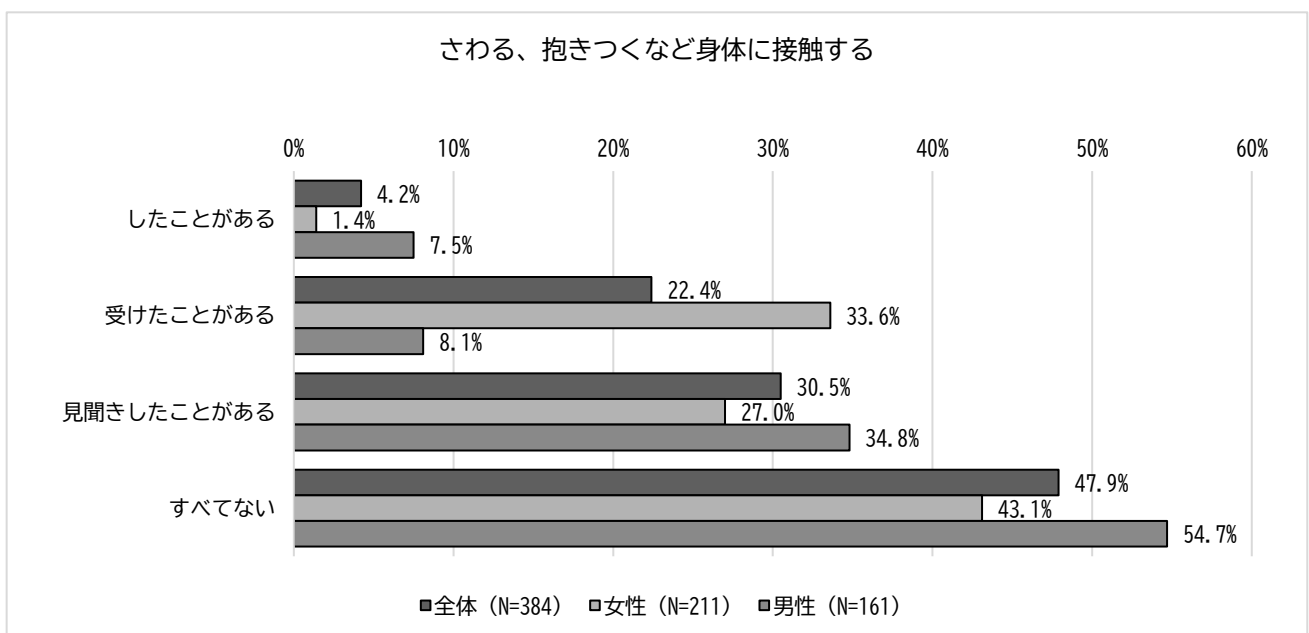
③ さわる、抱きつくなど身体に接触する

《全体》

「すべてない」が47.9%で最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が30.5%、「受けたことがある」が22.4%となっています。

《男女別》

「受けたことがある」は「女性」が33.6%に対し、「男性」は8.1%と、「女性」が「男性」を25.5ポイント上回り、「したことがある」は「男性」が7.5%に対し、「女性」は1.4%と、「男性」が「女性」を6.1ポイント上回り、「見聞きしたことがある」は「男性」が34.8%に対し、「女性」は27.0%と、「男性」が「女性」を7.8ポイント上回っています。

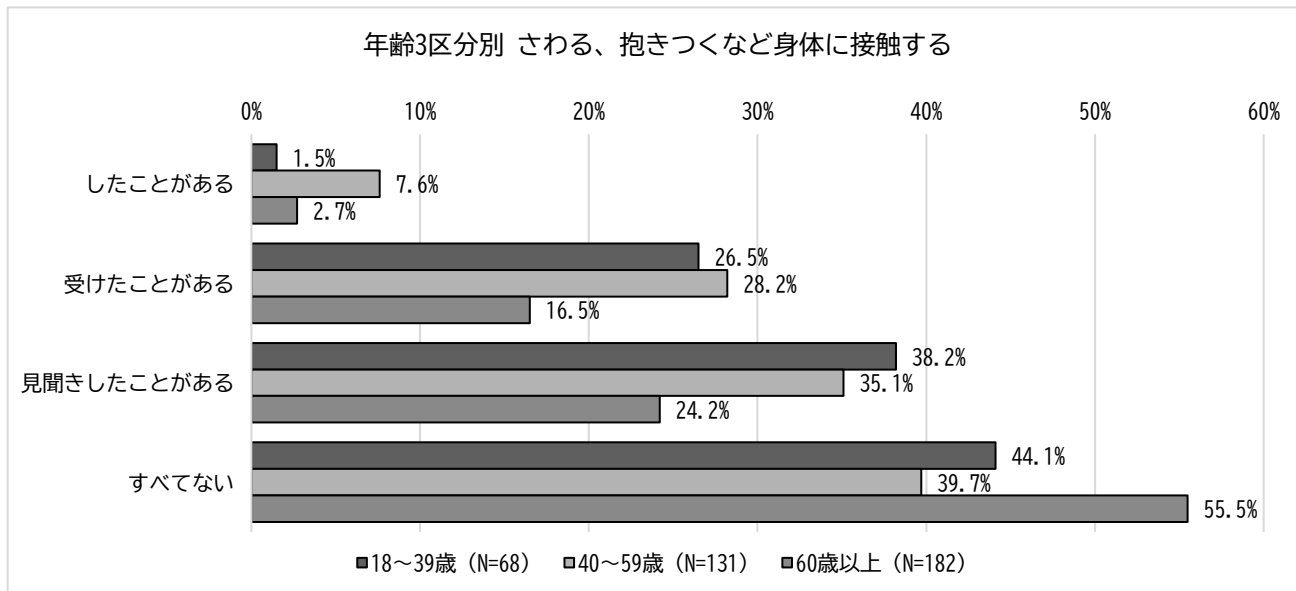


《年齢3区分別》

「したことがある」は「40～59歳」が7.6%で最も多く、「18～39歳」が1.5%で最も少なく、その差は6.1ポイントになっています。

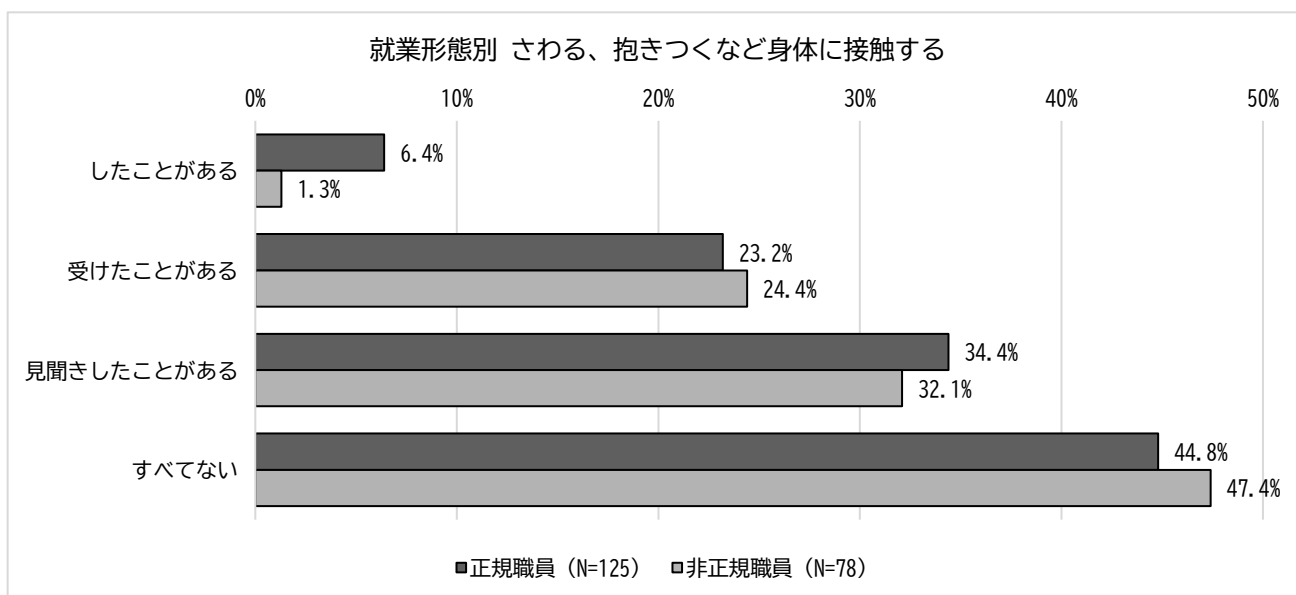
「受けたことがある」は「40～59歳」が28.2%で最も多く、「60歳以上」が16.5%で最も少なく、その差は11.7ポイントになっています。

「見聞きしたことがある」は「18～39歳」が38.2%で最も多く、「60歳以上」が24.2%で最も少なく、その差は14.0ポイントになっています。



《就業形態別》

「したことがある」は「正規職員」が6.4%に対し、「非正規職員」は1.3%と、「正規職員」が「非正規職員」を5.1ポイント上回っています。



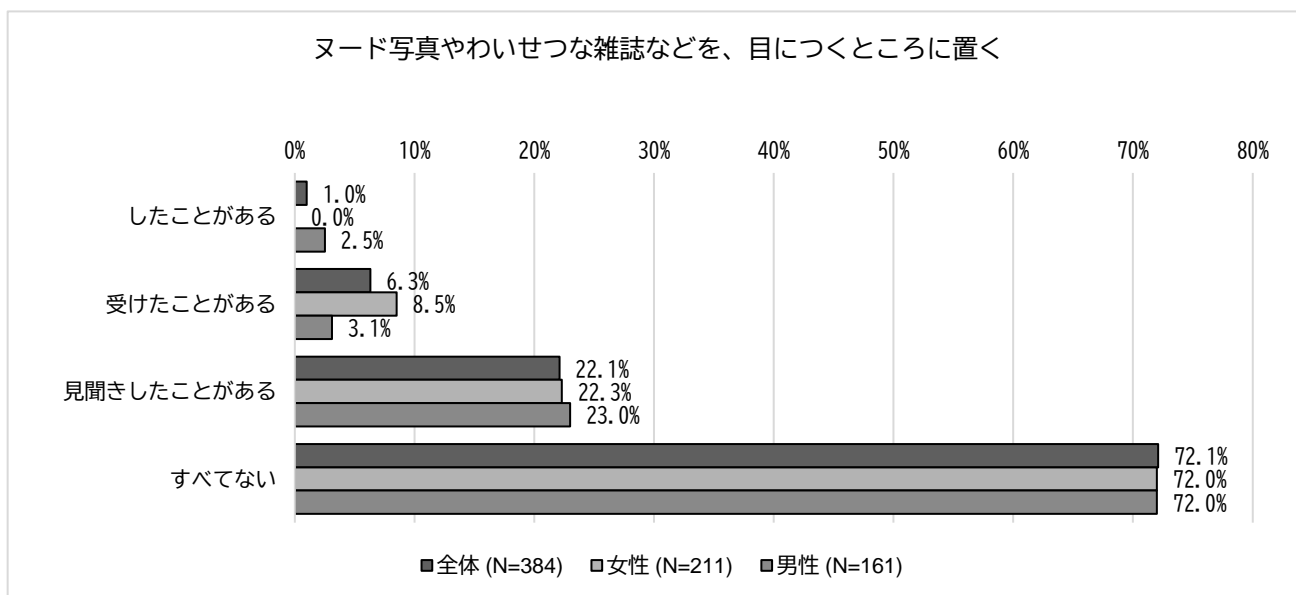
④ ヌード写真やわいせつな雑誌などを、目につくところに置く

《全体》

「すべてない」が 72.1%で最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が 22.1%、「受けたことがある」が 6.3%となっています。

《男女別》

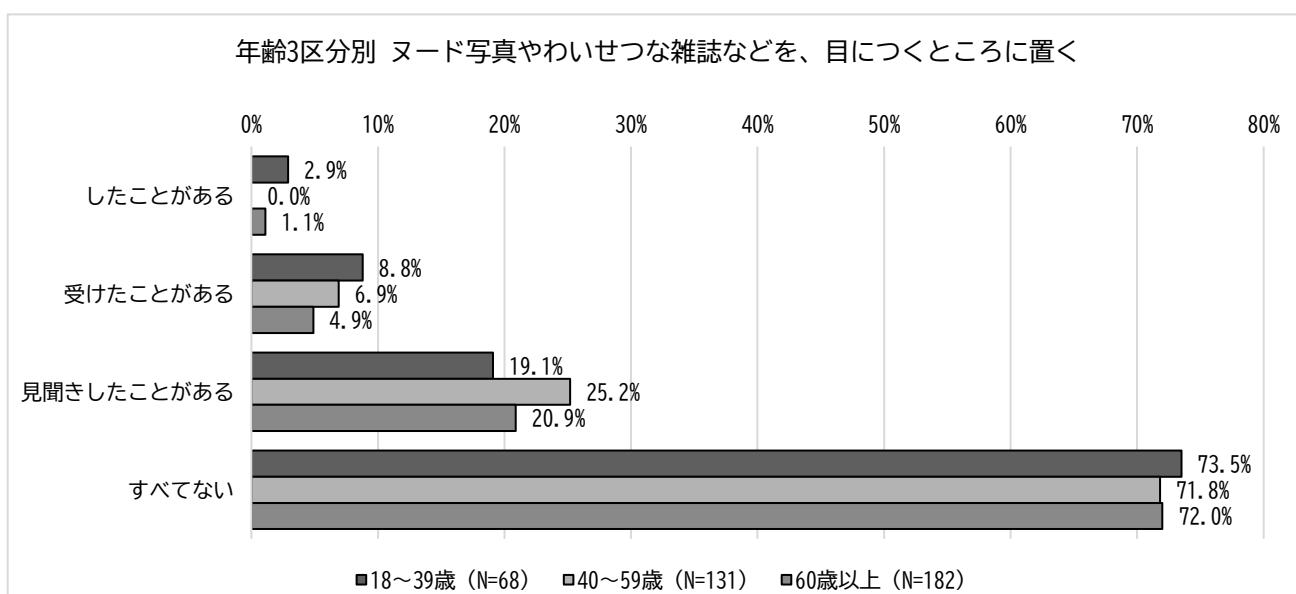
「受けたことがある」は「女性」が 8.5%に対し、「男性」は 3.1%と、「女性」が「男性」を 5.4 ポイント上回っています。



《年齢 3 区分別》

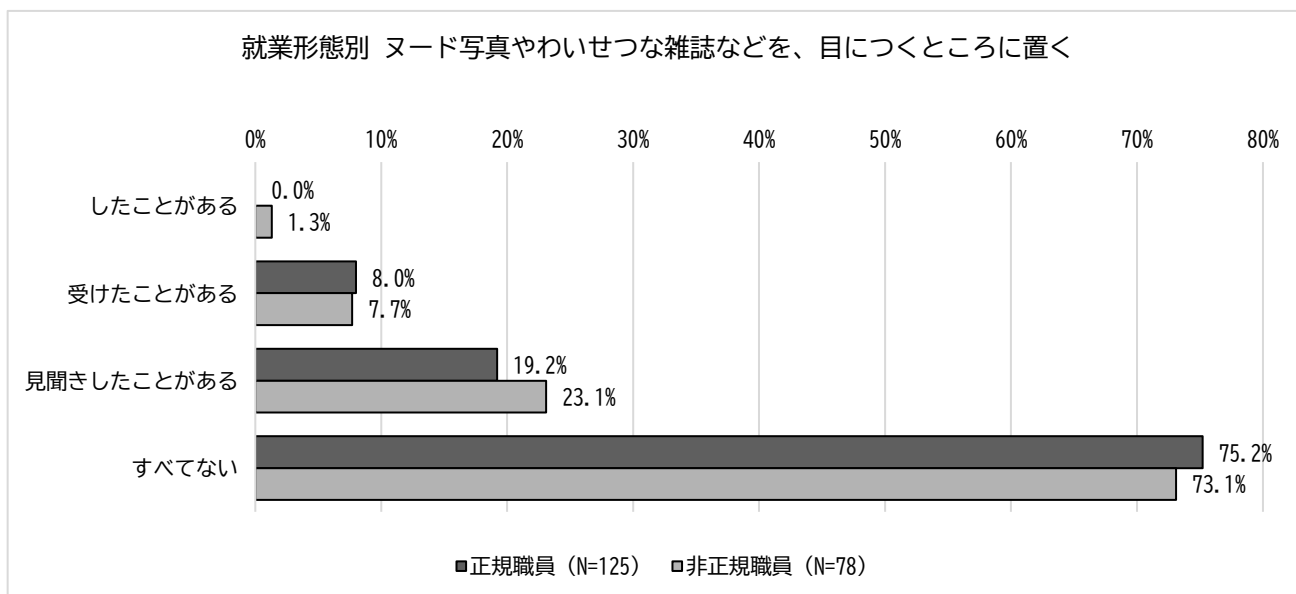
「受けたことがある」は「18～39 歳」が 8.8%で最も多く、「60 歳以上」が 4.9%で最も少なく、その差は 3.9 ポイントになっています。

「見聞きしたことがある」は「40～59 歳」が 25.2%で最も多く、「18～39 歳」が 19.1%で最も少なく、その差は 6.1 ポイントになっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



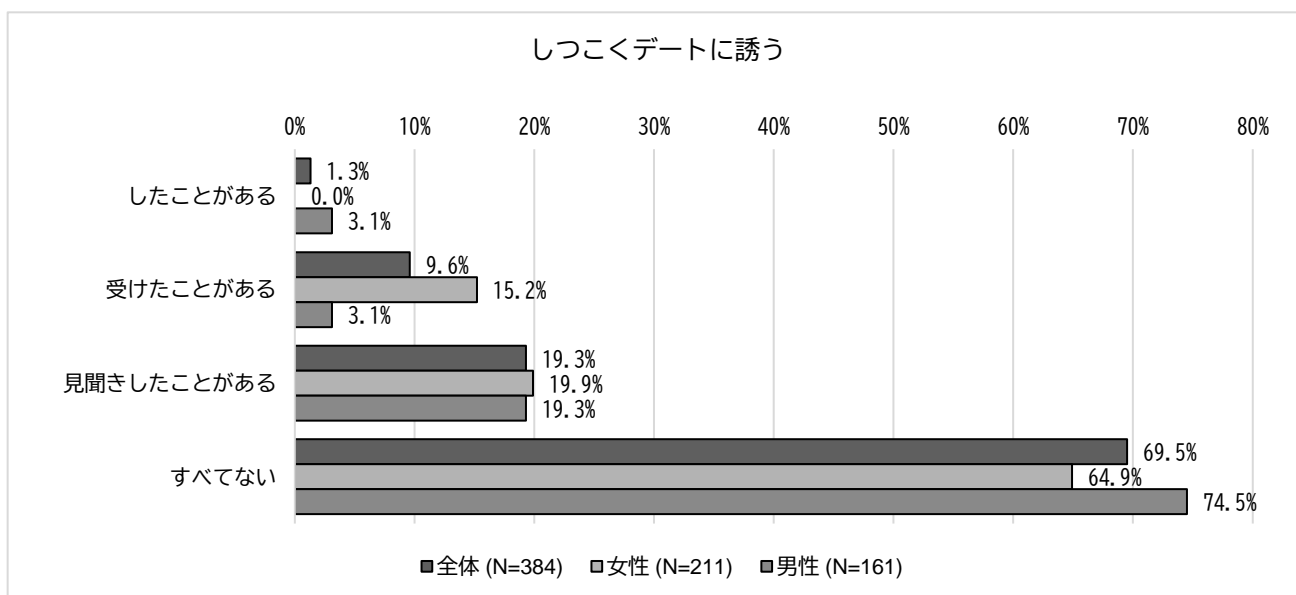
⑤ しつこくデートに誘う

《全体》

「すべてない」が 69.5%で最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が 19.3%、「受けたことがある」が 9.6%となっています。

《男女別》

「受けたことがある」は「女性」が 15.2%に対し、「男性」は 3.1%と、「女性」が「男性」を 12.1 ポイント上回り、「すべてない」は「男性」は 74.5%に対し、「女性」が 64.9%と、「男性」が「女性」を 9.6 ポイント上回っています。

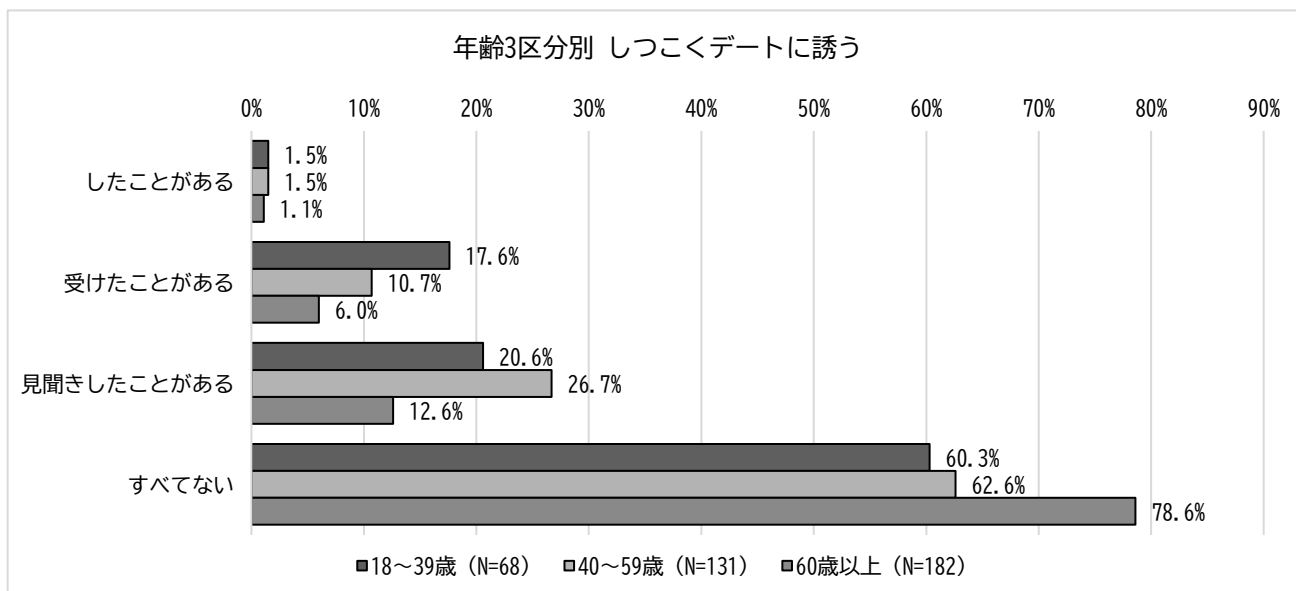


《年齢3区分別》

「したことがある」は「18～39歳」「40～59歳」が共に1.5%で最も多く、「60歳以上」が1.1%で、差はほとんどありません。

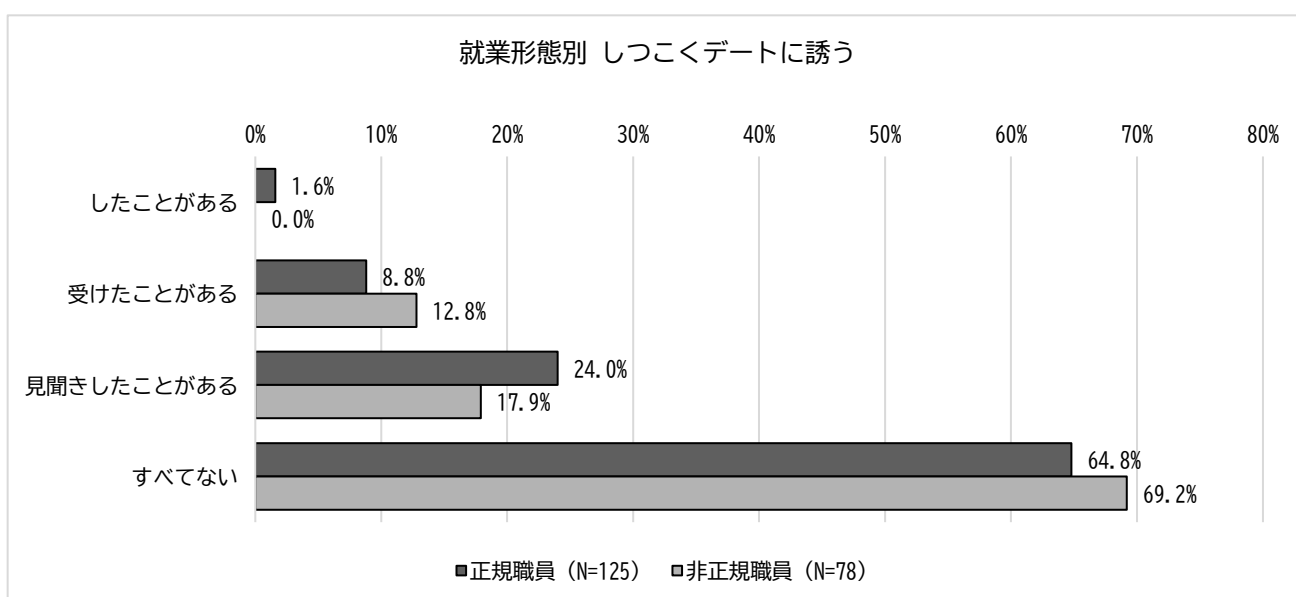
「受けたことがある」は「18～39歳」が17.6%で最も多く、「60歳以上」が6.0%で最も少なく、その差は11.6ポイントになっています。

「見聞きしたことがある」は「40～59歳」が26.7%で最も多く、「60歳以上」が12.6%で最も少なく、その差は14.1ポイントになっています。



《就業形態別》

「受けたことがある」は「非正規職員」が12.8%に対し、「正規職員」は8.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を4.0ポイント上回り、「見聞きしたことがある」は「正規職員」が24.0%に対し、「非正規職員」は17.9%と、「正規職員」が「非正規職員」を6.1ポイント上回っています。



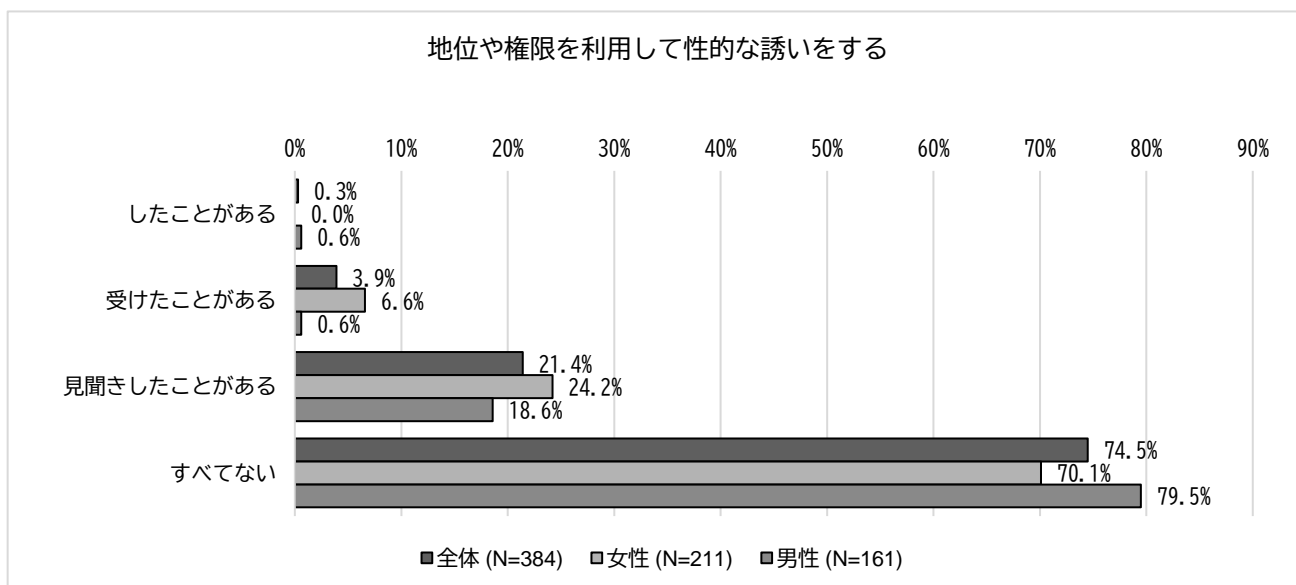
⑥ 地位や権限を利用して性的な誘いをする

《全体》

「すべてない」が 74.5%で最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が 21.4%、「受けたことがある」が 3.9%となっています。

《男女別》

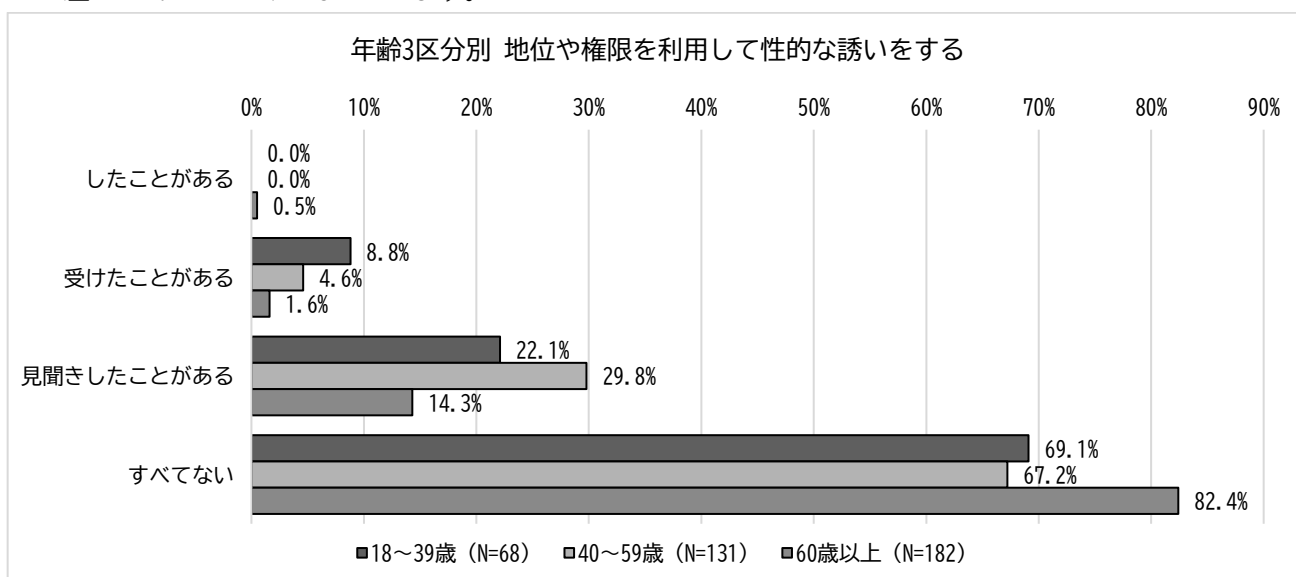
「すべてない」は「男性」が 79.5%に対し、「女性」は 70.1%と、「男性」が「女性」を 9.4 ポイント上回り、「受けたことがある」は「女性」が 6.6%に対し、「男性」は 0.6%と、「女性」が「男性」を 6.0 ポイント上回り、「見聞きしたことがある」は「女性」が 24.2%に対し、「男性」は 18.6%と、「女性」が「男性」を 5.6 ポイント上回っています。



《年齢 3 区分別》

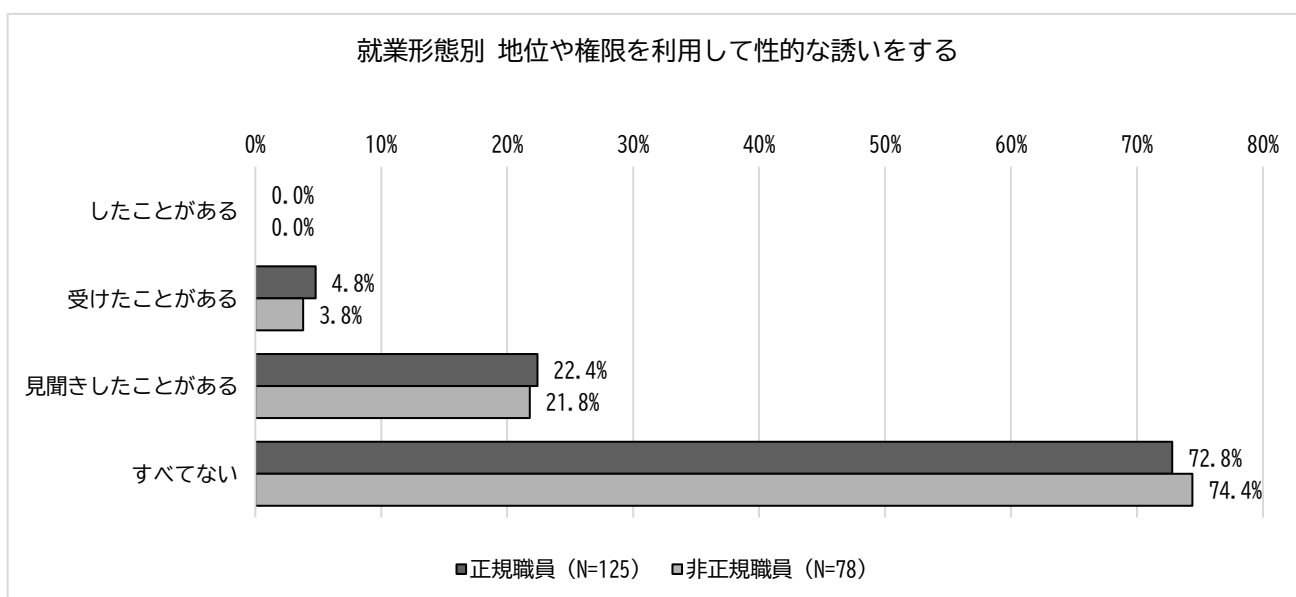
「受けたことがある」は「18～39 歳」が 8.8%で最も多く、「60 歳以上」が 1.6%で最も少なく、その差は 7.2 ポイントになっています。

「見聞きしたことがある」は「40～59 歳」が 29.8%で最も多く、「60 歳以上」が 14.3%で最も少なく、その差は 15.5 ポイントになっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



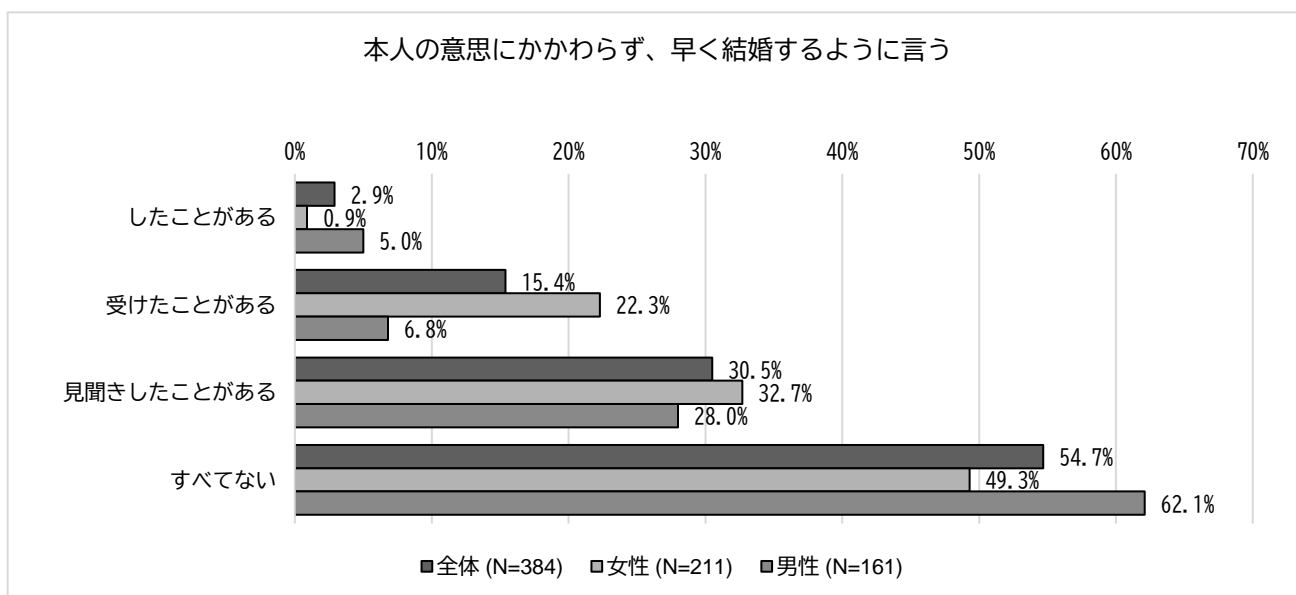
⑦ 本人の意思にかかわらず、早く結婚するように言う

《全体》

「すべてない」が 54.7%で最も多く、次いで「見聞きしたことがある」が 30.5%、「受けたことがある」が 15.4%となっています。

《男女別》

「受けたことがある」は「女性」が 22.3%に対し、「男性」は 6.8%と、「女性」が「男性」を 15.5 ポイント上回り、「すべてない」は「男性」が 62.1%に対し、「女性」は 49.3%と、「男性」が「女性」を 12.8 ポイント上回っています。

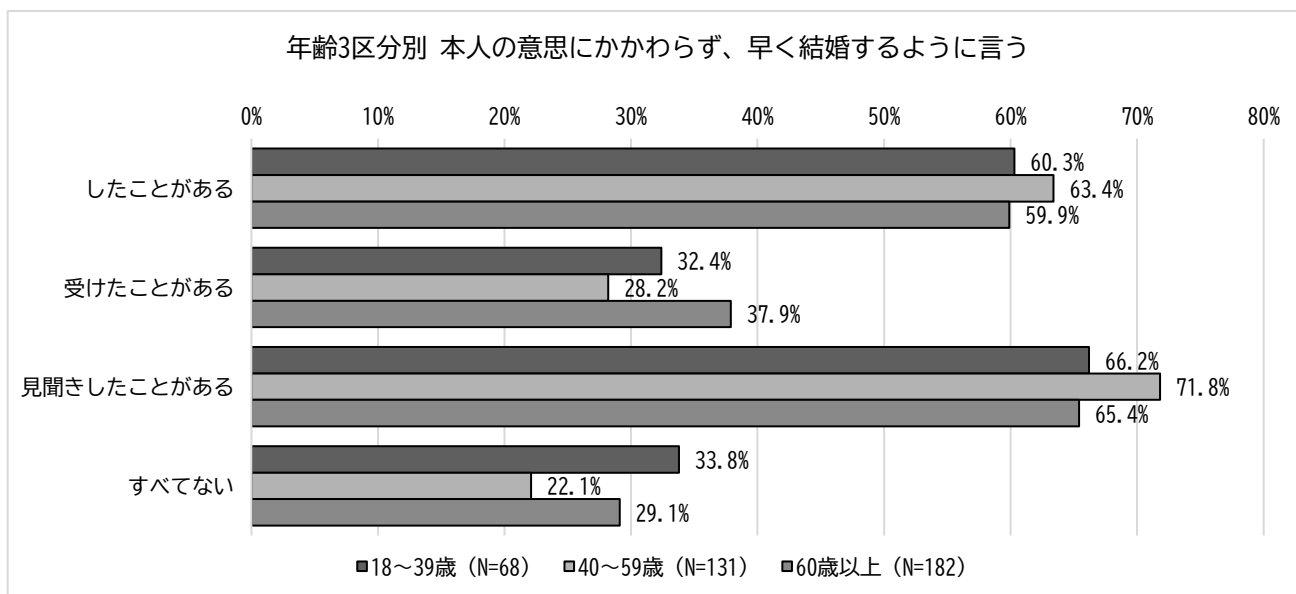


《年齢3区分別》

「受けたことがある」は「60歳以上」が37.9%で最も多く、「40～59歳」が28.2%で最も少なく、その差は9.7ポイントになっています。

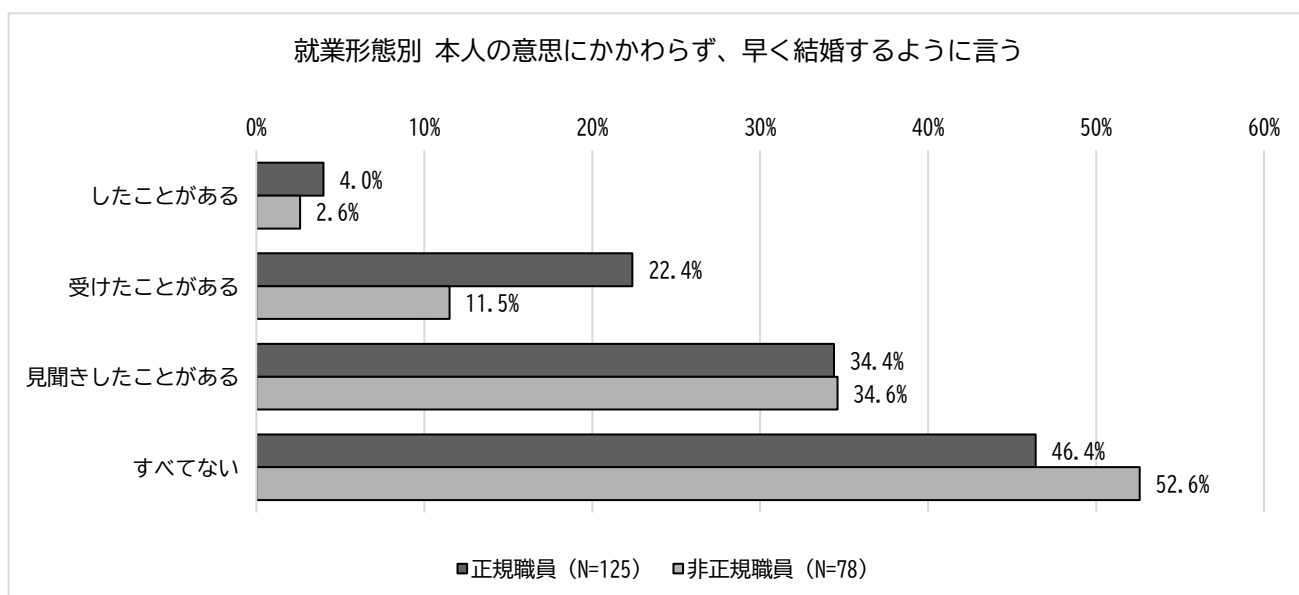
「見聞きしたことがある」は「40～59歳」が71.8%で最も多く、「60歳以上」が65.4%で最も少なく、その差は6.4ポイントになっています。

「すべてない」は「18～39歳」が33.8%で最も多く、「40～59歳」が22.1%で最も少なく、その差は11.7ポイントになっています。



《就業形態別》

「受けたことがある」は「正規職員」が22.4%に対し、「非正規職員」は11.5%と、「正規職員」が「非正規職員」を10.9ポイント上回り、「すべてない」は「非正規職員」が52.6%に対し、「正規職員」は46.4%と、「非正規職員」が「正規職員」を6.2ポイント上回っています。



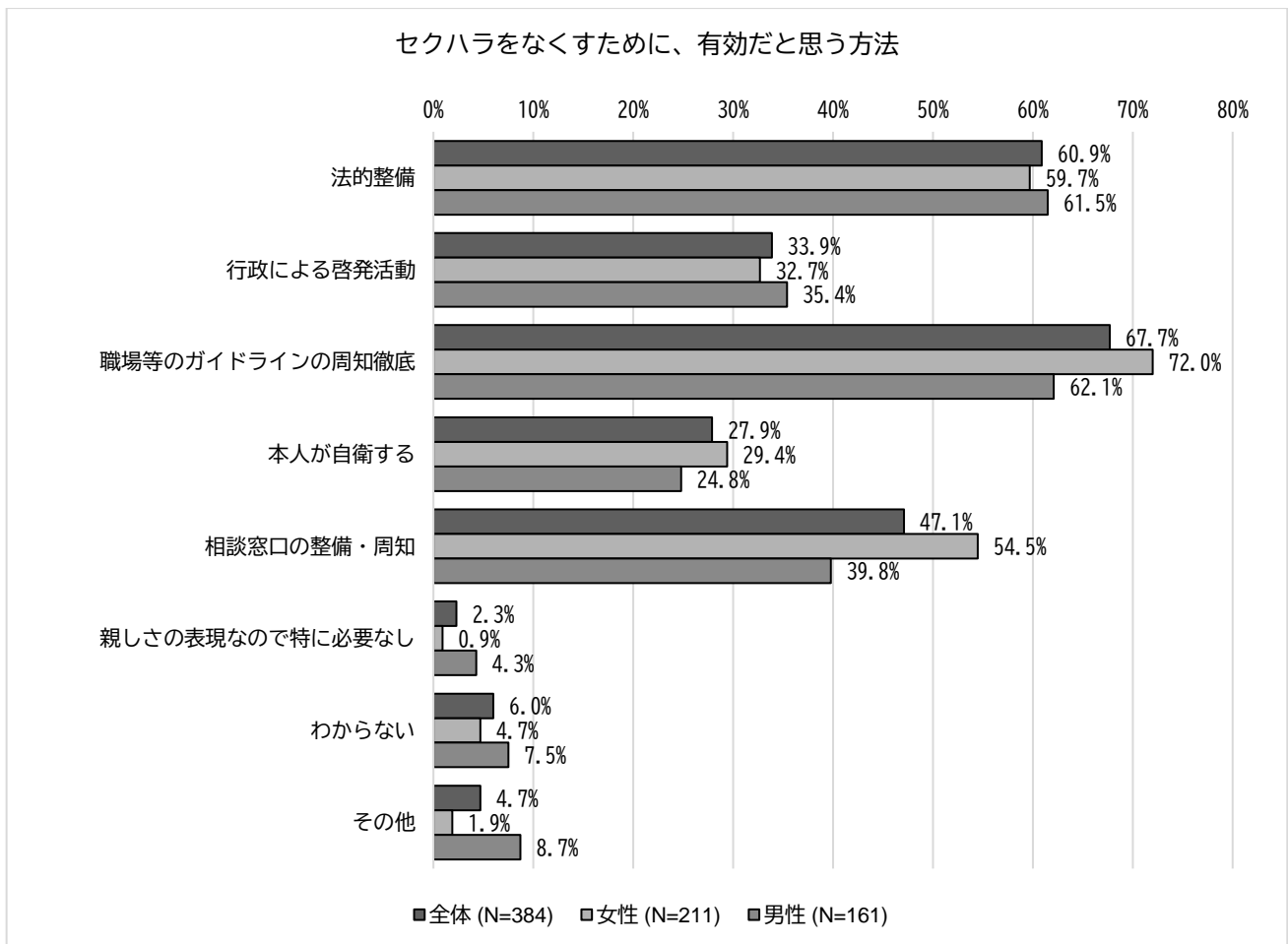
問 13 セクハラをなくすために、次のどの方法が有効だと思いますか。(あてはまるもの上位3つに○)

《全体》

「職場等のガイドラインの周知徹底」が 67.7%で最も多く、次いで「法的整備」が 60.9%、「相談窓口の整備・周知」が 47.1%となっています。

《男女別》

「相談窓口の整備・周知」は「女性」が 54.5%に対し、「男性」は 39.8%と、「女性」が「男性」を 14.7 ポイント上回り、「職場等のガイドラインの周知徹底」は「女性」が 72.0%に対し、「男性」は 62.1%と、「女性」が「男性」を 9.9 ポイント上回っています。

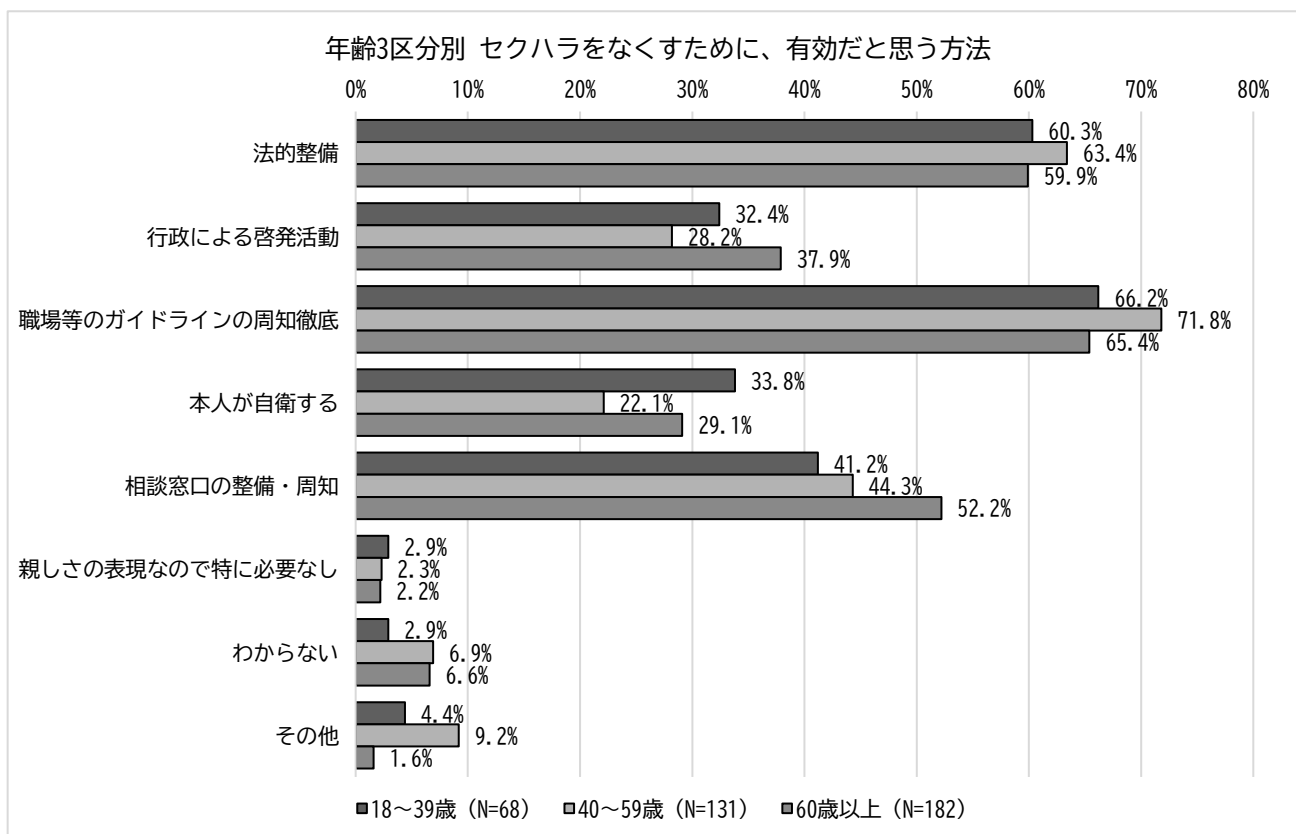


《年齢 3 区分別》

「行政による啓発活動」は「60 歳以上」が 37.9%で最も多く、「40～59 歳」が 28.2%で最も少なく、その差は 9.7 ポイントなっています。

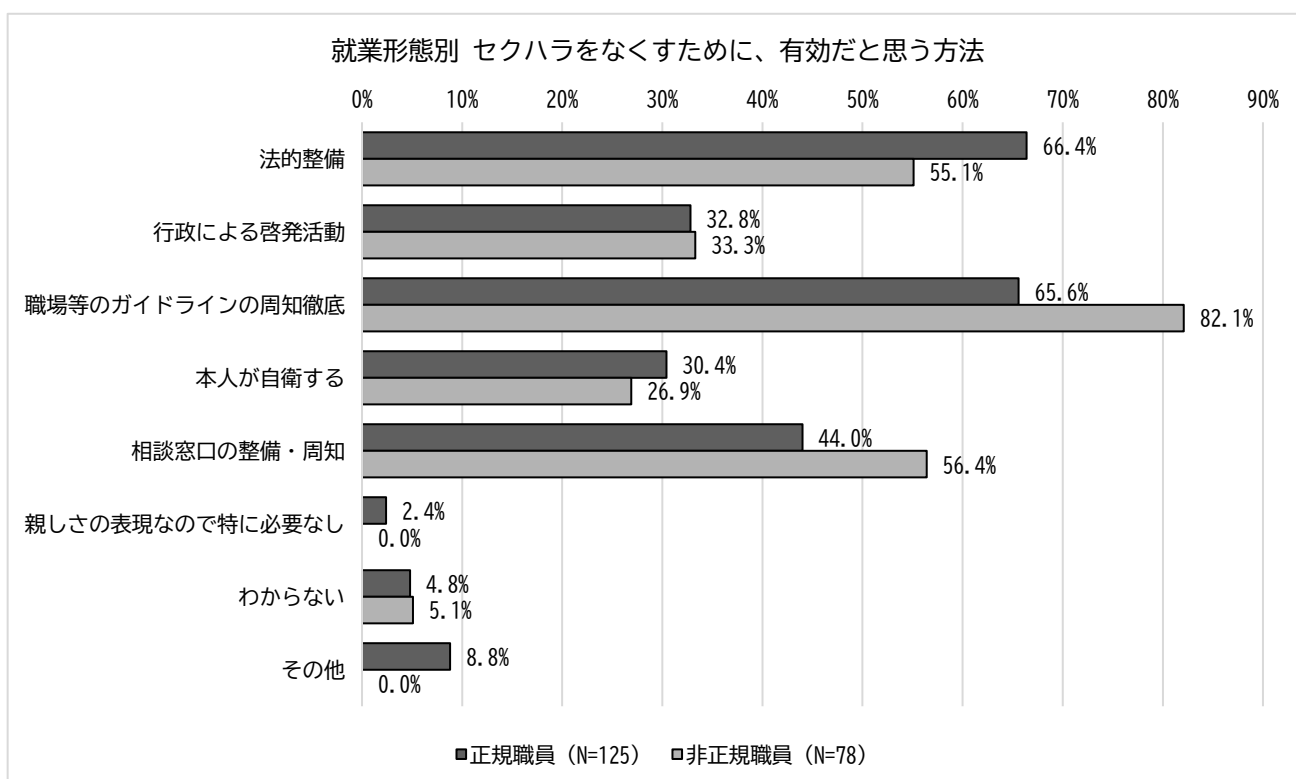
「本人が自衛する」は「18～39 歳」が 33.8%で最も多く、「40～59 歳」が 22.1%で最も少なく、その差は 11.7 ポイントなっています。

「相談窓口の整備・周知」は「60 歳以上」が 52.2%で最も多く、「18～39 歳」が 41.2%で最も少なく、その差は 11.0 ポイントなっています。



《就業形態別》

「法的整備」は「正規職員」が 66.4%に対し、「非正規職員」は 55.1%と、「正規職員」が「非正規職員」を 11.3 ポイント上回り、「職場等のガイドラインの周知徹底」は「非正規職員」が 82.1%に対し、「正規職員」は 65.6%と、「非正規職員」が「正規職員」を 16.5 ポイント上回り、「相談窓口の整備・周知」は「非正規職員」が 56.4%に対し、「正規職員」は 44.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を 12.4 ポイント上回っています。



(9) 配偶者等や交際相手からの暴力について

問 14 次のようなことが、配偶者・パートナー(事実婚・別居中を含む)や交際相手(生活の本拠を共にする)との間で起こった場合、これを暴力(DV)だと思えますか。(それぞれ〇は1つ)

「男性から女性に」限ったものではありません。「女性から男性に」「同性から同性に」も含まれます。

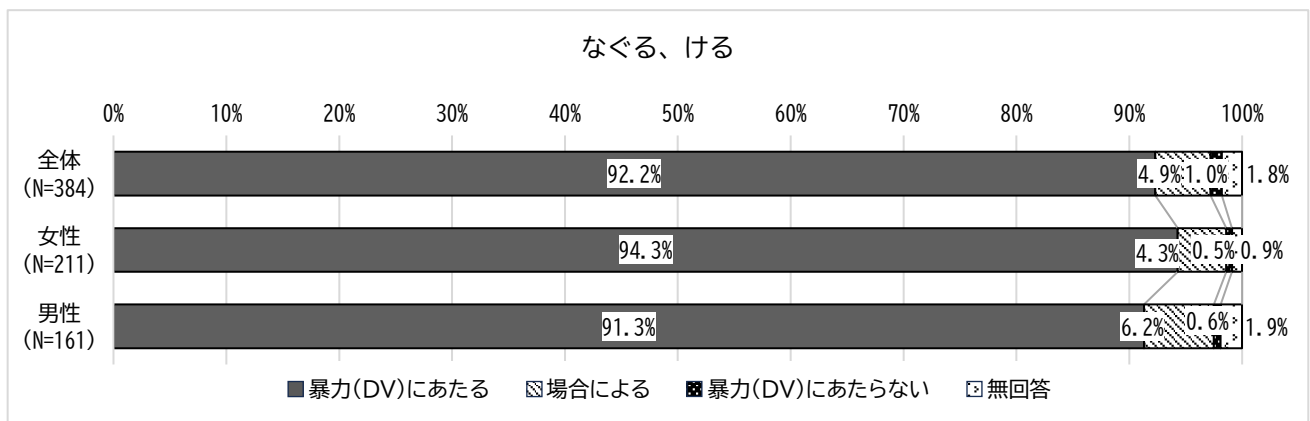
① なぐる、ける

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が 92.2%と最も多く、「場合による」は 4.9%となっています。

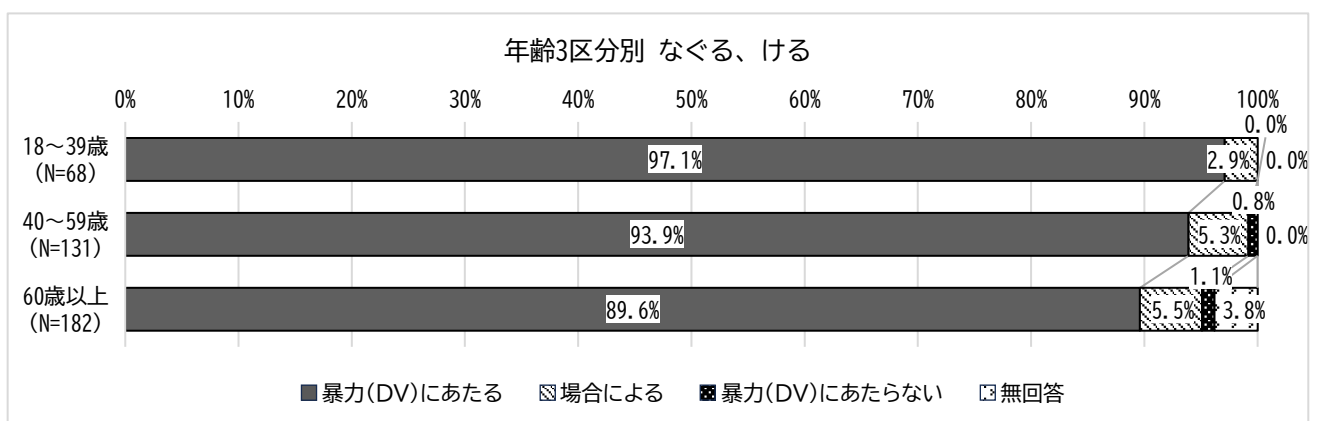
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が 94.3%に対し、「男性」は 91.3%と、「女性」が「男性」を 3.0 ポイント上回っています。



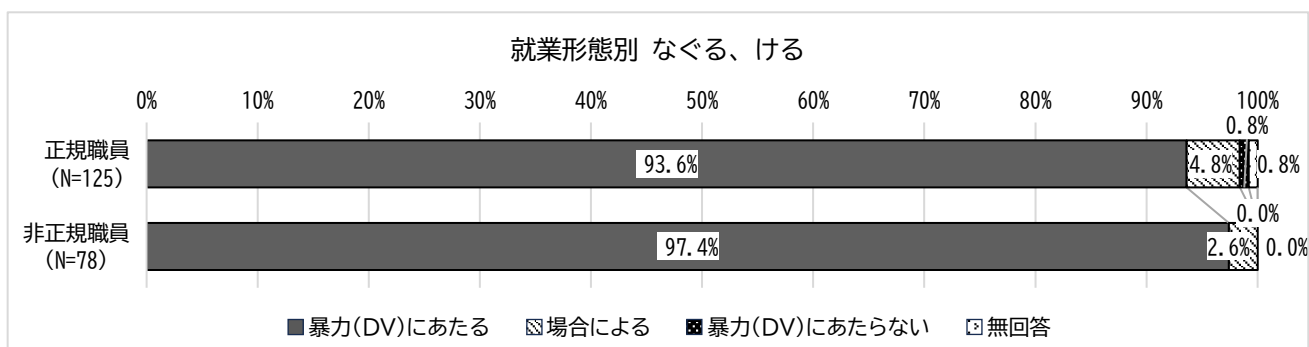
《年齢3区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「18～39歳」が 97.1%で最も多く、「60歳以上」が 89.6%で最も少なく、その差は7.5ポイントになっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



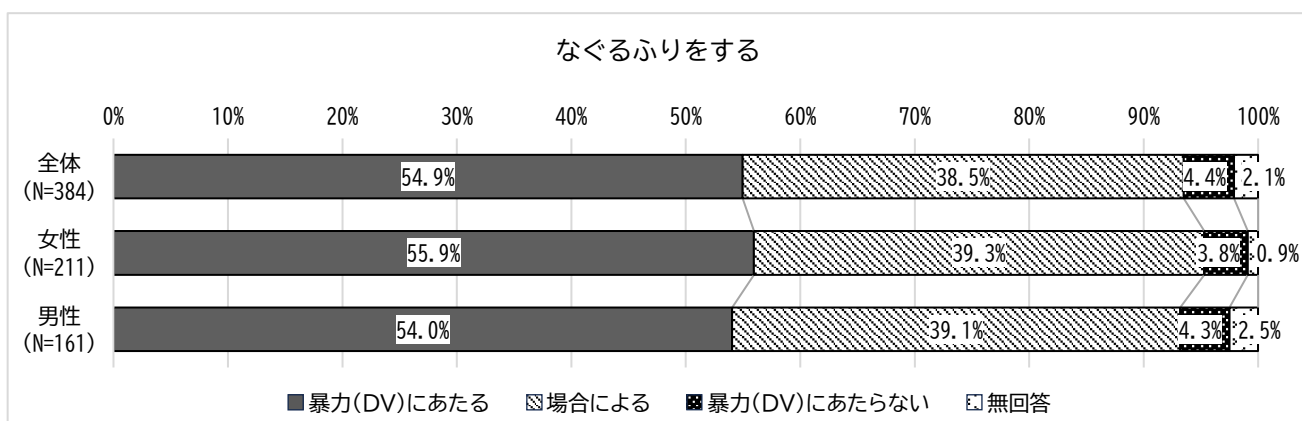
② なぐるふりをする

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が 54.9%と最も多く、「場合による」は 38.5%となっています。

《男女別》

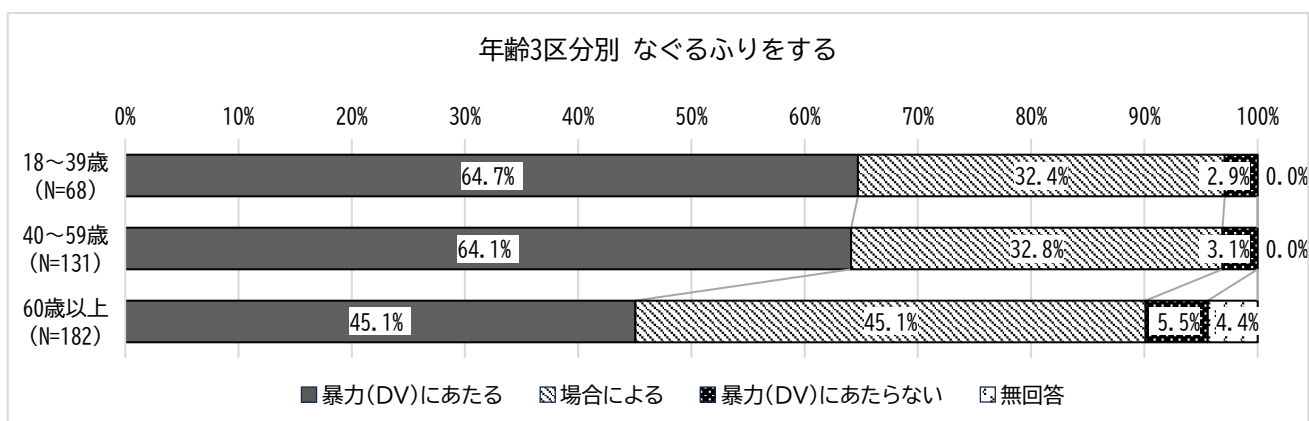
有意な差は見られません。



《年齢3区分別》

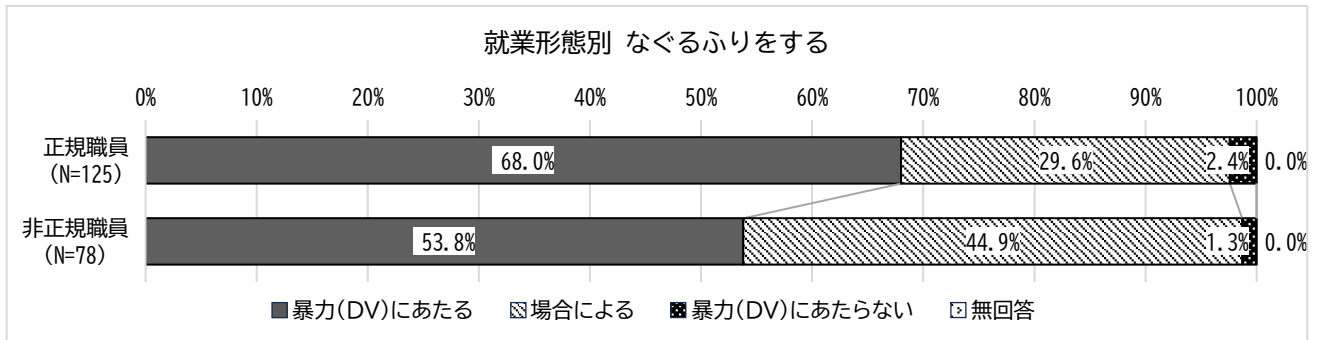
「暴力(DV)にあたる」は「18～39歳」が 64.7%で最も多く、「60歳以上」が 45.1%で最も少なく、その差は 19.6 ポイントになっています。

「場合による」は「60歳以上」が 45.1%で最も多く、「18～39歳」が 32.4%で最も少なく、その差は 12.7 ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「正規職員」が68.0%に対し、「非正規職員」は53.8%と、「正規職員」が「非正規職員」を14.2ポイント上回り、「場合による」は「非正規職員」が44.9%に対し、「正規職員」は29.6%と、「非正規職員」が、「正規職員」を15.3ポイント上回っています。



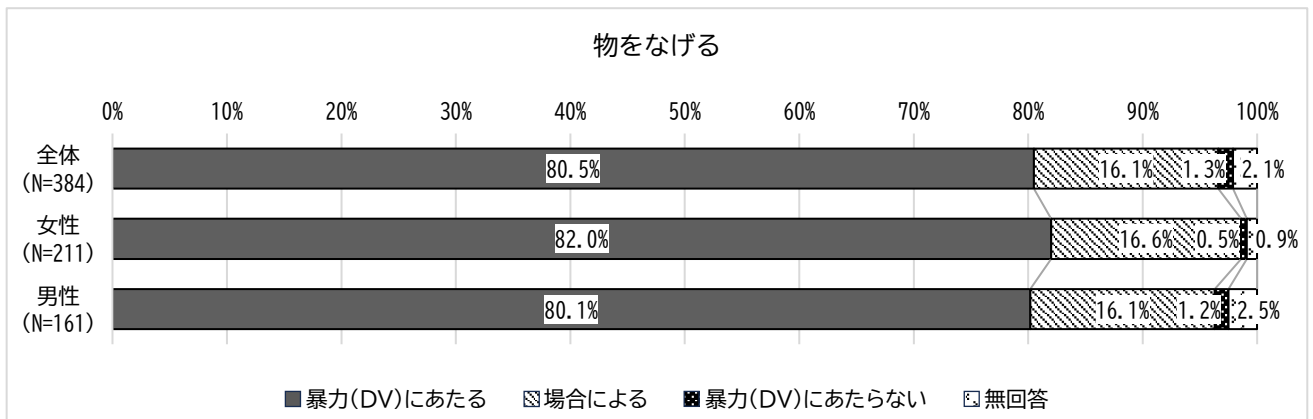
③ 物をなげる

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が80.5%と最も多く、「場合による」は16.1%となっています。

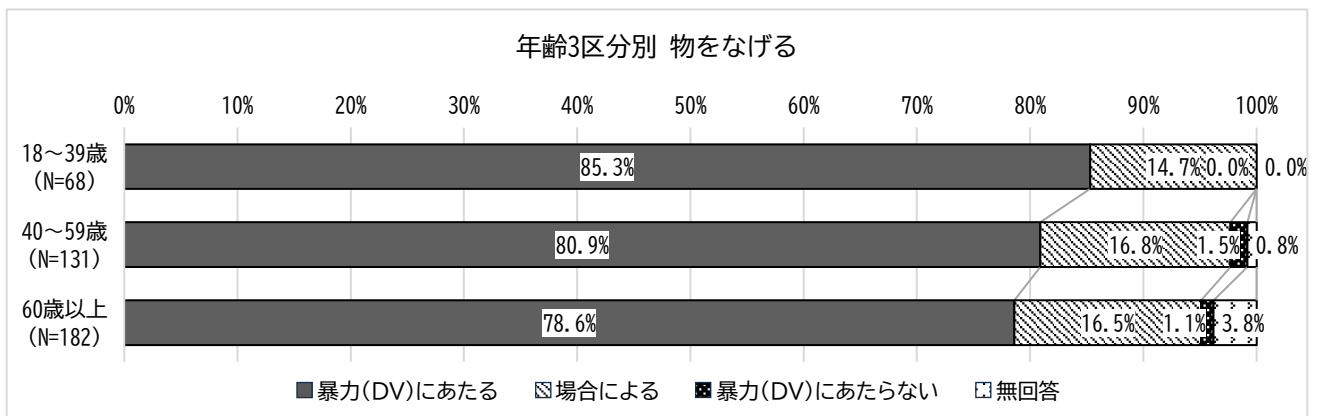
《男女別》

有意な差は見られません。



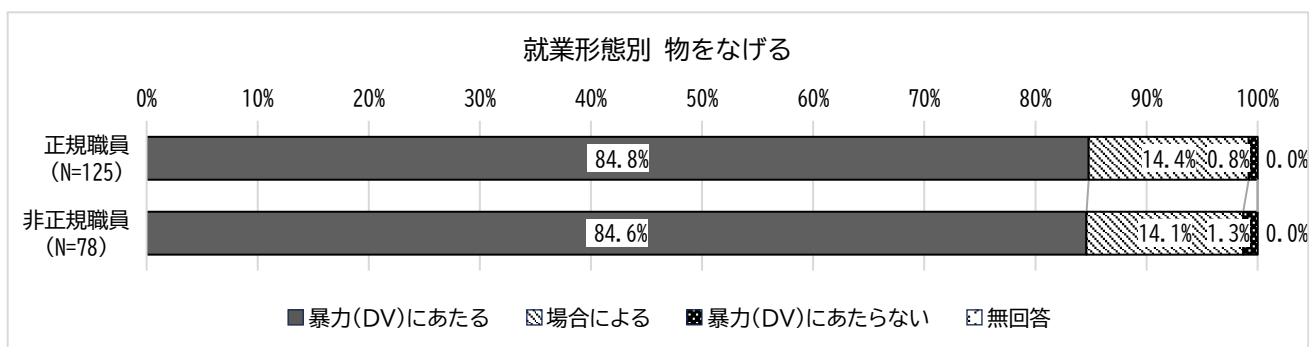
《年齢3区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「18～39歳」が85.3%で最も多く、「60歳以上」が78.6%で最も少なく、その差は6.7ポイントになっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



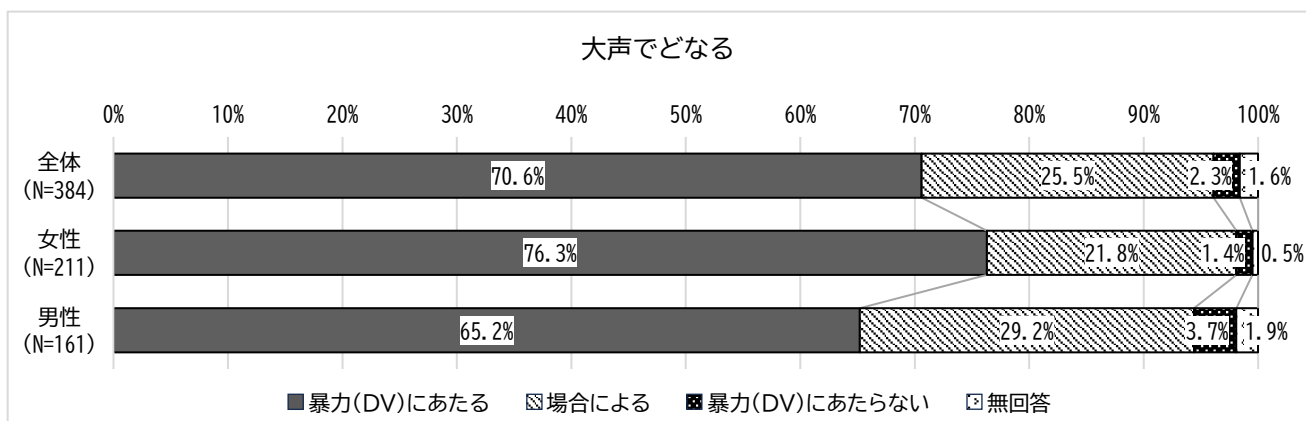
④ 大声でどなる

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が70.6%と最も多く、「場合による」は25.5%となっています。

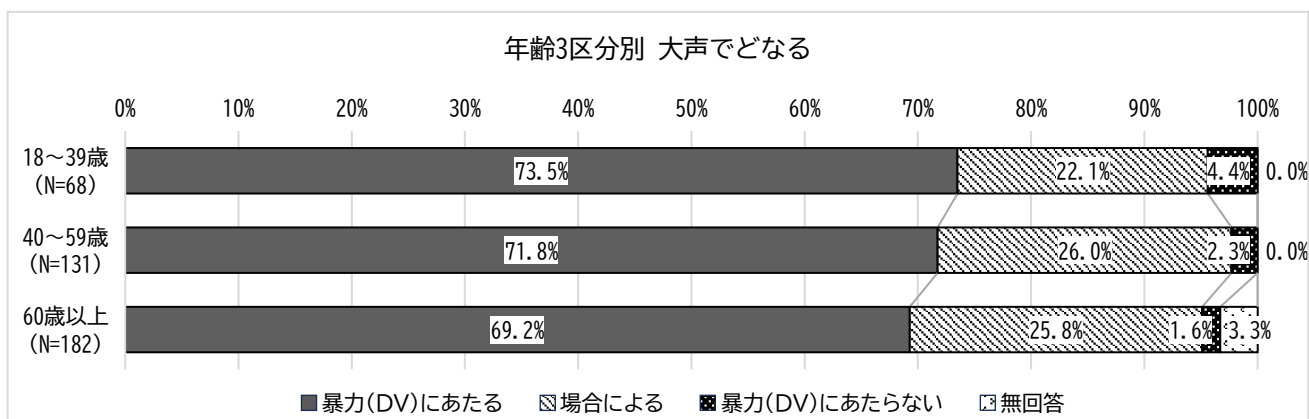
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が76.3%に対し、「男性」は65.2%と、「女性」が「男性」を11.1ポイント上回り、「場合による」は「男性」が29.2%に対し、「女性」は21.8%と、「男性」が「女性」を7.4ポイント上回っています。



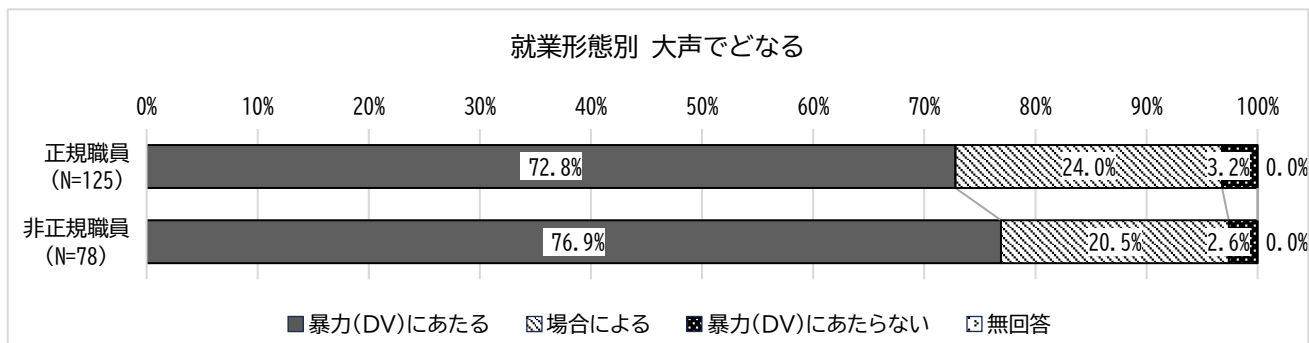
《年齢3区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「18～39歳」が73.5%で最も多く、「60歳以上」が69.2%で最も少なく、その差は4.3ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が76.9%に対し、「正規職員」は72.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を4.1ポイント上回っています。



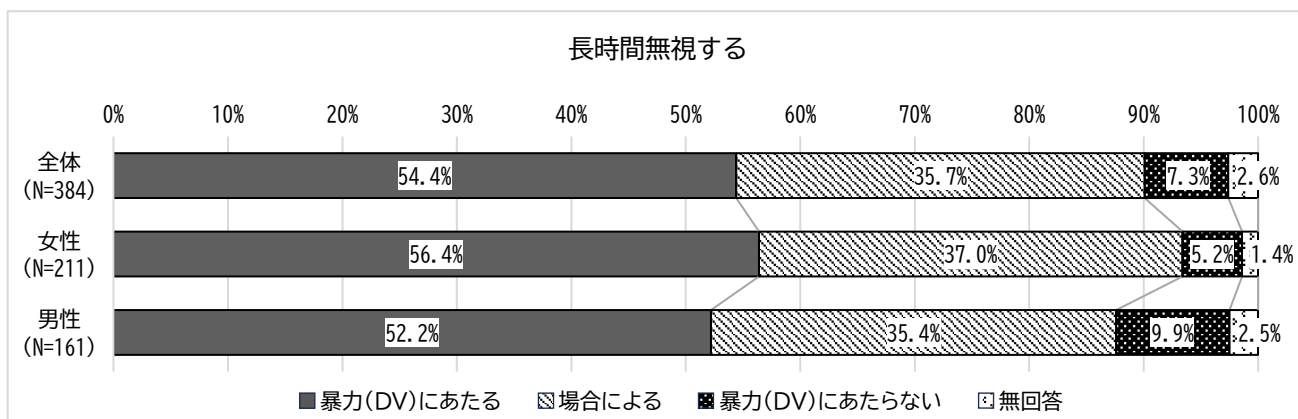
⑤ 長時間無視する

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が54.4%と最も多く、「場合による」は35.7%となっています。

《男女別》

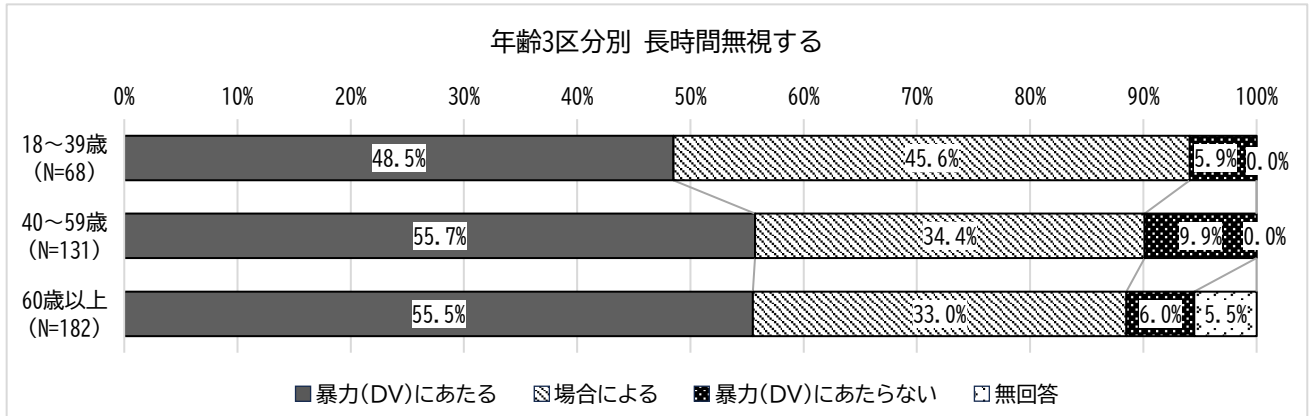
「暴力(DV)にあたる」は「女性」が56.4%に対し、「男性」は52.2%と、「女性」が「男性」を4.2ポイント上回り、「暴力(DV)にあたらぬ」は「男性」が9.9%に対し、「女性」が5.2%と、「男性」が「女性」を4.7ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

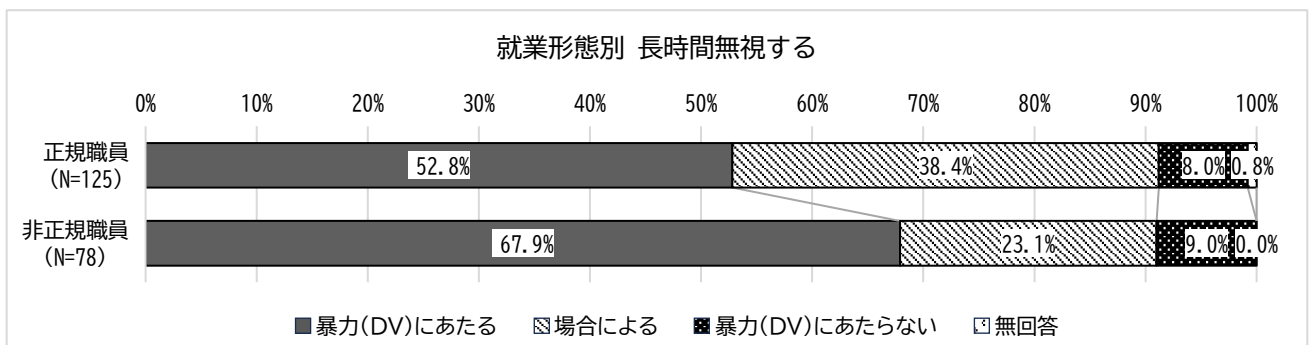
「暴力(DV)にあたる」は「40～59歳」が55.7%で最も多く、「18～39歳」が48.5%で最も少なく、その差は7.2ポイントになっています。

「場合による」は「18～39歳」が45.6%で最も多く、「60歳以上」が33.0%で最も少なく、その差は12.6ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が67.9%に対し、「正規職員」は52.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を15.1ポイント上回り、「場合による」は「正規職員」が38.4%に対し、「非正規職員」は23.1%と、「正規職員」が「非正規職員」を15.3ポイント上回っています。



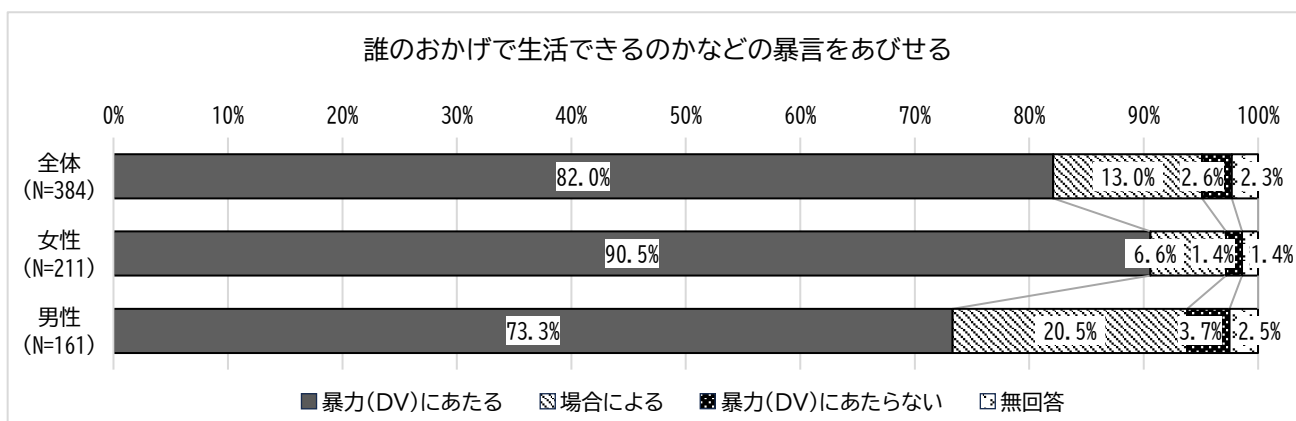
⑥ 誰のおかげで生活できるのかななどの暴言をあびせる

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が82.0%と最も多く、「場合による」は13.0%となっています。

《男女別》

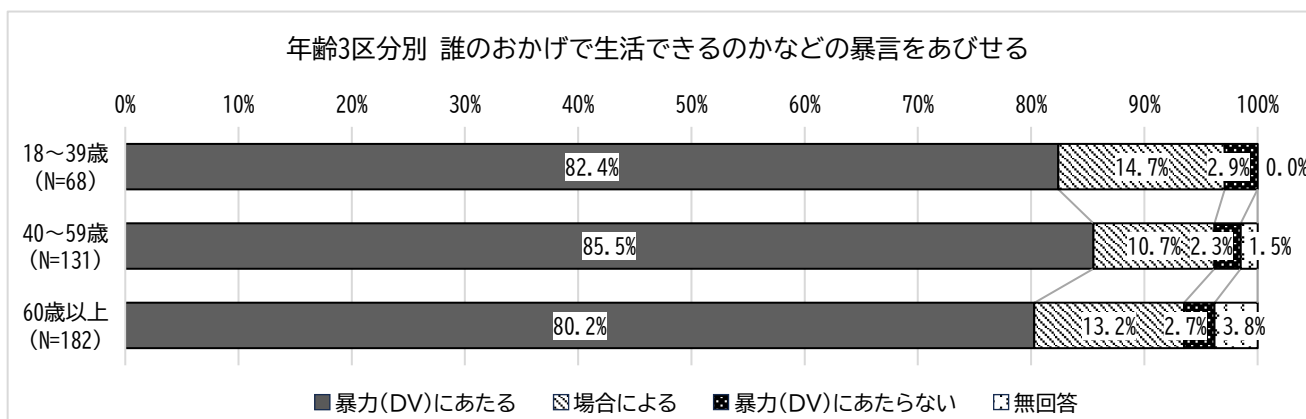
「暴力(DV)にあたる」は「女性」が90.5%に対し、「男性」は73.3%と、「女性」が「男性」を17.2ポイント上回り、「場合による」は「男性」が20.5%に対し、「女性」は6.6%と、「男性」が「女性」を13.9ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

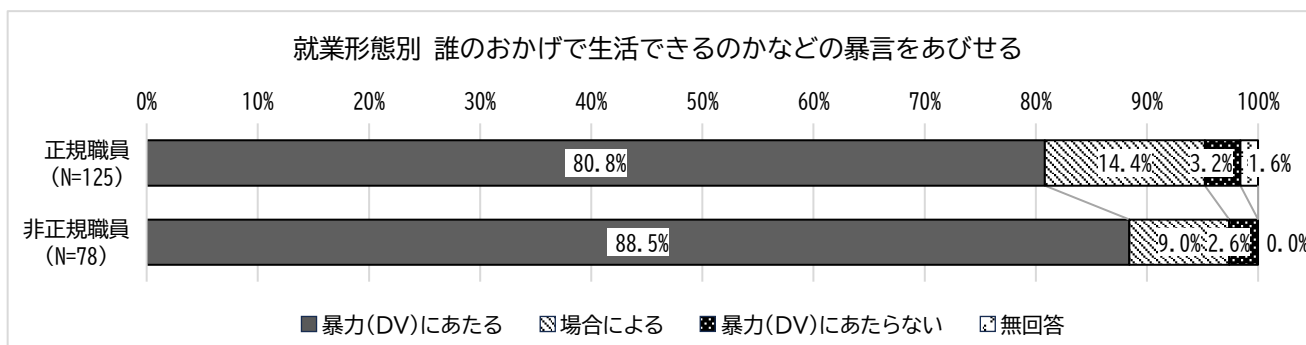
「暴力(DV)にあたる」は「40～59歳」が85.5%で最も多く、「60歳以上」が80.2%で最も少なく、その差は5.3ポイントになっています。

「場合による」は「18～39歳」が14.7%で最も多く、「40～59歳」が10.7%で最も少なく、その差は4.0ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が88.5%に対し、「正規職員」は80.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を7.7ポイント上回り、「場合による」は「正規職員」が14.4%に対し、「非正規職員」は9.0%と、「正規職員」が「非正規職員」を5.4ポイント上回っています。



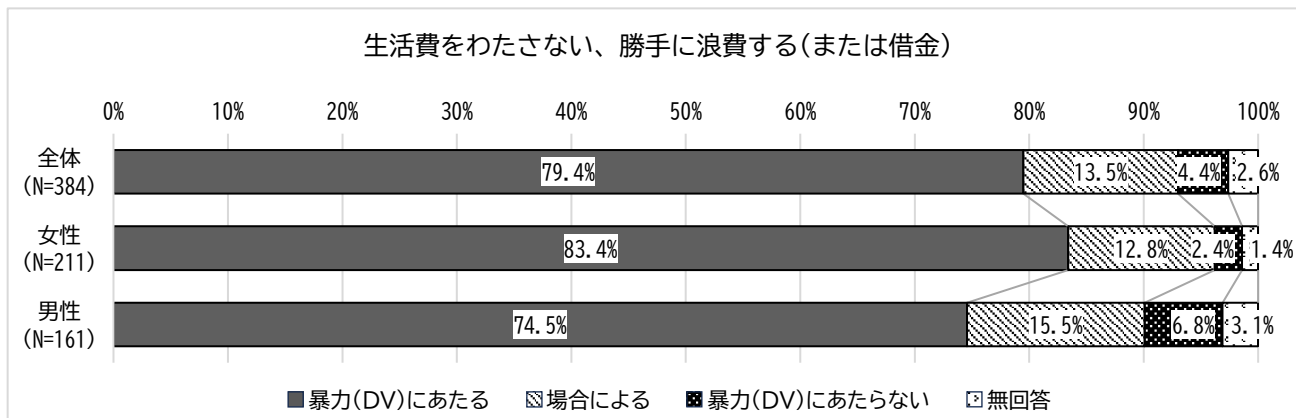
⑦ 生活費をわたさない、勝手に浪費する(または借金)

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が79.4%と最も多く、「場合による」は13.5%となっています。

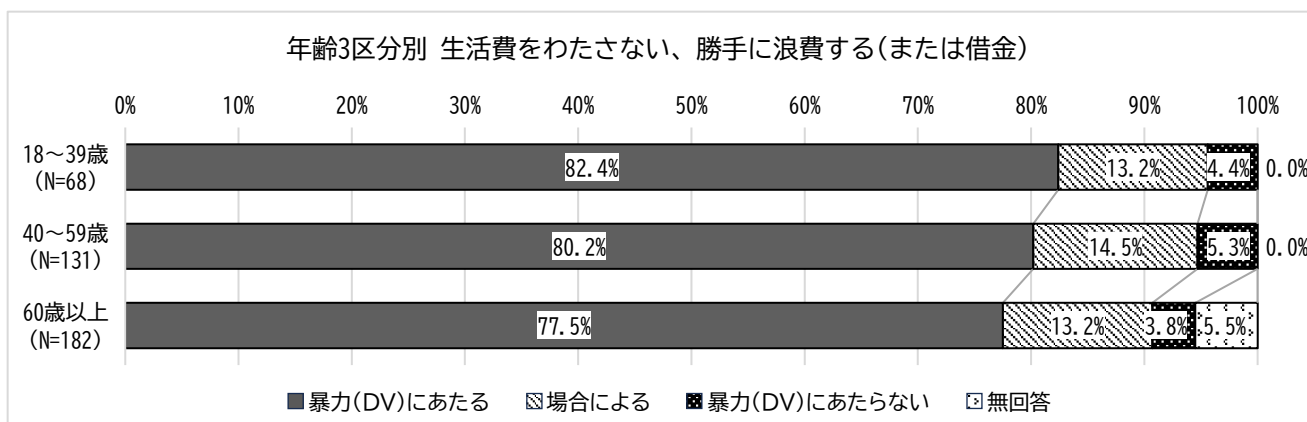
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が83.4%に対し、「男性」は74.5%と、「女性」が「男性」を8.9ポイント上回り、「暴力(DV)にあたらぬ」は「男性」が6.8%に対し、「女性」は2.4%と、「男性」が「女性」を4.4ポイント上回っています。



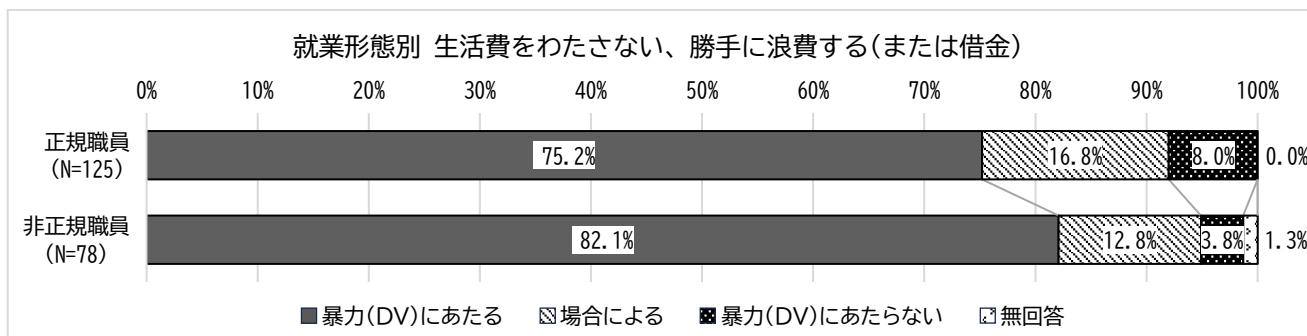
《年齢3区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「18～39歳」が82.4%で最も多く、「60歳以上」が77.5%で最も少なく、その差は4.9ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が82.1%に対し、「正規職員」は75.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を6.9ポイント上回っています。



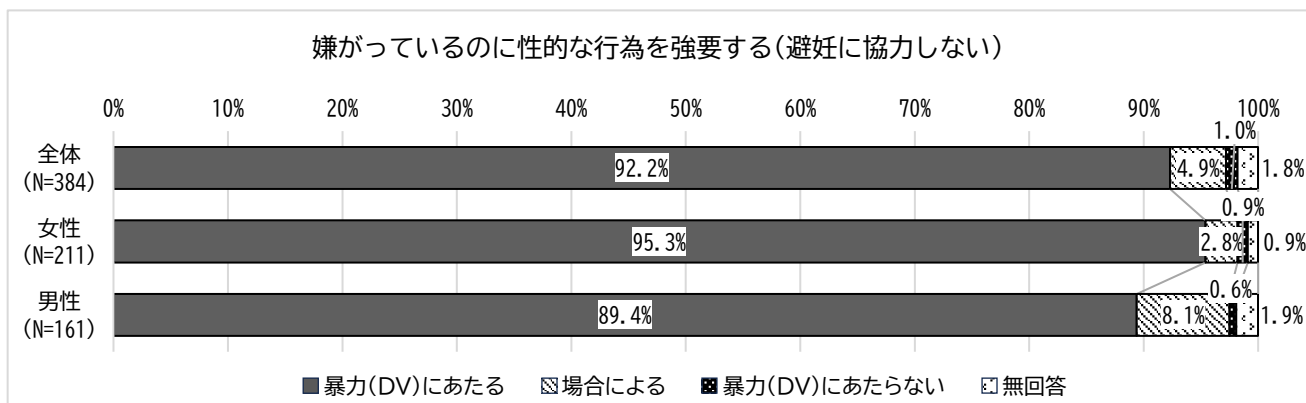
⑧ 嫌がっているのに性的な行為を強要する(避妊に協力しない)

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が 92.2%と最も多く、「場合による」は 4.9%となっています。

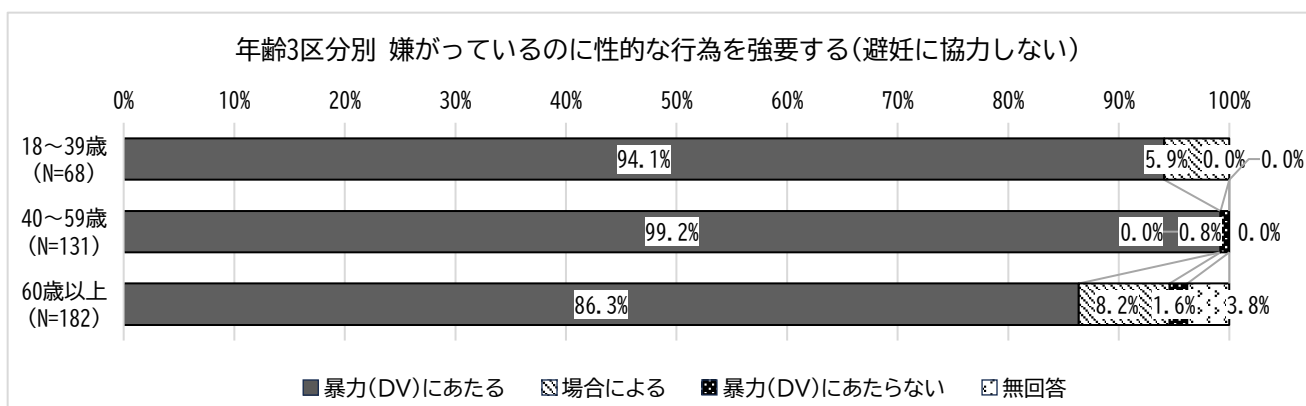
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が 95.3%に対し、「男性」は 89.4%と、「女性」が「男性」を 5.9 ポイント上回り、「場合による」は「男性」が 8.1%に対し、「女性」が 2.8%と、「男性」が「女性」を 5.3 ポイント上回っています。



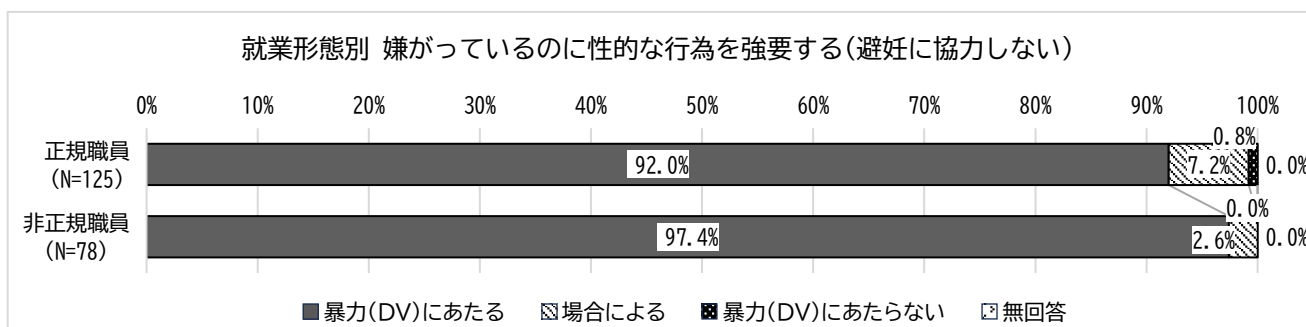
《年齢3区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「40～59歳」が 99.2%で最も多く、「60歳以上」が 86.3%で最も少なく、その差は 12.9 ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が 97.4%に対し、「正規職員」は 92.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を 5.4 ポイント上回っています



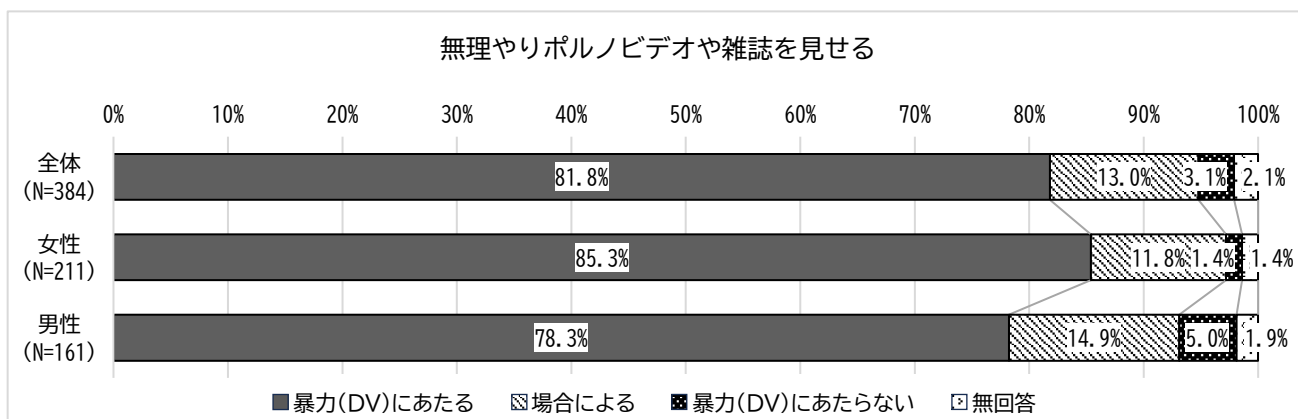
⑨ 無理やりポルノビデオや雑誌を見せる

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が 81.8%と最も多く、「場合による」は 13.0%となっています。

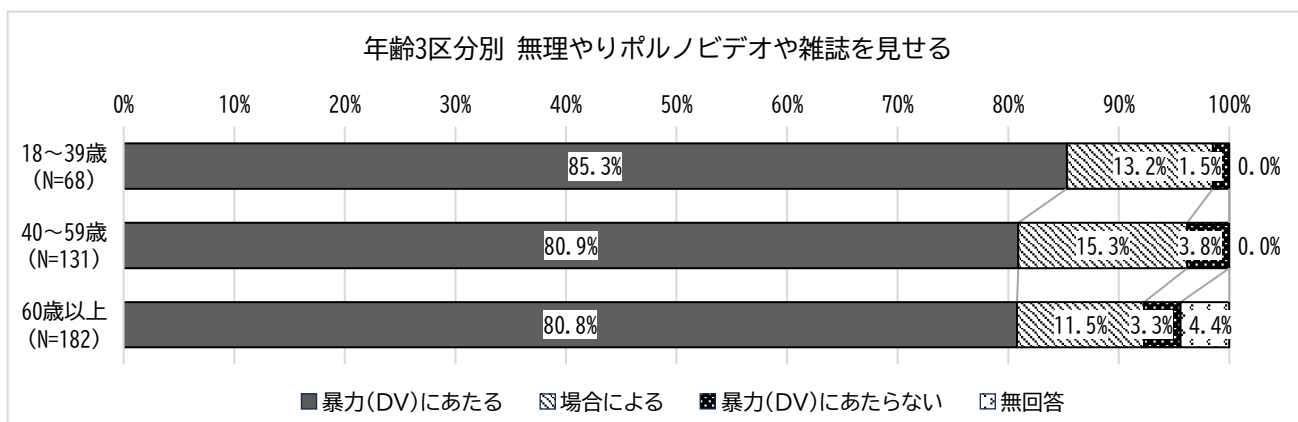
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が 85.3%に対し、「男性」は 78.3%と、「女性」が「男性」を 7.0 ポイント上回り、「暴力(DV)にあたらぬ」は「男性」が 5.0%に対し、「女性」は 1.4%と、「男性」が「女性」を 3.6 ポイント上回っています。



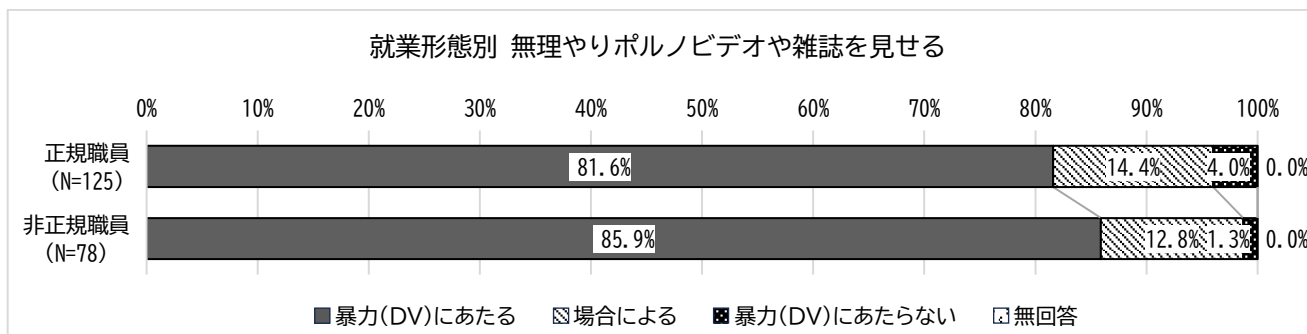
《年齢3区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「18～39歳」が 85.3%で最も多く、「60歳以上」が 80.8%で最も少なく、その差は 4.5 ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が 85.9%に対し、「正規職員」は 81.6%と、「非正規職員」が「正規職員」を 4.3 ポイント上回っています。



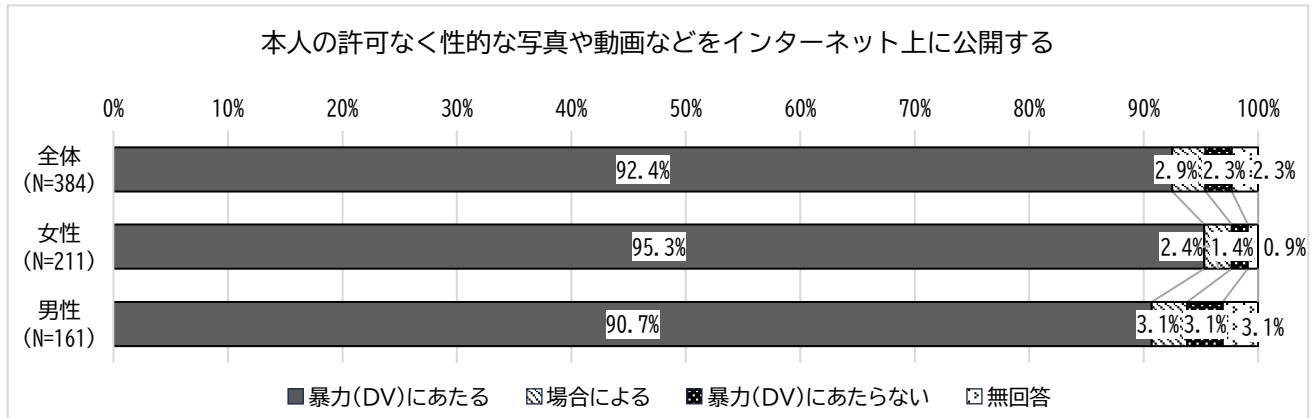
⑩ 本人の許可なく性的な写真や動画などをインターネット上に公開する

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が 92.4%と最も多く、「場合による」は 2.9%となっています。

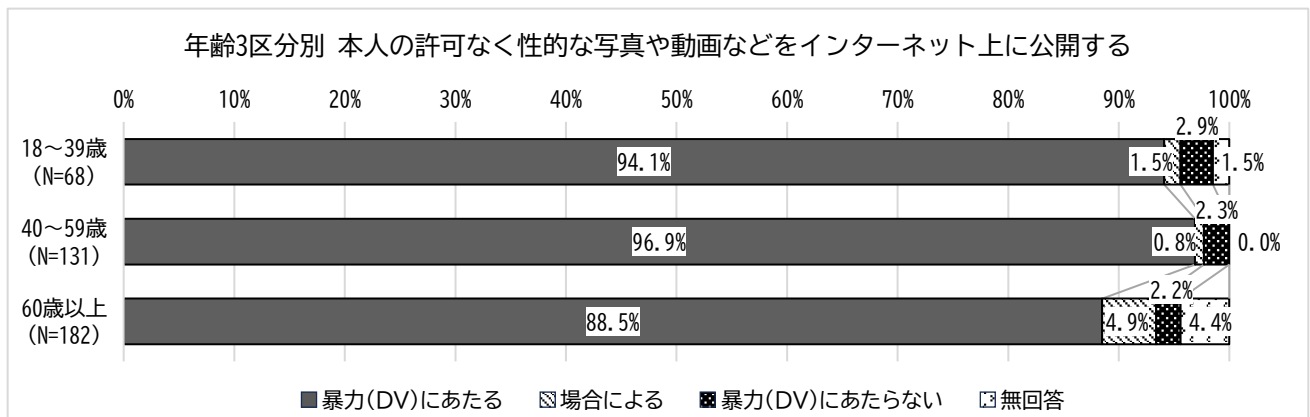
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が 95.3%に対し、「男性」は 90.7%と、「女性」が「男性」を 4.6 ポイント上回っています。



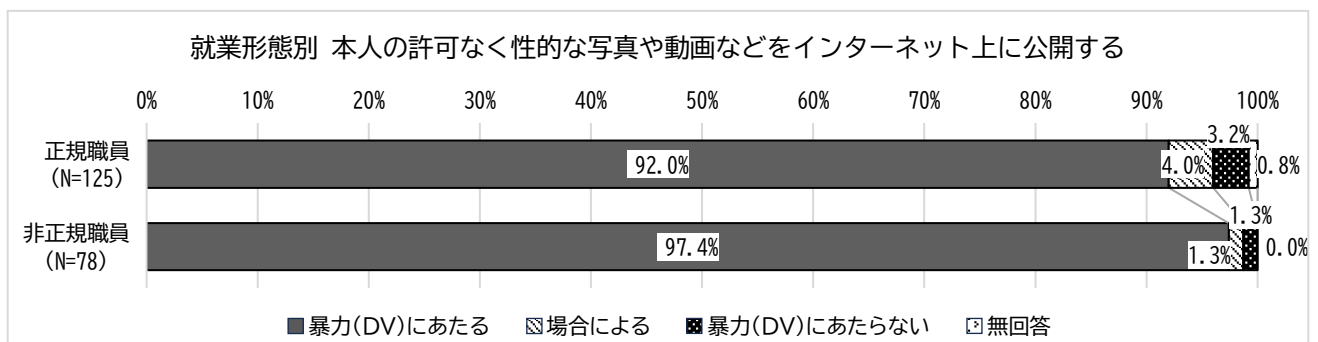
《年齢 3 区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「40～59 歳」が 96.9%で最も多く、「60 歳以上」が 88.5%で最も少なく、その差は 8.4 ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が 97.4%に対し、「正規職員」は 92.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を 5.4 ポイント上回っています。



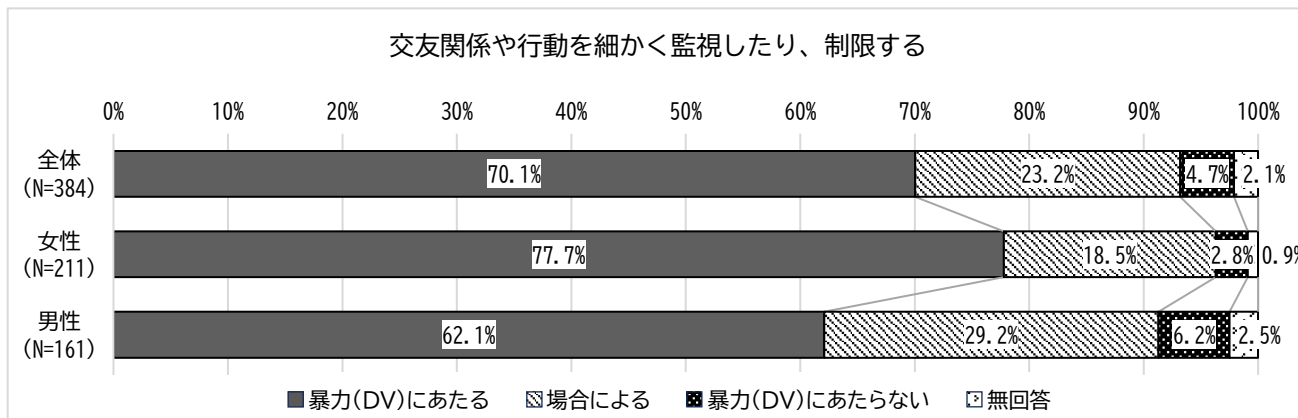
① 交友関係や行動を細かく監視したり、制限する

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が70.1%と最も多く、「場合による」は23.2%となっています。

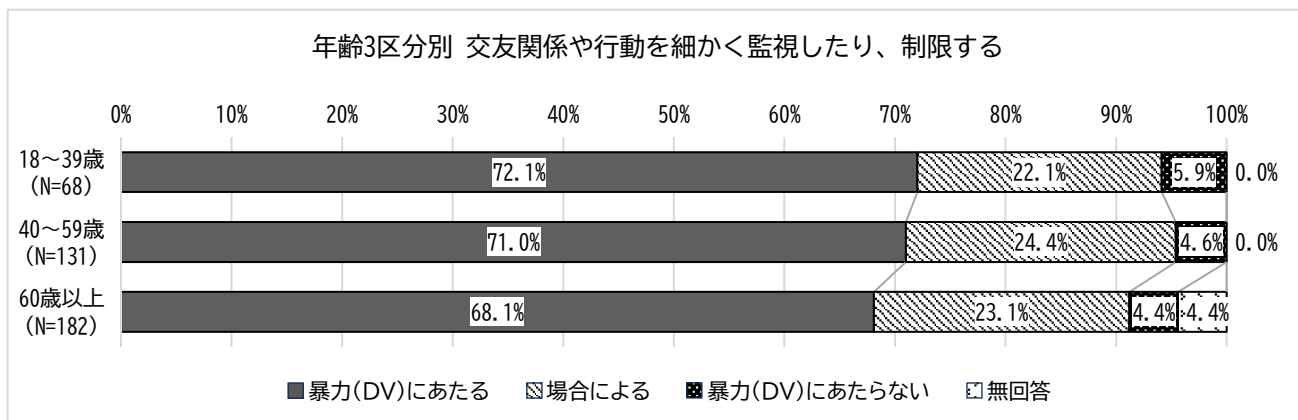
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が77.7%に対し、「男性」は62.1%と、「女性」が「男性」を15.6ポイント上回り、「場合による」は「男性」が29.2%に対し、「女性」は18.5%と、「男性」が「女性」を10.7ポイント上回っています。



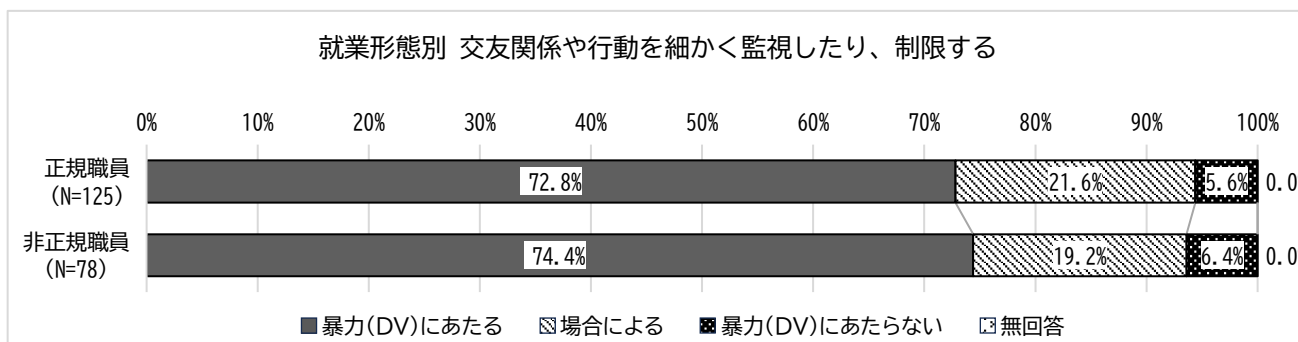
《年齢3区分別》

「暴力(DV)にあたる」は「18～39歳」が72.1%で最も多く、「60歳以上」が68.1%で最も少なく、その差は4.0ポイントになっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



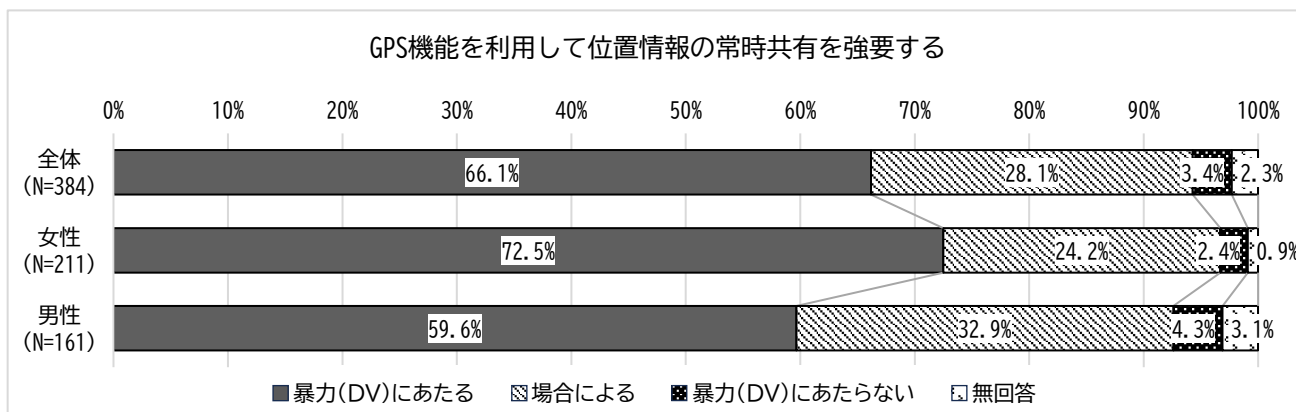
⑫ GPS 機能を利用して位置情報の常時共有を強要する

《全体》

「暴力(DV)にあたる」が 66.1%と最も多く、「場合による」は 28.1%となっています。

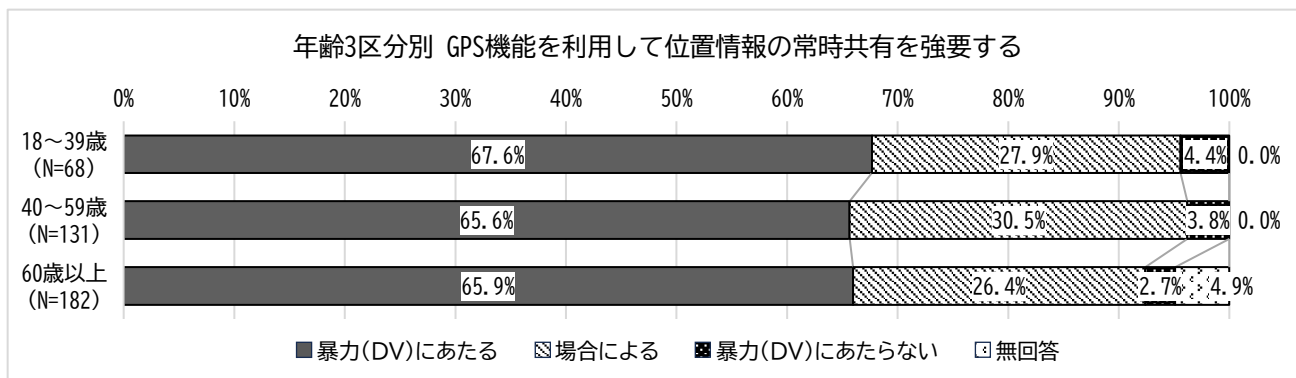
《男女別》

「暴力(DV)にあたる」は「女性」が 72.5%に対し、「男性」は 59.6%と、「女性」が「男性」を 12.9 ポイント上回り、「場合による」は「男性」が 32.9%に対し、「女性」は 24.2%と、「男性」が「女性」を 8.7 ポイント上回っています。



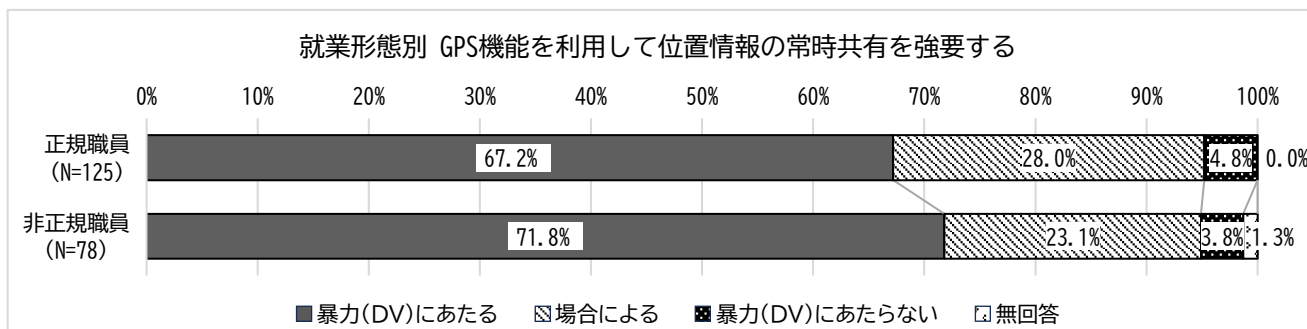
《年齢 3 区分別》

「場合による」は「40～59 歳」が 30.5%で最も多く、「60 歳以上」が 26.4%で最も少なく、その差は 4.1 ポイントになっています。



《就業形態別》

「暴力(DV)にあたる」は「非正規職員」が 71.8%に対し、「正規職員」は 67.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を 4.6 ポイント上回り、「場合による」は「正規職員」が 28.0%に対し、「非正規職員」は 23.1%と、「正規職員」が「非正規職員」を 4.9 ポイント上回っています。



問 15. 問 14 の①～②は、すべて暴力(DV)にあたりますが、あなたは、今まで暴力(DV)を受けたり、そうした行為を起こしたりしたことがありますか。また、それはどのような行為ですか。
(それぞれ〇は1つ)

※『受けたことがある合計』は「どちらもある」と「受けたことがある」の合計

※『起こしたことがある合計』は「どちらもある」と「行為を起こしたことがある」の合計

① 身体的暴力

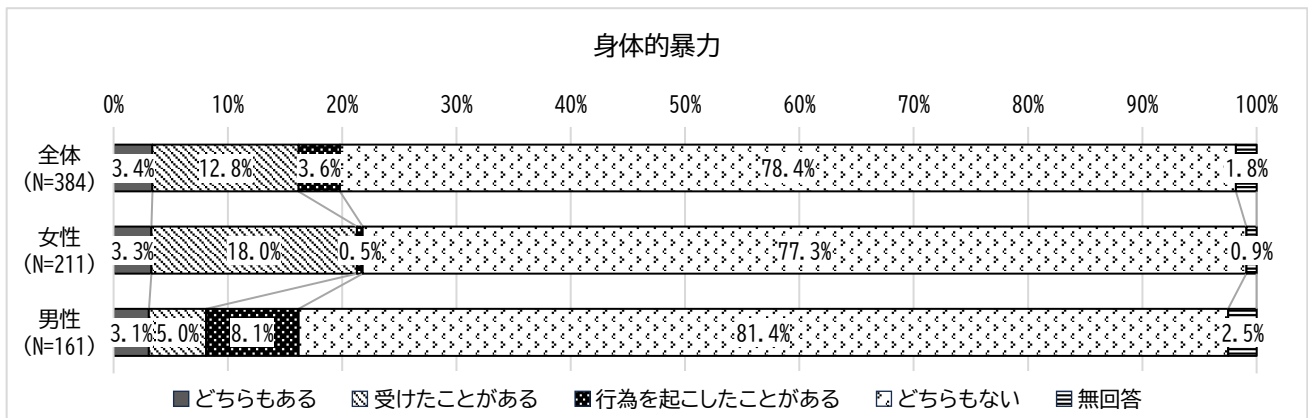
身体的暴力は問14の①なぐる、ける、②なぐるふりをする、③物をなげる、を指します。

《全体》

『受けたことがある合計』が 16.2%、『起こしたことがある合計』は 7.0%となっています。

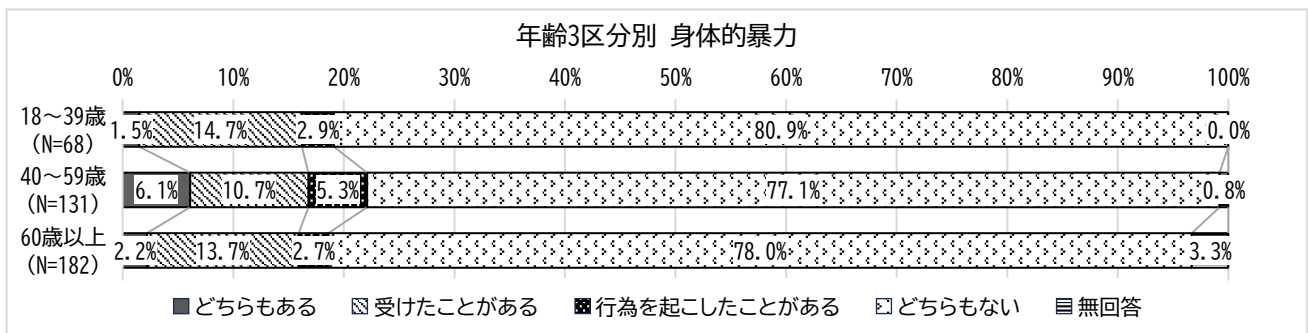
《男女別》

『受けたことがある合計』は「女性」が 21.3%に対し、「男性」は 8.1%と、「女性」が「男性」を 13.2 ポイント上回り、『起こしたことがある合計』は「男性」が 11.2%に対し、「女性」は 3.8%と、「男性」が「女性」を 7.4 ポイント上回っています。



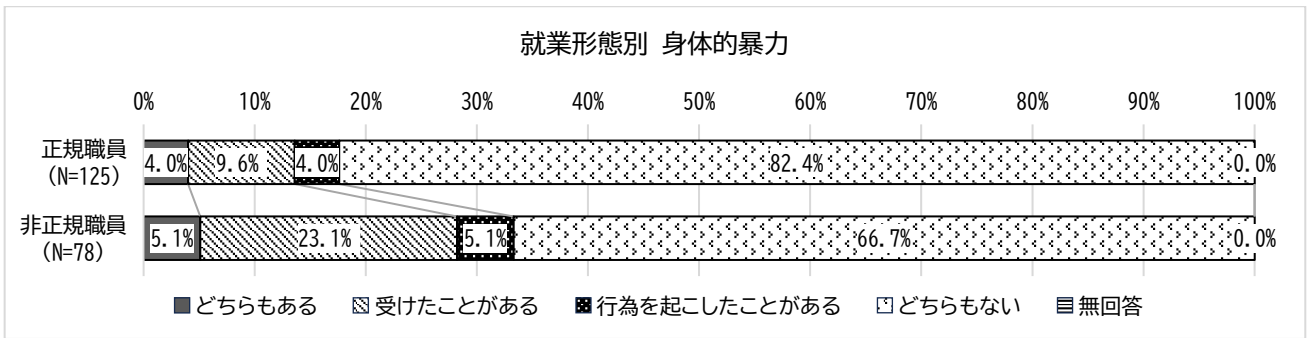
《年齢 3 区分別》

『起こしたことがある合計』は「40～59 歳」が 11.4%で最も多く、「18～39 歳」は 4.4%で最も少なく、その差は 7.0 ポイントになっています。



《就業形態別》

『受けたことがある合計』は「非正規職員」が 28.2%に対し、「正規職員」は 13.6%と、「非正規職員」が「正規職員」を 14.6 ポイント上回っています。



② 精神的暴力

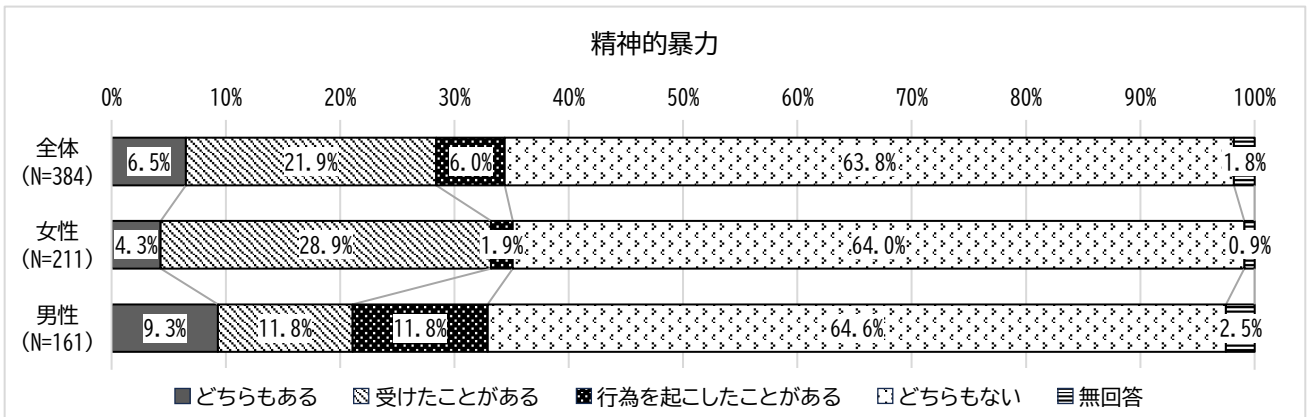
精神的暴力は、問14の④大声でどなる、⑤長時間無視する、⑥誰のおかげで生活できるのかななどの暴言をあげせる、を指します。

《全体》

『受けたことがある合計』が28.4%、『起こしたことがある合計』は12.5%となっています。

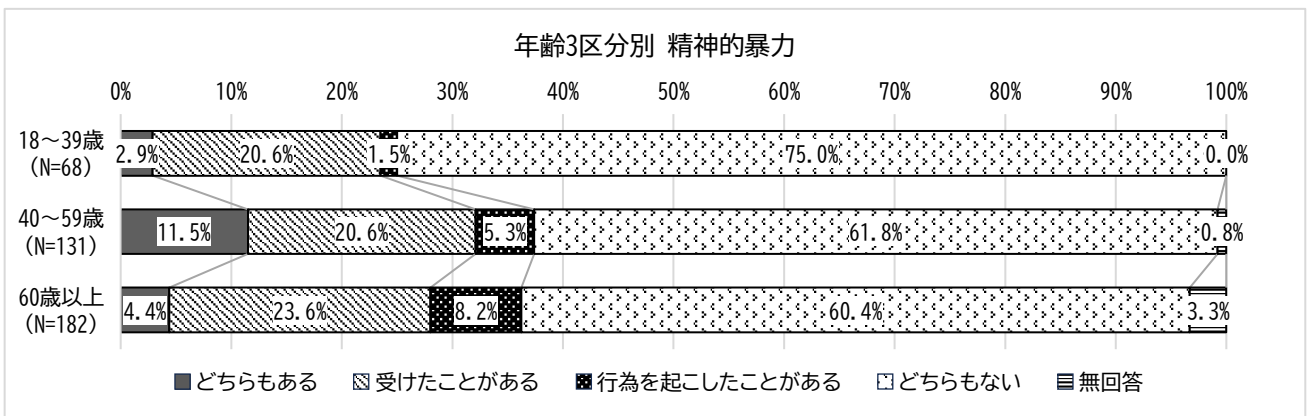
《男女別》

『受けたことがある合計』は「女性」が33.2%に対し、「男性」は21.1%と、「女性」が「男性」を12.1ポイント上回り、『起こしたことがある合計』は「男性」が21.1%に対し、「女性」は6.2%と、「男性」が「女性」を14.9ポイント上回っています。



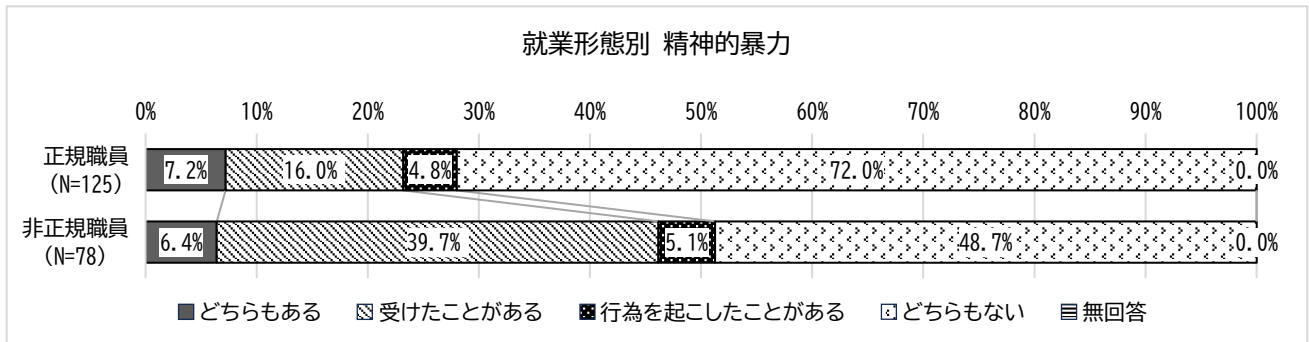
《年齢3区分別》

『受けたことがある合計』は「40～59歳」が32.1%で最も多く、「18～39歳」は23.5%で最も少なく、その差は8.6ポイントになっており、『起こしたことがある合計』は「40～59歳」が16.8%で最も多く、「18～39歳」は4.4%で最も少なく、その差は12.4ポイントになっています。



《就業形態別》

『受けたことがある合計』は「非正規職員」が46.1%に対し、「正規職員」は23.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を22.9ポイント上回っています。



③ 経済的暴力

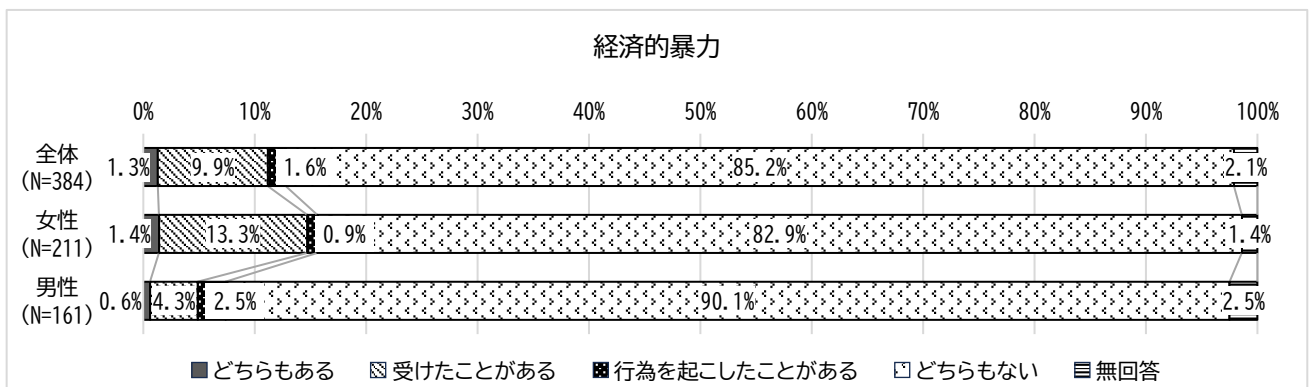
経済的暴力は、問14の⑦生活費をわたさない、勝手に浪費する(または借金)、を指します。

《全体》

『受けたことがある合計』が11.2%、『起こしたことがある合計』は2.9%となっています。

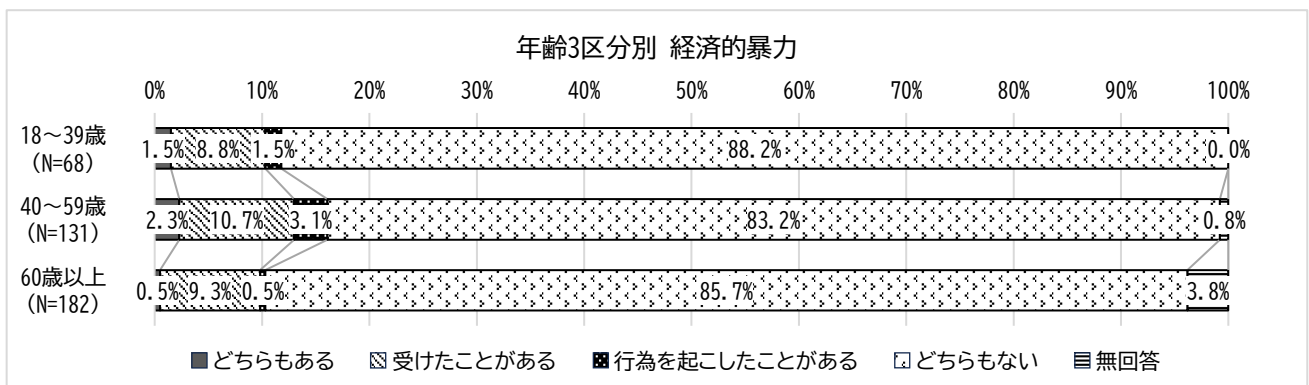
《男女別》

『受けたことがある合計』は「女性」が14.7%に対し、「男性」は4.9%と、「女性」が「男性」を9.8ポイント上回っています。



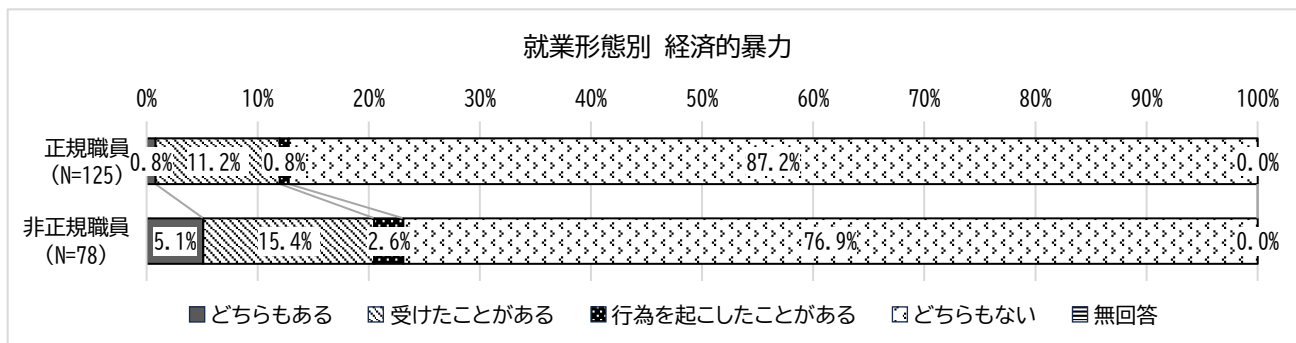
《年齢3区分別》

『受けたことがある合計』は「40～59歳」が13.0%で最も多く、「60歳以上」は9.8%で最も少なく、その差は3.2ポイントになっており、『起こしたことがある合計』は「40～59歳」が5.4%で最も多く、「60歳以上」は1.0%で最も少なく、その差は4.4ポイントになっています。



《就業形態別》

『受けたことがある合計』は「非正規職員」が 20.5%に対し、「正規職員」は 12.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を 8.5 ポイント上回っています。



④ 性的暴力

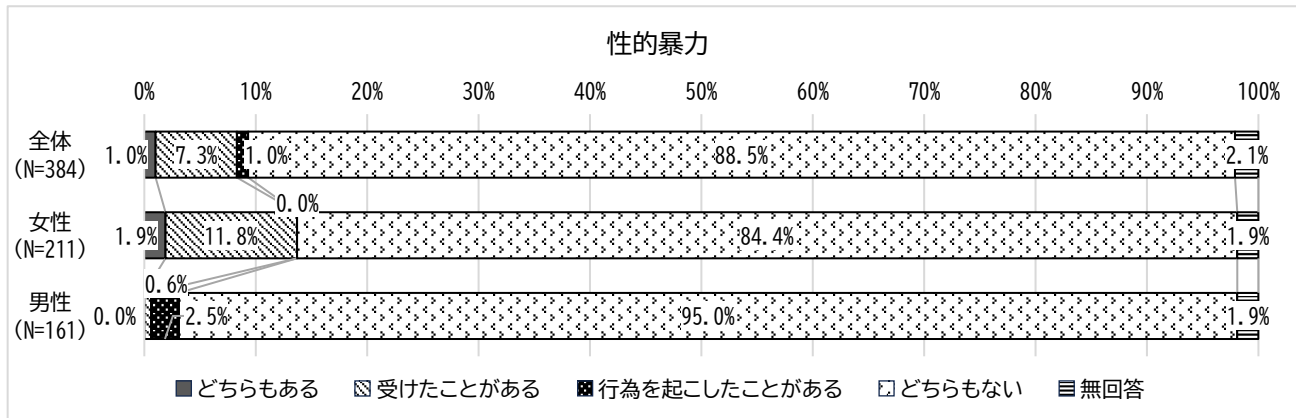
性的暴力は、問14の⑧嫌がっているのに性的な行為を強要する(避妊に協力しない)、⑨無理やりポルノビデオや雑誌を見せる、⑩本人の許可なく性的な写真や動画などをインターネット上に公開する、を指します。

《全体》

『受けたことがある合計』が 8.3%、『起こしたことがある合計』は 2.0%となっています。

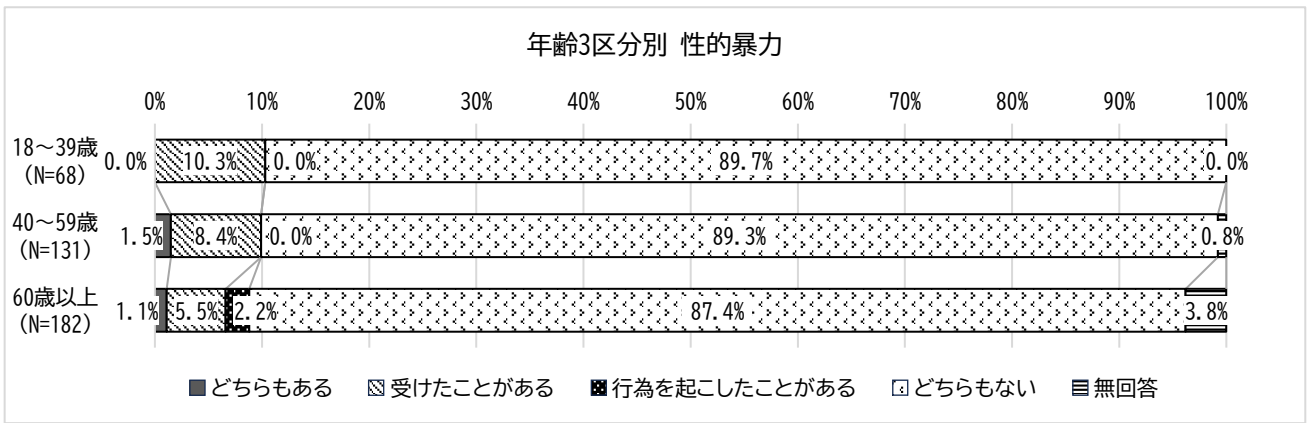
《男女別》

『受けたことがある合計』は「女性」が 13.7%に対し、「男性」は 0.6%と、「女性」が「男性」を 13.1 ポイント上回っています。



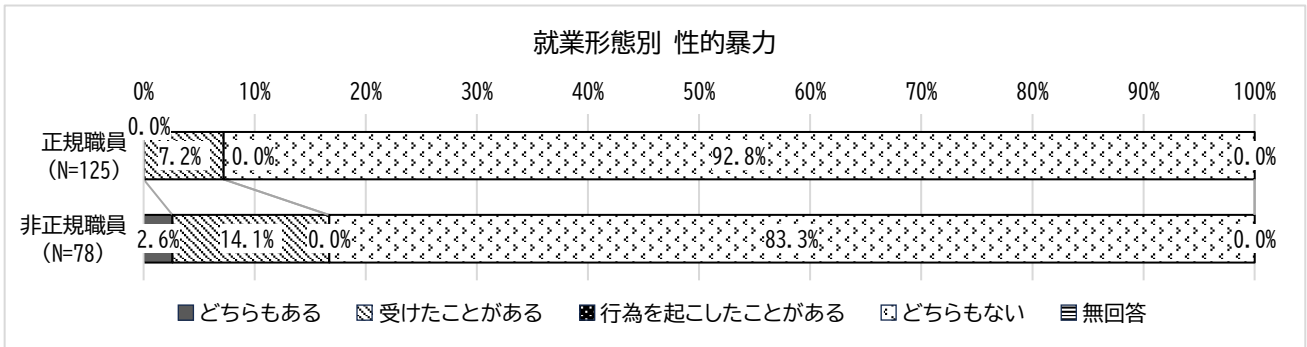
《年齢 3 区分別》

『受けたことがある合計』は「18～39 歳」が 10.3%で最も多く、「60 歳以上」は 6.6%で最も少なく、その差は 3.7 ポイントになっており、『起こしたことがある合計』は「60 歳以上」が 3.3%で最も多く、「18～39 歳」は 0.0%で最も少なく、その差は 3.3 ポイントになっています。



《就業形態別》

『受けたことがある合計』は「非正規職員」が 16.7%に対し、「正規職員」は 7.2%と、「非正規職員」が「正規職員」を 9.5 ポイント上回っています。



⑤ 社会的暴力

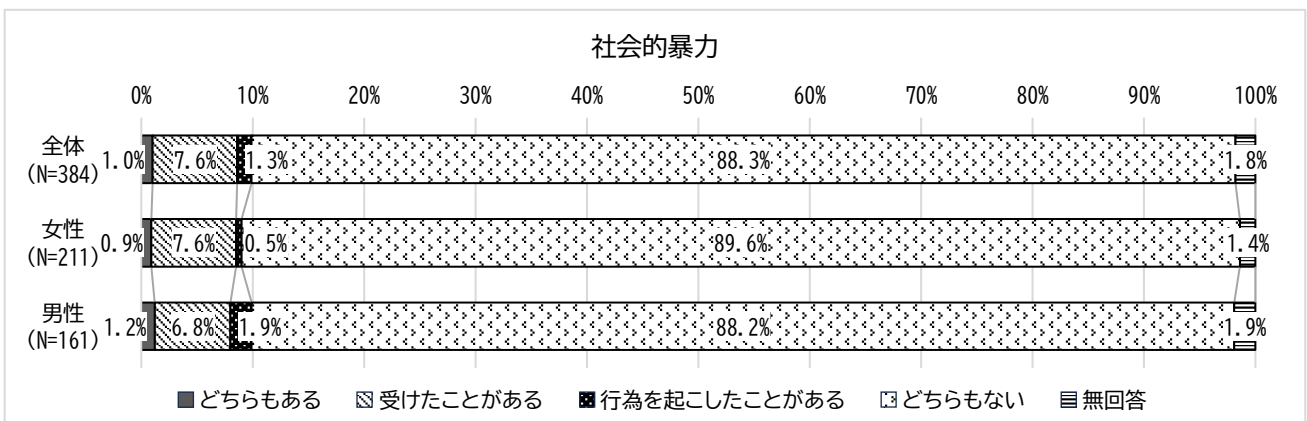
社会的暴力は、問14の①交友関係や行動を細かく監視したり、制限する、②GPS 機能を利用して位置情報の常時共有を強要する、を指します。

《全体》

『受けたことがある合計』が 8.6%、『起こしたことがある合計』は 2.3%となっています。

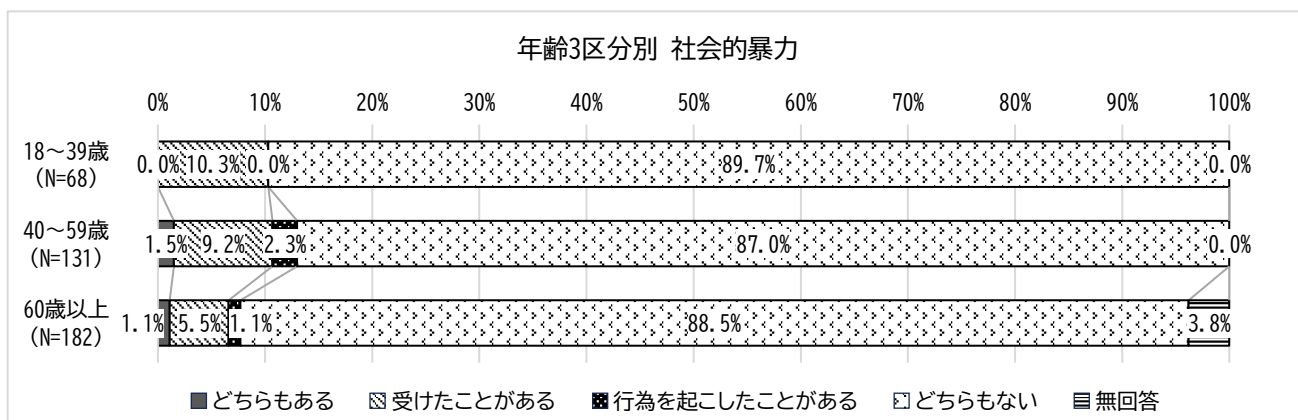
《男女別》

有意な差は見られません。



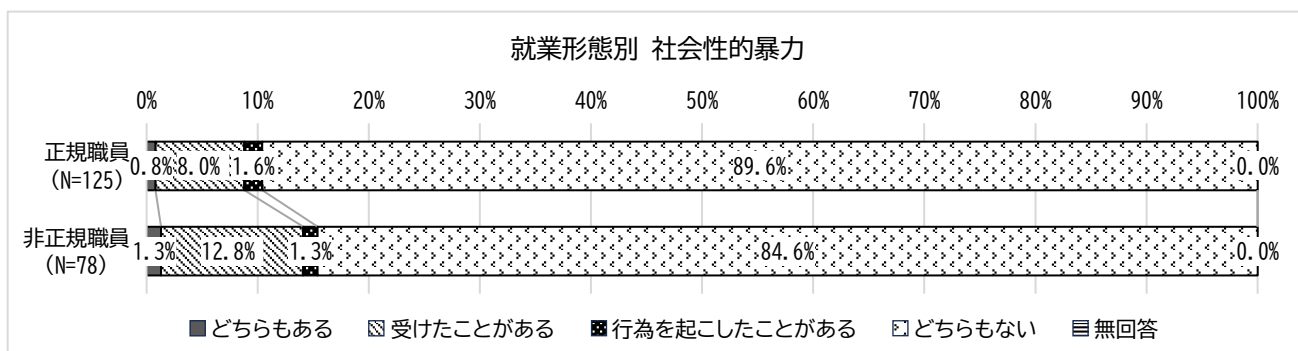
《年齢3区分別》

『受けたことがある合計』は「40～59歳」が10.7%で最も多く、「60歳以上」は6.6%で最も少なく、その差は4.1ポイントになっており、『起こしたことがある合計』は「40～59歳」が3.8%で最も多く、「18～39歳」は0.0%で最も少なく、その差は3.8ポイントになっています。



《就業形態別》

『受けたことがある合計』は「非正規職員」が14.1%に対し、「正規職員」は8.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を5.3ポイント上回っています。



問 15 で「今まで暴力(DV)を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。

問 16 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

《全体》

「どこにも相談しなかった」が43.2%と最も多くなっています。

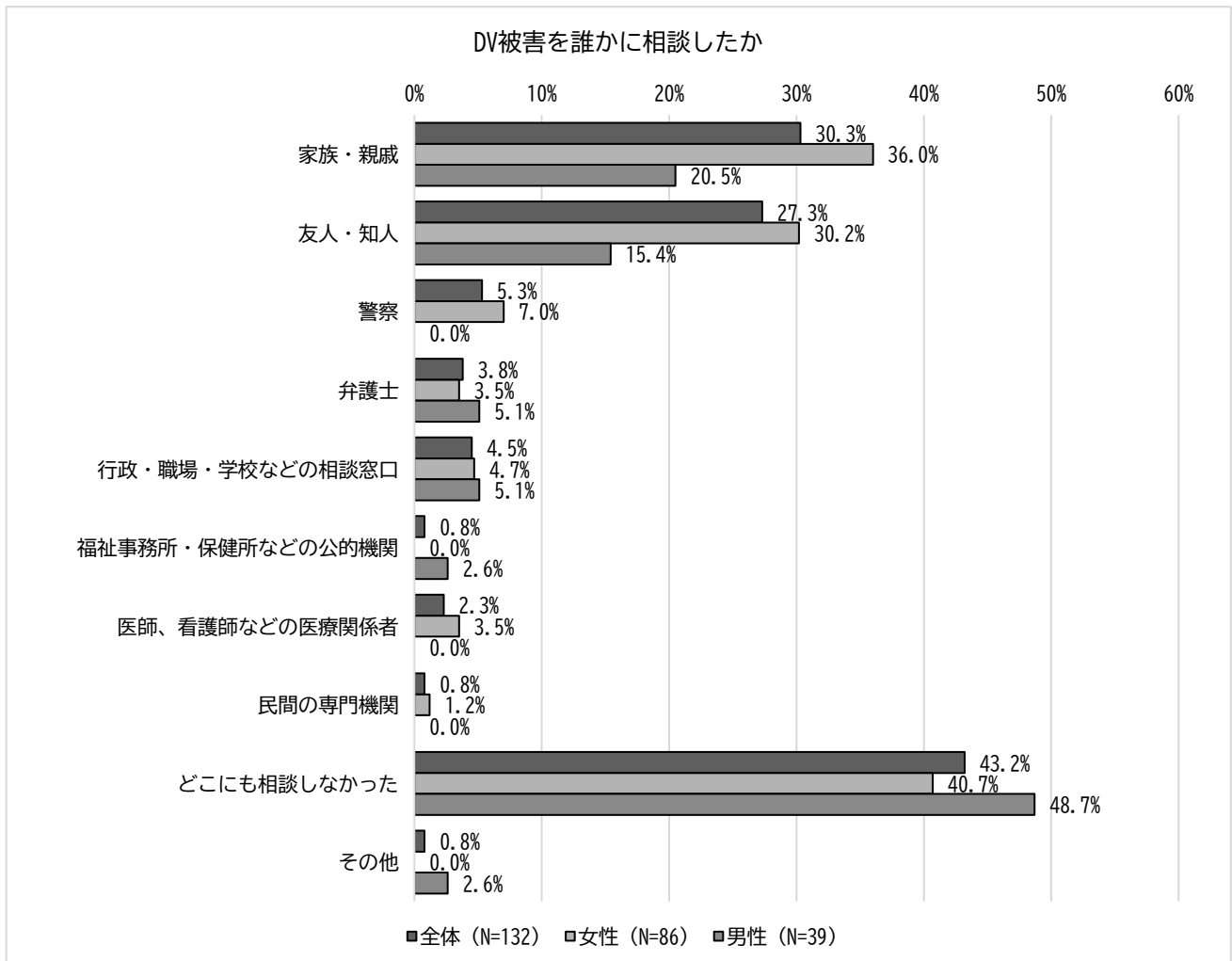
相談した中では、「家族・親戚」が30.3%で最も多く、次いで「友人・知人」が27.3%、「警察」が5.3%となっています。

《男女別》

「どこにも相談しなかった」は「女性」が40.7%、「男性」が48.7%と最も多くなっています。

相談した中では、「女性」は「家族・親戚」が36.0%で最も多く、次いで「友人・知人」が30.2%となっており、「男性」は「家族・親戚」が20.5%で最も多く、次いで「友人・知人」が15.4%となっています。

男女別で差が大きいものを見ると「家族・親戚」は「女性」が36.0%に対し、「男性」は20.5%となっており、「女性」が「男性」を15.5ポイント上回り、「友人・知人」は「女性」が30.2%に対し、「男性」は15.4%となっており、「女性」が「男性」を14.8ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

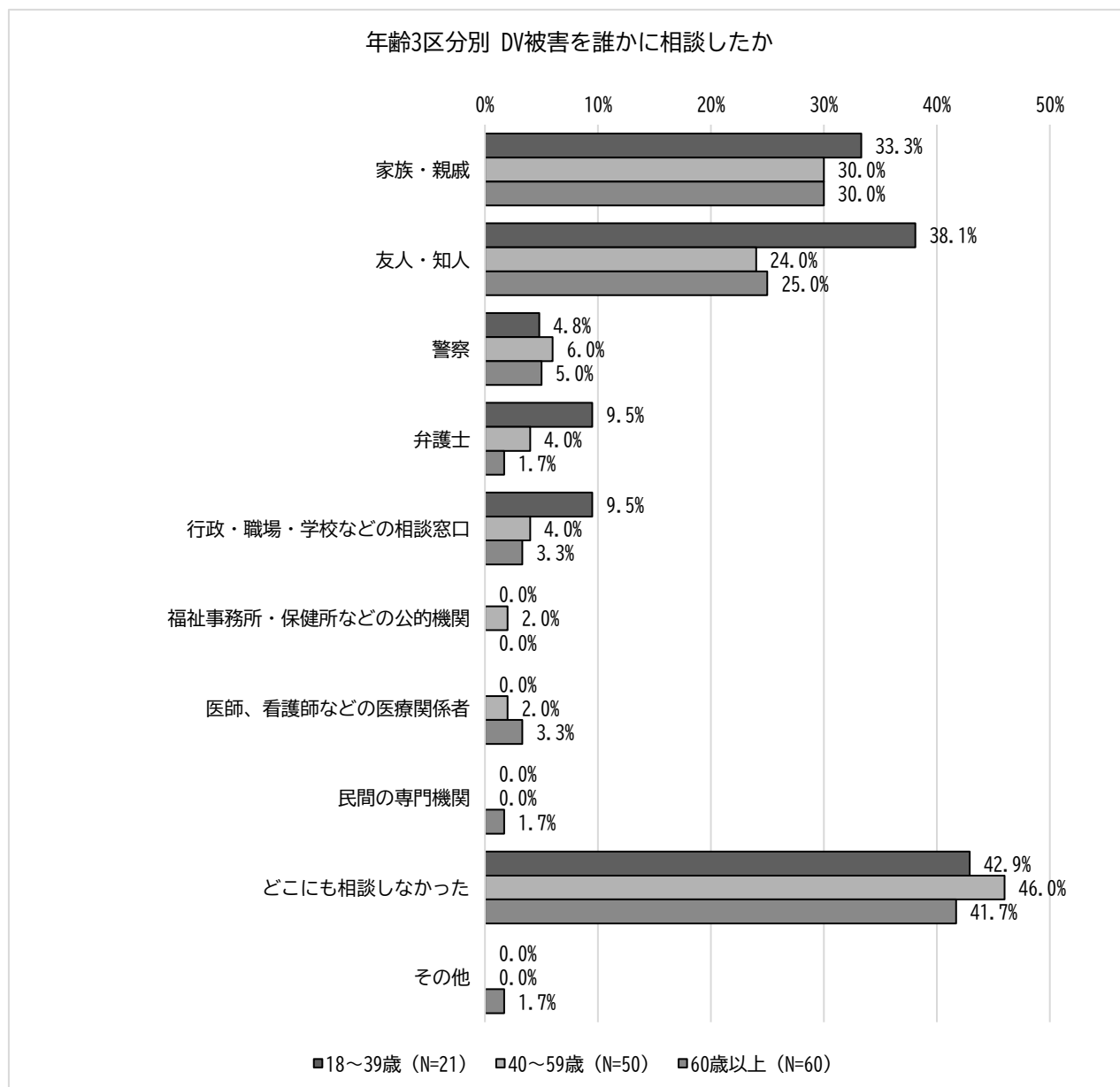
年齢区分に関わらず「どこにも相談しなかった」が、「18～39 歳」は 42.9%、「40～59 歳」は 46.0%、「60 歳以上」は 41.7%と最も多くなっています。

相談した中では、「18～39 歳」は「友人・知人」が 38.1%で最も多く、次いで「家族・親戚」が 33.3%、「弁護士」「行政・職場・学校などの相談窓口」が共に 9.5%となっています。

「40～59 歳」は「家族・親戚」が 30.0%で最も多く、次いで「友人・知人」が 24.0%、「警察」が 6.0%となっています。

「60 歳以上」は「家族・親戚」が 30.0%で最も多く、次いで「友人・知人」が 25.0%、「警察」が 5.0%となっています。

年齢別で差の大きいものを見ると、「友人・知人」は「18～39 歳」が 38.1%で最も多く、「40～59 歳」は 24.0%で、その差は 14.1 ポイント、「弁護士」は「18～39 歳」が 9.5%で最も多く、「60 歳以上」が 1.7%で最も少なく、その差は 7.8 ポイント、「行政・職場・学校などの相談窓口」は「18～39 歳」が 9.5%で最も多く、「60 歳以上」が 3.3%で最も少なく、その差は 6.2 ポイントとなっています。

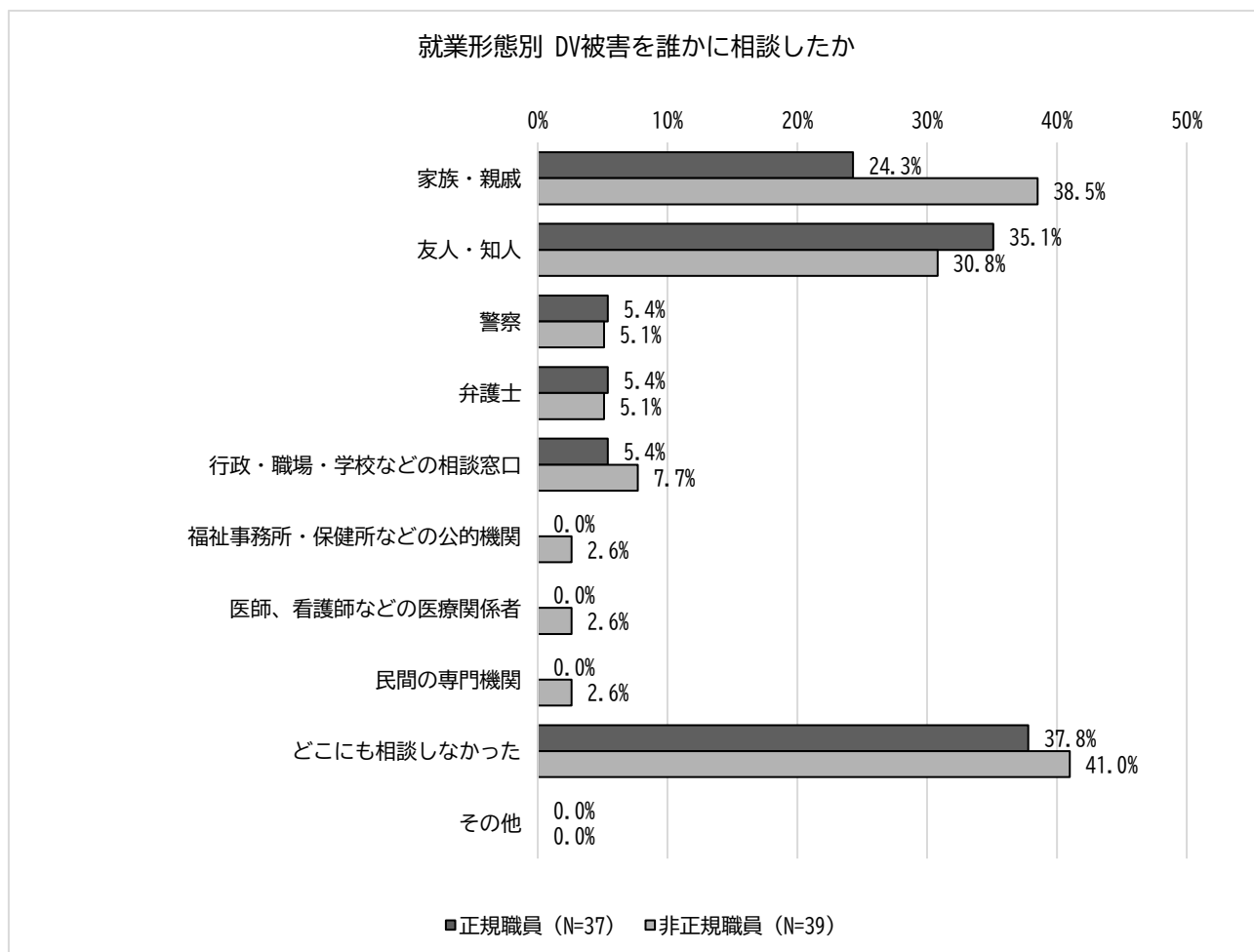


《就業形態別》

就業形態に関わらず「どこにも相談しなかった」が、「正規職員」は 37.8%、「非正規職員」は 41.0%と最も多くなっています。

相談した中では、「正規職員」は「友人・知人」が 35.1%で最も多く、次いで「家族・親戚」が 24.3%となっており、「非正規職員」は「家族・親戚」が 38.5%で最も多く、次いで「友人・知人」が 30.8%となっています。

就業別で差の大きいものを見ると、「家族・親戚」は「非正規職員」が 38.5%に対し、「正規職員」は 24.3%と、「非正規職員」が「正規職員」を 14.2 ポイント上回り、「友人・知人」は「正規職員」が 35.1%に対し、「非正規職員」は 30.8%と、「正規職員」が「非正規職員」を 4.3 ポイント上回っています。



問 16 で「9. どこにも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

問 17 それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

《全体》

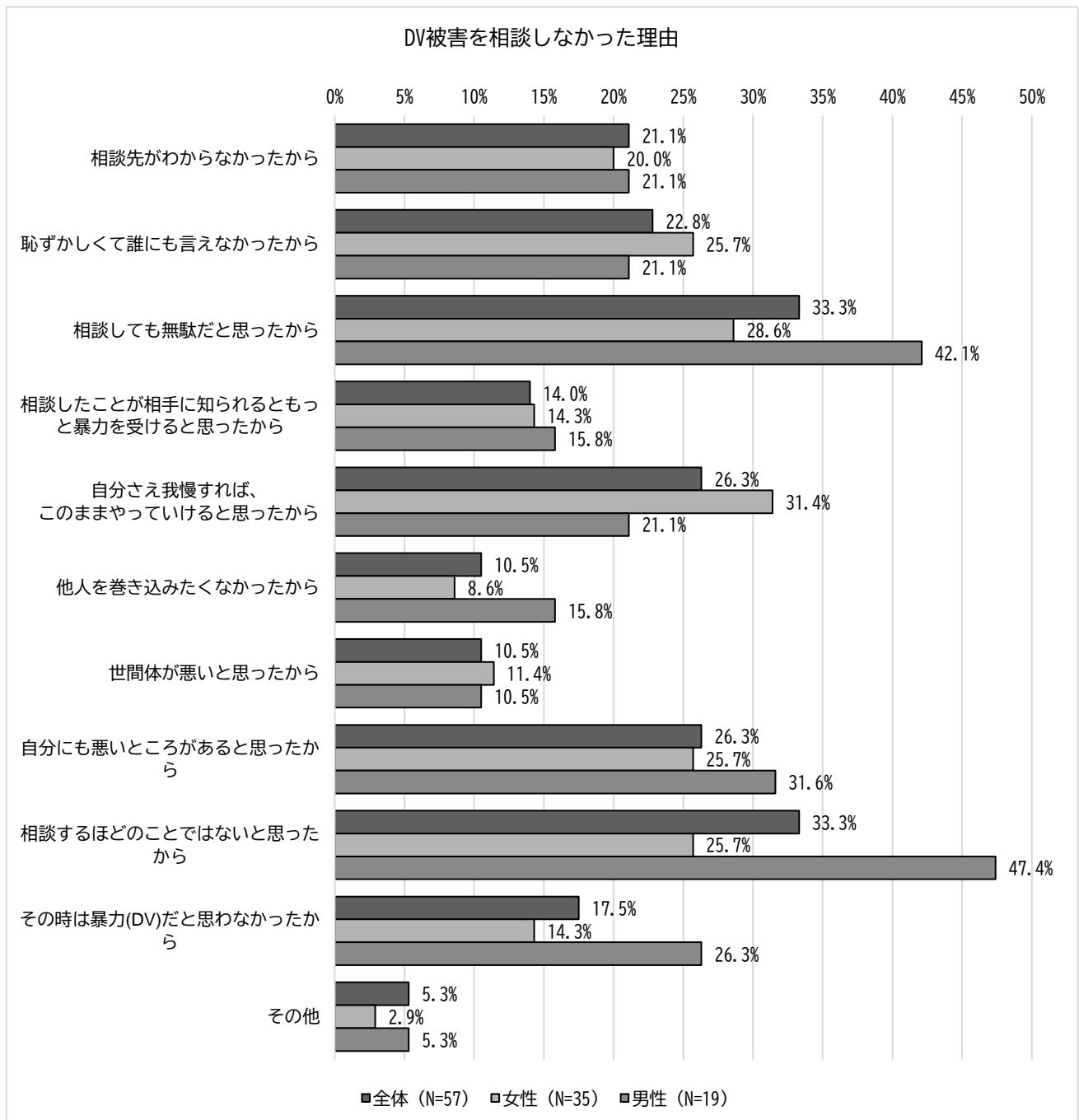
「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が共に 33.3%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が共に 26.3%となっています。

《男女別》

「女性」は「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が31.4%で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が28.6%、「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が共に25.7%となっています。

「男性」は「相談するほどのことではないと思ったから」が47.4%で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が42.1%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が31.6%となっています。

男女別で差が大きいものを見ると、「相談するほどのことではないと思ったから」は「男性」が「女性」を21.7ポイント、「相談しても無駄だと思ったから」は「男性」が「女性」を13.5ポイント、「その時は暴力(DV)だと思わなかったから」は「男性」が「女性」を12.0ポイント、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」は「女性」が「男性」を10.3ポイント上回っています。



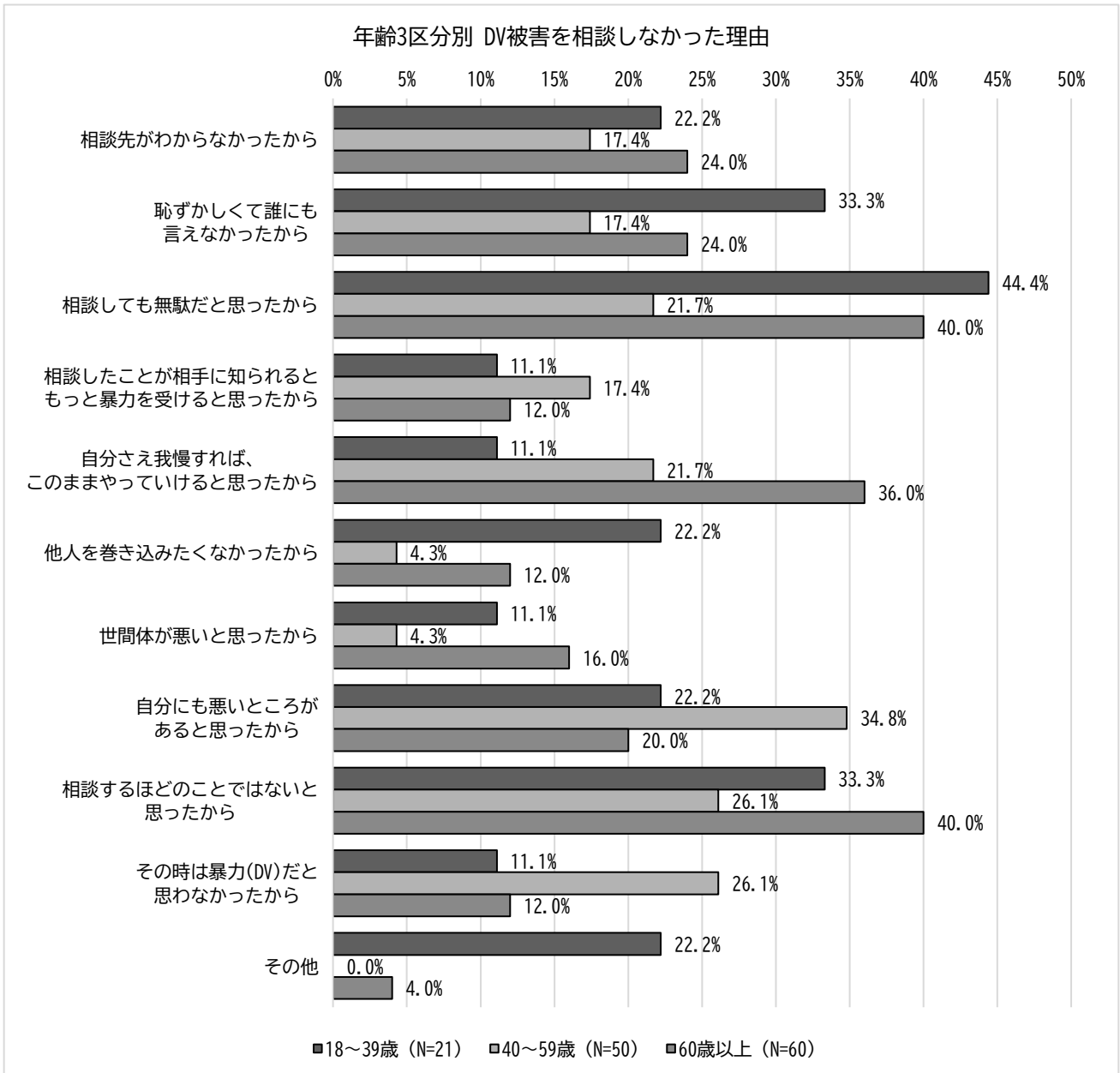
《年齢3区分別》

「18～39 歳」は「相談しても無駄だと思ったから」が 44.4%で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が共に 33.3%となっています。

「40～59 歳」は「自分にも悪いところがあると思ったから」が 34.8%で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」「その時は暴力(DV)だと思わなかったから」が共に 26.1%となっています。

「60 歳以上」は「相談するほどのことではないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」が共に 40.0%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」が 36.0%となっています。

年齢別で差の大きいものを見ると、「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」は「60 歳以上」が 36.0%で最も多く、「18～39 歳」が 11.0%で最も少なく、その差は 25.0 ポイント、「相談しても無駄だと思ったから」は「18～39 歳」が 44.4%で最も多く、「40～59 歳」が 21.7%で最も少なく、その差は 22.7 ポイント、「他人を巻き込みたくなかったから」は「18～39 歳」が 22.2%で最も多く、「40～59 歳」が 4.3%で最も少なく、その差は 17.9 ポイントとなっています。

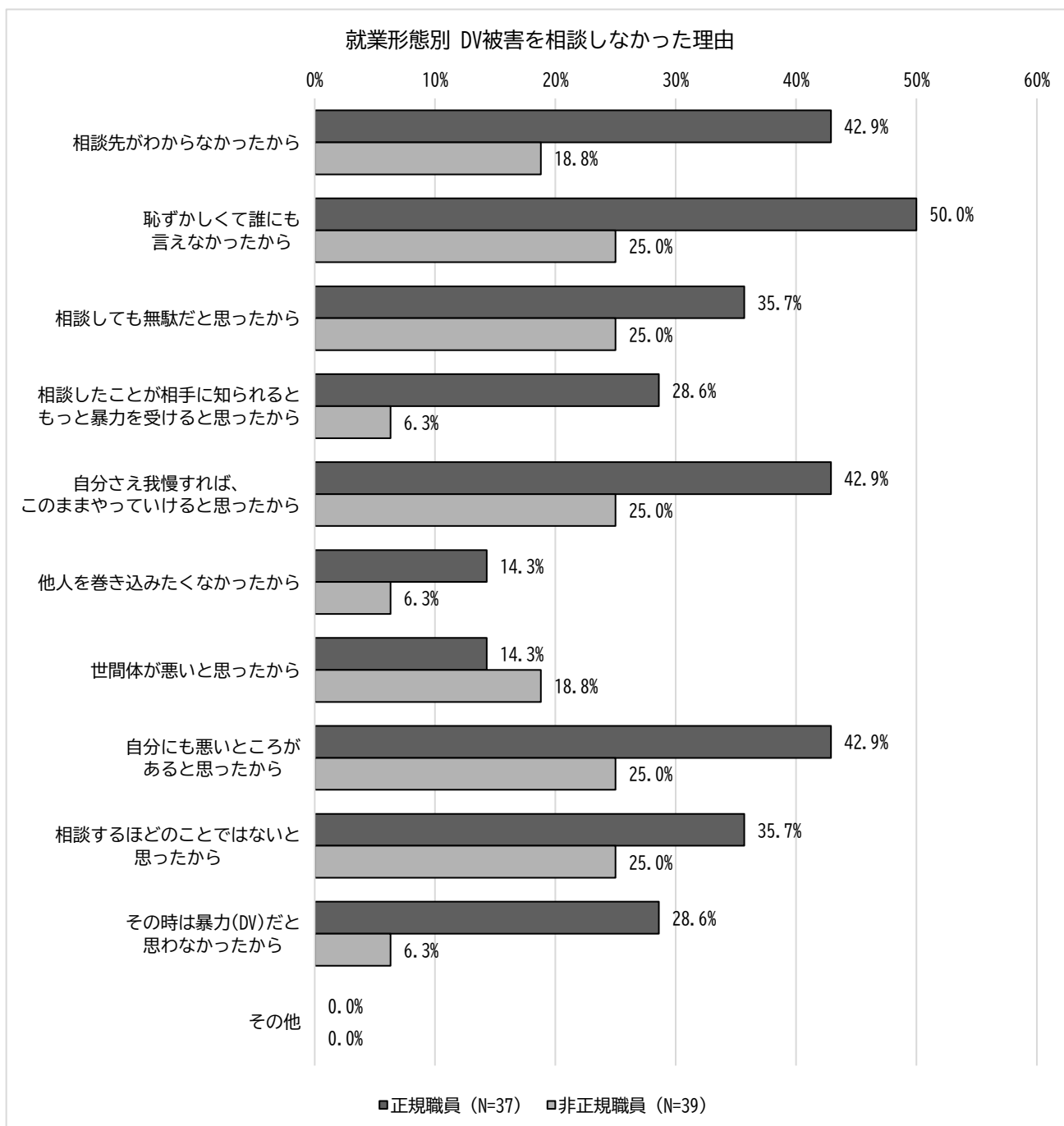


《就業形態別》

「正規職員」は「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が50.0%で最も多く、次いで「相談先がわからなかったから」「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあったから」が共に42.9%となっています。

「非正規職員」は「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が共に25.0%となっています。

「世間体が悪いと思ったから」以外は「正規職員」が「非正規職員」を大きく上回っています。



問 18 配偶者・パートナー等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、性暴力・性犯罪などをなくすために、もっと取組みを進める必要があるのはどのようなことですか。(あてはまるもの上位3つに○)

《全体》

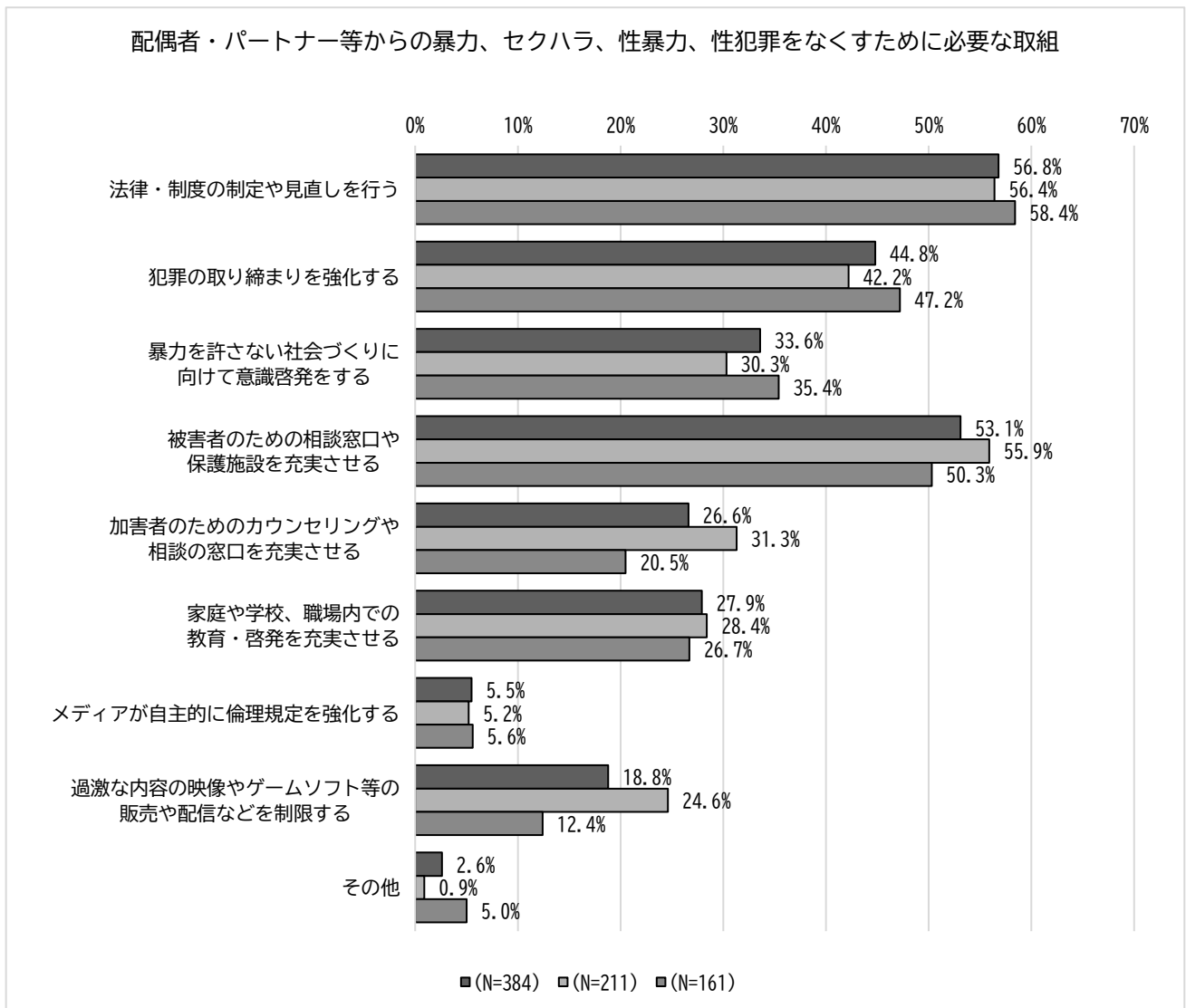
「法律・制度の制定や見直しを行う」が 56.8%で最も多く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 53.1%、「犯罪の取り締まりを強化する」が 44.8%となっています。

《男女別》

「女性」は「法律・制度の制定や見直しを行う」が 56.4%で最も多く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 55.9%、「犯罪の取り締まりを強化する」が 42.2%となっています。

「男性」は「法律・制度の制定や見直しを行う」が 58.4%で最も多く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 50.3%、「犯罪の取り締まりを強化する」が 47.2%となっています。

男女別で差が大きいものを見ると、「過激な内容の映像やゲームソフト等の販売や配信などを制限する」は「女性」が「男性」を 12.2 ポイント、「加害者のためのカウンセリングや相談の窓口を充実させる」は「女性」が「男性」を 10.8 ポイント、「暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」は「男性」が「女性」を 5.1 ポイント、「犯罪の取り締まりを強化する」は「男性」が「女性」を 5.0 ポイント上回っています。



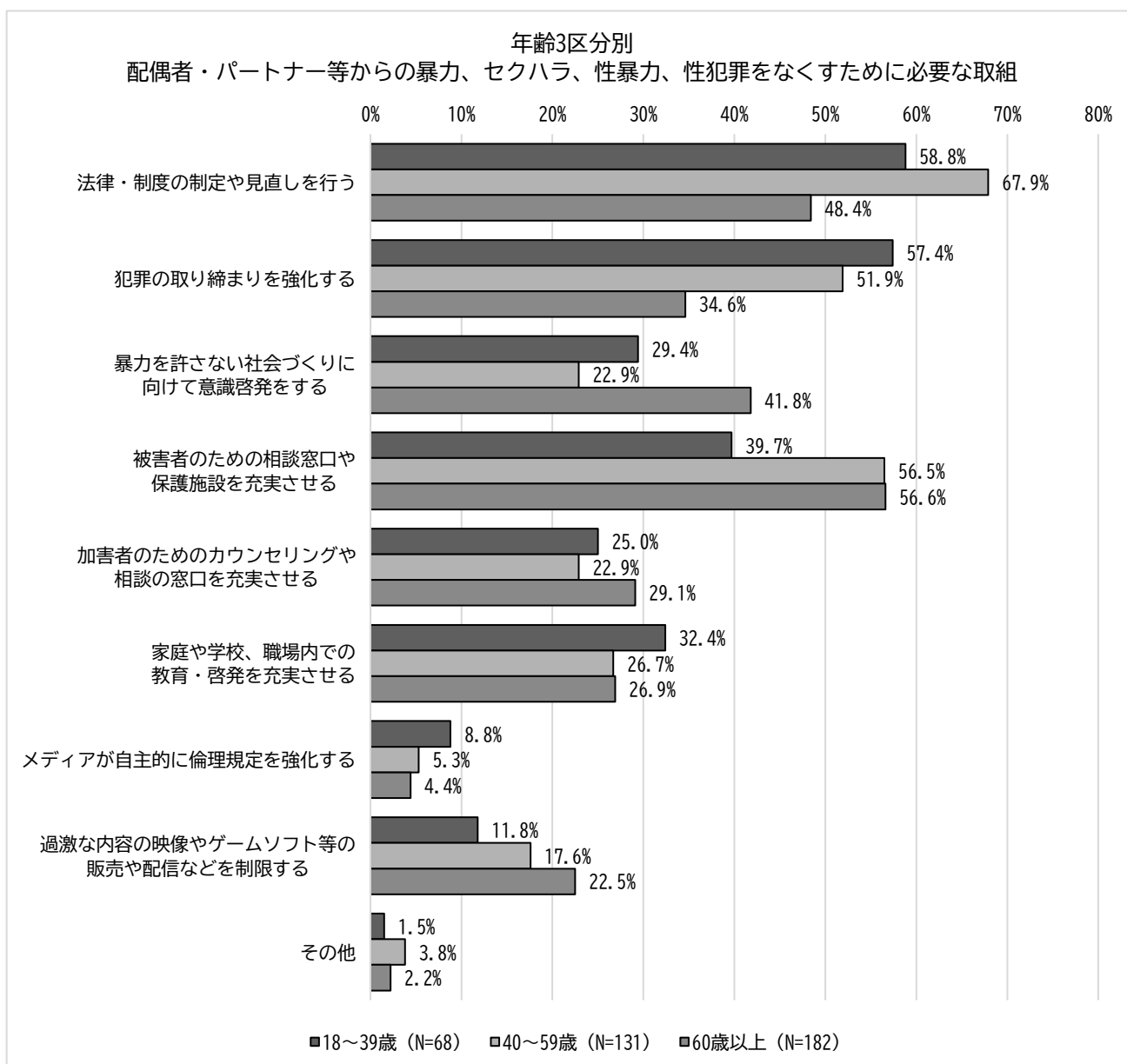
《年齢3区分別》

「18～39 歳」は「法律・制度の制定や見直しを行う」が 58.8%で最も多く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」が 57.4%、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 39.7%となっています。

「40～59 歳」は「法律・制度の制定や見直しを行う」が 67.9%で最も多く、次いで「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 56.5%、「犯罪の取り締まりを強化する」が 51.9%となっています。

「60 歳以上」は「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が 56.6%で最も多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」が 48.4%、「暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」が 41.8%となっています。

年齢別で差が大きいものを見ると、「犯罪の取り締まりを強化する」は「18～39 歳」が 57.4%で最も多く、「60 歳以上」が 34.6%で最も少なく、その差は 22.8 ポイント、「法律・制度の制定や見直しを行う」は「40～59 歳」が 67.9%で最も多く、「60 歳以上」が 48.4%で最も少なく、その差は 19.5 ポイント、「暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」は「60 歳以上」が 41.8%で最も多く、「40～59 歳」が 22.9%で最も少なく、その差は 18.9 ポイントとなっています。

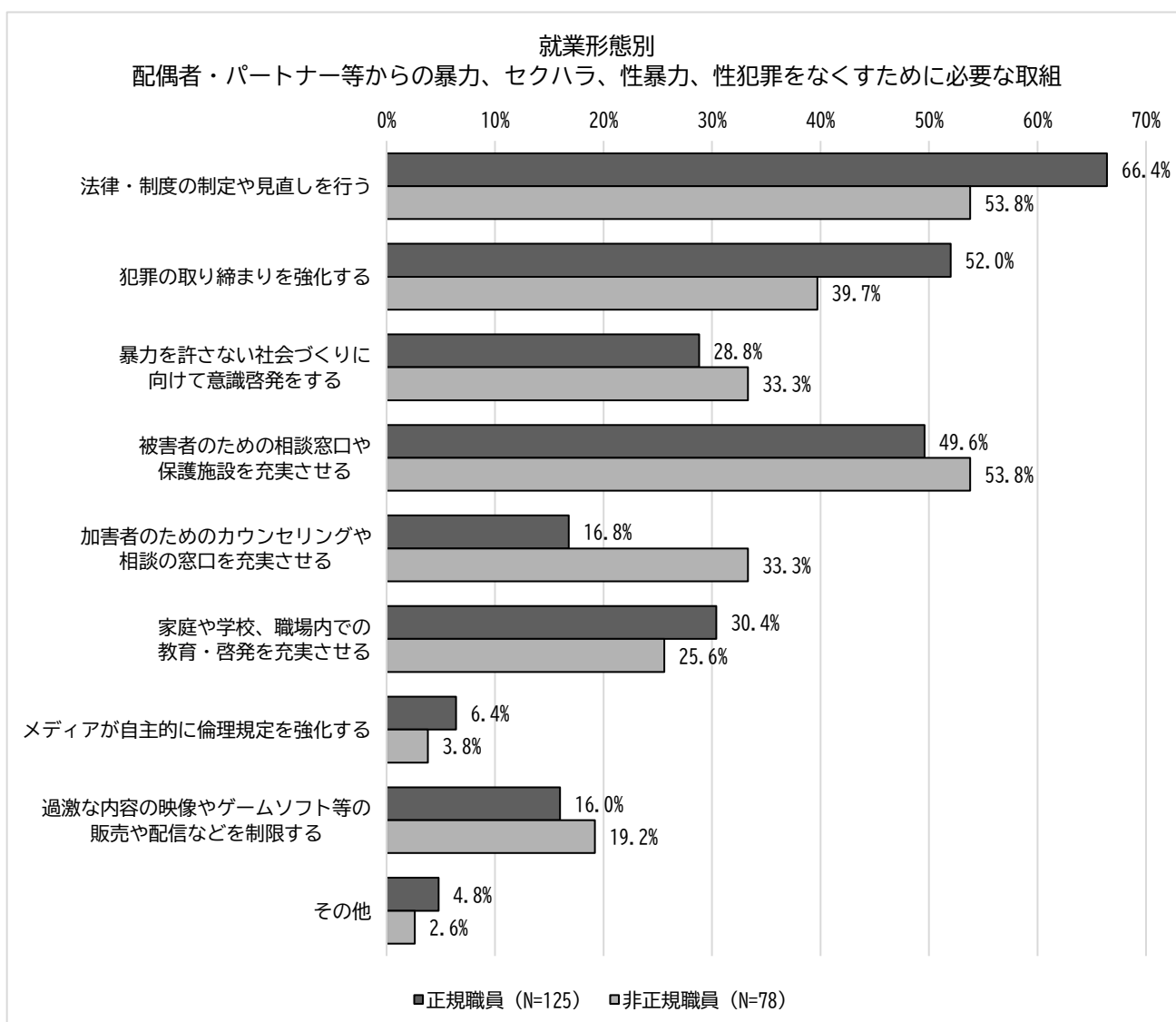


《就業形態別》

「正規職員」は「法律・制度の制定や見直しを行う」が66.4%で最も多く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」が52.0%、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が49.6%となっています。

「非正規職員」は「法律・制度の制定や見直しを行う」「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が共に53.8%で最も多く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」が39.7%となっています。

就業形態別で差が大きいものを見ると、「法律・制度の制定や見直しを行う」は「正規職員」が66.4%に対し、「非正規職員」は53.8%と、「正規職員」が「非正規職員」を12.6ポイント上回り、「犯罪の取り締まりを強化する」は「正規職員」が52.0%に対し、「非正規職員」は39.7%と、「正規職員」が「非正規職員」を12.3ポイント上回り、「加害者のためのカウンセリングや相談の窓口を充実させる」は「非正規職員」が33.3%に対し、「正規職員」は16.8%と、「非正規職員」が「正規職員」を16.5ポイント上回っています。



(10) 男女共同参画について

| | |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男女共同参画社会 | 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会 (男女共同参画社会基本法第2条) |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問 19 次の項目で、あなたの思う男女共同参画社会について、あてはまるものはどれですか。(それぞれ〇は1つ)

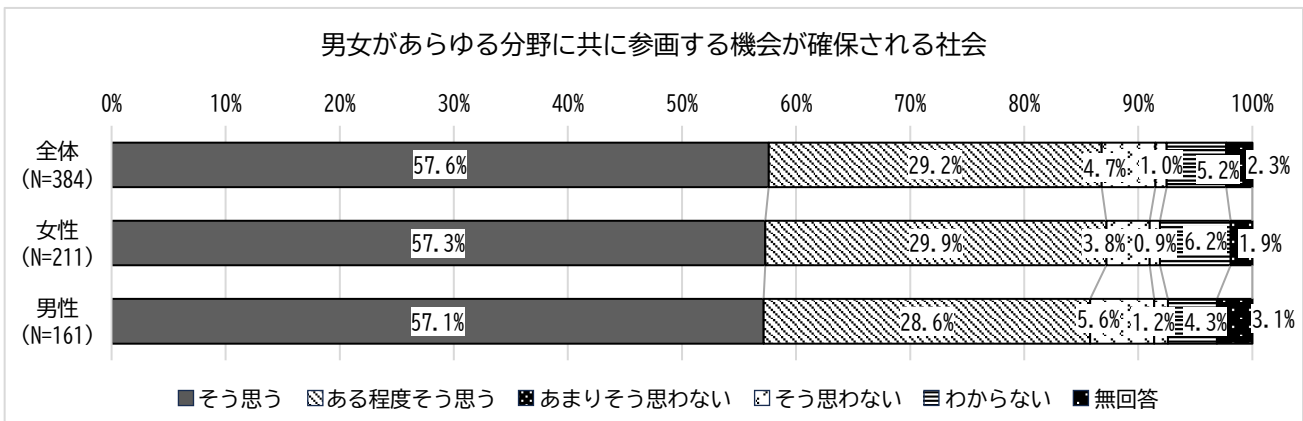
- ※『そう思う計』は「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計
- ※『そう思わない計』は「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計

① 男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野に共に参画する機会が確保される社会
《全体》

『そう思う計』が86.8%、『そう思わない計』は5.7%となっています。

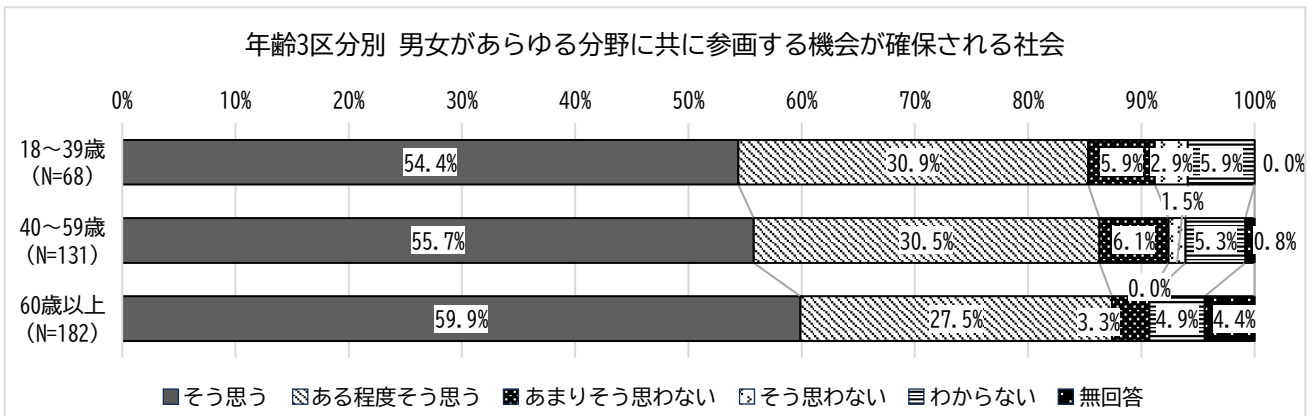
《男女別》

有意な差は見られません。



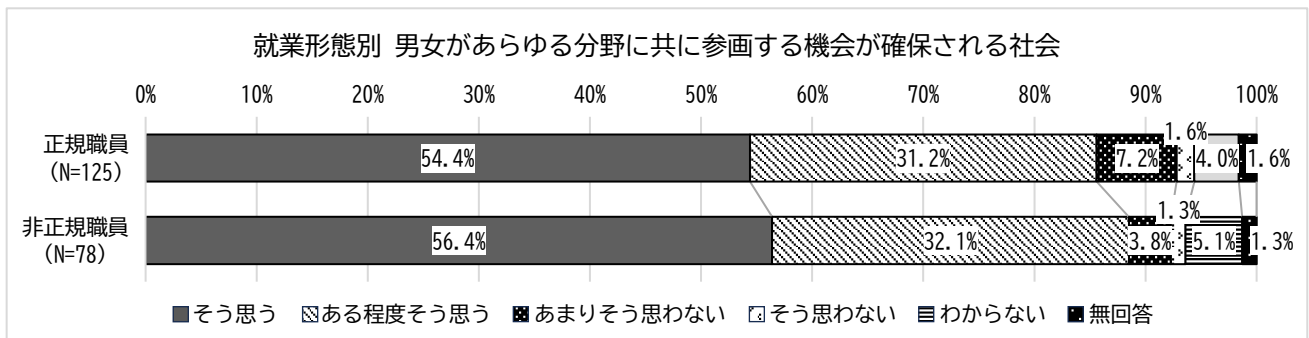
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「60歳以上」が87.4%で最も多く、「18～39歳」が85.3%で最も少なく、その差は2.1ポイント、『そう思わない計』は「18～39歳」が8.8%で最も多く、「60歳以上」が3.3%で最も少なく、その差は5.5ポイントとなっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



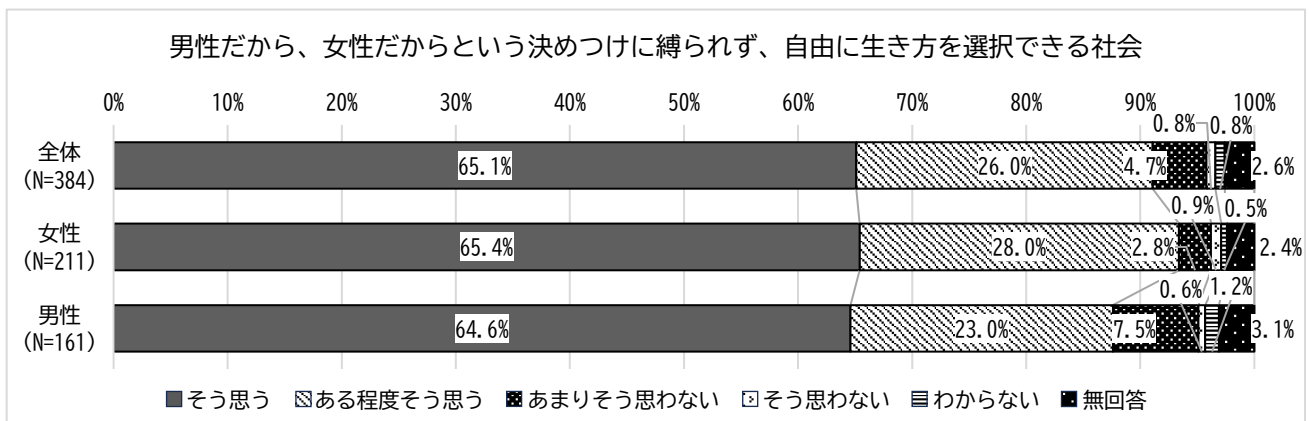
② 男性だから、女性だからという決めつけに縛られず、自由に生き方を選択できる社会

《全体》

『そう思う計』が91.1%と最も多く、『そう思わない計』は5.5%となっています。

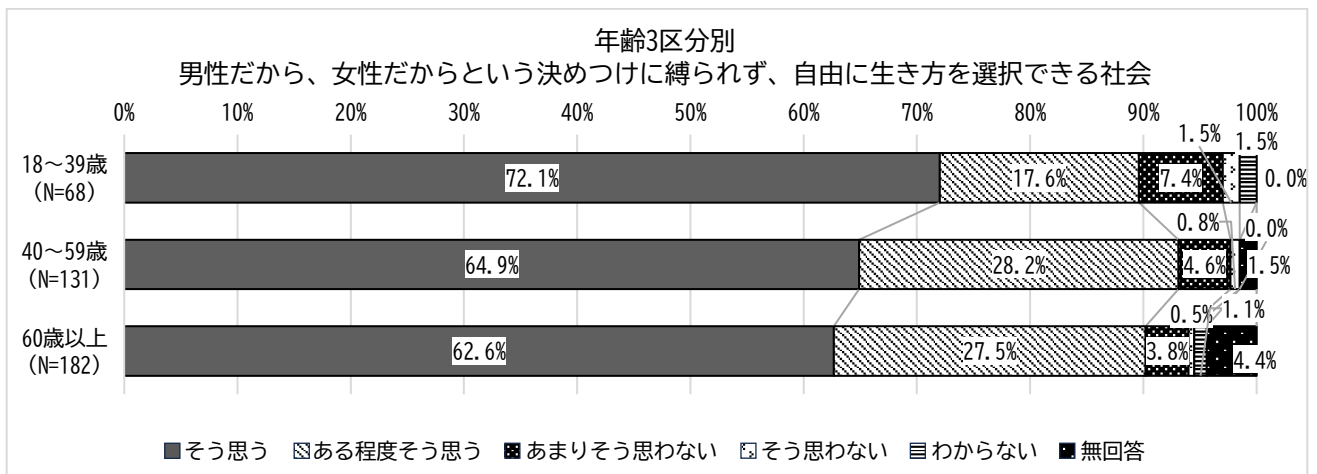
《男女別》

『そう思う計』は「女性」が93.4%に対し、「男性」は87.6%と、「女性」が「男性」を5.8ポイント上回り、『そう思わない計』は「男性」は8.1%に対し、「女性」が3.7%と、「男性」が「女性」を4.4ポイント上回っています。



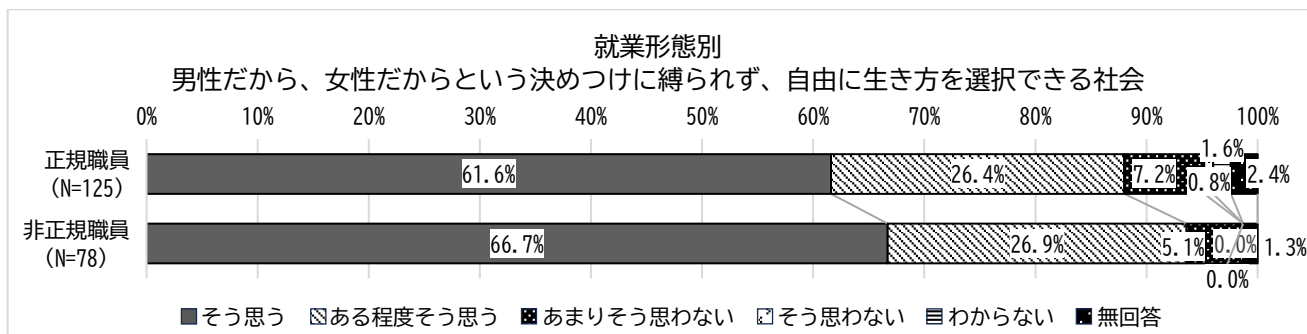
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「40～59歳」が93.1%で最も多く、「18～39歳」が89.7%で最も少なく、その差は3.4ポイント、『そう思わない計』は「18～39歳」が8.9%で最も多く、「60歳以上」が4.3%で最も少なく、その差は4.6ポイントとなっています。



《就業形態別》

『そう思う計』は「非正規職員」が 93.6%に対し、「正規職員」は 88.0%と、「非正規職員」が「正規職員」を 5.6 ポイント上回っています。



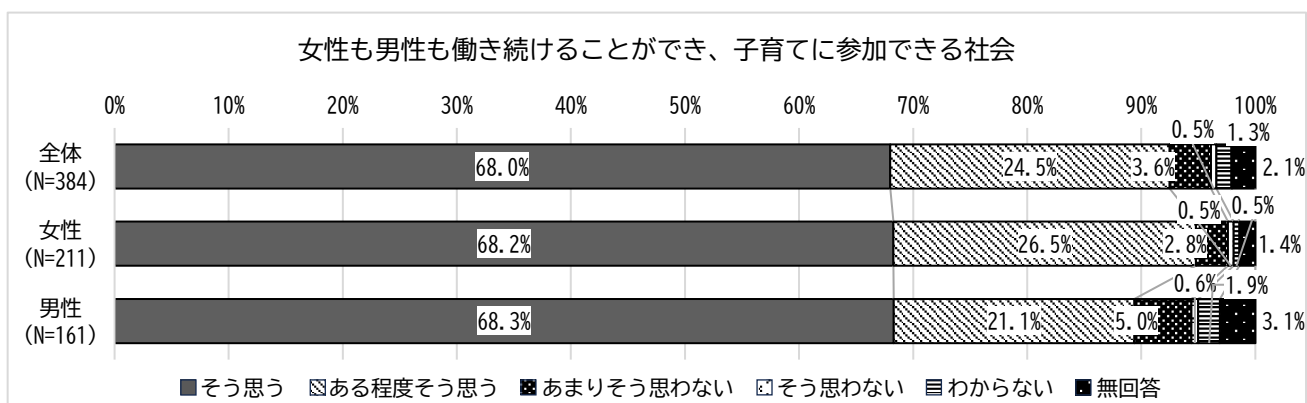
③ 女性も男性も働き続けることができ、子育てに参加できる社会

《全体》

『そう思う計』が 92.5%、『そう思わない計』は 4.1%となっています。

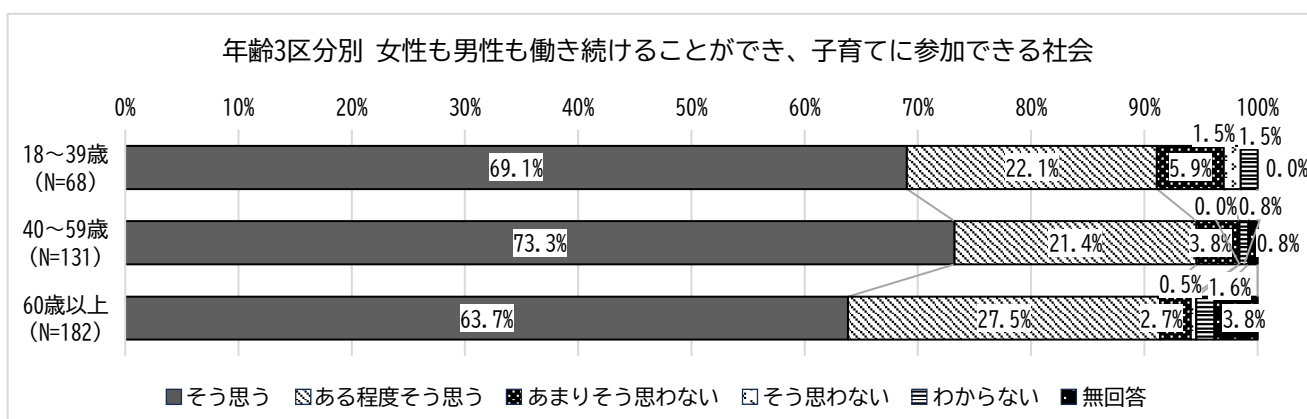
《男女別》

『そう思う計』は「女性」が 94.7%に対し、「男性」は 89.4%と、「女性」が「男性」を 5.3 ポイント上回っています。



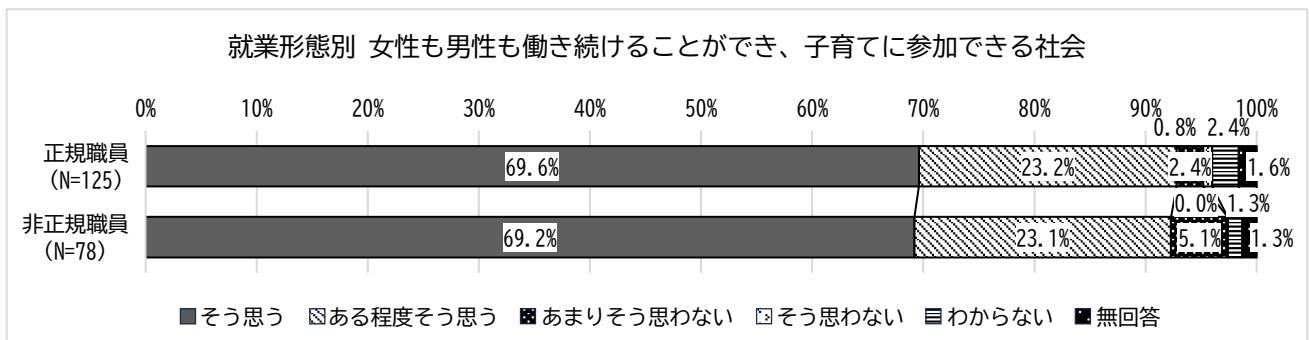
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「40～59歳」が 94.7%で最も多く、「18～39歳」「60歳以上」が共に 91.2%で最も少なく、その差は 3.5 ポイント、『そう思わない計』は「18～39歳」が 7.4%で最も多く、「60歳以上」が 3.2%で最も少なく、その差は 4.2 ポイントとなっています。



《就業形態別》

有意な差は見られません。



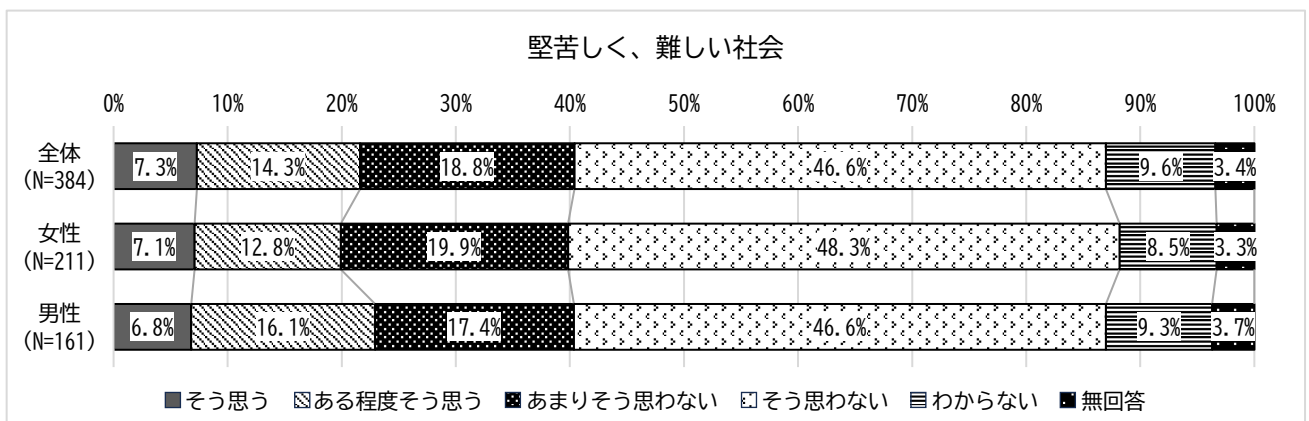
④ 堅苦しく、難しい社会

《全体》

『そう思わない計』が65.4%、『そう思う計』は21.6%となっています。

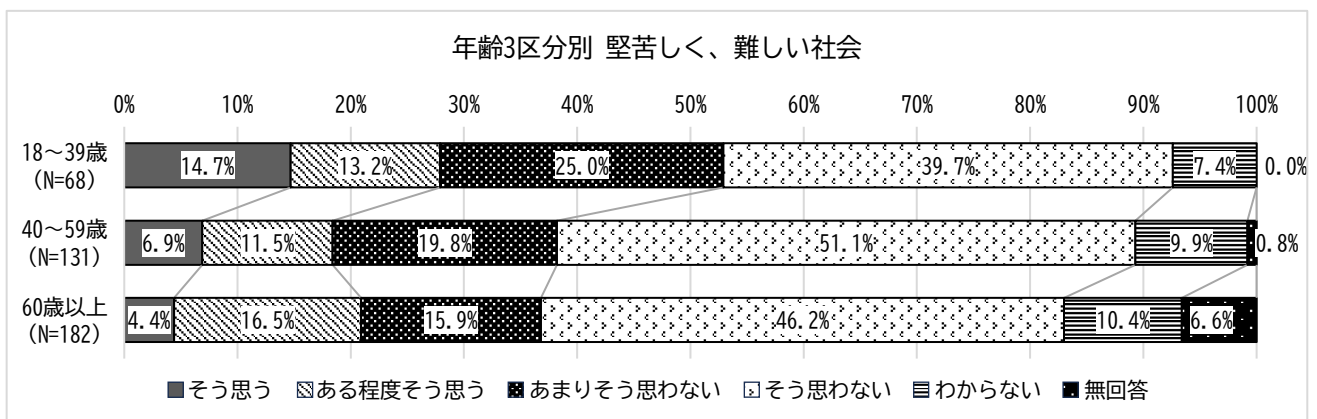
《男女別》

『そう思わない計』は「女性」が68.2%に対し、「男性」は64.0%と、「女性」が「男性」を4.2ポイント上回り、『そう思う計』は「男性」は22.9%に対し、「女性」が19.9%と、「男性」が「女性」を3.0ポイント上回っています。



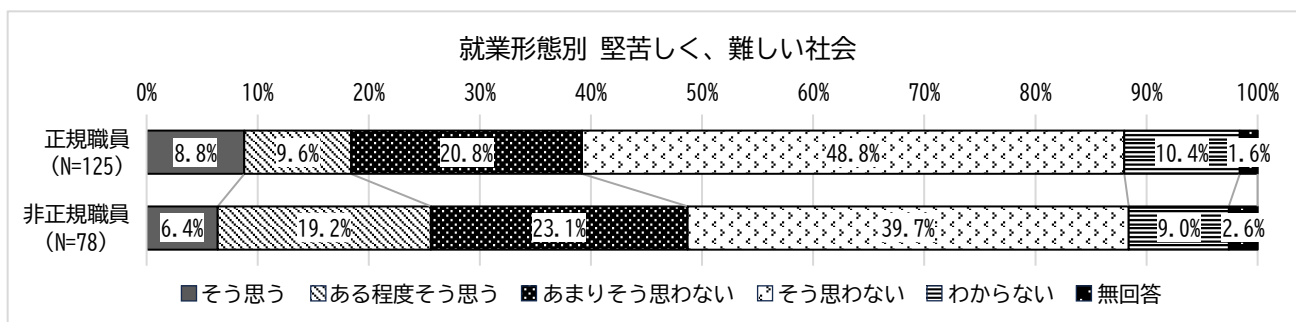
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「18～39歳」が27.9%で最も多く、「40～59歳」は18.4%で最も少なく、その差は9.5ポイント、『そう思わない計』は「40～59歳」が70.9%で最も多く、「60歳以上」は62.1%で最も少なく、その差は8.8ポイントとなっています。



《就業形態別》

『そう思う計』は「非正規職員」が 25.6%に対し、「正規職員」は 18.4%と、「非正規職員」が「正規職員」を 7.2 ポイント上回り、『そう思わない計』は「正規職員」が 69.6%に対し、「非正規職員」は 62.8%と、「正規職員」が「非正規職員」を 6.8 ポイント上回っています。



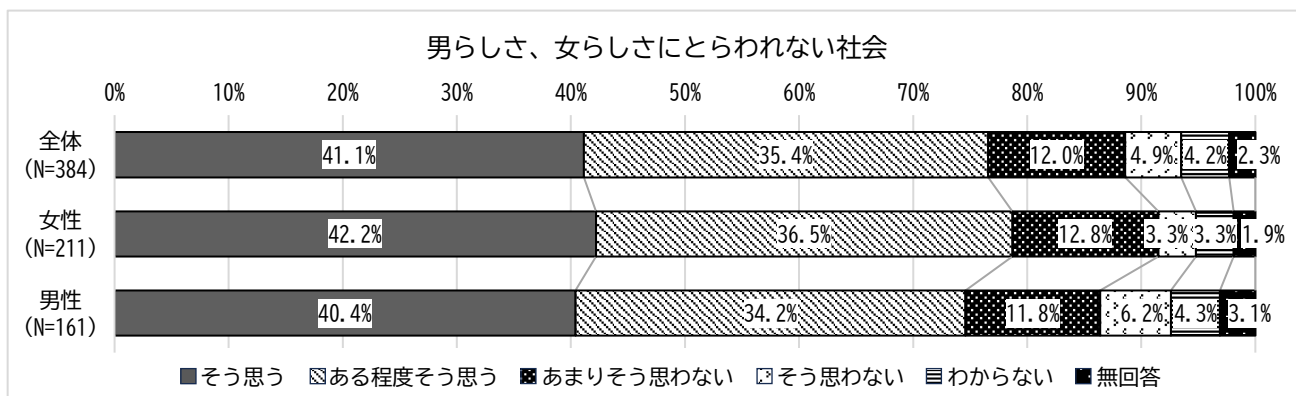
⑤ 男らしさ、女らしさにとらわれない社会

《全体》

『そう思う計』が 76.5%、『そう思わない計』は 16.9%となっています。

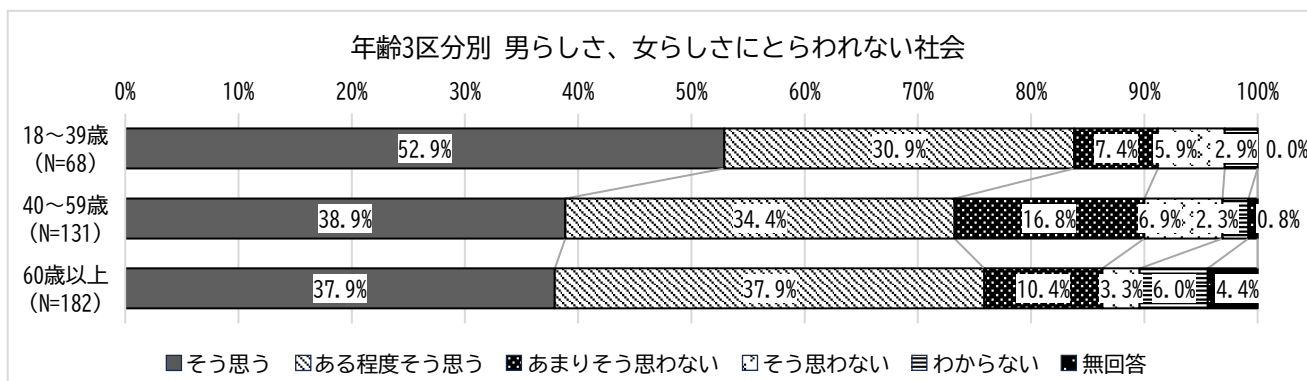
《男女別》

『そう思う計』は「女性」が 78.7%に対し、「男性」は 74.6%と、「女性」が「男性」を 4.1 ポイント上回っています。



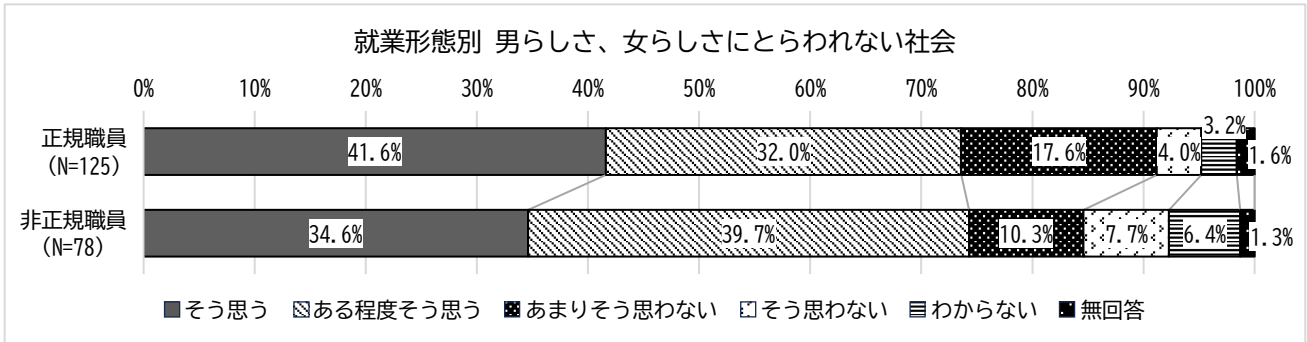
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「18～39歳」が83.8%で最も多く、「40～59歳」が73.3%で最も少なく、その差は10.5 ポイント、『そう思わない計』は「40～59歳」が 23.7%で最も多く、「18～39歳」が 13.3%で最も少なく、その差は 10.4 ポイントとなっています。



《就業形態別》

『そう思う計』では有意な差は見られませんが、「そう思う」は「正規職員」が41.6%に対し、「非正規職員」は34.6%と、「正規職員」が「非正規職員」を7.0ポイント上回っています。



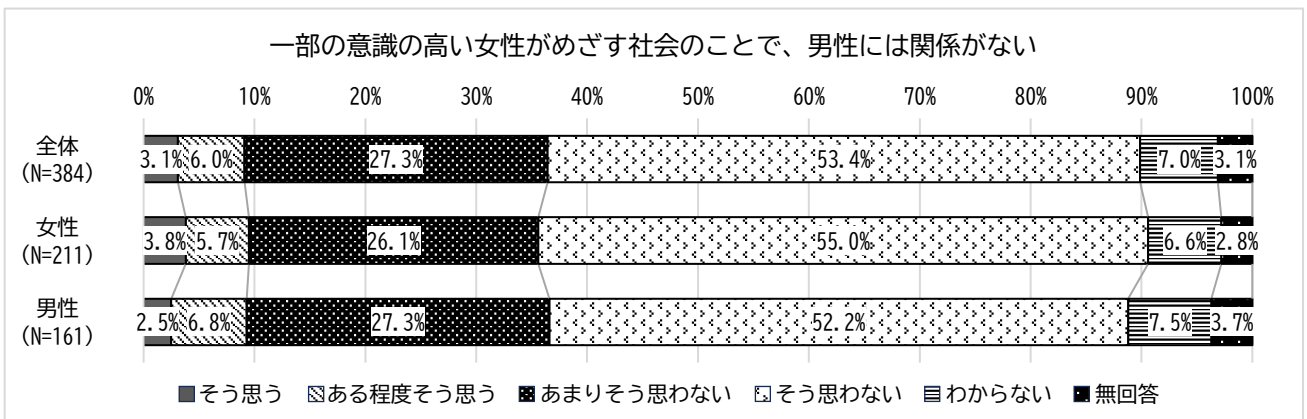
⑥ 一部の意識の高い女性がめざす社会のことで、男性には関係がない

《全体》

『そう思う計』が9.1%、『そう思わない計』は80.7%となっています。

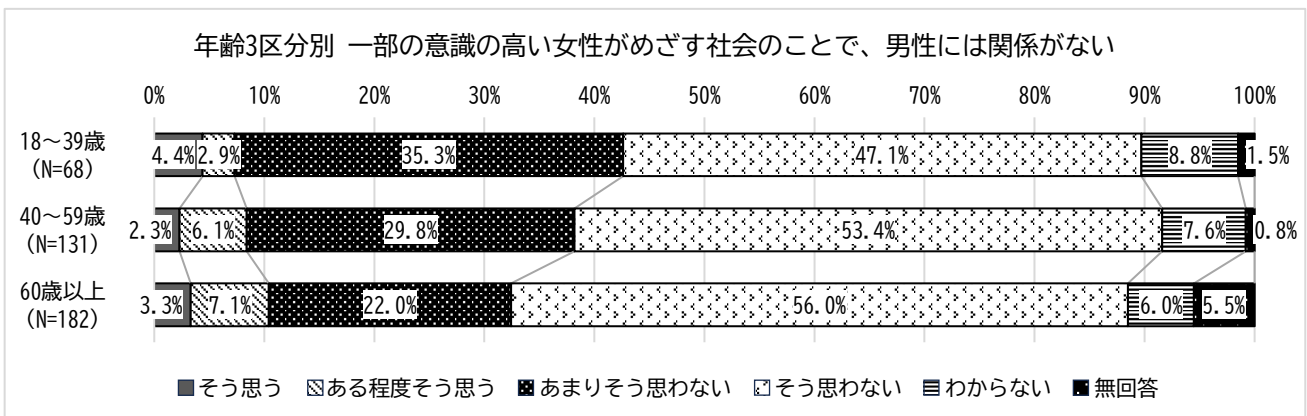
《男女別》

有意な差は見られません。



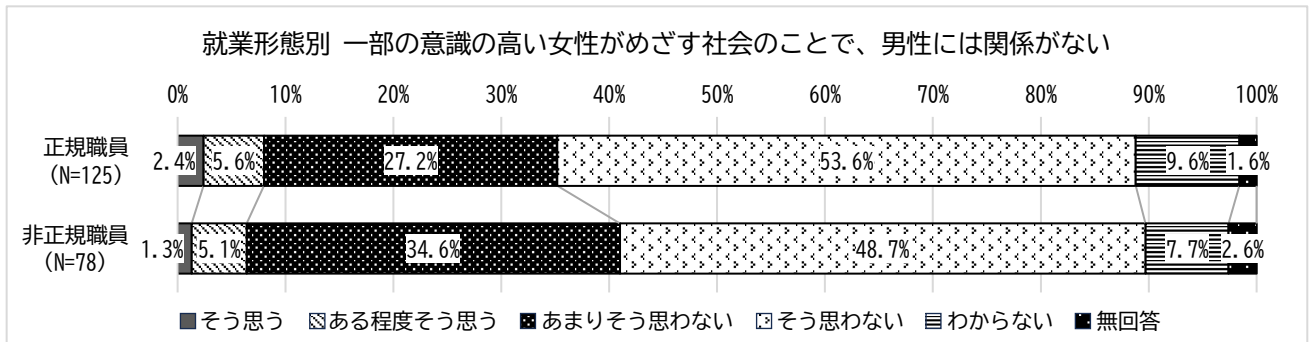
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「60歳以上」が10.4%で最も多く、「18～39歳」が7.3%で最も少なく、その差は3.1ポイント、『そう思わない計』は「40～59歳」が83.2%で最も多く、「60歳以上」が78.0%で最も少なく、その差は5.2ポイントとなっています。



《就業形態別》

『そう思わない計』では有意な差は見られませんが、「そう思わない」は「正規職員」が53.6%に対し、「非正規職員」は48.7%と、「正規職員」が「非正規職員」を4.9ポイント上回っています。



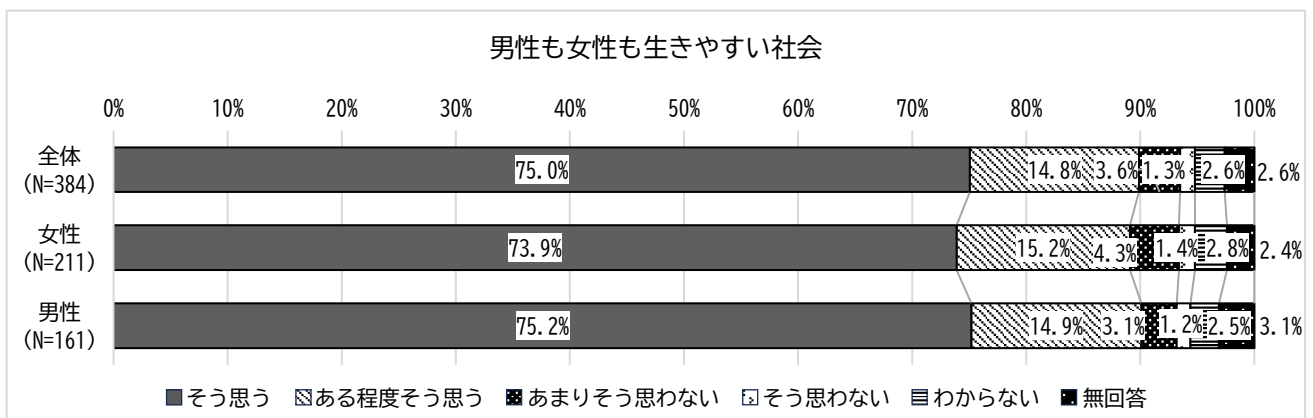
⑦ 男性も女性も生きやすい社会

《全体》

『そう思う計』が89.8%、『そう思わない計』は4.9%となっています。

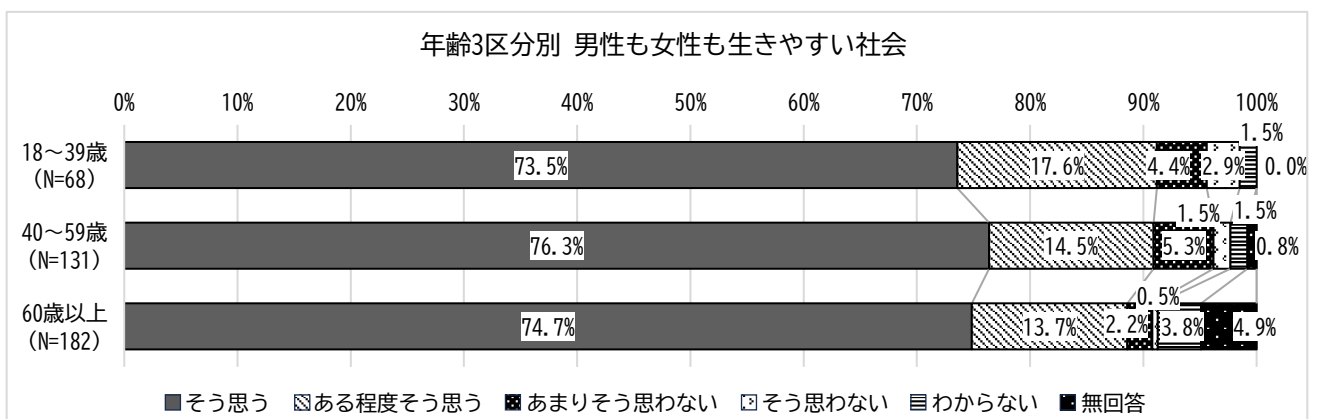
《男女別》

有意な差は見られません。



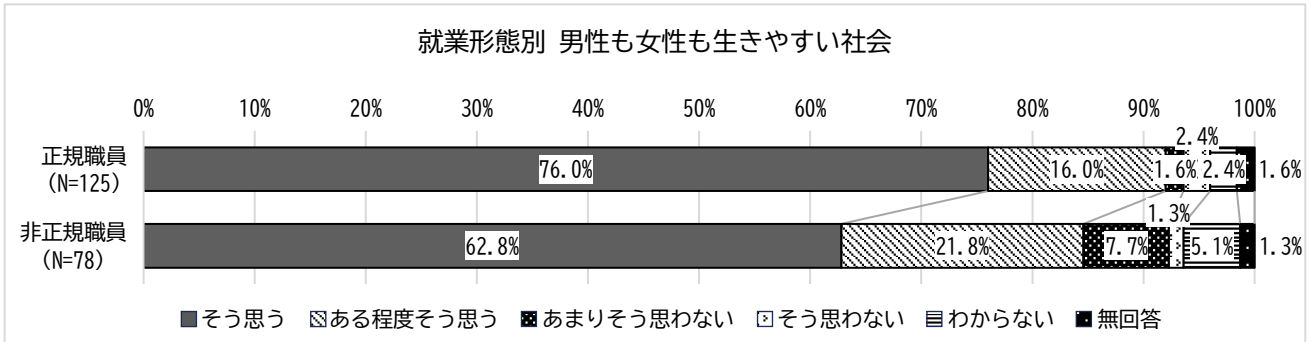
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「18～39歳」が91.1%で最も多く、「60歳以上」が88.4%で最も少なく、その差は2.7ポイント、『そう思わない計』は「18～39歳」が7.3%で最も多く、「60歳以上」が2.7%で最も少なく、その差は4.6ポイントとなっています。



《就業形態別》

『そう思う計』は「正規職員」が92.0%に対し、「非正規職員」は84.6%と、「正規職員」が「非正規職員」を7.4ポイント上回っています。



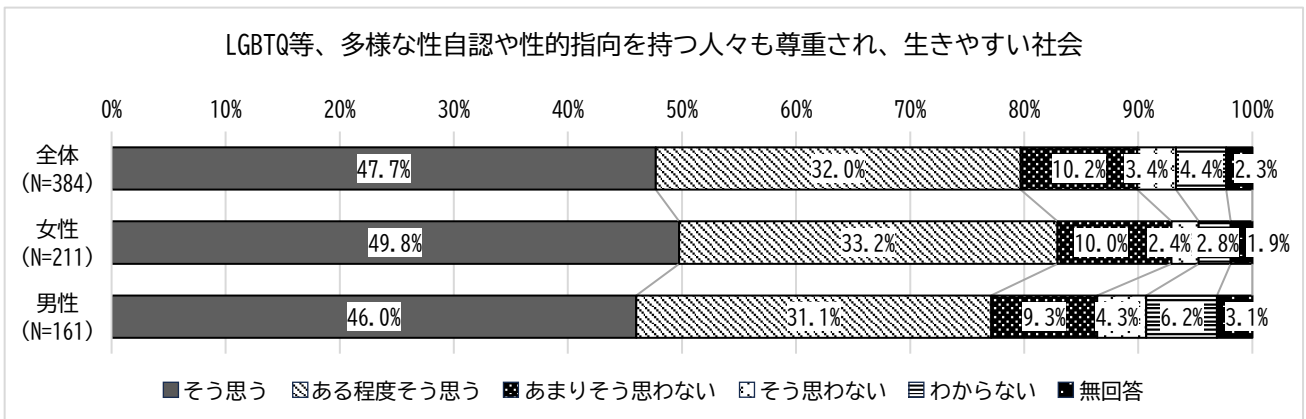
⑧ LGBTQ等、多様な性自認や性的指向を持つ人々も尊重され、生きやすい社会

《全体》

『そう思う計』が79.7%、『そう思わない計』は13.6%となっています。

《男女別》

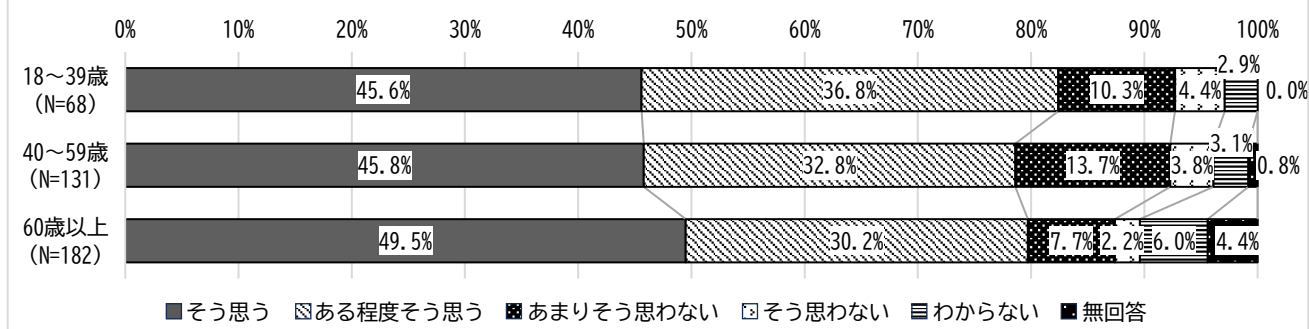
『そう思う計』は「女性」が83.0%に対し、「男性」は77.1%と、「女性」が「男性」を5.9ポイント上回り、「わからない」は「男性」が6.2%に対し、「女性」は2.8%と、「男性」が「女性」を3.4ポイント上回っています。



《年齢3区分別》

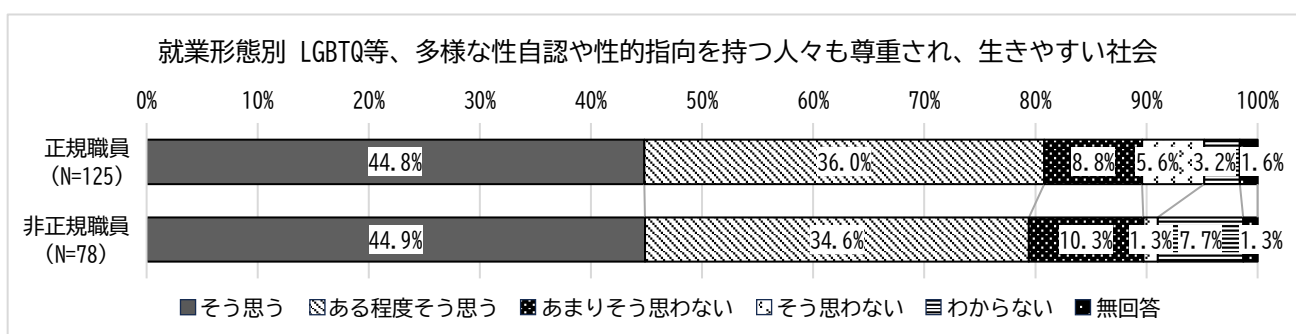
『そう思う計』は「18～39歳」が82.4%で最も多く、「40～59歳」が78.6%で最も少なく、その差は3.8ポイント、『そう思わない計』は「40～59歳」が17.5%で最も多く、「60歳以上」が9.9%で最も少なく、その差は7.6ポイントとなっています。

年齢3区分別 LGBTQ等、多様な性自認や性的指向を持つ人々も尊重され、生きやすい社会



《就業形態別》

有意な差は見られません。



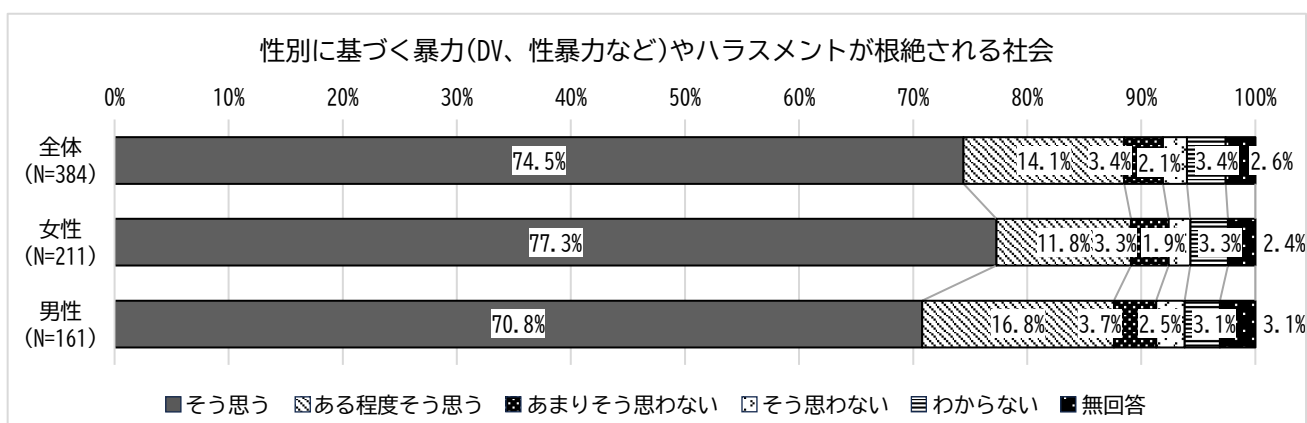
⑨ 性別に基づく暴力(DV、性暴力など)やハラスメントが根絶される社会

《全体》

『そう思う計』が88.6%、『そう思わない計』は5.5%となっています。

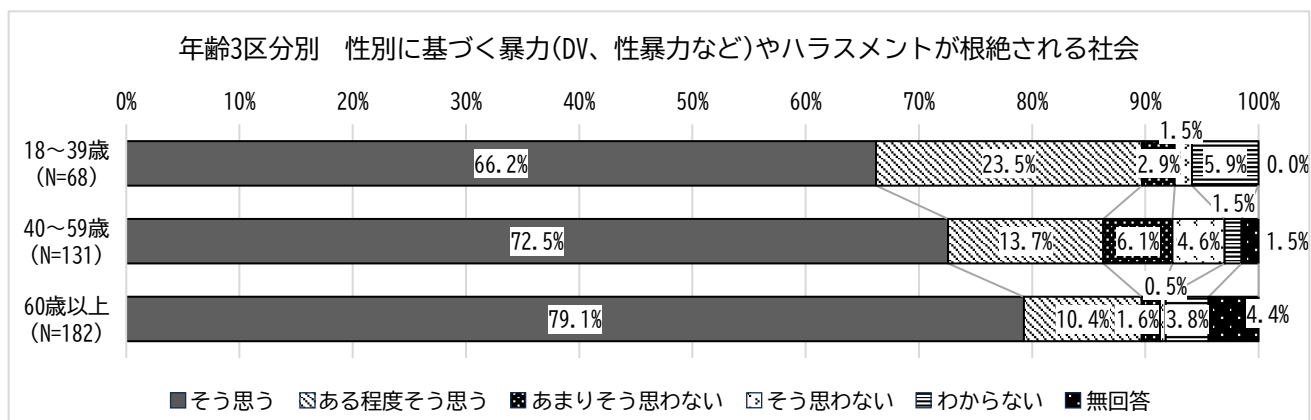
《男女別》

『そう思う計』では有意な差は見られませんが、「そう思う」は「女性」が77.3%に対し、「男性」は70.8%と、「女性」が「男性」を6.5ポイント上回っています。



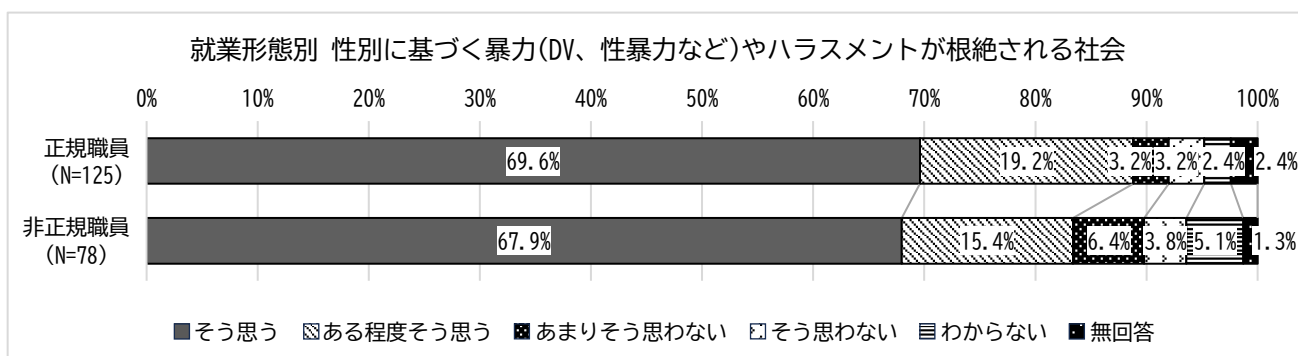
《年齢3区分別》

『そう思う計』は「18～39歳」が89.7%で最も多く、「40～59歳」が86.2%で最も少なく、その差は3.5ポイント、『そう思わない計』は「40～59歳」が10.7%で最も多く、「60歳以上」が2.1%で最も少なく、その差は8.6ポイントとなっています。



《就業形態別》

『そう思う計』は「正規職員」が88.8%に対し、「非正規職員」は83.3%と、「正規職員」が「非正規職員」を5.5ポイント上回っています。



問 20 男女共同参画社会を実現するために、今後どのような方策がより必要だと思いますか。
(○は 3 つまで)

《全体》

「女性が働き続けられる制度と環境の整備」が 34.1%で最も多く、次いで「学校でのジェンダー平等教育」が 31.0%、「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」が 28.9%となっています。

《男女別》

「女性」は「女性が働き続けられる制度と環境の整備」が 38.4%で最も多く、次いで「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」が 33.2%、「介護の制度・社会的サービスの充実」が 29.9%となっています。

「男性」は「学校でのジェンダー平等教育」が 34.8%で最も多く、次いで「女性が働き続けられる制度と環境の整備」が 29.8%、「社会でのジェンダー平等教育」「介護の制度・社会的サービスの充実」が共に 24.8%となっています。

男女別で差が大きいものを見ると、「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」は「女性」が「男性」を 9.6 ポイント、「女性が働き続けられる制度と環境の整備」は「女性」が「男性」を 8.6 ポイント、「子育て支援制度・サービスの充実」は「女性」が「男性」を 8.4 ポイント上回っています。

また、「学校でのジェンダー平等教育」は「男性」が「女性」を 6.4 ポイント、「社会でのジェンダー平等教育」は「男性」が「女性」を 5.8 ポイント、「家庭でのジェンダー平等教育」は「男性」が「女性」を 5.5 ポイント上回っています。

《年齢 3 区分別》

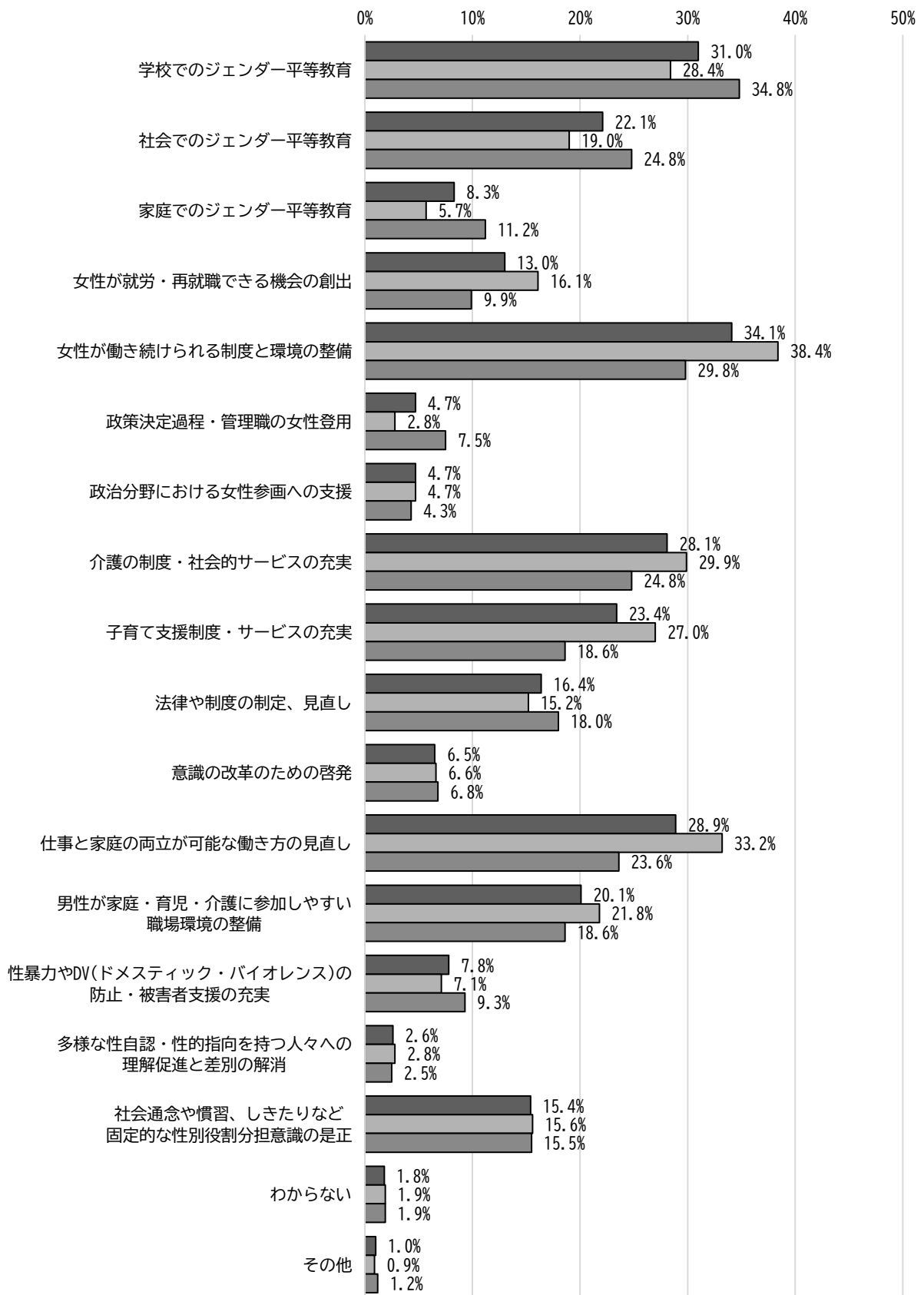
年齢別で差が大きいものを見ると、「子育て支援制度・サービスの充実」は「18～39 歳」が 41.2%で最も多く、「60 歳以上」が 18.7%で最も少なく、その差は 22.5 ポイント、「介護の制度・社会的サービスの充実」は「60 歳以上」が 38.5%で最も多く、「40～59 歳」が 17.6%で最も少なく、その差は 20.9 ポイント、「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」は「40～59 歳」が 36.6%で最も多く、「60 歳以上」が 24.7%で最も少なく、その差は 11.9 ポイント、「女性が働き続けられる制度と環境の整備」は「60 歳以上」が 39.6%で最も多く、「40～59 歳」が 28.2%で最も少なく、その差は 11.4 ポイントとなっています。

《就業形態別》

「正規職員」は「学校でのジェンダー平等教育」が 35.2%で最も多く、次いで「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」が 29.6%、「女性が働き続けられる制度と環境の整備」が 28.8%、「子育て支援制度・サービスの充実」が 28.0%となっています。

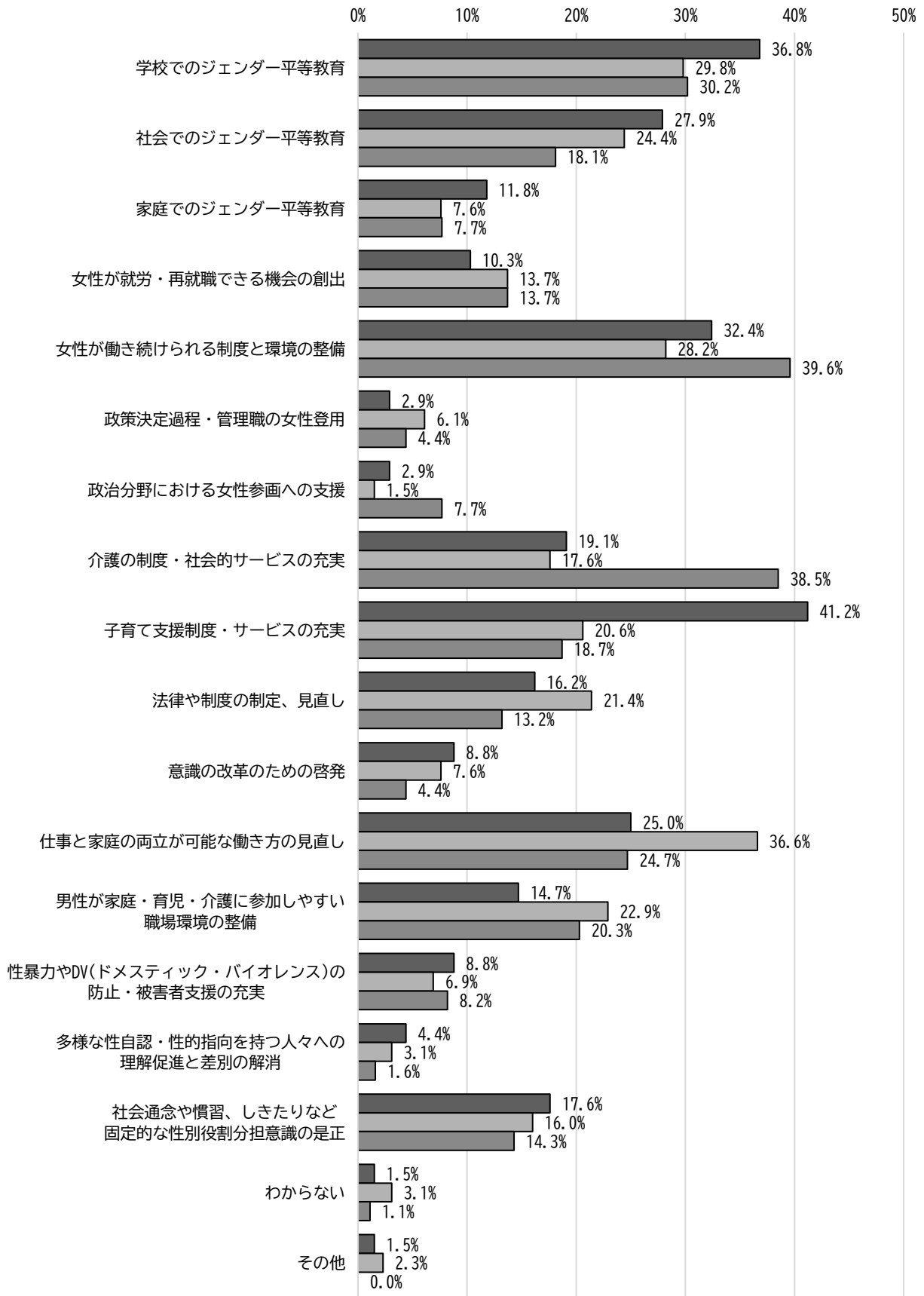
「非正規職員」は「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」が 38.5%で最も多く、次いで「女性が働き続けられる制度と環境の整備」が 37.2%、「学校でのジェンダー平等教育」が 30.8%、「介護の制度・社会的サービスの充実」が 29.5%となっています。

男女共同参画社会を実現するために必要だと思う方策



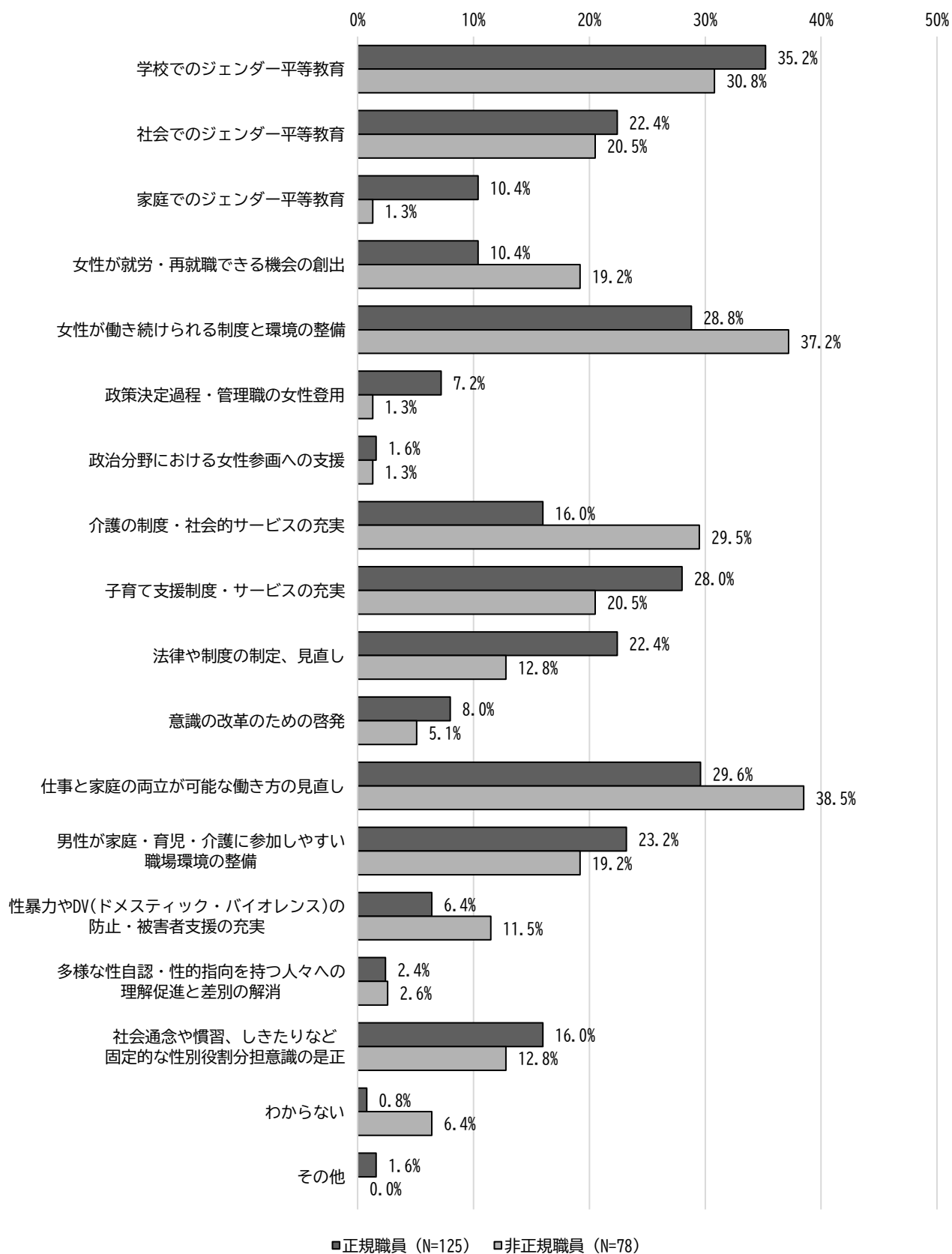
■全体 (N=384) □女性 (N=211) ▨男性 (N=161)

年齢3区分別 男女共同参画社会を実現するために必要と思う方策



■18~39歳 (N=68) □40~59歳 (N=131) ▣60歳以上 (N=182)

就業形態別 男女共同参画社会を実現するために必要な方策



問 21 本市の男女共同参画施策に対する要望等、ご自由にお書きください。

回答総数 384 件のうち、48 件の回答がありました。いただいたご意見の要点まとめは以下の通りです。

施策の見える化と広報に関する要望

- 富田林市が男女共同参画に関してどのような取組みを実施し、どのような成果を残したのかが市民に見えてこないため、広報「とんだばやし」などを活用し、PDCA を見える化する必要がある。
- 「男女共同参画」という名称や内容が堅苦しく、何をやっているのか不明であるため、もっと具体的な内容で必要なものだけを強調して運営して欲しい。
- 現在の施策は理解できていないが、市(行政機関)が率先して、性別に関係のない雇用、昇進、給与等に取組んでほしい。

子育て・仕事と生活の両立支援に関する要望

- 女性の社会進出を促進するためには、子育て支援の制度や施設の整備が不可欠であり、働く女性が安心して職場復帰できる環境を整える必要がある。
- 男女を問わず育児に参加しやすい制度を確立し、家庭内の負担を平等にすることが求められる。
- 男性も急な休みを取りやすい職場や、理解ある上司が必要であり、育休や時短勤務の負担を男性と分かち合うことで、女性がキャリアを諦めずに済むような会社側のサポート充実が必要と思う。
- 小学校の行事や個人懇談の決定が直前になるなど、いまだに母親が専業主婦であることを前提とした昔の考え方が色濃く残っており、働きにくさを感じている。
- 他の市と比べて子育て支援が少ないと感じられており、給食費の無償化、学童保育の充実、習い事助成などもして欲しい。
- 自治体が補助金を出し、シルバー人材派遣を利用してベビーシッターや家事代行などを補うことで、女性の負担軽減を図り、男女共に社会進出と少子化の改善につながると思う。
- ひとり親でも働きやすい環境と制度を充実してほしい。

意識と社会構造に関する意見

- 制度の充実の前に、個々の人々の考え方の変革が必要であり、そのための環境整備が重要だと思う。
- 年配者の「男尊女卑」の考えをどれだけなくし、今の社会状況にブラッシュアップできるかが重要だと思う。
- 男女共同参画は、構成員の相互補完によって成り立っているものであり、むしろ個々の能力差や性差を積極的に認め、上、「互いに助け合い、共に生きる社会」の実現をめざすべきだと思う。
- あえて平等だ！と主張することが逆差別につながる場合があるため、「男らしさ女らしさもあっていい」と思う人に対してそれを否定することは違うのではないかと思う。
- 欧米の考え方が全て正しいわけではなく、納得性の高い男女平等をめざしてください。
- 男性が家のことを覚えることが、孤独死対策や夫婦円満につながるため、男の子のいる家庭での家事教育や感謝の習慣づけが重要である。
- DV はいじめではなく犯罪として厳しく対処すべきである。早急に被害者への相談窓口や保護施設を充実して欲しい。
- LGBTQ や障がい、弱者を特別視しすぎるのは不自然であり、ありのままの人格を尊重できることが大事。

市政全般への要望

- 富田林市はここ30年ほぼ発展がなく、高齢化が進み、市内バスの本数が減るなど不便になっている。公民館や図書館も老朽化している。
- ふるさと納税やクラウドファンディングを活用して、PL 花火大会を復活できないでしょうか。
- 富田林市で暮らしたい、住んでみたいと思わせるよう、奇抜なアイデアで、企業誘致・移住促進・イベント等を通じて市内で働ける場所を増やし、インパクトのある政策をアピールして欲しい。
- 高齢の方々も社会の一員と感じられる(実感)ことが、生きがい向上につながる。

アンケート形式への意見

- アンケートの設問が多すぎるため、A3 用紙 1 枚くらいに集約できないか。また、回答用紙を封筒に入れるのが困難で、配慮のなさがうかがえる。
- 問 20 において「女性が、女性が」という表記が多いため、「男女問わず」という表現にした方が平等ではないか。
- アンケートの集計報告を回答者へ送ってほしい。

III. 考察

(1) 回収状況についての考察

① アンケート回収率の全体像と評価

| 回収状況 | |
|--------|---------|
| 配布数 | 1,500 件 |
| 回収数(計) | 384 件 |
| 総回収率 | 25.6% |

25.6%の回収率は、市民全体の意識を統計的に正確に反映したデータを取得する上で、一定の課題があることを示唆しています。一般的に、この種の無作為抽出調査においては、より高い回収率が望まれます。回収率が低い場合、調査に関心が高い層や、特定の意見を持つ層からの回答に偏る「無回答バイアス」が生じるリスクが高まる可能性があります。

② 性別による回答率の差異

| 性別 | 割当て標本数 | 回収数 | 回収率 |
|----|--------|-----|-------|
| 女性 | 750 | 211 | 28.1% |
| 男性 | 750 | 161 | 21.5% |

女性の回収率(28.1%)が男性(21.5%)を 6.6 ポイント上回っています。この回収率の差により回答者構成が女性 54.9%、男性 41.9%と女性が男性を上回る結果となっています。

③ 年齢層による回答率の差異

| 年齢層 | 割当て標本数 | 回収数 | 回収率 |
|---------|--------|-----|-------|
| 18～29 歳 | 250 | 19 | 7.6% |
| 30～39 歳 | 250 | 49 | 19.6% |
| 40～49 歳 | 250 | 62 | 24.8% |
| 50～59 歳 | 250 | 69 | 27.6% |
| 60～69 歳 | 250 | 98 | 39.2% |
| 70 歳以上 | 250 | 84 | 33.6% |

年齢層による回答率に大きな差が生じています。特に、18～29 歳の回収率(7.6%)と、最も高かった 60～69 歳の回収率(39.2%)との間には、5 倍以上の差があります。

④ 回答方法の選択によるデジタルデバイド

| 年齢別 | 郵送比率 | オンライン比率 |
|---------|-------|---------|
| 18～29 歳 | 52.6% | 47.4% |
| 30～39 歳 | 46.9% | 53.1% |
| 40～49 歳 | 46.8% | 53.2% |
| 50～59 歳 | 65.2% | 34.8% |
| 60～69 歳 | 84.7% | 15.3% |
| 70 歳以上 | 96.4% | 3.6% |

オンライン回答の比率は30代・40代で50%を超えていますが、50代から減少し、70歳以上では3.6%となっています。これは、年齢が上がるにつれてオンラインツールの利用率が低下するという、「デジタルデバイド」の実態を示しています。

オンライン回答という選択肢は、回収率が低かった若年層(18～29 歳)の回答を得るために不可欠であったと評価できます。この層の回答者のうち47.4%がオンライン経由であり、もし郵送のみの調査であったなら、若年層の意見はさらに失われていた可能性が高いと思われます。

⑤ 調査の信頼性に関する評価と今後の課題

最終的に得られた384件の回答サンプルは、若年層よりも高齢層が多い結果となっているため、調査結果を読み解く際にはその点を考慮する必要があります。

今後の調査においては、回収状況の改善、特に若年層の回答率を向上させることが最重要課題になります。自由意見にあった「設問が多すぎる」という指摘も踏まえ、回答者の負担を考慮し、設問数を絞り込み、簡素化することによって、回答意欲を高めるなどの検討が必要です。

(2) ジェンダー平等に関する市民意識についての考察

① 主要分野におけるジェンダー平等の認識

ジェンダー平等や性別役割分担意識について、『女性優遇』『男性優遇』と回答した割合を男女別、年齢別、就業形態別に比較・分析を行いました。

《ジェンダー平等の認識に関する世代間ギャップ》

調査結果からは、分野によって認識に大きな差があること、そして特定の分野では年齢が上がるにつれて不平等をより強く認識する傾向があることが明らかになりました。

● 家庭生活や職場、社会慣習では高齢層ほど『男性優遇』を認識

問1「②家庭生活」「③会社や職場」「④社会のしきたりや慣習」の3分野では、例えば、「②家庭生活」において『男性優遇』と認識する割合は、18～39歳では33.8%、40～59歳では50.4%、60歳以上では62.6%へと大きく上昇し、「③会社や職場」でも18～39歳の50.0%から60歳以上の67.6%へと上昇するなど、年齢が上がるにつれて『男性優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかと言えば男性が優遇されている」の合計)と回答した割合が高くなる傾向が見られます。

- 学校教育では全世代で「平等」意識が高い

「①学校教育」の分野では、全年齢層(18～39 歳、40～59 歳、60 歳以上)で「平等である」との回答が60%を超えており、世代による大きな認識の差は見られませんでした。

《ジェンダー平等の認識に関する男女間ギャップ》

全体として、女性の方が男性よりも多くの分野で「男性が優遇されている」と感じており、男女間で認識にギャップがあることが分かりました。

- 多くの分野で女性の方が『男性優遇』を強く認識

「⑥社会、政治活動への参加」で、『男性優遇』と回答した割合は女性(74.4%)が男性(51.5%)を 22.9 ポイント上回り、「②家庭生活」でも、女性(62.5%)が男性(41.0%)と 21.5 ポイント、「③会社や職場」でも女性(67.8%)が男性(54.0%)を 13.8 ポイント上回り、認識に大きな差が見られます。

- 男性は「平等」と認識する割合が高い

男性は多くの分野で「平等である」と回答する割合が女性よりも高い傾向にあります。例えば、「⑥社会、政治活動への参加」では、男性の40.4%が「平等である」と回答したのに対し、女性は17.1%でした。

《就業形態別における不平等感》

職場における不平等感は、雇用形態によらず共通して高く認識されていることが分かりました。

- 職場での『男性優遇』は正規・非正規を問わず高い認識

「③会社や職場」において、『男性優遇』と回答した割合は、正規職員が57.6%、非正規職員が59.0%と、両者の間に大きな差はなく、共に6割近くが職場での『男性優遇』を認識しています。

- 家庭生活での『男性優遇』は非正規職員の方が高い認識

「②家庭生活」においては、『男性優遇』と認識する割合は、正規職員(48.0%)、非正規職員(59.0%)ともに高い水準にありますが、非正規職員の方が『男性優遇』を強く認識しています。

《職場におけるジェンダー平等についての男女の認識ギャップ》

- 「昇進・昇格」、「管理職登用」で女性はより強く男性優遇を認識

問7「⑤管理職への登用」で「男性の方が優遇されている」と感じる割合は、女性(37.2%)が男性(31.6%)を5.6ポイント上回り、「④昇進・昇格」でも、女性(28.1%)が男性(23.5%)を4.6ポイント上回っています。

- 「仕事の内容」に関する認識に大きなギャップ

「③仕事の内容」で「平等である」と回答した割合は女性(61.2%)が男性(45.9%)を15.3ポイント上回っています。また、「女性の方が優遇されている」は男性(14.3%)が女性(7.4%)を6.9ポイント上回っており、男性の方が仕事内容における性差をより強く感じています。

- 「募集・採用」では男性の方が男性優遇と認識している

「①募集・採用」では、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は男性(19.4%)が女性(8.3%)を11.1ポイント上回っており、「募集・採用」において男性が優遇されている状況がうかがえます。

- 「休暇制度の取得」では『女性優遇』の認識が共通

「⑨育児、介護・看護休暇など休暇の取得のしやすさ」については、「女性の方が優遇されている」という認識が男女ともに高く(女性28.9%、男性32.7%)、休暇制度における女性優遇は共通認識になっています。

《職場におけるジェンダー平等についての就業形態による認識ギャップ》

● 正規職員は昇進・管理職登用での格差をより強く意識

「⑤管理職への登用」において「男性の方が優遇されている」と認識する割合は、正規職員(39.2%)が非正規職員(29.5%)を 9.7 ポイント上回ります。同様に、「④昇進・昇格」でも正規職員(28.0%)が非正規職員(21.8%)を 6.2 ポイント、「②賃金」でも正規職員(24.0%)が「非正規職員(14.1%)を 9.9 ポイント上回っています。これは、キャリアパスがより明確な正規雇用の場において、男女による処遇の差がより強く意識されやすい可能性を示唆しています。

● 非正規職員は「わからない」の回答割合が高い

非正規職員は、全ての項目で「わからない」と回答する割合が正規職員よりも高くなっています。例えば、「⑤管理職への登用」では、非正規職員(42.3%)が正規職員(17.6%)を 24.7 ポイント、「⑥能力評価(業績評価・人事考課など)」では、非正規職員(47.4%)が正規職員(20.8%)を 26.6 ポイント、「⑦研修の機会や内容(キャリア支援)」では、非正規職員(41.0%)が正規職員(17.6%)を 23.4 ポイント上回っています。これは、非正規職員の立場では昇進や評価に関する情報にアクセスしにくい、あるいは自身のキャリアとして意識する機会が少ないといった職場環境が背景にあることを示唆しています。

② 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担への意識

固定的な性別役割分担意識は、ジェンダー平等を阻む根源的な要因の一つとされています。「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する市民の賛否を分析することは、社会に根付く価値観の動向を理解し、今後の施策を検討する上で極めて重要です。

《性別役割分担意識の世代間ギャップ》

全年齢層で性別役割分担への反対が多いものの、『反対計』(「反対」と「どちらかと言えば反対」の合計)は 18~39 歳の 76.4%に対し、60 歳以上の 64.3%と、高年齢になるほど低下し、『賛成計』(「賛成」と「どちらかと言えば賛成」の合計)は、60 歳以上が 34.0%に対し、18~39 歳は 23.5%と、60 歳以上が 18~39 歳を 10.5 ポイント上回っており、年齢による意識の相違が見られます。

《性別役割分担意識の男女間ギャップ》

性別による意識差も非常に明確で、『反対計』は女性(76.3%)が男性(59.0%)を 17.3 ポイント上回り、『賛成計』は男性(39.2%)が、女性(22.8%)を 16.4 ポイント回っており、性別役割分担意識の男女間ギャップが大きく、男性の方が、固定的な性別役割分担を支持する傾向が強いことが分かります。

《就業者は雇用形態によらず 7 割以上が反対》

『反対計』の割合は、正規職員で 74.4%、非正規職員で 73.1%となり、就業形態による有意な差は見られませんでした。

《反対理由は「個人の生き方の尊重」、賛成理由は「伝統・慣習」》

- 反対理由

性別役割分担に反対する理由の上位には、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」や「男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから」といった、一方に過度な負担を押しつけない考え方や、対等な関係の構築、男性の家庭への参画を求める意見が挙げられました。

- 賛成理由

性別役割分担に賛成する理由を見ると、特に60歳以上や男性において「日本の伝統・慣習だと思うから」という回答の割合が高まる傾向が見られました。これは、伝統的な価値観が、固定的な性別役割分担意識を支持する一つの基盤となっていることを示唆しています。

(3) 「男の子」と「女の子」にどのように育ってほしいか

① 全体的な傾向の比較

「男の子」「女の子」ともに、期待されている上位2つの資質は共通しており、問8「家族や友人を大切にする人」と「やさしく思いやりがある人」です。その割合を比較すると、「家族や友人を大切にする人」は「女の子」が67.2%に対し、「男の子」は61.2%、「やさしく思いやりがある人」は「女の子」が66.9%に対し、「男の子」は52.9%と、「女の子」が「男の子」を上回っています。

しかし、3番目に期待される資質には違いが見られ、「男の子」に対しては「仕事に生きがいを見出せる人」が22.7%、「女の子」に対しては「社会に役立つ人」が12.8%となっており、「男の子」は仕事重視、「女の子」は社会貢献重視の傾向が見られます。

② 男女別による比較

「男の子」に対して、女性は男性よりも「やさしく思いやりがある人」(女性55.9%、男性50.3%)や「仕事に生きがいを見出せる人」(女性24.6%、男性19.9%)に期待する割合が高く、「女の子」に対しても、女性は男性よりも「仕事に生きがいを見出せる人」(女性12.3%、男性7.5%)や「やさしく思いやりがある人」(女性68.7%、男性64.6%)に期待する割合が高くなっています。

③ 年齢3区分による比較

「男の子」はすべての年齢区分で「家族や友人を大切にする人」が最も高いのに対し、「女の子」では「18～39歳」は「やさしく思いやりがある人」が79.4%、「40～59歳」は「家族や友人を大切にする人」が74.0%、「60歳以上」は「やさしく思いやりがある人」が65.4%と最も高く、年齢による違いが見られます。

④ 就業形態別による比較

子どもに期待する資質は「正規職員」では「家族や友人を大切にする人」、「非正規職員」では「やさしく思いやりがある人」が最も高くなっていますが、「男の子」と「女の子」に期待する割合に差異が見られます。

「正規職員」では「家族や友人を大切にする人」は「女の子」が78.4%に対し、「男の子」は72.0%と、「女の子」が「男の子」を6.4ポイント上回り、「非正規職員」では「やさしく思いやりがある人」は「女の子」が71.8%に対し、「男の子」は51.3%と、「女の子」が「男の子」を20.5ポイント上回っています。

⑤ 子どもへの期待に見るアンコンシャス・バイアスの解消

「女の子にはやさしさや思いやりを、男の子には仕事を」という男女別による期待の違いは、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を反映しており、子どもたちに「女らしさ」「男らしさ」という社会や文化によってつくられた固定観念にもとづく生き方を期待する結果となっています。

こうした性別や年齢、就業形態による意識のギャップに対応したきめ細やかなアプローチが求められます。例えば、高齢層向けには地域コミュニティでの意識啓発、子育て世代向けには教育・保育現場を通じた啓発、労働者向けには企業内でのジェンダー平等研修など、それぞれのライフステージや環境に応じた教育・啓発に取り組む必要があります。

(4) ハラスメント及び DV に関する市民意識についての考察

① セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)に関する意識と実態

2つのセクハラ行為(性的な言動、身体的な接触)について、「受けたことがある」「したことがある」と回答した割合を年齢別、男女別、就業形態別に比較・分析を行いました。

《男女別の経験比較》

性的な言動、身体的接触のいずれにおいても、被害経験は女性が男性を大幅に上回り、加害経験は男性が女性を大幅に上回っています。

この結果は、女性がセクハラ被害者となり、男性がその加害者となる傾向を示しています。また、「受けたことがある」と「したことがある」の差が大きく、加害者は自身の言動がセクハラにあたるかどうか認識しづらい実態を示唆しています。

| 行為内容 | 回答 | 女性 | 男性 |
|-------------------|----------|-------|-------|
| 性的なジョークや卑猥なことを言う | 受けたことがある | 39.8% | 12.4% |
| | したことがある | 2.4% | 24.8% |
| さわる、抱きつくなど身体に接触する | 受けたことがある | 33.6% | 8.1% |
| | したことがある | 1.4% | 7.5% |

《年齢層別の経験比較》

性的な言動、身体的接触のいずれにおいても、40～59歳で被害経験が最も高く、次いで18～39歳となっています。60歳以上で被害経験が低い背景には、同様の行為を受けても「セクハラ被害」として認識しづらい傾向がある可能性が考えられます。

どの年代も被害経験が加害経験を大きく上回っており、セクハラ加害は認識しづらい実態を示唆しています。

| 行為内容 | 回答 | 18～39歳 | 40～59歳 | 60歳以上 |
|-------------------|----------|--------|--------|-------|
| 性的なジョークや卑猥なことを言う | 受けたことがある | 33.8% | 35.9% | 19.2% |
| | したことがある | 5.9% | 16.8% | 11.0% |
| さわる、抱きつくなど身体に接触する | 受けたことがある | 26.5% | 28.2% | 16.5% |
| | したことがある | 1.5% | 7.6% | 2.7% |

《就業形態別の経験比較》

正規職員と非正規職員の間で、セクハラ被害経験に有意な差は見られませんでした。加害経験は正規職員が非正規職員を大きく上回っています。

| 行為内容 | 回答 | 正規職員 | 非正規職員 |
|-------------------|----------|-------|-------|
| 性的なジョークや卑猥なことを言う | 受けたことがある | 32.0% | 33.3% |
| | したことがある | 16.8% | 2.6% |
| さわる、抱きつくなど身体に接触する | 受けたことがある | 23.2% | 24.4% |
| | したことがある | 6.4% | 1.3% |

② 配偶者等からの暴力(DV)に関する認識と実態

ドメスティック・バイオレンス(DV)は、「身体的暴力」に限られません。大声でどなるなどの「精神的暴力」、生活費を渡さないといった「経済的暴力」、意に沿わない性的な行為を強要する「性的暴力」など、その形態は多様です。ここでは、これらの多様な行為を「暴力」として認識しているか、また実際にどのような被害経験があるかを明らかにすることで、DV問題の根深さと支援のあり方について考察します。

《DVと認識される行為の分析》

身体的暴力以外の「大声でどなる」「生活費をわたさない、勝手に浪費する」といった行為については、男性よりも女性の方が、また、高齢層よりも若年・中年層の方が「暴力にあたる」と認識する割合が高い傾向にあります。就業形態別では、非正規職員の方が正規職員よりも、これらの行為をDVと認識する割合が高いという結果が見られました。このことは、DVの概念が多様な形態の支配・コントロールを含むという理解が、若年・中年層に浸透しつつあることを示しています。

一方で、「長時間無視する」といった精神的暴力については、暴力と認識する割合が全体として5割台に留まっており、継続的な啓発の必要性がうかがえます。

これらの行為について、「暴力(DV)にあたる」と回答した割合を属性別に比較します。

■ 男女別のDV認識

| 行為内容 | 女性 | 男性 |
|-------------------|-------|-------|
| 大声でどなる | 76.3% | 65.2% |
| 長時間無視する | 56.4% | 52.2% |
| 生活費をわたさない、勝手に浪費する | 83.4% | 74.5% |

■ 年齢層別のDV認識

| 行為内容 | 18～39歳 | 40～59歳 | 60歳以上 |
|-------------------|--------|--------|-------|
| 大声でどなる | 73.5% | 71.8% | 69.2% |
| 長時間無視する | 48.5% | 55.7% | 55.5% |
| 生活費をわたさない、勝手に浪費する | 82.4% | 80.2% | 77.5% |

■ 就業形態別の DV 認識

| 行為内容 | 正規職員 | 非正規職員 |
|-------------------|-------|-------|
| 大声でどなる | 72.8% | 76.9% |
| 長時間無視する | 52.8% | 67.9% |
| 生活費をわたさない、勝手に浪費する | 75.2% | 82.1% |

《DV被害の経験》

「受けたことがある」「どちらもある」を含むと回答した割合は以下の通りです。

■ 属性別 DV 被害経験

| 暴力の形態 | 男女別 | | 年齢3区分別 | | |
|-------|-------|-------|---------|---------|--------|
| | 女性 | 男性 | 18～39 歳 | 40～59 歳 | 60 歳以上 |
| 身体的暴力 | 21.3% | 8.1% | 16.2% | 16.8% | 15.9% |
| 精神的暴力 | 33.2% | 21.1% | 23.5% | 32.1% | 28.0% |
| 経済的暴力 | 14.7% | 4.9% | 10.3% | 13.0% | 9.8% |
| 性的暴力 | 13.7% | 0.6% | 10.3% | 9.9% | 6.6% |
| 社会的暴力 | 8.5% | 8.0% | 10.3% | 10.7% | 6.6% |

女性における被害経験率の高さが浮き彫りになりました。「精神的暴力」では女性の約 3 人に 1 人、「身体的暴力」では約 5 人に 1 人が被害経験を訴えています。

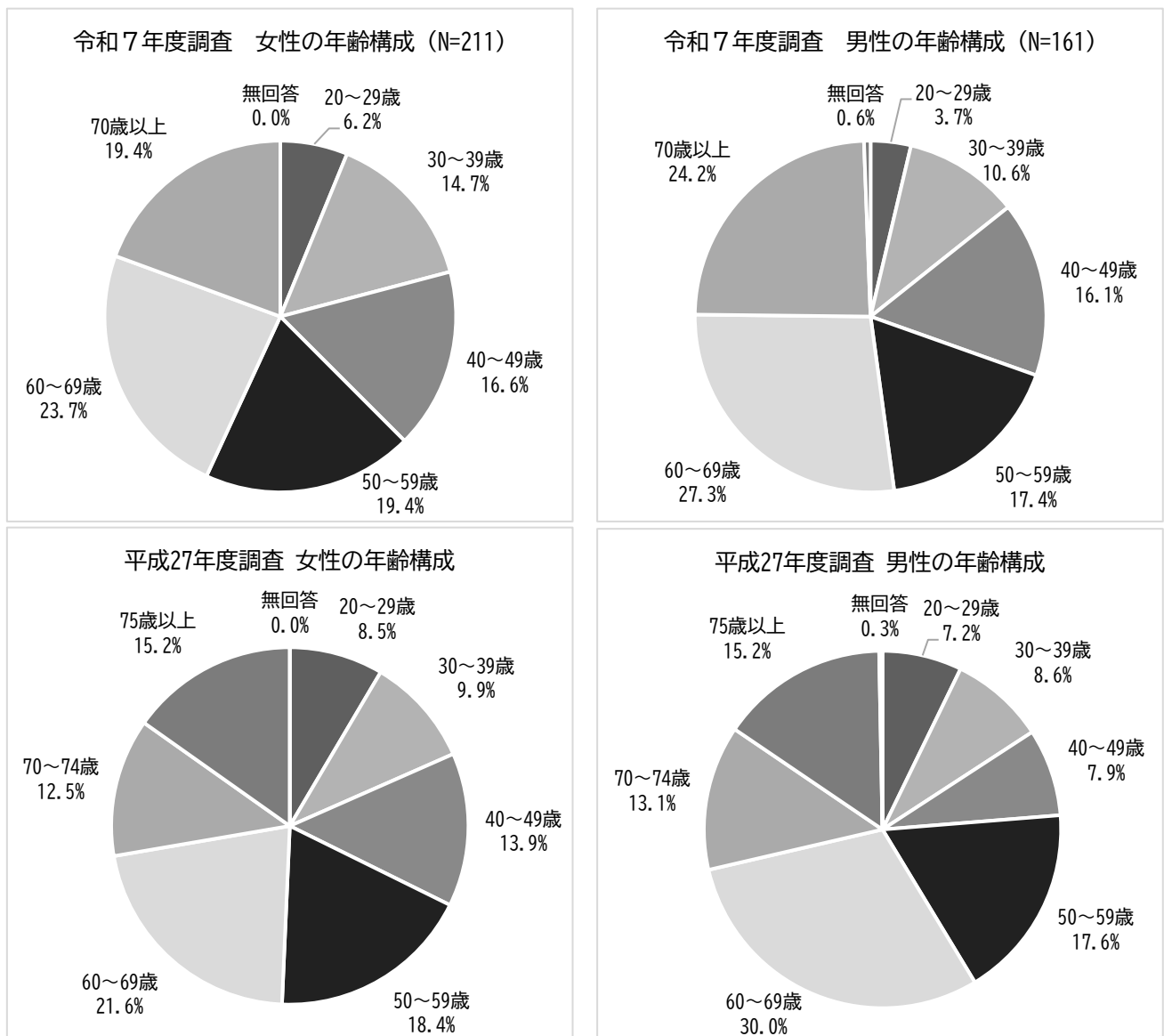
さらに、被害経験があると答えた人のうち、43.2%が「どこにも相談しなかった」と回答しています。その理由として最も多かったのは、「相談しても無駄だと思ったから」(33.3%)と「相談するほどのことではないと思ったから」(33.3%)で、被害者が声を上げにくい状況がうかがえます。被害者が自身の被害を認識できるよう、相談しやすい環境の整備と支援体制の信頼性向上が喫緊の課題です。

(5) 平成 27 年度調査との比較(経年変化)

近年、ジェンダーギャップに対する問題意識が社会全体で高まっている中、本市においてもこの 10 年間で問題に対する認識が高まっていることがうかがえます。特に心理的な暴力やハラスメントへの認識が大幅に向上しました。一方で、固定的な役割分担意識は依然として残っている状況が浮かび上がっています。

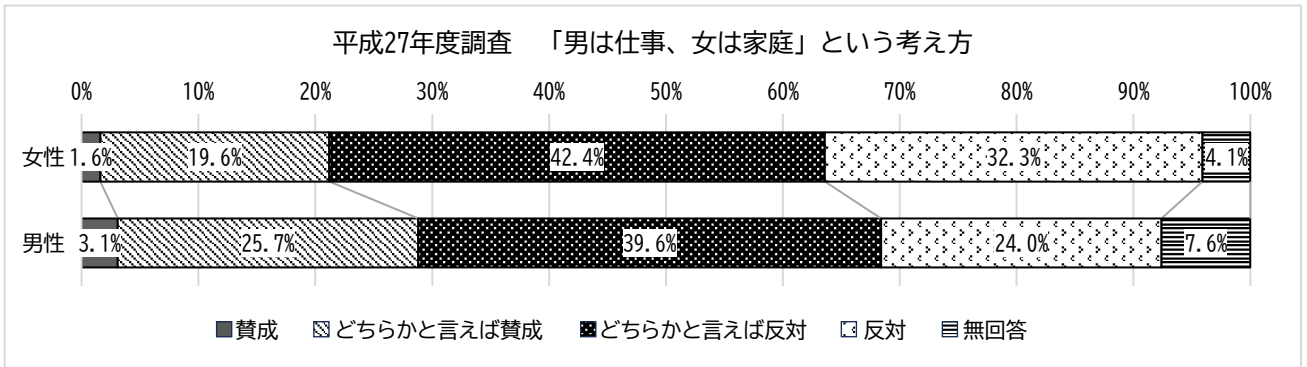
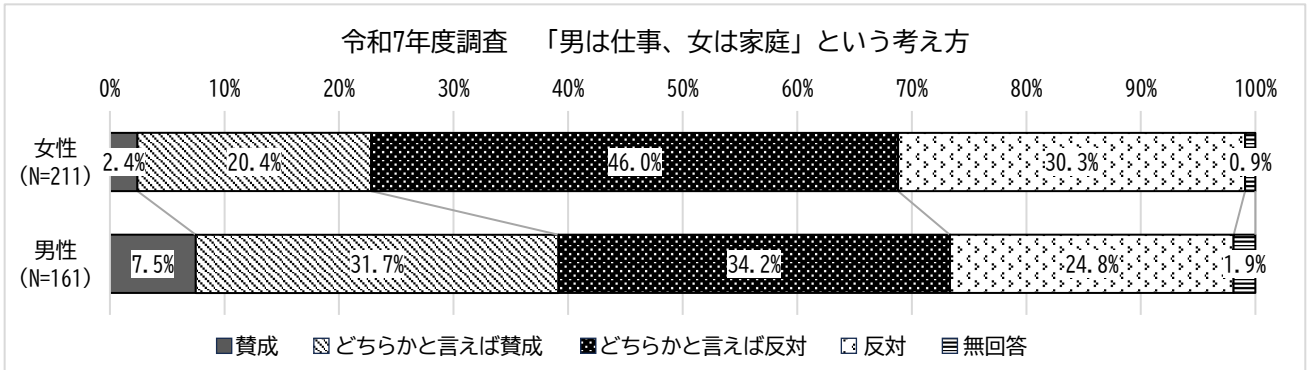
① 回答者の年齢構成

回答者の年齢構成は、令和 7 年度調査、平成 27 年度調査とも、高齢層が多くなっていますが、平成 27 年度調査の方が高齢層偏重になっている傾向が見られます。



② 固定的な性別役割分担意識の変遷

「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識に対する態度は、全体として反対が多数を占めています。しかし、「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と回答した男性の割合は、平成27年度が28.8%であったのに対し、令和7年度調査では39.2%に増加しています。



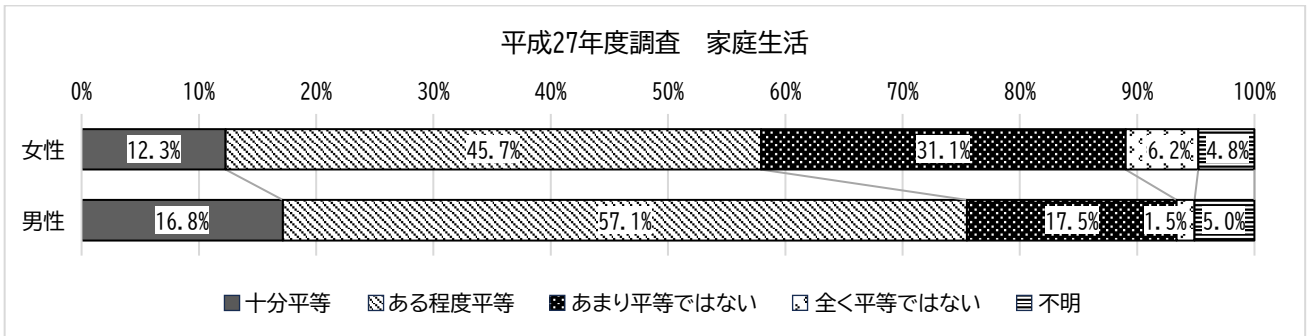
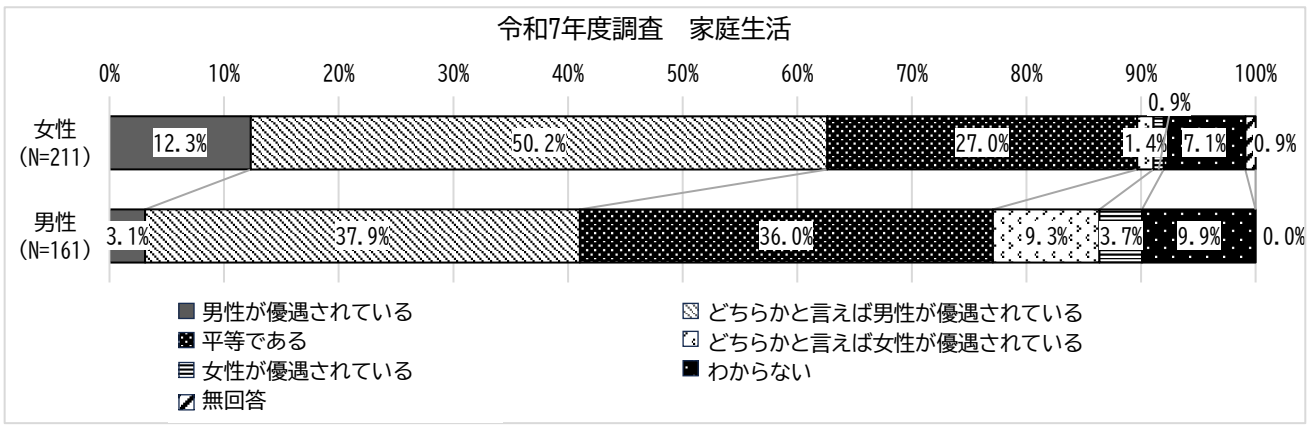
③ 家庭生活や会社・職場、社会的・政治的分野における不平等認識の深刻化

平成27年度調査と令和7年度調査では選択肢が異なりますが、家庭生活、会社や職場、社会のしきりや政治活動への参加において、「平等である」という意識が減少、また、「平等ではない」という意識が増えています。

● 家庭生活

平成27年度調査では「平等である」（「十分平等」または「ある程度平等」）と回答した割合は「女性」が58.0%、「男性」が73.9%と高い割合を示しています。

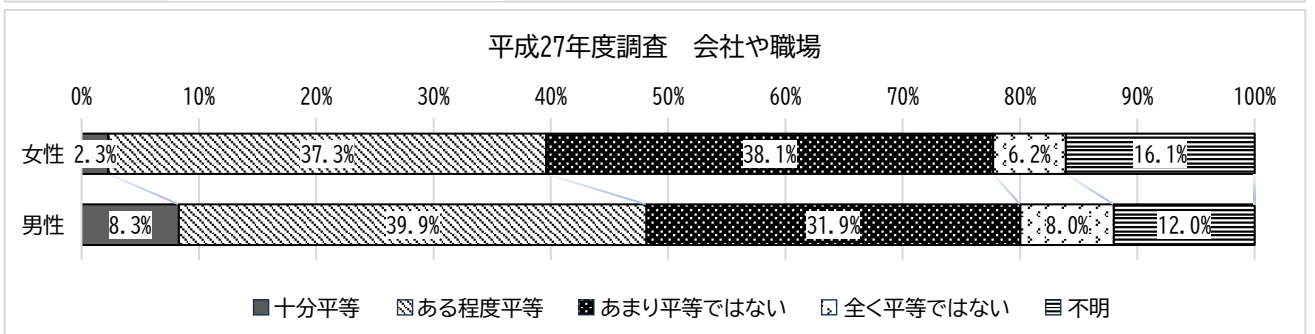
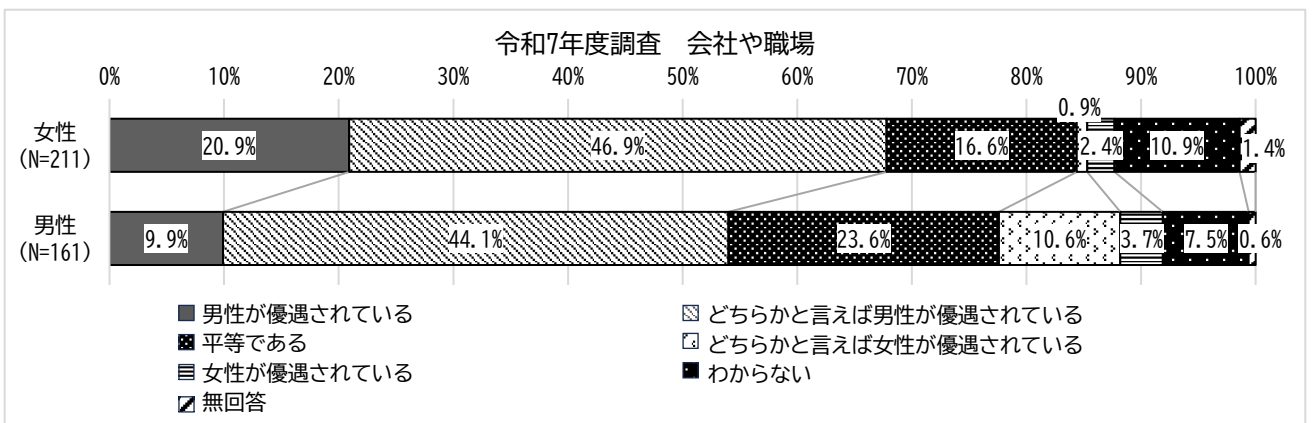
令和7年度調査では「平等である」と回答したのは、「男性」で36.0%、「女性」で27.0%に留まっており、『男性優遇』（「男性が優遇されている」または「どちらかと言えば男性が優遇されている」）は「女性」が62.5%、「男性」が41.0%、『女性優遇』（「女性が優遇されている」または「どちらかと言えば女性が優遇されている」）は「女性」が2.3%、「男性」が13.0%となっています。これは、家庭内で「男性が優遇されている」という認識が増大したことを示しています。



● 会社や職場

平成 27 年度調査では、「平等でない」（「あまり平等でない」または「全く平等でない」と回答した「女性」は 44.3%、「男性」は 39.9%でした。

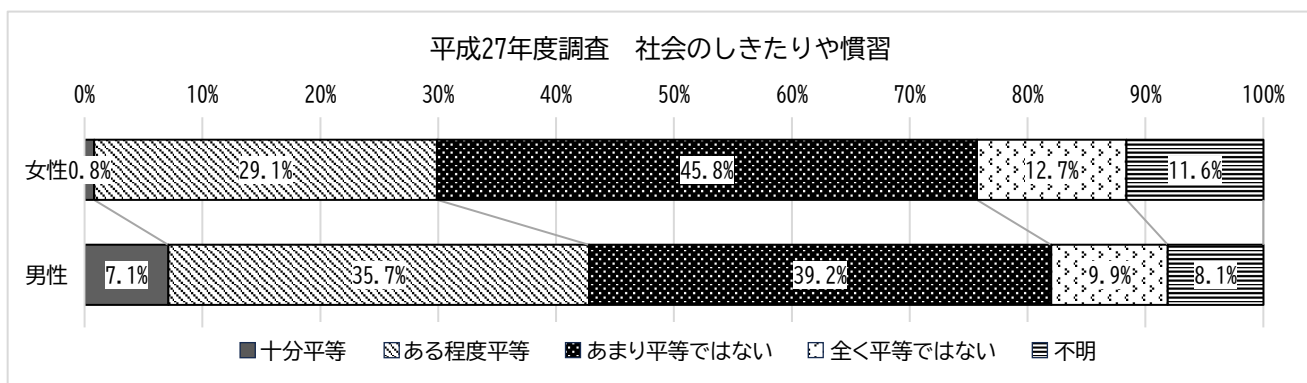
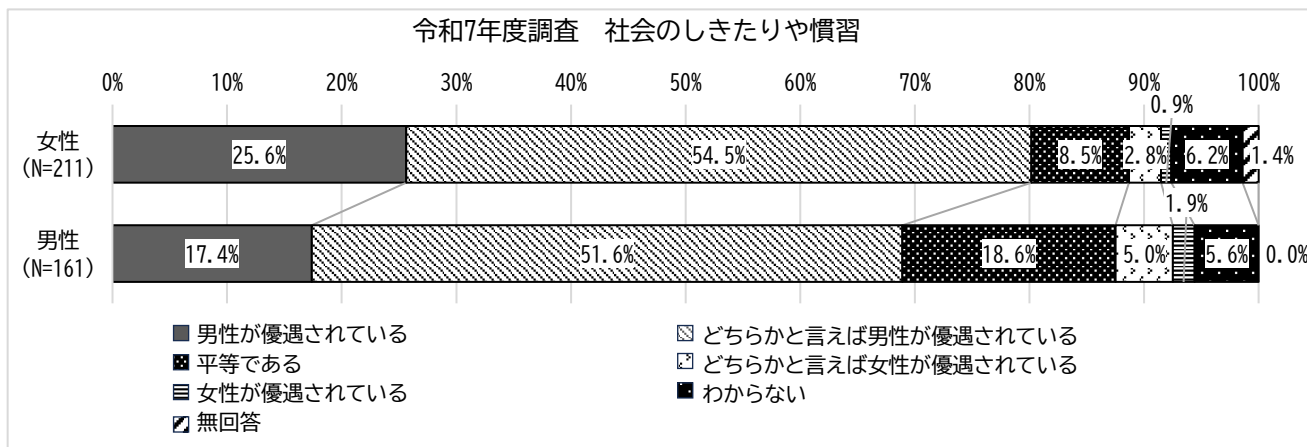
令和 7 年度調査では、『男性優遇』（「男性が優遇されている」または「どちらかと言えば男性が優遇されている」）は「女性」が 67.8%、「男性」が 54.0%、『女性優遇』（「女性が優遇されている」または「どちらかと言えば女性が優遇されている」）は「女性」が 3.3%、「男性」が 14.3%と回答しており、職場における「男性が優遇されている」という認識も高まっています。



● 社会のしきたりや慣習

平成 27 年度調査では、「平等でない」（「あまり平等でない」と「全く平等でない」の合計と認識している市民の割合）は、女性で 58.5%、男性で 49.1%でした。

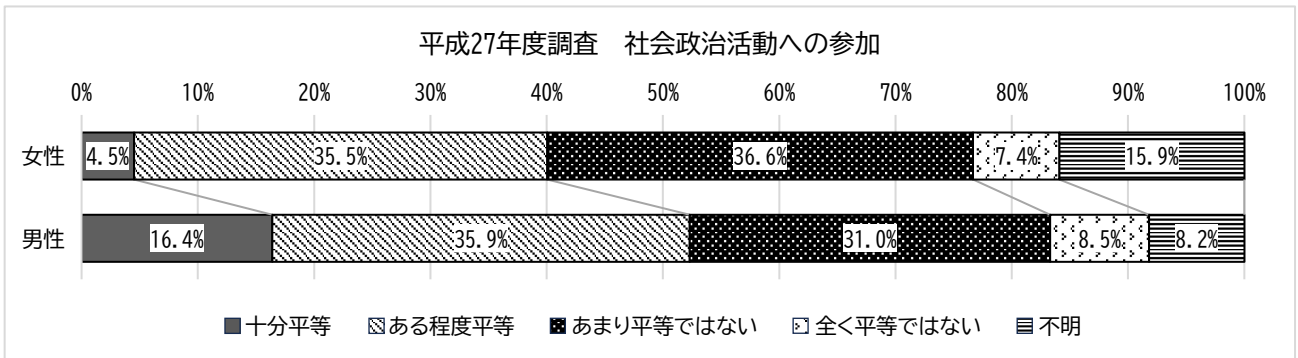
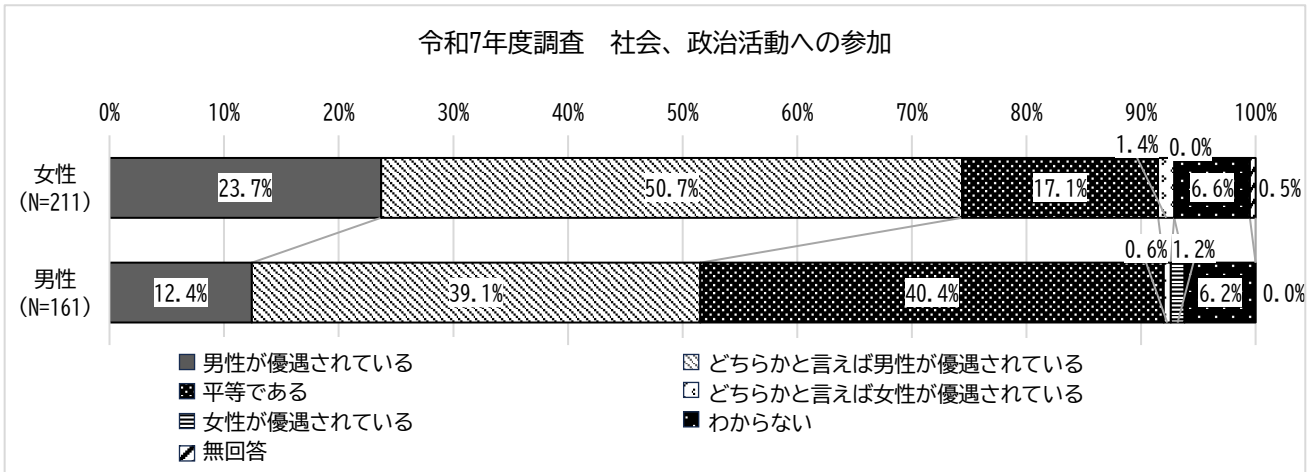
令和 7 年度調査では、『男性優遇』（「男性が優遇されている」または「どちらかと言えば男性が優遇されている」）は「女性」が 80.1%、「男性」が 69.0%、『女性優遇』（「女性が優遇されている」または「どちらかと言えば女性が優遇されている」）は「女性」が 3.7%、「男性」が 6.9%と回答しており、社会の慣習やしきたりにおいて「男性が優遇されている」という認識が高まっています。



● 社会、政治活動への参加

平成 27 年度調査で「平等でない」（「あまり平等でない」または「全く平等でない」）と回答した「女性」は 44.0%、「男性」は 39.5%でした。

令和 7 年度調査では『男性優遇』（「男性が優遇されている」または「どちらかと言えば男性が優遇されている」）は「女性」が 74.4%、「男性」が 51.5%、『女性優遇』（「女性が優遇されている」または「どちらかと言えば女性が優遇されている」）は「女性」が 1.4%、「男性」が 1.8%と回答しており、政治や社会の意思決定過程への女性参画が十分に進んでいないことがうかがえます。

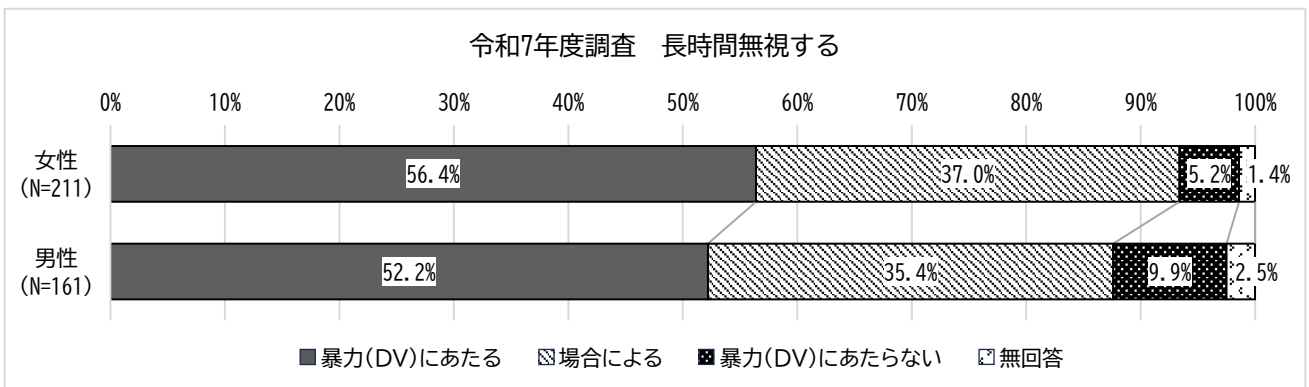


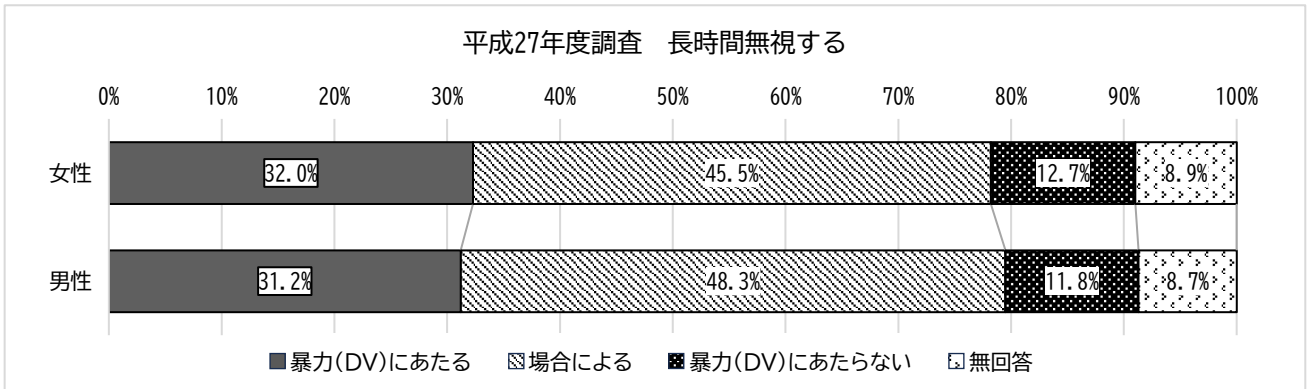
④ 暴力・ハラスメントに対する意識の向上

ドメスティック・バイオレンス(DV)やハラスメントについて、非身体的な行為も暴力であるという認識がこの10年間で大きく変化し、暴力として捉えられるようになりました。

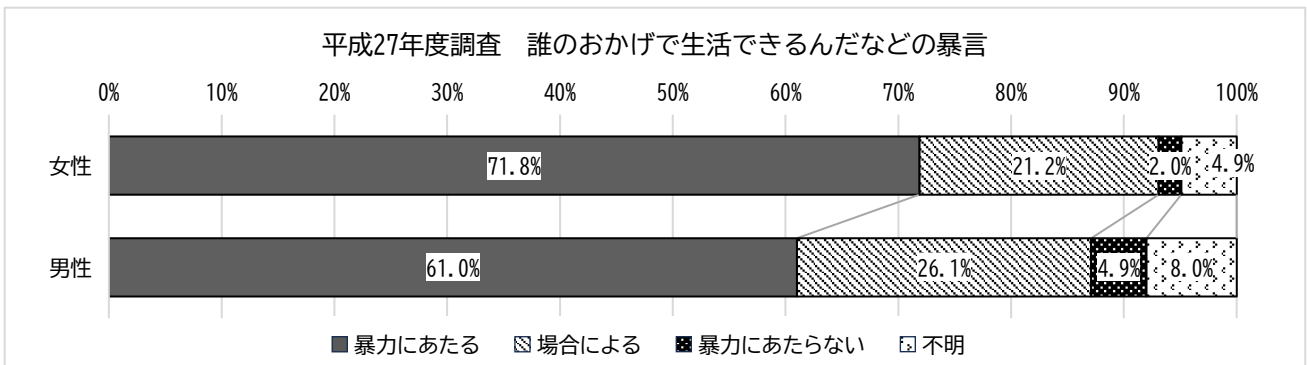
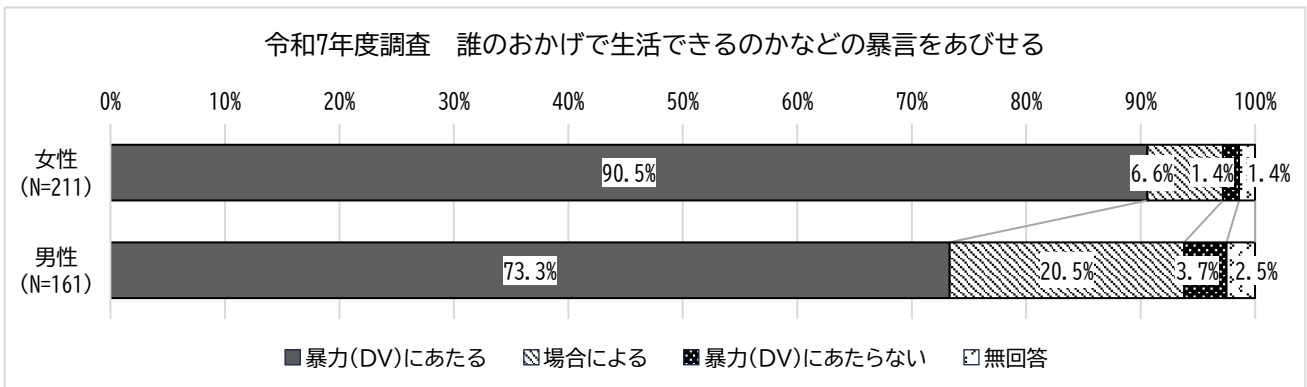
● 精神的暴力の認識

平成27年度調査では「長時間無視する」が、「女性」の32.0%、「男性」の31.2%が「暴力にあたる」と回答していましたが、令和7年度調査では、「女性」の56.4%、「男性」の52.2%が「暴力(DV)にあたる」と回答しており、認識度が大幅に向上しています。





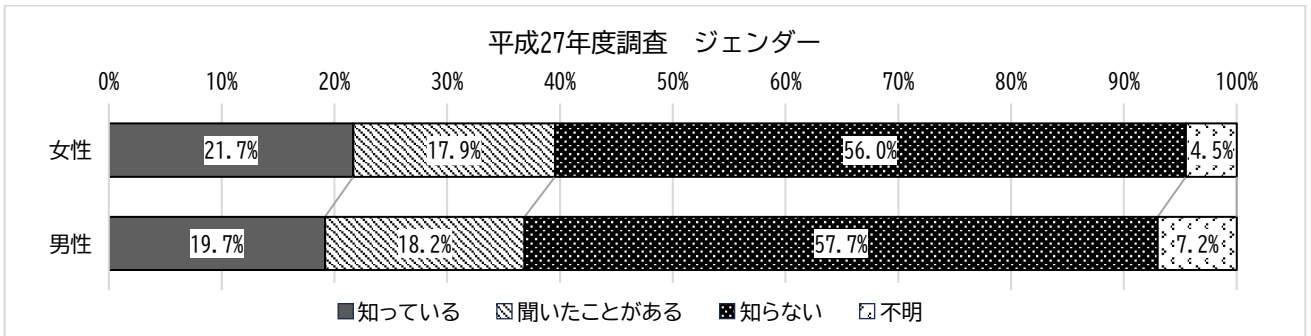
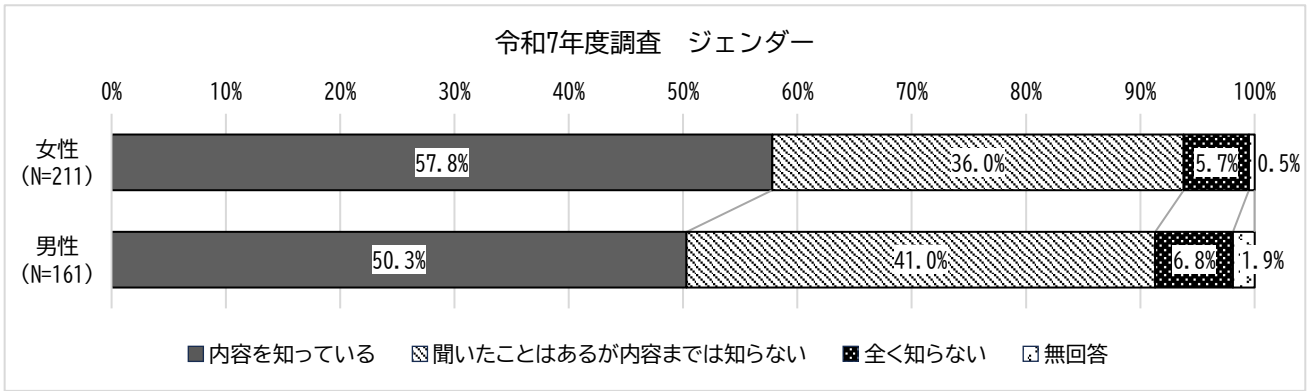
「誰のおかげで生活できるのかななどの暴言をあげせる」についても、平成 27 年度調査では「女性」で 71.8%、「男性」で 61.0%が「暴力にあたる」と回答しているのに対し、令和 7 年度調査では「女性」で 90.5%、「男性」で 73.3%が「暴力(DV)にあたる」と回答しています。



⑤ 法律・概念の認知度の向上

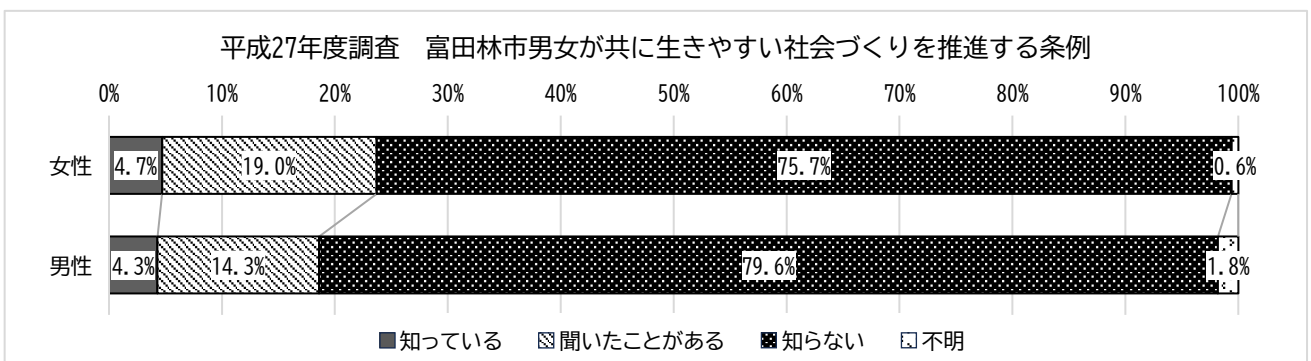
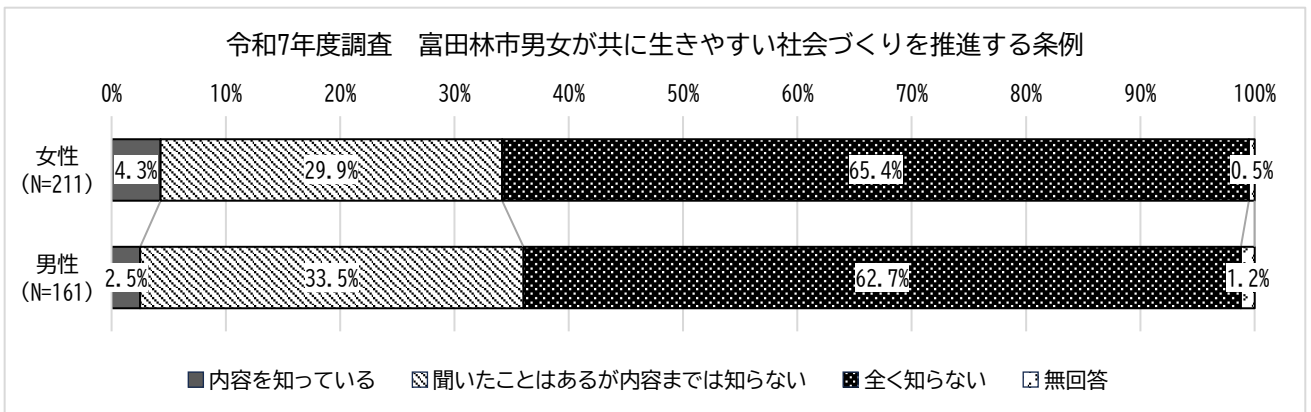
● 「ジェンダー」の認知度

「ジェンダー」について、「知っている」または「聞いたことがある」と回答した割合は、平成 27 年度調査では「女性」が 39.6%、「男性」が 37.9%でしたが、令和 7 年度調査では「女性」が 93.8%、「男性」が 91.3%に達しており、認知度が大きく向上しました。

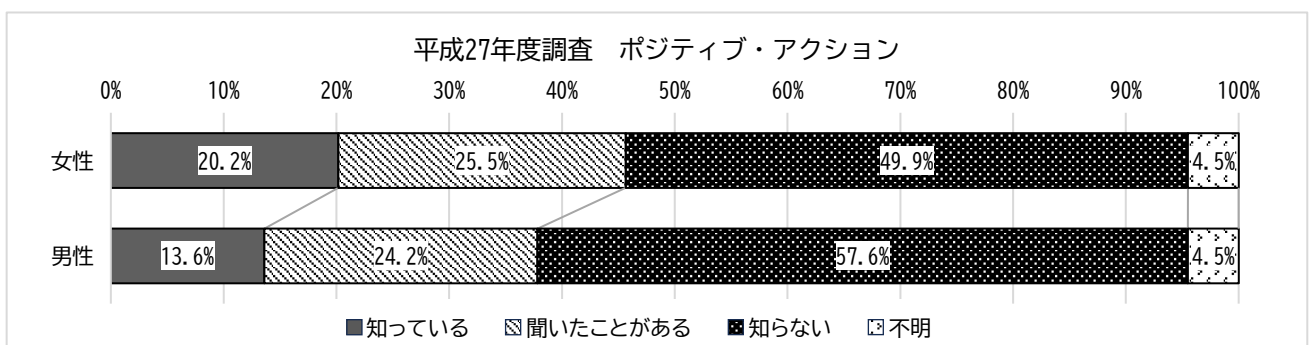
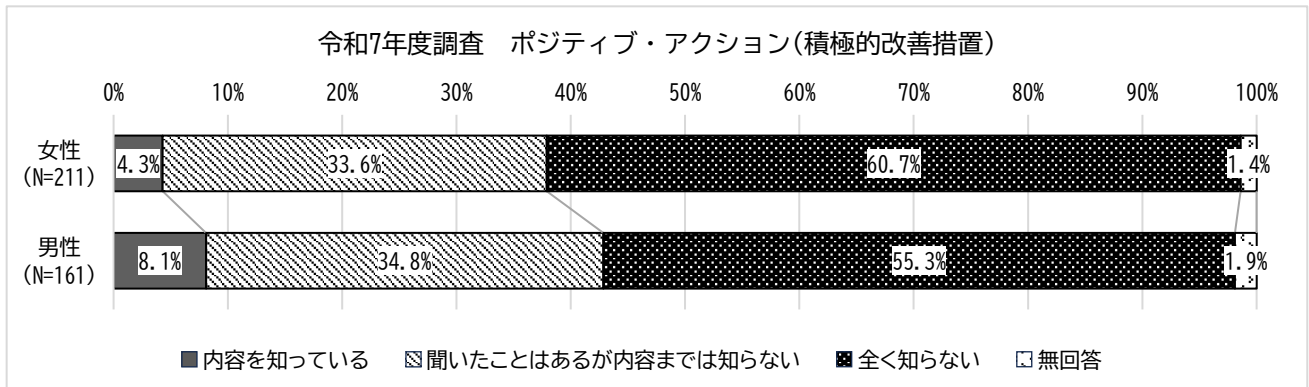


● 市条例と特定概念の認知度

「富田林市男女が共に生きやすい社会づくりを推進する条例」について、「知っている」または「聞いたことがある」と回答した割合は、平成27年度では「女性」が23.7%、「男性」が18.6%でしたが、令和7年度調査では「女性」が34.2%、「男性」が36.0%と向上したものの、依然として「女性」の65.4%、「男性」の62.7%が「全く知らない」と回答しており、条例の周知が大きな課題となっています。



「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」について、「知っている」または「聞いたことがある」と回答した割合は、平成 27 年度では「女性」が 45.7%、「男性」が 37.8%でしたが、令和 7 年度調査では「女性」が 37.9%、「男性」が 42.9%と、男性における認知度は向上したものの、認知度に課題があると言えます。



⑥ 今後必要な方策の変化

男女共同参画社会の実現のために必要だと考える方策の優先順位には、大きな変化は見られませんが、より具体的な取組みへの要望が高まっています。

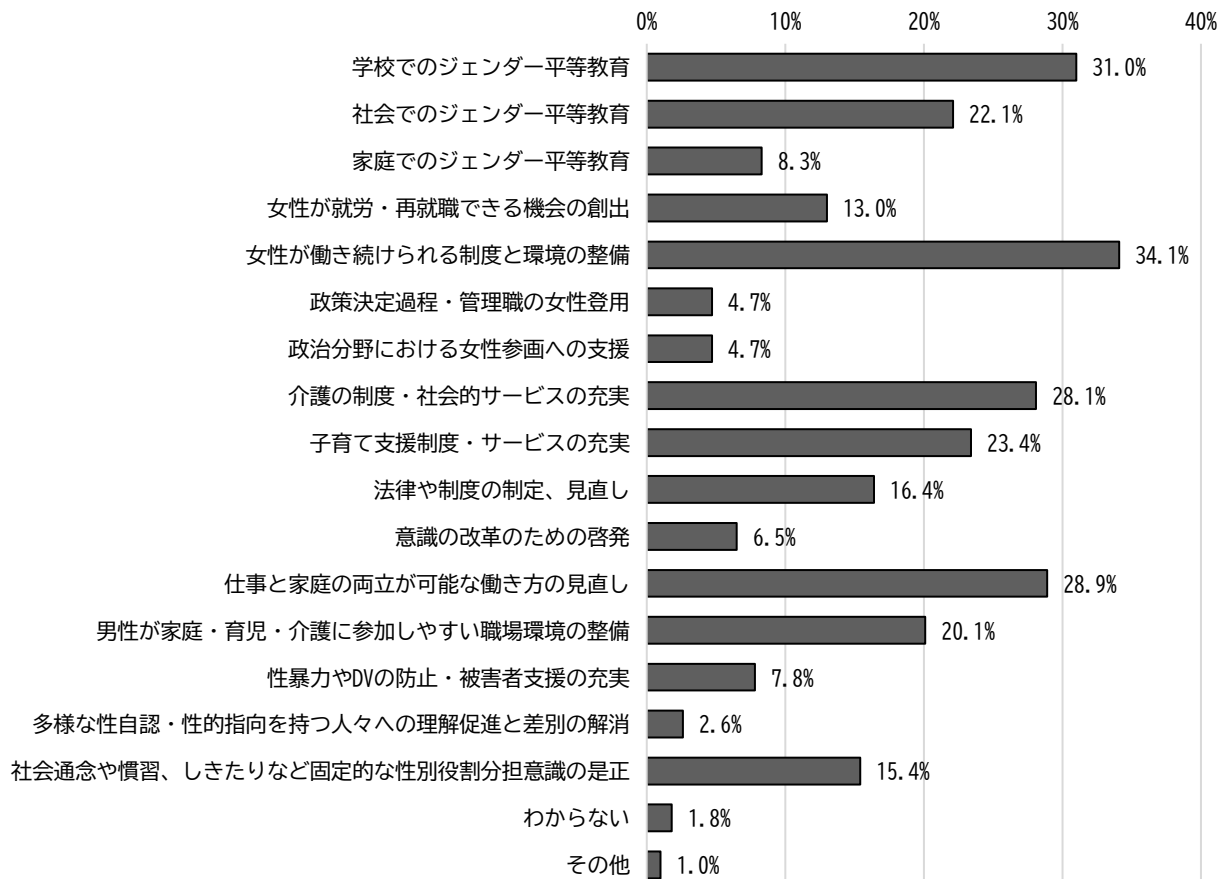
● 優先課題

平成 27 年度調査では「女性が働き続けられる制度と環境の整備」(37.7%)、「子育て支援体制の整備」(37.7%)だったが、令和 7 年度調査では「女性が働き続けられる制度と環境の整備」(34.1%)に次いで「学校でのジェンダー平等教育」(31.0%)となっています。

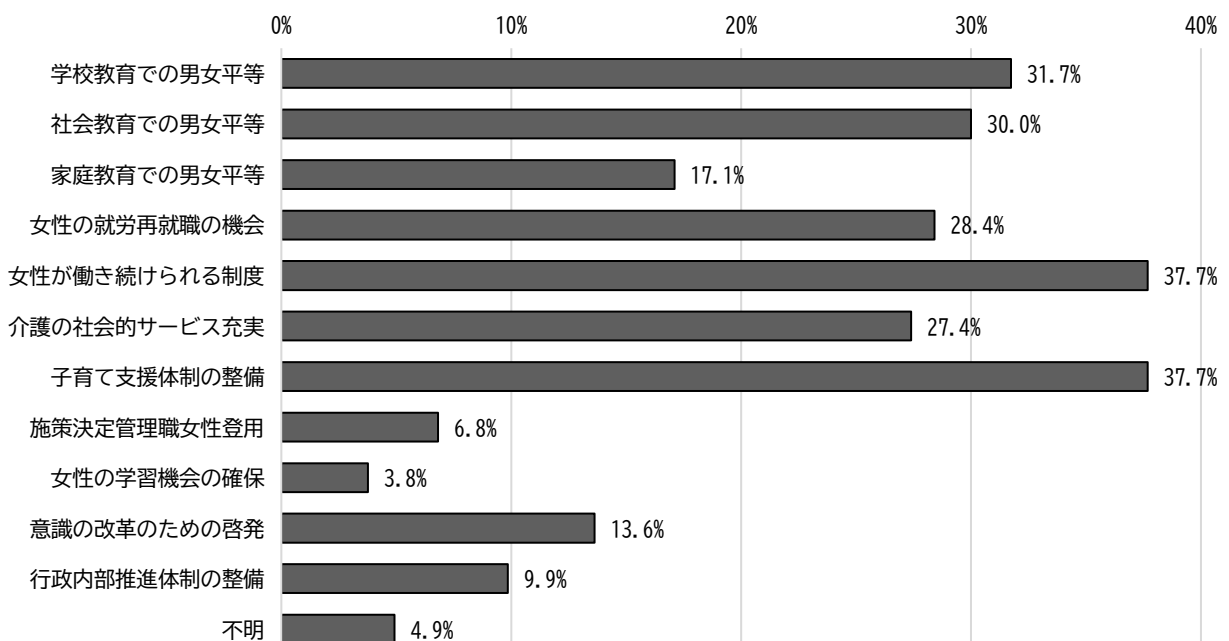
● 働き方改革と男性参加を重視

平成 27 年度で最も高かった「子育て支援体制の整備」(37.7%)は、令和 7 年度でも 23.4%と重要視されていますが、令和 7 年度調査では「女性が働き続けられる制度と環境の整備」(34.1%)、「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」(28.9%)や「介護の制度、社会的サービスの充実」(28.1%)が比較的上位に挙がっています。また、「男性が家庭・育児・介護に参加しやすい職場環境の整備」(20.1%)であることから、制度の充実に加え、男性も含めた働き方そのものの変革を求めることが重要視されるようになってきたことが分かります。

令和7年度調査 男女共同参画社会を実現するために必要だと思う方策(N=384)



平成27年度調査 男女共同参画社会を実現するために必要な方策



(6) 内閣府・大阪府調査との比較

本調査結果と内閣府が実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月)及び大阪府が実施した「男女共同参画にかかる府民意識調査」(令和6年12月)を比較検討します。

① 「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担意識の比較

本調査では、「男は仕事、女は家庭」という考え方について『賛成計』(「賛成」または「どちらかと言えば賛成」)が29.7%であり、内閣府調査の33.1%と比較して、固定的な役割分担意識に賛成する割合が低く、大阪府調査の27.9%より高くなっています。

② 職場における男性優遇と家庭生活における役割分担意識

● 職場における男性優遇意識

内閣府調査では、「職場」において「男性の方が優遇されている」と回答した割合は63.8%に上ります。

大阪府調査では、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は「管理職への登用」(全体35.7%、女性36.3%、男性34.2%)が最も高く、次いで「昇進・昇格」(全体30.8%、女性33.7%、男性27.0%)となっています。

本調査でも同様に、「男性が優遇されている」と回答した割合は「管理職への登用」では全体が34.8%、女性が37.2%、男性が31.6%、「昇進・昇格」では全体が25.9%、女性が28.1%、男性が23.5%となっており、「管理職への登用」や「昇進・昇格」における男性優遇の認識は女性の方が強くなっています。

内閣府調査とは質問項目が異なるので、単純比較はできませんが、大阪府調査と比較すると「管理職への登用」は全体が0.9ポイント、「昇進・昇格」は4.9ポイント、本市の方が男性優遇の認識は低くなっています。

● 家庭生活における役割分担の意識

大阪府調査では、「日常の家事」について『女性の役割』と回答した割合は「炊事」が37.6%、「洗濯」が32.5%、「掃除」が23.3%となっています。

本調査では、「炊事、洗濯、掃除等」について『女性の役割』(「どちらかと言えば女性の役割」または「主に女性の役割」)の割合は31.2%となっています。

質問項目が異なるので、単純比較はできませんが、本市の方が家事を女性の役割と捉える意識が低いことがうかがえます。

③ 家庭生活における時間配分

本調査では就労者のうち、「仕事(賃金あり)」に費やしている時間が「8時間以上」は「女性」が28.1%、「男性」が58.2%となっており、大阪府調査では平日で「8時間以上」が「女性」は31.3%、「男性」で52.1%となっています。

また、本調査では「家事・育児・介護・看護」に費やす時間が2時間以上は「女性」が58.7%に対し、「男性」は14.3%、大阪府調査では「家事に費やす時間」が2時間以上は「女性」が58.6%に対し、「男性」は9.9%に留まっており、本市の「男性」は大阪府調査の「男性」よりも「家事・育児・介護・看護」に関わっている割合が4.4ポイント高くなっています。

内閣府調査では「育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだ」という意見がありますが、あなたはこの意見について、どう思います

か。」という問いに、84.3%が「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答しています。

このように、本市、大阪府とも、男性は女性よりも多くの時間を仕事に費やし、女性は男性よりも多くの時間を家事・育児・介護・看護に費やしており、「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担意識の結果となっていると考えられます。

④ DV被害に関する相談窓口とDVをなくすための取組み

DV被害を受けた際に、「どこにも相談しなかった」は、本調査では43.2%に対し、大阪府調査では53.4%と、本市は大阪府全体に比べ、10.2ポイント下回っておりますが、被害者のための実行ある窓口として相談窓口の周知を図っていく必要があります。

本調査では、DVや性暴力をなくすための必要な取組みとして、「法律・制度の制定や見直し」が56.8%（大阪府調査61.7%）、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」が53.1%（大阪府調査55.9%）、「犯罪の取り締まりを強化する」が44.8%（大阪府調査55.6%）と、上位を占め、次いで、「暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」が33.6%（大阪府調査43.2%）、「家庭や学校、職場内での教育・啓発を充実させる」が27.9%（大阪府調査40.6%）と、教育・啓発の強化が続いています。

また、「加害者のためのカウンセリングや相談の窓口を充実させる」は26.6%（大阪府調査36.1%）にとどまり、優先度が低い傾向にあります。

IV. 富田林市における男女共同参画推進に関する課題

(1) 固定的な性別役割分担意識

固定的な性別役割分担意識が依然として残っていることが分かります。

① 男性における「男は仕事、女は家庭」意識の増加

本市では、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体としては『反対計』が 69.0%と多数を占めています。しかし、この考え方に『賛成計』(賛成+どちらかと言えば賛成)と回答した男性の割合は、平成 27 年度調査の 28.8%から、令和 7 年度調査では 39.2%へと増加しており、男性の意識がこの 10 年間で変化していることが分かります。

「賛成」の理由として、「日本の伝統・慣習だと思うから」(男性 20.6%に対し、女性 2.1%)や、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」(男性 50.8%に対し、女性 39.6%)となっています。

このことから、男性に対し、固定的な性別役割分担意識の解消に取り組んでいく必要があります。

② 家庭内役割分担における偏り

家庭生活においても、固定的な性別役割分担意識が残っています。

炊事、洗濯、掃除などの家事について、「主に女性の役割」または「どちらかと言えば女性の役割」と回答したのは、男性が 37.3%に対し、女性の 27.0%と、男性が女性を 10.3 ポイント上回っています。

育児、子どもの教育についても、男性が 33.0%に対し、女性は 17.5%と、男性が女性を 15.5 ポイント上回っています。

こうした意識の差は、女性に家事・育児の負担が偏る原因であると言えます。

このことから、男性の家庭生活への積極的な参画を促す啓発や環境整備が求められます。

(2) 構造的な不平等の認識と職場環境

社会や職場のさまざまな分野で、男性が優遇されているという認識を持っており、特にこの 10 年間でその不平等感が増加していることが明らかになりました。

① 慣習や意思決定過程での男性優遇意識の強まり

「社会のしきたりや慣習」において『男性優遇』と回答した割合は、全体で 75.0%に達しており、特に女性は 80.1%となっています。この認識は平成 27 年度調査から大幅に上昇しています。

「社会、政治活動への参加」においても、全体で 64.6%が「男性が優遇されている」と認識しており、女性では 74.4%に上ります。これは、特に慣習や意思決定過程への女性の参画を、より活性化させる必要性がうかがえます。

② 職場における不平等感と両立支援制度の偏り

職場での男女格差は依然として課題です。「会社や職場」において『男性優遇』と回答した割合は全体で 61.7%と多数を占めています。

特に、昇進・昇格や管理職登用において男性が優遇されているという認識は多数を占めています。

管理職への登用について「男性の方が優遇されている」と回答した女性は 37.2%に上り、「平等である」と回答した男性(39.8%)との間で大きな意識のギャップが見られます。

就労者のうち、女性の 58.7%が家事・育児・介護・看護に 2 時間以上を費やしているのに対し、男性はわずか 14.3%に留まっており、女性の職業生活における活躍が進まない要因の一つであると考えられます。

若年層(18~39 歳)では、育児・介護休暇などの制度が『女性優遇』と回答した割合が 42.6%と最も高く、現行制度が女性向けに偏っていると感じており、男性も利用しやすい制度にしていくことが求められます。

(3) DV・ハラスメント被害の実情と支援体制

暴力やハラスメントに対する認識は向上していますが、実際の被害経験や相談行動に課題が見られます。

① DV に対する認識

DV にあたる行為について「場合による」という回答が多いものをあげると、「なぐるふりをする」が 38.5%、「長時間無視する」が 35.7%、「GPS 機能を利用して位置情報の常時共有を強要する」が 28.1%、「大声でどなる」が 25.5%、「交友関係や行動を細かく監視したり、制限する」が 23.2%でした。

暴力行為はいかなる場合も許されるものではありません。DV についての理解を深めていく必要があります。

② 非正規職員における複合的な DV 被害

就業形態別分析によると、非正規職員の DV 被害経験が高くなっています。

非正規職員は、身体的暴力(28.2%)、精神的暴力(46.1%)、経済的暴力(20.5%)、性的暴力(16.7%)、社会的暴力(14.1%)のいずれにおいても、正規職員や無職に比べて割合が高く、複合的な暴力に直面していることも考えられます。

非正規職員は、DV の定義についても、身体的・経済的・精神的・性的・社会的支配行為を暴力と認識する割合が高く、不安定な立場が DV 被害を受けやすい構造と関連している可能性があります。

③ DV被害者の孤立と相談支援拡充の必要性

DV 被害を受けた人のうち、「どこにも相談しなかった」と回答した割合は全体で 43.2%に上ります。

相談しなかった理由として、「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がともに 33.3%で最も多く挙げられています。DV 被害者が孤立しやすく、相談に結びついていない実態が考えられます。

特に男性の被害者(サンプル数は少ないものの)では、「相談するほどのことではないと思ったから」が 47.4%と女性(25.7%)を大きく上回り、被害の矮小化(わいしょうか)傾向が見られます。

DV 根絶のための取組みとして、「法律・制度の制定や見直し」(56.8%)や「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」(53.1%)は重視されていますが、「加害者のためのカウンセリングや相談の窓口を充実させる」は 26.6%に留まっており、加害者支援に対する意識向上も課題であると言えます。

④ セクハラ対策における明確な姿勢と相談窓口の整備

セクハラ防止策として、非正規職員は特に「職場等のガイドラインの周知徹底」(82.1%)と「相談窓口の整備・周知」(56.4%)を求めています。これは、非正規職員の不安定な立場を反映し、組織による明確な姿勢とルールへの運用、安全な相談窓口の整備の必要性を認識していることがうかがえます。

(4) 施策の周知不足と世代間ギャップへの対応

男女共同参画の理念や施策の具体的な内容が、十分に浸透していないことが大きな課題です。

① 具体的施策の見える化

本市の男女共同参画推進の根幹である「富田林市男女が共に生きやすい社会づくりを推進する条例」について、「全く知らない」と回答した割合は全体で63.5%と多数を占めています。

自由意見においても、「『男女共同参画』という名称や内容が堅苦しく、何をやっているのか不明であるため、もっと具体的な内容で必要なものだけを強調して運営して欲しい」といった施策の見える化と広報に関する要望が寄せられています。

施策の具体的な成果(PDCA)を見える化し、広報紙などを活用して分かりやすく周知する取組みを強化する必要があります。

② 世代・属性に応じたニーズへの対応

男女共同参画に関する意識や考え方には、世代や就業形態によって大きなギャップが見られます。

● 意識のギャップ

「男らしさ、女らしさにとらわれない社会」という理想について、『そう思う計』は若年層(18～39歳)が89.7%と高いのに対し、高齢層(60歳以上)では低くなる傾向があります。また、「なぐるふりをする」といった行為を暴力(DV)だと認識する割合も、60歳以上(45.1%)は若年層(64.7%)より大幅に低くなっています。

● 施策の優先順位のギャップ

若年層(18～39歳)は、「子育て支援制度・サービスの充実」(41.2%)を最も重視しています。

中年層(40～59歳)は、「仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し」(36.6%)を重視しています。

高齢層(60歳以上)は、「女性が働き続けられる制度と環境の整備」(39.6%)を最も重視しています。

これらのギャップを踏まえ、世代別・属性別に焦点を当てた、課題解決に向けた具体的な施策の展開が求められます。

V. 資料

男女共同参画にかかると市民アンケート調査

～ご協力をお願いいたします～

市民のみならずには、日頃より市政の各般にわたりご理解とご協力をいただき、厚くお礼申しあげます。本市では、男女共同参画社会の実現に向け、「第3次富田林市男女共同参画計画 ウィズプラン」に基づき、さまざまな施策に取り組んでいます。

社会では、ジェンダー平等や女性の活躍推進をはじめ、困難な問題を抱える女性への支援など、女性を取り巻く課題が山積している中、本基本計画が令和8年度をもって終了します。

引き続き、男女共同参画社会の実現に向けた施策を推進していくにあたり、本基本計画の後継計画である「第4次富田林市男女共同参画基本計画」の策定に向けた資料とするため、アンケート調査を実施いたします。

ご多用のこととは存じますが、男女共同参画社会の実現に向け、ご理解とご協力をお願い申しあげます。なお、本アンケート調査は、男女共同参画にかかると市民アンケート調査のため、質問していただきます。

令和7年8月

富田林市長 吉村 善美

はじめに、あなた自身のことについておたずねします。

a. あなたの性別【Oは1つ】

1. 女性 2. 男性 3. 1、2のどちらでもない 4. 答えたくない

※本調査は、男女共同参画や男女の平等に関する意識などを調査するため、性別をご回答いただいています。

b. あなたの年齢（記入日時点）【Oは1つ】

1. 18、19 歳 2. 20～24 歳 3. 25～29 歳 4. 30～34 歳
 5. 35～39 歳 6. 40～44 歳 7. 45～49 歳 8. 50～54 歳
 9. 55～59 歳 10. 60～64 歳 11. 65～69 歳 12. 70 歳以上

c. あなたの職業をお答えください。【Oは1つ】

1. 正社員・職員
 2. 臨時・パート・アルバイト等非常勤社員・職員
 3. 自営業主または家族従業員
 4. 家事専業
 5. 学生
 6. 無職(家事専業を除く)
 7. その他(具体的に _____)

ご記入に当たってのお願い

- ・封筒宛名のご本人様にご記入ください。ご本人様か記入できない場合は、代理の方がご本人様から聞き取った内容をご回答くださいますようお願いいたします。
- ・本調査は無記名で行い、回答は統計的に処理されるため、個人が特定されることはありません。また、他の目的で利用することもありません。できるかぎり、ありのままをご回答くださいますようお願いいたします。

郵送でご回答いただく場合

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて、9月22日(月)までにご投函ください。

Web上でご回答いただく場合

右下の二次元コードを読み取るか、以下URLにアクセスし、画面の指示に従ってご回答ください。なお、回答の際にデータ通信料がかかります。

- ▶ 調査専用画面 URL: <https://tokyotobs-entry.jp/tondabayavashi-daniyo>
- ▶ 調査専用画面に入るためには、認証コードが必要です。
このページの右下に記載されている認証コードを入力して調査画面に入ってください。
- ▶ 認証コードは郵送による回答との重複を防ぐために付与されるもので、これにより個人が特定されるわけではありません。

※9月22日(月)までにご回答ください。

本調査について、ご不明な点などございましたら、下記までお問い合わせください。

富田林市 人権・市民協働課
 電話: 0721-25-1000 (内線471・472)
 メール: jinken@city.tondabayashi.lg.jp



認証コード

1. ジェンダー平等(※)についておたずねします。

※ジェンダー平等 性別に関わらず、平等に責任や権利や機会を分かちあい、あらゆる物事を一緒に決めていくことを意味しています。

問1 次の各分野で、男女はどの程度平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)

| | 男性が優遇 されている | どちらか 言えば 男性が優遇 されている | 平等である | どちらか 言えば 女性が優遇 されている | 女性が優遇 されている | わからない |
|---------------|----------------|-------------------------------|-------|-------------------------------|----------------|-------|
| ① 学校教育 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ② 家庭生活 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ③ 会社や職場 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ④ 社会のしきたりや慣習 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑤ 法律や制度 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑥ 社会、政治活動への参加 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑦ 地域活動(※)の場 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

※「地域活動」は、自治会、PTA、民生委員、NPO やボランティアでの活動などを指します。

問2 男女の役割分担について、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかと言えば賛成
3. どちらかと言えば反対
4. 反対

問 4 へ

問2で「1. 賛成」または「2. どちらかと言えば賛成」と回答した方にお聞きします。

問3 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 日本の伝統・慣習だと思うから
2. 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから
3. 子どもの成長にとって良いと思うから
4. 個人的にそうありたいと思うから
5. その他()

問2で「3. どちらかと言えば反対」または「4. 反対」と回答した方にお聞きします。

問4 その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
3. 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
4. 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事を必要があると思うから
5. 一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから
6. 社会で活躍したいと思っている女性の意思を尊重するべきだと思うから
7. 男性も子育てや家庭のことに関わるべきだと思うから
8. その他()

2. 家庭生活についておたずねします。

問5 あなたが仕事をしている日(在宅就労を含む)に費やす時間はそれぞれどのくらいですか。
現在仕事をしている方のみお答えください。(それぞれ〇は1つ)

| | 1時間以内 | 1時間 ～2時間 | 2時間 ～4時間 | 4時間 ～6時間 | 6時間 ～8時間 | 8時間以上 |
|---------------|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|
| ① 仕事(賃金あり) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ② 家事・育児・介護・看護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ③ 余暇 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

問6 次のことから、主に男性、女性のどちらが担当方かよいと思いませんか。
あなたのお考えに近いものを選んでください。(それぞれ〇は1つ)

| | 主に男性の 役割 | どちらかと 言えば男性 の役割 | 両方同じ 程度 | どちらかと 言えば女性 の役割 | 主に女性の 役割 | いずれにも 該当しない |
|--------------------------------|-------------|-----------------------|------------|-----------------------|-------------|----------------|
| ① 炊事、洗濯、掃除等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ② 育児、子どもの教育等 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ③ 高齢者や病人の介護・看護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ④ 日常の家計管理 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑤ 高価な耐久消費財(長く使う家具・家電など)の購入等の決定 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑥ 預貯金の管理や資産運用 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ⑦ 地域活動(※)への参加 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

※「地域活動」とは、自治会、PTA、民生委員、NPO やボランティアでの活動などを指します。

3. 職場についておたずねします。(現在仕事をしている方のみお答えください)

問7 あなたの今の職場では、次のことについて性別によって差があると思いませんか。(それぞれ〇は1つ)

| | 男性の方が 優遇されている | 女性の方が 優遇されている | 平等である | わからない |
|-----------------------------------------|------------------|------------------|-------|-------|
| ① 募集・採用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 賃金 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ 仕事の内容 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ 昇進・昇格 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ 管理職への登用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 能力評価 (業績評価・人事考課など) | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 研修の機会や内容 (キャリア支援) | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ 家庭と仕事の両立支援制度 など、働き続けるための職場 環境整備 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑨ 育児、介護・看護休暇など 休暇の取得のしやすさ | 1 | 2 | 3 | 4 |

4. 子どもに期待する資質についておたずねします。

問8 もしも、あなたに子どもがいた場合、その子どもにはどのように育ててほしいと思いますか。
①男の子、②女の子、それぞれお答えてください。(それぞれ○は2つまで)

| | 家族や友人を大切に にする人 | 仕事に 生かがい を見出せる人 | 社会に 役立つ人 | 社会的な 地位を 得られる人 | やさしく 思いやりが ある人 | 指導力が ある人 | 「その他」 またはいい ずれも該当 しない」 |
|----------|-------------------|-----------------------|-------------|----------------------|----------------------|-------------|---------------------------------|
| ① 男の子の場合 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ② 女の子の場合 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

5. 老年期の生活についておたずねします。

問9 自分の老後について、不安に思うことは次のどれですか。(○は上位3つまで)

| | |
|-------------|----------------------|
| 1. 健康面 | 2. 日常生活(家事など) |
| 3. 経済面 | 4. 生きがいを見つけれられるか |
| 5. 話し相手がいるか | 6. 配偶者・パートナーに先立たれること |
| 7. 特になし | 8. その他() |

問10 もしも、あなたが介護を受けることになった場合、誰からの介護を望みますか。(○は1つ)

| | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 2. 娘 |
| 3. 息子 | 4. 孫の配偶者・パートナー |
| 5. 息子の配偶者・パートナー | 6. 公的サービス(施設入所含む) |
| 7. わからない | 8. その他() |

6. 法律や言葉についておたずねします。

問11 あなたは、次の項目の法律や言葉を知っていますか。(それぞれ○は1つ)

| | 内容を知っている | 聞いたことはあるが 内容までは知らない | 全く知らない |
|---------------------------------------------------------------------------|----------|------------------------|--------|
| ① 男女共同参画社会基本法 | 1 | 2 | 3 |
| ② 男女雇用機会均等法 | 1 | 2 | 3 |
| ③ 育児・介護休業法 | 1 | 2 | 3 |
| ④ 配偶者暴力防止法 (DV防止法) | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ 女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推 進に関する法律) | 1 | 2 | 3 |
| ⑥ 困難な問題を抱える女性への 支援に関する法律 | 1 | 2 | 3 |
| ⑦ LGBT 理解増進法 (性的指向及びジェンダー・アイデン ティティの多様性に関する国民の理 解の増進に関する法律) | 1 | 2 | 3 |
| ⑧ 高田林市男女が共に生きやす い社会づくりを推進する条例 | 1 | 2 | 3 |
| ⑨ ワーク・ライフ・バランス | 1 | 2 | 3 |
| ⑩ ジェンダー | 1 | 2 | 3 |
| ⑪ 性別役割分担 | 1 | 2 | 3 |
| ⑫ ホジティブ・アクション (積極的改善措置) | 1 | 2 | 3 |
| ⑬ LGBTQ (レスビアン、ゲイ、バイ セクシュアル、トランスジェンダー クエスチョニングまたはクィアの頭 文字を並べた呼称) | 1 | 2 | 3 |
| ⑭ SOGI (性的指向・性自認) | 1 | 2 | 3 |
| ⑮ セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) | 1 | 2 | 3 |
| ⑯ モラル・ハラスメント(モラハラ) | 1 | 2 | 3 |

7. セクシュアル・ハラスメント【セクハラ】についておたずねします。
 (本人の望まない・合意のない性的言動をセクハラといいます。「男性から女性に」限ったものではありません。「女性から男性に」「同性から同性に」も含まれます。)

問12 次のことについて、今までしたことがある、受けたことがある、または、そのような状況を見聞きしたことがありますか(SNS等も含む)。
 (あてはまるものすべてに○)

| | したことがある | 受けたことがある | 見聞きしたことがある | すべてない |
|-------------------------------|---------|----------|------------|-------|
| ① 性的なジョークや卑猥なことを言ったり、質問をしたりする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② 身体のことからからかう | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ さわる、抱きつくなど身体に接触する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ スーツ写真やわいせつな雑誌などを、目につくところに置く | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ しつこくデートに誘う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ 地位や権限を利用して性的な誘いをする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ 本人の意思にかかわらず、早く結婚するように言う | 1 | 2 | 3 | 4 |

問13 セクハラをなくすために、次のどの方法が有効だと思いますか。(あてはまるもの上位3つに○)

| | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 法的整備 | 2. 行政による啓発活動 |
| 3. 職場等のガイドラインの周知徹底 | 4. 本人が自衛する |
| 5. 相談窓口の整備・周知 | 6. 頼しき表現なので特に必要なし |
| 7. わからない | 8. その他() |

8. 配偶者等(事実婚・別居中を含む)や交際相手(生活の本拠を共にする)からの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))についておたずねします。
 (「男性から女性に」限ったものではありません。「女性から男性に」「同性から同性に」も含まれます。)

問14 次のようなことが、配偶者・パートナー(事実婚・別居中を含む)や交際相手(生活の本拠を共にする)との間で起こった場合、これを暴力(DV)だと思いますか。(それぞれ○は1つ)

| | 暴力(DV)にあたる | 場合による | 暴力(DV)にあたらぬ |
|-----------------------------------|------------|-------|-------------|
| ① なくる、ける | 1 | 2 | 3 |
| ② なくる、ふりをする | 1 | 2 | 3 |
| ③ 物をなげる | 1 | 2 | 3 |
| ④ 大声でどなる | 1 | 2 | 3 |
| ⑤ 長時間無視する | 1 | 2 | 3 |
| ⑥ 誰のおかげで生活できるのかなどの暴言をあげさせる | 1 | 2 | 3 |
| ⑦ 生活費をわささない、勝手に浪費する(または借金) | 1 | 2 | 3 |
| ⑧ 嫌がっているのに性的な行為を強要する(避妊に協力しない) | 1 | 2 | 3 |
| ⑨ 無理やりポルノビデオや雑誌を見せる | 1 | 2 | 3 |
| ⑩ 本人の許可なく性的な写真や動画などをインターネット上に公開する | 1 | 2 | 3 |
| ⑪ 交友関係や行動を細かく監視したり、制限する | 1 | 2 | 3 |
| ⑫ GPS 機能を利用して位置情報の常時共有を強要する | 1 | 2 | 3 |

問15 問14の①～⑩は、すべて暴力(DV)にあたりますが、あなたは、今まで暴力(DV)を受けたり、そうした行為を起したりしたことがありますか。また、それはどのような行為ですか。
(それぞれ○は1つ) ※該当する暴力①～⑩は設問14を参照してください。

| | どちらもある | 受けたことがある | 行為を起したことがある | どちらもない |
|--------------|--------|----------|-------------|--------|
| 1. 身体的暴力 ①②③ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 精神的暴力 ④⑤⑥ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 経済的暴力 ⑦ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 性的暴力 ⑧⑨⑩ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 社会的暴力 ⑪⑫ | 1 | 2 | 3 | 4 |

問15 で「今まで暴力(DV)を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。

問16 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

| | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 家族・親戚 | 2. 友人・知人 |
| 3. 警察 | 4. 弁護士 |
| 5. 行政・職場・学校などの相談窓口 | 6. 福祉事務所・保健所などの公的機関 |
| 7. 医師、看護師などの医療関係者 | 8. 民間の専門機関 |
| 9. どこにも相談しなかった | 10. その他() |

問16 で「9. どこにも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

問17 それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

| |
|-----------------------------------|
| 1. 相談先がわからなかったから |
| 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから |
| 3. 相談しても無駄だと思ったから |
| 4. 相談したことが相手に知られるのもっと暴力を受けると思ったから |
| 5. 自分さえ我慢すれば、このままやっていけると思ったから |
| 6. 他人を巻き込みたくなかったから |
| 7. 世間体が悪いと思ったから |
| 8. 自分にも悪いところがあると思ったから |
| 9. 相談するほどのことではないと思ったから |
| 10. その時は暴力(DV)だと思わなかったから |
| 11. その他() |

問18 配偶者・パートナー等からの暴力、セクシュアル・ハラスメント、性暴力・性犯罪などをなくすために、もっと取組みを進める必要があるのはどのようなことですか。(あてはまるもの上位3つに○)

| |
|----------------------------------|
| 1. 法律・制度の制定や見直しを行う |
| 2. 犯罪の取り締まりを強化する |
| 3. 暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする |
| 4. 被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる |
| 5. 加害者のためのカウンセリングや相談の窓口を充実させる |
| 6. 家庭や学校、職場内での教育・啓発を充実させる |
| 7. メディアが自主的に倫理規定を強化する |
| 8. 過激な内容の映像やゲームソフト等の販売や配信などを制限する |
| 9. その他() |

9. 男女共同参画についておたずねします。

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会 |
| ※男女共同参画社会 (男女共同参画社会基本法第2条) |

問19 次の項目で、あなたの思う男女共同参画社会について、あてはまるものはどれですか。
(それぞれ〇は1つ)

| | そう思う | ある程度 そう思う | あまりそう 思わない | そう思わない | わからない |
|-------------------------------------------|------|--------------|---------------|--------|-------|
| ① 男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野に共に参画する機会が確保される社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 男性だから、女性だからという決めつけに縛られず、自由に生き方を選択できる社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 女性も男性も働き続けることができ、子育てに参加できる社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 堅苦しく、難しい社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑤ 男らしさ、女らしさにとらわれない社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑥ 一部の意識の高い女性がめざす社会のことで、男性には関係がない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑦ 男性も女性も生きやすい社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑧ LGBTQ等、多様な性自認や性的指向を持つ人々も尊重され、生きやすい社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ⑨ 性別に基づく暴力(DV、性暴力など)やハラスメントが根絶される社会 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問20 男女共同参画社会を実現するために、今後どのような方策がより必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 学校でのジェンダー平等教育 2. 社会でのジェンダー平等教育 3. 家庭でのジェンダー平等教育 4. 女性が就労・再就職できる機会の創出 5. 女性が働き続けられる制度と環境の整備 6. 政策決定過程・管理職の女性登用 7. 政治分野における女性参画への支援 8. 介護の制度・社会的サービスの充実 9. 子育て支援制度・サービスの充実 10. 法律や制度の制定、見直し 11. 意識の改革のための啓発 12. 仕事と家庭の両立が可能な働き方の見直し 13. 男性が家庭・育児・介護に参加しやすい職場環境の整備 14. 性暴力やDV(ドメスティック・バイオレンス)の防止・被害者支援の充実 15. 多様な性自認・性的指向を持つ人々への理解促進と差別の解消 16. 社会連帯や慣習、しきたりなど固定的な性別役割分担意識の是正 17. わからない 18. その他() |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

男女共同参画に関する市民アンケート

結果報告書

令和8年3月

編集：富田林市市民人権部人権・市民協働課
〒584 - 8511 大阪府富田林市常盤町 1-1

TEL:0721 - 25 - 1000

FAX:0721 - 20 - 2072